

儀のみ延を假借せず。延、以て至忿と爲し、【三】水火の如き有り。亮深く二人の才を惜み、偏廢する所有るに忍びざりしなり。費禕、吳に使す。吳主醉うて禕に問うて曰はく、「楊儀・魏延は、牧豎の小人なり。嘗て時務に【四】鳴吠の益有りと雖も、然れども既に己に之に任じたれば、勢、軽くするを得ず。若し一朝、諸葛亮無くんば、必ず禍亂を爲さん。諸君、【五】憤憤として、此を防慮するを知らず。豈に謂はゆる「厥の孫謀を貽す」ならんや」と。【六】禕對へて曰はく、「儀・延の協はざるは、私忿より起るのみ、而して【七】韓の御し難きの心無きなり。今、方に疆賊を掃除し、【八】函夏を混一せんとす。功は才を以て成り、業は才に由りて廣まる。若し此を捨てて任せず、其の後患を防がば、是れ猶ほ風波有るに備へんとして逆め舟楫を廢するがごとし。長計に非ざるなり」と。亮、【九】病困するや、儀及び司馬費禕等と與に、身歿するの後軍を退くるの節度を作る、「延をして後を斷たしめ、姜維をして之に次がしめよ。若し延、命に従はずんば、軍便ち自ら發せよ」と。亮・卒するや、儀、祕して・喪を發せず、禕をして往きて延の意指を揣らしむ。延曰はく、「丞【一〇】相、亡すと雖も、吾自ら見に在り、【一一】府親官屬、便ち喪を將りて還りて葬る可し。吾、當に自ら諸軍を率ゐて賊を撃つべし。云何ぞ一人の死を以て、天下の事を廢せんや。且つ魏延は何人ぞや。當に楊

- 【三】 水火云云。甚だ仲悪しく、同じく處る可からざる也。
- 【四】 鳴吠。鶏鳴狗吠。些小なる功勞に喩ふ。
- 【五】 憤憤。心亂るる貌。
- 【六】 韓。黠布、韓信。
- 【七】 函夏。中國をいふ。
- 【八】 病困。病重き也。
- 【九】 丞相云云。此れ魏延の殺高の語なり。
- 【一〇】 府親官屬。長史以下を謂ふ。

儀に部勒せられて、後を斷つ將と作るべけんや」と。自ら禕と共に【一二】行留の部分を作り、禕をして手書して、己と名を連ね、下の諸將に告げしめんとす。禕、延を給きて曰はく、「當に君の爲めに還りて楊長史に【一三】解すべし。長史は文吏にして、軍事を更ること稀なり。必ず・命に違はざらん」と。禕出でて馬を鞞らせて去る。延尋いで之を悔ゆれども、已に及ばず。延、人を遣はして儀等を覘はしむ。【一四】亮の成規を案じ・諸營相次ぎ・軍を引きて還らんと欲す。延大に怒り、儀が未だ發せざるに【一五】擣ち、所領を率ゐて徑に先づ南に歸り、過ぐる所、【一六】閣道を燒絶す。延・儀、各、相表す、「叛逆す」と。一日の中に、羽檄交、至る。漢主、以て侍中董允、留府長史蔣琬に問ふ。琬・允、咸、儀を保して延を疑ふ。儀等、【一七】山に槎して道を通せしめ、晝夜兼行し、亦延の後に繼ぐ。延先づ至りて【一八】南谷口に據り、兵を遣はして逆へて儀等を撃たしむ。儀等、【一九】將軍何平をして前に於て延を禦かしむ。平、先登を叱して曰はく、「公・亡し、身尙ほ未だ寒えず。汝が輩、何を敢て乃ち爾」と。延の士衆、曲の・延に在るを

- 【一二】 行留の部分云云。行とは亮の喪に従つて還るべきものをいひ、留とは留まりて敵を拒ぐべきものをいふ。禕は當時、亮の司馬たり。延は儀が必ず己に従はざらんことを知り、故に禕が來れるに因りて、劫して與に共に行留の處分を作り、禕をして處分の語を手書して其の下の諸將に告げしめんと欲するなり。
- 【一三】 解。辨解する也。
- 【一四】 行留の部分云云。行とは亮の喪に従つて還るべきものをいひ、留とは留まりて敵を拒ぐべきものをいふ。禕は當時、亮の司馬たり。延は儀が必ず己に従はざらんことを知り、故に禕が來れるに因りて、劫して與に共に行留の處分を作り、禕をして處分の語を手書して其の下の諸將に告げしめんと欲するなり。
- 【一五】 擣。先だつ、後より前を争ふ也。
- 【一六】 閣道。棧道。
- 【一七】 山に槎して云云。槎とはななめに木を斫ること。棧道の斷たれたるため木を伐りてこれを架して道を作りし也。
- 【一八】 南谷。即ち襄谷なり。
- 【一九】 何平は即ち王平なり。もと、外家何氏に養はる、後、姓王に復す。此れ其の初姓に従ふ。

知り、爲めに命を用ふるもの莫く、皆散ず。延獨り其の子數人と與に、逃亡して漢中に奔る。儀、將馬岱を遣はし、追うて之を斬り、遂に延の三族を夷ぐ。蔣琬、宿衛の諸營を率ゐて、北行して難に赴く。行くこと數十里、延の死問至る。乃ち還る。始め延、儀等を殺さんと欲し、時論己を以て諸葛に代りて政を輔けしめんことを冀ふ。故に魏に降らずして、南に還りて儀を撃つ。實に反意無かりしなり。諸軍、成都に還る。大赦し、諸葛亮に諡して忠武侯と曰ふ。初め亮、漢主に表して曰はく、『成都に桑八百株。薄田十五頃有り。子弟の衣食、自ら餘饒有り。臣、別に生を治めて以て尺寸を長せず。若し死するの日、内に餘帛有り。外に贏財有らしめ。以て陛下に負かじ』と。卒に其の言ふ所の如し。丞相の長史張裔、常に亮を稱して曰はく、『公、賞は遠きを遺さず、罰は近きに阿らず、爵は功無きを以て取る可からず、刑は貴勢を以て免る可からず。此れ賢愚、僉其の身を忘れし所以の者なり』と。

陳壽・評して曰はく、諸葛亮の相國たるや、百姓を撫で、儀軌を示し、官職を約し、權制に従ひ、誠心を開き、公道を布く。忠を盡し時を益する者は、讎と雖も必ず賞し、法を犯し怠慢する者は、親と雖も必ず罰し、罪に服し情を輸す者は、重しと雖も必ず釋し、辭を遊ばしめ巧に

- 【四八】 死問。死せりととの報告。
- 【四九】 薄田。瘠田なり。
- 【五〇】 贏財。餘りたる財貨。
- 【五一】 儀軌。法度なり。
- 【五二】 物云云。事事物物、必ず其の本よりしてこれを治む。
- 【五三】 管・蕭。管仲、蕭何。
- 【五四】 亞匹。亞は次なり。匹は偶なり。
- 【五五】 職位游散。官職位地閑散にして重要ならざる也。
- 【五六】 汶山。郡の名、今の四川

飾る者は、輕しと雖も必ず戮し、善は微として賞せざる無く、惡は纖として貶せざる無し。庶事精練し、物ごとに其の本を理む。名に循つて實を責め、虚偽をば齒せず。終に邦域の内に於て、威畏れて而も之を愛す。刑政、峻なりと雖も、而も怨むる者無し。其の心を用ふる可平かにして勸戒すること明かなるを以てなり。治を識るの良才。管・蕭の

初め長水校尉廖立、自ら謂へらく、才名、宜しく諸葛亮の副たるべしと。常に職位游散なるを以て、怏怏として怨謗すること已む無し。亮、立を廢して民と爲し、之を汶山に徙す。亮、卒するに及びて、立、泣を垂れて曰はく、『吾終に左衽と爲らん』と。李平、之を聞き、亦、病を發して死す。平、常に、亮が復た己を收め、自ら補復するを得んことを冀ひ、後人の能はざらんことを策るが故なり。習鑿齒・論じて曰はく、昔、管仲、伯氏の駢邑三百を奪ひ、齒を没して怨言無し。聖人、以て難しと爲す。諸葛亮が、廖立をして泣を垂れ、李嚴をして死を致さしめしは、豈に徒に怨言無きのみならんや。夫れ水は至つて平かにして、邪なる者法を取り、鑑は至つて明かにして、醜なる者怒を忘る。水鑑の、能く物を窮めて而も怨まるる無き所以は、其の私無きを以てなり。水鑑、私無きを忘る。水鑑の、能く物を窮めて而も怨まるる無き所以は、其の私無きを以てなり。

- 省四川道茂縣の地。
- 【五七】 左衽。夷狄をいふ。夷狄は衽を左前にす。仕ふる所なきをいふ。
- 【五八】 李平が廢して徙されたること、前の太和五年に見ゆ。
- 【五九】 管仲云云。論語憲問篇に見ゆ。管仲は齊の大夫伯氏の罪を罰して、三百家の戸口ある駢邑といふ采地を召し上げたれども、伯氏、管仲の處分の當然なるに心服して、一生少しも怨める言葉無かりき。

すら、猶ほ以て謗を免る。況んや大人・君子、生を樂しむの心を懷き、(六〇)矜恕の徳を流き、法は用ひざる可からざるに行はれ、刑は自ら犯すの罪に加はり、之を罰すれども私に非ず、之を誅すれども怒らざるには、天下、服せざる者有らんや。

蜀人、所在、諸葛亮の爲めに廟を立てんことを求む。漢主聽さず。百姓遂に時節に因りて、私に之を道陌の上に祭る。歩兵校尉 習隆等上言す、『請ふ其の墓に近く、一廟を沔陽に立て、其の私祀を斷たん』と。漢主、之に従ふ。漢主、左將軍吳懿を以て車騎將軍と爲し、節を假し、漢中を督せしめ、丞相の長史蔣琬を以て尙書令と爲し、國事を總統せしめ、尋いで琬に行都護を加へ、節を假し、益州の刺史を領せしむ。時に新に元帥を喪ひ、遠近危み悚る。琬、類を出で、萃に拔きんで、羣僚の右に處り、既に 威容無く、又喜色無く、神守舉止、平日の如くなる有り。是に由りて、衆望漸く服す。吳人、諸葛亮・卒すと聞き、魏が衰を承けて蜀を取らんことを恐れ、巴丘の守兵萬人を増し、一は以て救援と爲さんと欲し、二は以て分割を事とせんと欲す。漢人、之を聞き、亦、永安の守を増し、以て非常を防ぐ。漢主、右中郎將宗預をして吳に使せしむ。吳主問うて曰はく、『東と西とは、譬へば猶ほ一家のごとし。而るに西更に白帝の

- 【六〇】 矜恕。哀憐仁恕。
- 【六一】 習隆。習は姓、隆は名。
- 【六二】 類。同輩なり。
- 【六三】 萃。羣衆なり。
- 【六四】 威容。憂ふる容貌。
- 【六五】 巴丘。巴陵なり。今の湖南省武陵道岳陽縣の西南に在り。
- 【六六】 永安。四川省東川道奉節縣の地。蜀漢の東境。
- 【六七】 東と西。東は吳をいひ、西とは蜀をいふ。

守を増すと聞く。何ぞや』と。對へて曰はく、『臣以爲ふに東は巴丘の成を益し、西は 白帝の守を増せるは、皆、事執宜しく然るべし。俱に以て相問ふに足らざるなり』と。吳主大に笑ひ、其の抗盡を喜び、之を禮すること 鄧芝に亞ぐ。

吳の諸葛恪、以へらく、『丹陽は山險にして、民、果勁多し。前に兵を發すと雖も、徒だ外縣の平民を得たるのみ。其餘は深遠にして、能く禽へ盡す莫し』と。屢、自ら官の爲めに之を出さんことを求め、『三年にして、甲士四萬を得可し』といふ。衆議咸以爲はく、『丹陽は地執險阻にして、吳郡・會稽・新都・番陽の四郡と鄰接し、周旋數千里、山谷萬重なり。其の幽邃の人民は、未だ嘗て城邑に入り長吏に對せず、皆、兵に仗りて 逸し、林莽に 白首となり、逋亡の宿惡、咸共に逃竄す。山、銅鐵を出し、自ら甲兵を鑄る。俗、武を好み、戰を習ひ、氣力を高尚にす。其の山に升り險を越え、叢棘を抵突すること、魚の淵に走り、猿・狄の・木に騰るが若きなり。時に間隙を觀、出でて寇盜を爲す。兵を致して征伐し、其の窟藏を尋ぬる毎に、其の戰ふや則ち讒のごとく至り、敗るるや則ち鳥のごとく竄る。前世より以來、羈する能はざるなり』と。皆、以て難しと爲す。恪の父瑾、之を聞き、

- 【六八】 白帝は、永安の東方に在り。永安に兵を増したるをいふ。
- 【六九】 抗盡。抗言して吳に屈せられず、又、情を盡して隠す所無きをいふ。
- 【七〇】 鄧芝云云。蜀の先主、殂し、諸葛亮、國に當り、始めて鄧芝を遣はして吳に使せしめしが、吳は之を優待せり。
- 【七一】 前に兵を發す。陸遜、先に嘗て山越を部伍して兵と爲せること、六十八卷漢の獻帝二十八年に見ゆ。
- 【七二】 野逸。野外に奔逸す。
- 【七三】 白首。年老ゆる也。
- 【七四】 狄。猿の屬。黑猿。

亦以へらく、事終に逮ばじと。歎じて曰はく、「恪、大に吾が家を興さず。將に吾が族を赤せんとするなり」と。恪、盛に其の必ず捷たんことを陳ぶ。吳主乃ち恪を撫越將軍に拜し、丹陽の太守を領せしめ、其の策を行はしむ。

冬十一月、洛陽、地震ふ。

吳の潘濬、武陵の蠻を討つこと數年、斬獲すること數萬。是より、羣蠻衰弱し、一方寧靜なり。十一月、濬、武昌に還る。

【七五】 赤。滅ぼし盡すをいふ。
【七六】 撫越將軍。山越を招撫するを以て將軍の號と爲す。
【七七】 太和五年、吳、潘濬を遣はして武陵の蠻を討たしむ。

卷の第七十三

魏紀五

烈祖明皇帝中の下

青龍三年、春正月戊子、大將軍司馬懿を以て太尉と爲す。

丁巳、皇太后郭氏殂す。帝、數甄后の死狀を太后に問ふ。是に由りて、太后、憂を以て殂す。

漢の楊儀、既に魏延を殺し、自ら以爲へらく、大功有り、宜しく諸葛亮に代りて政を秉

るべしと。而るに亮の平生の密指、儀が狷狹

なるを以て、意、蔣琬に在り。儀、成都に至る

や、中軍師に拜せられ、統領する所無く、從容たるのみ。初め儀、昭烈帝に事へて、尙書たり、琬、

時に尙書郎たり、後、俱に丞相の參軍長史と爲ると雖も、儀、毎に行に從ひ、其の勞劇に當る。自

ら謂へらく、年宦、琬に先だち、才能、之に踰えたりと。是に於て、怨憤、聲色に形はれ、歎咤の

【一】 青龍三年。西紀二三五年なり。

【二】 甄后の死すること、六十

五卷文帝黃初二年に見ゆ。

【三】 魏延云云。前卷前年に見ゆ。

【四】 狷狹。狷介狹小なり。

【五】 歎咤。歎息叱怒なり。

音、五五内より發す。時の人、其の言語の節ならざるを畏れ、敢て從ふもの莫きなり。惟だ後軍師費禕、往きて之を慰省す。儀、禕に對して恨望す、「前後云云」と。又、禕に語りて曰はく、「往者、丞相の亡没の際、吾若し軍を擧げて以て魏氏に就かば、世に處すること寧んぞ當に落度すること此の如くなるべけんや。人をして追悔せしむ。復た及ぶ可からず」と。禕、密に其の言を表す。漢主、儀を廢して民と爲し、漢嘉郡に徙す。儀、徙所に至り、復た上書して誹謗す。辭指激切なり。遂に郡に下して儀を收へしむ。儀、自殺す。

三月庚寅、文德皇后を葬る。

夏四月、漢主、蔣琬を以て大將軍と爲し、尙書の事を録せしむ。費禕を、琬に代りて尙書令と爲す。

帝、土功を好み、既に許昌宮を作り、又、洛陽宮を治め、昭陽太極殿を起し、總章觀を築く。高さ十餘丈、力役、已まず、農桑、業を失ふ。司空陳羣・上疏して曰はく、「昔、禹は、唐虞の盛なるを承けてすら、猶ほ宮室を卑くして、衣服を惡しくせり。況んや今、喪亂の後、人民至つて少く、漢の文景の時に比すれば、漢の一大郡に過ぎず、加以、邊境、事有り、將士勞苦するをや。若し水旱の患有らば、國家の深憂なり。」

【六】 五内。五臟の内。
【七】 落度。落魄と同じ。失意なり。

【八】 漢嘉。もと漢の青衣縣、蜀漢、郡を置く。故城は今の四川省建昌道雅安縣の北に在り。

【九】 文德皇后。郭后の諡。

【一〇】 許昌宮。前卷太和六年に見ゆ。

【一一】 諸葛亮死するや、魏主乃ち大に宮室を起す。

【一二】 文景。文帝、景帝。

【一三】 劉備、成都に鎮するや、魏延を抜きて、漢中を督せしむ。

昔、劉備、成都より白水に至るまで、多く傳舎を作り、人役を興費す。太祖、其の民を疲らすを知れり。今、中國の勞力、亦、吳・蜀の願ふ所なり。此れ安危の機なり。惟だ陛下、之を慮れ」と。帝答へて曰はく、「王業、宮室は、亦宜しく竝に立つべし。賊を滅ぼすの後、但だ當に守禦を罷むべきのみ。豈に復た役を興す可けんや。是れ固に君の職、蕭何の大略なり」と。

羣曰はく、「昔、漢祖は、惟だ項羽と天下を争ふ。羽已に滅び、宮室焼焚せり。是を以て蕭何、武庫・太倉を建つ。皆是れ要急なり。然れども高祖猶ほ其の壯麗を非とせり。今、二虜未だ平がず。誠に宜しく古と同じくすべからざるなり。夫れ人の欲する所は、辭有らざるは莫し。況んや乃ち天王には、之に敢て違ふもの莫し。前に武庫を壞たんと欲するや、壞たざる可からずと謂ひしなり。後に之を置かんと欲するや、置かざる可からずと謂ひしなり。若し必ず之を作らんとせば、固より臣下の辭言の屈する所に非ず。若し少しく神を留め、卓然として意を回らざんことも、亦、臣下の及ぶ所に非ざるなり。漢の明帝、德陽殿を起さんと欲す。鍾離意諫む。即ち其の言を用ふ。後乃ち復た之を作る。殿成るや、羣臣に謂つて曰はく、「鍾離尙書在らば、此の殿を成すを得ざりしならん」と。夫れ王者は、豈に一人を憚らんや。蓋し百姓の爲めなり。今臣は曾ち少しも聖聽を疑む

む。是に於て館舎を起し、亭障を築く、成都より白水に至るまで四百餘區。
【一四】 蕭何の大略。此れ蕭何が未央宮を治めし事を指して言を爲すなり。
【一五】 蕭何云云。十一卷高帝七年に見ゆ。
【一六】 辭。口實なり。
【一七】 此れ皆、帝が諫を拒ぎし實事を指す。
【一八】 疑は定むる也、停むる也。帝が其言を聽かざるを言ふ。

る能はず。意に及ばざること遠し」と。帝、乃ち之が爲めに、少しく減省する有り。帝、内寵に耽り、婦官の秩石、百官の數に擬し、貴人より以下、掖庭の灑掃に至るまで、凡そ數千人あり。女子の書を知り、(一)付信す可き者六人を選び、以て女尚書と爲し、省外の奏事を典り、(二)處當畫可せしむ。廷尉高柔・上疏して曰はく、『昔、漢文は、十家の資を惜みて、小臺の娛を營まず、去病は、匈奴の害を慮りて、第を治むるの事に違あらざりき。況んや今、損する所は惟に百金の費のみに非ず、憂ふる所は徒に北狄の患のみに非ざるをや。粗ば見に營立する所を成し、以て朝宴の儀に充つ可し。訖らば作者を罷め、農に就くを得しめ、二方平定せば、復た徐ろに興す可し。周禮に、(三)天子は、后妃以下、百二十人」と。(四)嬪嬙の儀、既に已に盛なり。竊に聞き、後庭の數、或は復た之に過ぐと。聖嗣の昌ならざるは、殆ど能く此に由らん。臣愚以爲へらく、妙しく、淑媛を簡び、以て内宮の數に備へ、其餘は盡く遣りて家に還し、且つ精を育ひ神を養ひ專靜なるを以て寶と爲す可し。此の如くならば、則ち(五)蠡斯の徴、庶うて致す可からん」と。帝、報じて曰はく、『卿、輒ち昌言を克くす。他復た以て聞せよ』と。是の時、獵法嚴峻なり。禁地の鹿を殺す者は、身死し、財産、官に沒せらる。

- 【一】 付信。付託信任なり。
- 【二】 處當畫可。處當とは、奏する所の事、上意に合はざるあれば、其の當を區處してこれを下す也。畫可とは、其の奏する所のままに従ふ也。
- 【三】 漢文。漢の文帝。
- 【四】 王は后を立て、三夫人、九嬪、二十七世婦、八十一御妻あり、是れを百二十人と爲す。
- 【五】 嬪嬙。宮中の女官。
- 【六】 淑媛。善良なる美女。
- 【七】 蠡斯。詩の篇名、后妃の子孫衆多なるを言ふ。

能く覺告する者有れば、厚く賞賜を加ふ。柔復た上疏して曰はく、『中間以來、百姓、衆役を供給し、親ら田つくる者既に減じ、加ふるに頃復た獵禁有り、羣鹿犯暴し、生苗を殘食し、處處に害を爲し、傷ふ所警られず、民、障防すと雖も、力、禦ぐ能はず。滎陽の左右の如きに至りては、周數百里、歳ごとに略ぼ收まらず。方今、天下、財を生ずる者は甚だ少く、而して麋鹿の損する者は甚だ多し。卒に兵戎の役、凶年の災有らば、將に以て之を待つ無からんとす。惟だ陛下、民間を寛放し、鹿を捕ふるを得しめ、遂に其の禁を除かば、則ち衆庶永く濟り、悅豫せざるもの莫からん』と。帝、又、北茫を平かにし、其の上に於て臺觀を作らしめ、孟津を望見せんと欲す。衛尉辛毗諫めて曰はく、『天地の性は、高きは高く下きは下し。今にして之に反するは、既に其の理に非ず、加以人功を損費し、民、役に堪へざらん。且つ若し九河盈溢し、洪水、害を爲して、丘陵皆夷がば、將に何を以てか之を禦がんとする』と。帝乃ち止む。少府楊阜・上疏して曰はく、『陛下、武皇帝の開拓の大業を奉じ、文皇帝の(一)克終の(二)元緒を守る。誠に宜しく往古の聖賢の善治に齊しからんことを思ひ、季世の放蕩の惡政を總觀すべし。曩に(三)桓靈をして高祖の法度、(四)文景の恭儉を廢せざらしめば、太祖、神武有りと雖も、何の所に於てか施さん。而して陛下、何に由りてか斯の尊に處らんや。今、吳・蜀未だ定まらず、軍旅、外に在り。諸の繕治する所、惟だ陛下、務めて

- 【一】 克終。文帝が克く武帝の志を終へて禪を受けたるを言ふ。
- 【二】 元緒。元始の絲端。
- 【三】 桓靈。漢の桓帝、靈帝。
- 【四】 文景。漢の文帝、景帝。

【一〇】約節に從へ」と。帝・優詔して之に答ふ。阜復た上疏して曰はく、「堯は其の居に安んじ、禹は宮室を卑くして、天下、其の業を樂しめり。殷・周に至るに及びて、或は堂の崇さ三尺、度、九筵を以てするのみ。桀は璇室・象廊を作り、紂は傾宮・鹿臺を爲り、以て其の社稷を喪ぼせり。楚靈は章華(臺)を築くを以てして、身、禍を受けたり。秦の始皇は、阿房(宮)を作り、二世にして滅びぬ。夫れ萬民の力を度らず、以て耳目の欲に從はば、未だ亡びざる者有らざるなり。陛下、當に堯・舜・禹・湯・文・武を以て法則と爲し、夏桀・殷紂・楚靈・秦皇を深誠と爲すべし。而るに乃ち自ら暇ありとし自ら逸し、惟だ宮臺を是れ飾る。必ず顛覆危亡の禍有らん。君は元首と作し、臣は股肱と爲し、存亡一體、得失、之を同じくす。臣、驚怯なりと雖も、敢て争臣の義を忘れんや。言、切に至らずんば、以て陛下を感悟するに足らじ。陛下、臣が言を察せずんば、恐らくは皇祖烈考の祚、地に墜ちん。臣をして身死して、萬一を補ふ有らしめば、則ち死するの日、猶ほ生くるの年のごときなり。謹んで棺を叩きて沐浴し、伏して重誅を俟つ」と。奏、御む。帝、其の忠言に感じ、手筆もて詔答す。帝嘗て

【一〇】茅茨を尙びて、萬國、

【一〇】約節。簡約節儉なり。

【一一】茅茨云云。堯が屋根を聳ける茅の先を揃へて切らざりしことをいふ。意は陋屋に居るも意とせず、民の安きを謀りしを讀するなり。

【一二】殷周云云。周官考工記に曰はく、股人の重屋は、堂の脩さ七尋、堂の崇さ三尺。周人の明堂の度は、九尺の筵、東西九筵、南北七筵、堂の崇さ一筵、五室凡そ室ごとに二筵と。

【一三】争臣。諍臣。諫臣なり。

【一四】叩。近づく也。

【一五】御。進む也。

【一六】帽。頭にかぶるもの。

【一七】縹綾。青白色の紋帛。

【一八】帽を著、縹綾の半袖を

被る。阜、帝に問うて曰はく、「此れ禮に於て何の法服ぞや」と。帝・默然として答へず。是より法服せざれば、以て阜を見ず。阜、又、上疏し、宮人・諸の幸せられざる者を省かんと欲す。乃ち御府の吏を召し、後宮の人数を問ふ。吏、舊令を守り、對へて曰はく、「禁密にして、宣露するを得ず」と。阜怒り、吏を杖すること一百、之を數めて曰はく、「國家、九卿と與に密を爲さず、反つて小吏と與に密を爲すか」と。帝、愈、之を嚴憚す。散騎常侍蔣濟・上疏して曰はく、「昔、句踐は胎を養うて以て用を待ち、昭王は病めるを恤れみて以て仇を雪がんとす、故に能く弱燕を以て彊齊を服し、羸越、勁吳を滅ぼせり。今、二敵彊盛なり。身に當りて、除かずんば、百世の責なり。陛下の聖明神武の略を以て、其の緩なる者を捨て、心を専らにして賊を討たば、臣以爲ふに難きこと無からん」と。中書侍郎東萊の王基・上疏して曰はく、「臣聞く、古人、水を以て民に諭へて曰はく、「水は以て舟を載する所、亦、以て舟を覆す所なり」と。顔淵曰はく、「東野子の御するは、馬の力盡きたるに、而も進まんことを求めて、已まず。殆ど將に敗れんとす」と。今、事役勞苦し、男女離曠す。願はくは

【一九】句踐云云。人口の増加を圖りて國家の用に供せんとせしことなり。春秋の時代、越王句踐、吳王に會稽に破られ、纒に免されて國に歸るや、令して壯者は老婦を取る無からしめ、老者は壯妻を取る無からしめ、女子十七にして嫁せず、丈夫二十にして娶らざれば、其の父母雖有り、將に離乳せんとする者は、以て公に告げ、醫をしてこれを守らしめたり。

【二〇】昭王。燕の昭王、燕、齊に破られたる後、死を弔し疾を問ひ、以て齊に報い先王の恥を雪がんと欲す。

【二一】身云云。帝の身に當りて、吳蜀を滅ぼす能はずんば、後世の責、必ず帝に歸せん。

【二二】水云云。家語に孔子の言を載す。

陛下、深く東野の敵を察し、意を舟水の喻に留め、犇駟を未だ盡さざるに息め、力役を未だ困せざるに節せよ。昔、漢、天下を有ち、孝文の時に至りて、唯だ同姓の諸侯のみ有り。而るに賈誼、之を憂へて曰はく、「火を積薪の下に置き、而して其の上に寝ね、因つて之を安しと謂ふ」と。今、寇賊未だ殄えず、猛將、兵を擁す。之を檢するときは則ち以て敵に應ずる無く、之を久しうするときは則ち難以て後に遺るなり。盛明の世に當りて、務めて以て患を除かず、若し子孫、競はずんば、社稷の憂なり。賈誼をして復た起らしめば、必ず曩時よりも深切ならん」と。帝、皆、聽かず。殿中監、役を督し、擅に蘭臺の令史を收ふ。右僕射衛臻、之を奏案す。詔して曰はく、「殿舎成らざるは、吾が心を留むる所なり。卿、之を推するは何ぞや」と。臻曰はく、「古制、官を侵すの法は、其の事を勤むるを惡むに非ざるなり。誠に、益する所の者小にして、墮る所の者大なるを以てなり。臣毎に、校事を察するに、類ね皆此の如し。若し又之を縦さば、懼らくは羣司將に遂に職を越えて、以て陵夷するに至らんとせん」と。尙書涿郡の孫禮、固く、役を罷めんことを請ふ。帝、詔して曰はく、

【三】東野云云。荀子に、魯の定公、顔淵に問うて曰はく、東野子は善く御するかと。顔淵曰はく、善きことは則ち善し、然りと雖も、其の馬將に失はれんとすと。定公曰はく、何を以てかこれを知ると。顔淵曰はく、臣、政を以てこれを知る、昔、舜は民を使ふに巧なり、造父は馬を使ふに巧なり、舜は其の民の力を窮めず、造父は其の馬の力を窮めず、是れ舜は民を失ふ無く、造父は馬を失ふ無きなり。今、東野畢の御するは、車に上り、轡を執り、御體正しく、步驟馳騁し、朝禮畢り、險を歴遠きを致し、馬力盡く、然るに猶ほ進まんことを求めて、已まず、是を以てこれを知るなりと。

【四】賈誼云云。十四卷漢の文帝六年に見ゆ。

「欽んで讒言を納る」と。促して・民をして作せしむ。監作者復た奏す、「留むること一月ならば、成訖する所有らん」と。禮、徑に作所に至り、復た重ねて奏せず、詔と稱して民を罷む。帝、其の意を奇として・責めず。帝、盡くは羣臣が直諫の言を用ふる能はずと雖も、然れども皆之を優容す。秋七月、洛陽の崇華殿、災あり。帝、侍中領太史令泰山の高堂隆に問うて曰はく、「此れ何の咎ぞや。禮に於て寧ろ祈禳の義有りや」と。(隆)對へて曰はく、「易傳に曰はく、「上、儉ならず、下、節ならざれば、孽火、其の室を燒く」と。又曰はく、「君、其の臺を高くすれば、天火、災を爲す」と。此れ人君、宮室を飾るを務め、百姓の空竭するを知らず、故に天、之に應ずるに早を以てし、火、高殿より起るなり」と。詔して隆に問ふ、「吾聞く、漢武の時、柏梁、災あり、而して大に宮殿を起し、以て之を厭すと。其の義云何」と。對へて曰はく、「夷越の巫の爲す所にして、聖賢の明訓に非ざるなり。五行志に曰はく、「柏梁、災あり、其の後、江充の巫蠱の事有り」と。志の言の如くならば、越巫・建章、厭する所無かりしなり。今、宜しく民役を罷散し、宮室の制、務めて約節に従ひ、災ある所

【四】競、強き也。
【五】殿中監。時に宮室を營造するを以て、殿中を作るを監せしむる也。
【六】蘭臺の令史。御史臺に屬す。漢、御史を蘭臺と謂ふ。
【七】推。考鞠する也。吟味すること。
【八】官を侵すの法。官職を越ゆるを禁する法をいふ。
【九】校事。魏武、國を建つるや、校事を置きて、羣下を察せしむ。
【一〇】成訖。殿舎を成し以て事を訖る也。
【一一】太史令は太常に屬す、隆、侍中を以てこれを領す。
【一二】易傳。京房の易傳。
【一三】孽火。妖火なり。
【一四】漢武云云。二十一卷漢の武帝太初元年に見ゆ。
【一五】江充巫蠱の事。衛太子の事をいふ。

の處を清掃し、敢て此に於て立作する所有らざるべし。則ち蕙菴・嘉禾、
し乃ち民の力を疲らし、民の財を竭さば、符瑞を致して遠人を懐くる所以
に非ざるなり」と。

八月庚午、皇子芳を立てて齊王と爲し、詢を秦王と爲す。帝、子無く、
二王を養うて子と爲す。宮省の事は祕にして、其の由つて來る所を知る者
有る莫し。或は云はく、「芳は任城王楷の子なり」と。

丁巳、帝、洛陽に還る。

詔して復た崇華殿を立て、更め名づけて九龍と曰ふ。穀水を通引して、

九龍殿の前を過ぎしめ、玉井・綺欄を爲り、蟾蜍含み受け、神龍吐き出す。
博士扶風の馬鈞をして、司南車・水轉百戲を作らしむ。陵霄闕始めて構

へらるるや、鵲有り其の上に巢ふ。帝、以て高堂隆に問ふ。對へて曰はく、
『詩に曰はく、「惟れ鵲、巢有り、惟れ鳩之に居る」と。今、宮室を興し、

陵霄闕を起し、而して鵲之に巢ふ。此れ宮未だ成らずして、身、居るを
得ざるの象なり。天意、「宮室未だ成らざるに、將に他姓有りて之を制御
せんとす」と曰ふが若し。斯れ乃ち上天の戒なり。夫れ天道は親無し、

必す此の地に生せん。若

【五八】 蕙菴。瑞草の名。堯の時、
庖厨に生ぜり。暑を扇ぎて涼
しといふ。

【五七】 任城王楷。任城王彰の子
なり。

【五八】 司南車。指南車なり。

【五九】 水轉百戲。木を以て種種
の偶人を作り、水を以てこれ
を動かし、或は舞ひ、或は鼓
を撃ち、或は簫を吹き、或は
繩を跳び、劍を擲ちなどせし
むる仕掛ある玩弄物。

【六〇】 詩。詩經召南の鵲巢の篇
の辭。鵲は巢を作るに巧に、
鳩は拙し。鵲の巢立ちし跡に
鳩入り來りて棲むとの意。宮
室美しく成るとも、徳を修む
ることなければ、他姓のもの
に奪はれ、身を置く所なきに
至らんと諷するなり。

惟だ善人に與す。太戊・武丁、災を觀て悚懼す、故に天、之に福を降せ
り。今若し百役を罷休し、徳政を増崇せば、則ち三王は四にす可く、五
帝は六にす可し。豈に惟だ商宗の禍を轉じて福と爲せるのみなら
んや」と。帝、之が爲めに容を動かす。帝、性嚴急にして、其の宮室を修む
るを督するや、稽限する者有れば、帝親ら召して問ひ、言猶ほ口に在る
に、身首已に分る。散騎常侍領祕書監王肅・上疏して曰はく、「今、宮室未
だ就らず、見作者三四萬人なり。九龍は以て聖體を安んず可く、其の内
は以て六宮を列するに足る。惟れ泰極已前は、功夫尙ほ大なり。願はく
は陛下、常に食粟するの士を取り、急要なる者の用に非ざるをば、其の
丁壯を選び、擇びて萬人を留め、一替にして之を更らしめよ。咸、息
代の・日有るを知らば、則ち悦びて以て事に即かざる莫く、勞すれども怨
みざらん。計るに一歳にして三百六十萬夫有るは、亦、小と爲さず。當に
一歳に成るべき者をば、且に三年ならんとするを聽し、其餘を分遣して、
皆農に即かしめよ。無窮の計なり。夫れ信の・民に於けるは、國家の大寶な
り。前に車駕、當に洛陽に幸すべかりしとき、民を發して營を爲し、有司

【六一】 太戊武丁云云。殷の王太
戊は、桑穀、朝に生じ、武丁
は、飛雉、鼎に雉き、皆能く
戒め懼れ、災を轉じて福と爲
せり。

【六二】 三王は四にす可く云云。
陛下は其の聖徳高く仰がれ
て、三王(禹・湯・文・武)の列
に入りて四王と稱せらるべく
或は五帝に位を列して六帝と
も呼ばるるならんとの意。

【六三】 商宗。殷の太戊・武丁を
いふ。

【六四】 稽限。期日までに成就せ
ざること。

【六五】 見作者。現に役作する者
なり。

【六六】 泰極。大極殿をいふ。

【六七】 食粟。魏志王肅傳には食
廩に作る。

【六八】 一替。一年なり。

【六九】 息代。休息更代なり。

命するに營成りて罷むるを以てせり。既に成るや、又、其の功力を利とし、時を以て遣らざりき。有司徒に目前の利を營み、經國の體を顧みず。臣愚以爲ふに、今より已後、儻し復た民を使はば、宜しく其の令を明かにし、必ず期の如くならしむべし。次を以て事有らば、寧ろ更に發せしむとも、信を失ふ或る無かれ。凡そ陛下の臨時の行ふ所の刑は、皆、罪有るの吏にして、宜しく死すべき人なり。然れども衆庶、知らず、謂つて「倉卒なり」と爲す。故に願はくは陛下、之を吏に下せ。鈞しく其れ死なるも、宮掖を汗さしめ・而して遠近に疑はるる無かれ。且つ人命は至つて重く、生かし難く殺し易く、氣絶ゆれば續がざる者なり。是を以て聖賢は之を重んず。昔、【七〇】漢の文帝、蹕を犯せる者を殺さんと欲す。廷尉張釋之曰はく、「其の時に方りて、上、之を誅せしめしならば則ち已む。今、廷尉に下さる。廷尉は天下の平にして、傾く可からざるなり」と。臣以爲ふに、大に其の義を失へり、忠臣の宜しく陳ぶべき所に非ざるなり。廷尉は天子の吏なり、猶ほ以て平を失ふ可からず。而るに天子の身は、反つて以て惑謬す可きか。斯れ己が爲めにするに重くして、君の爲めにするに輕し。不忠の甚だしき者なり。察せざる可からず」と。

【七〇】 次云。始めに甲處に於て營造し、民を發して役に就かしめたる者は、免に角期日の通りにこれを遣り歸すべし。若し次に乙處に於て營造するときは、甲處に於て役に

就きたる者を其のまま用ふべからず、寧ろ更に民を發して乙處の役に就かしむべき也。
【七一】 漢の文帝云。十四卷漢の文帝三年に見ゆ。

中山の恭王褒、疾病なるや、官屬に令して曰はく、【七二】「男子は婦人の手に死せず。亟かに時を以て東堂を營め」と。堂成るや、疾めるを興して往きて之に居る。又、世子に令しく曰はく、「汝は幼にして人君と爲り、樂を知りて、苦を知らず、必ず將に驕奢を以て失を爲さんとする者なり。兄弟、不良の行有らば、當に【七三】鄰(前)に造りて之を諫むべし。之を諫めて、従はずんば、涕を流して之に諭せ。之に諭して改めずんば、乃ち其の母に白せ。猶ほ改めずんば、當に以て奏聞し、并に國土を辭すべし。其の寵を守りて禍に罹らんよりは、貧賤にして身を全うするに若かざるなり。此れ亦、大罪惡を謂ふのみ。其の微過細故をば、當に之を掩覆すべし」と。冬十月己酉、褒卒す。

【七二】 男子云云。禮記喪大記の言。

【七三】 柳谷。甘肅省甘涼道山丹縣に在り。

【七四】 連齋。詔書及び班ち下せる石圖を連ね齋らす也。

【七五】 來。將來なり。

十一月丁酉、帝行きて許昌に如く。是の歲、幽州の刺史王雄、勇士韓龍をして鮮卑の軻比能を刺殺せしむ。是より、種落離散し、互に相侵伐し、疆者は遠く遁れ、弱者は服せんと請ひ、邊陲遂に安し。張掖の柳谷口に、水溢れ涌き、寶石、圖を負ひ、狀、靈龜に象どり、川西に立ち、石馬七つ及び鳳凰・麒麟・白虎・犧牛・瓊瑛・八卦・列宿・孛彗の象有り、又、文有り、「大討曹」と曰ふ。詔書して天下に班ち、以て嘉瑞と爲す。任の令于綽、連齋して以て鉅鹿の張琚に問ふ。琚、密に綽に謂つて曰はく、「夫れ神は以て來を知り、既往を追はず。祥兆先づ見はれて、而る後廢興之に従ふ。今、漢已

に久しく亡び、魏已に之を得たり。何ぞ追うて祥兆を興す所あらんや。此の石は、當今の變異にして、將來の符瑞なり」と。
帝、人をして馬を以て珠璣・翡翠・玳瑁に吳に易へしむ。吳主曰はく、「此れ皆孤が用ひざる所なり。而して以て馬を得可くんば、孤何ぞこれを愛まん」と。盡く以て之に與ふ。

四年、春、吳人、大錢を鑄る。一、五百に當る。

三月、吳の張昭・卒す。年八十一。昭、容貌矜嚴にして、威風有り。吳主以下、邦を擧げて之を憚る。

夏四月、漢主、瀕に至り、觀阪に登り、汶水の流を觀る。旬日にして還る。

武都の氐符健、降を漢に請ふ。其の弟、從はず、四百戸を將ゐて來り降る。

五月乙卯、樂平の定侯董昭・卒す。

冬十月己卯、帝、洛陽宮に還る。

甲申、星有り。大辰に孛す。又、東方に孛す。高堂隆・上疏して曰はく、「凡そ帝王、都を徙し邑を

【一】孫權の嘉禾五年、大錢を鑄る、一、五百に當る、文に大泉五百と曰ひ、徑一寸三分、重さ十二銖。

【二】瀕。即ち漢の瀕氏道。蜀郡に屬す。今の四川省西川道松潘縣の地。

【三】汶水。即ち岷江。

【四】大辰。星座の名。

立つるや、皆先づ天地社稷の位を定め、敬恭して以て之を奉ず。將に宮室を營まんとするときは、則ち宗廟を先と爲し、廩庫を次と爲し、居室を後と爲す。今、園丘・方澤・南北郊・明堂・社稷は、神位未だ定まらず、宗廟の制、又、未だ禮の如くならず。而るに居室を崇飾し、士民、業を失ふ。外人咸云はく、「宮人の用、軍國の用と略ぼ齊し。民、命に堪へず。皆、怨怒する有り」と。書に曰はく、「天

【五】天地社稷の位。謂はゆる園丘・方澤・南北郊及び社稷の神位なり。園丘また園丘、天を祭る場所。方澤は地を祀る祭壇。圓は天に象り、方は地に象る也。郊は天を祭る儀式(冬至には南郊、夏至には北郊)社は國の神、稷は穀物の神。かかる重大なる祭祀の儀禮も未だ定まらずして宮室を起さんとするを非とする也。

の聰明は、我が民の聰明に自る。天の明畏は、我が民の明威に自る」と。天の賞罰は、民の言に隨ひ、民の心に順ふを言ふなり。夫れ、采椽・卑宮は、唐虞・大禹の皇風を垂るる所以なり。玉臺・瓊室は、夏癸・商辛の昊天を犯せる所以なり。今、宮室過盛にして、天譴章灼たり。斯れ乃ち慈父の懇切の訓にして、當に孝子の祗聳の禮を崇ぶべし。宜しく忽せにする有りて以て天の怒を重くすべからず」と。隆數、切諫す。帝頗る悦ばず。侍中盧毓進みて曰はく、「臣聞く、君明かなれば則ち臣直なり」と。古の聖王は、惟だ其の過を聞かざらんことを恐る。此れ乃ち臣等が隆に及ばざる所以なり」と。帝乃ち解く。毓は植の子なり。

十二月癸巳、潁陰の靖侯陳羣・卒す。羣、前後數、得失を陳ぶ。封事を上る毎に、輒ち其の草を削る。時の人及び子弟、能く知るもの莫きな

り。論者、或は羣を譏る、「位に居りて 拱默す」と。正始中、詔して、羣臣の上書を撰び、以て名臣奏議と爲す。朝士、乃ち羣の諫事を見、皆歎息す。

袁子・論じて曰はく、或るひと云はく、少府楊阜は、豈に忠臣に非ずや。人主の非を見れば、則ち勃然として之に觸れ、人と言へば、未だ嘗て(之)道はずんばあらずと。答へて曰はく、夫れ仁者は人を愛す。之を君に施せば、之を忠と謂ひ、親に施せば、之を孝と謂ふ。今、人臣と爲りて、人主道を失ふを見、力めて其の非を詆り、而して其の惡を播揚す。直士と謂ふ可し。未だ忠臣と爲さざるなり。故の司空陳羣は則ち然らず。談論すること終日、未だ嘗て人主の非を言はず、書數十たび上れども、外人知らず。君子謂はく、羣は是に於てか長者なりと。

乙未、帝行きて許昌に如く。公卿に詔して、才德兼備はる者各一人を挙げしむ。司馬懿、兗州の刺史太原の王昶を以て選に應ず。昶、人と爲り謹厚にして、其の兄の子を名づけて默と曰ひ、沈と曰ひ、其の子を名づけて渾と曰ひ、深と曰ふ。書を爲りて之を戒めて曰はく、「吾、四つの者を以て名と爲すは、汝が曹をし

行を視聽するは、民の視聽に従ふ。天の明かにして畏るべき好惡賞罰は、民の好惡賞罰に従ふ。民の好惡賞罰とは悦服と離畔とをいふ。

【七】 采椽云云。采椽は山より採り來りしままのたるき。粗末なる宮室をいふ。

【八】 夏癸・商辛。夏の桀王・殷の紂王。

【九】 祗聳。つつしみ、おそるること。

【一〇】 草。草稿なり。

【一一】 拱默。手を拱きて黙して一言無き也。

て名を顧みて義を思ひ、敢て遠越せざらしめんことを欲すればなり。夫れ物速かに成れば則ち疾く亡

び、晚く就れば而ち善く終る。朝に華さくの草は、夕にして零落し、松柏の茂るは、(三)隆寒にも衰へず。是を以て、君子、(三)鬪黨を戒むるなり。夫

れ能く屈して以て伸ぶるを爲し、譲りて以て得るを爲し、弱くして以て強きを爲せば、遂げざること鮮し。夫れ毀譽は、愛惡の原にして、禍福の機

なり。(四)孔子曰はく、「吾の・人に於けるや、誰をか毀り誰をか譽めん」と。聖人の徳を以てすら、猶ほ尙、此の如し。況んや庸庸の徒にして、而も輕

しく毀譽せんや。人或は己を毀らば、當に退きて之を身に求むべし。若し己に・毀らる可きの 行 有れば、則ち彼の言は當れり。若し己に・毀らる可

きの 行 無ければ、則ち彼の言は妄なり。當れば則ち彼に怨無し。妄なれば則ち身に害無し。又何ぞ反つて報いんや。諺に曰はく、「寒を救ふには

裘を重ぬるに如くは莫く、謗を止むるには自ら脩むるに如くは莫し」と。斯の言信なり」と。

(一) 景初元年、春正月壬辰、山在縣言はく、「黃龍見はる」と。高堂隆以爲はく、「魏は土徳を得

【二】 隆寒。嚴寒なり。

【三】 鬪黨云云。論語の憲問篇に、鬪黨の童子、命を將ふ。

或るひとこれを問うて曰はく、益する者かと。孔子曰はく、吾、其の位に居るを見る

なり、其の先生と並び行くを見るなり、益を求むる者に非ざるなり、速かに成らんことを欲する者なりと。

【四】 孔子云云。論語衛靈公篇に見ゆ。

【一】 景初元年。西紀二二七年なり。

【二】 山在縣。泰山郡に屬す。故城は今の山東省濟南道長清縣の東北に在り。

たり。故に其の瑞、黃龍見はる。宜しく正朔を改め、服色を易へ、以て其の政を神明にし、民の耳目を變ずべし」と。帝、其の議に従ふ。三月、詔を下して改元し、是の月を以て孟夏四月と爲し、服色は黃を尙び、犧牲は白を用ふ。地正に従ふなり。更めて大和歷を命けて景初歷と曰ふ。

五月己巳、帝、洛陽に還る。

己丑、大赦す。

六月戊申、京都、地震ふ。

己亥、尙書令陳矯を以て司徒と爲し、左僕射衛臻を司空と爲す。

有司奏し、武皇帝を以て魏の太祖と爲し、文皇帝を魏の高祖と爲し、

帝を魏の烈祖と爲し、三祖の廟をば、萬世まで毀たざらしむ。

孫盛論じて曰はく、夫れ諡は以て行を表し、廟は以て容を存す。

未だ當年にして而も逆め祖宗を制し、未だ終らずして而も豫め自ら尊顯する有らず。魏の羣司は、是に於てか正を失ふ。

秋七月丁卯、東郷の貞公陳矯卒す。

公孫淵、數國中の賓客に對して、惡言を出す。帝、之を討たんと欲し、荊州の刺史母丘儉を以

【三】是月云云。是月は春三月なり。殷は地正と爲し、建丑十二月を以て歲首と爲す。今これに従ふ。故に三月を以て四月と改めしなり。服色、黃を尙ぶは、魏の土を以て漢の火に代れるが故なり。土の色は黃なり。故に黃を尙ぶなり。犧牲、白を用ふるは、殷の金徳なるに従ふ也。
【四】羣司。百官なり。
【五】母丘儉。母丘は姓。儉は名。

て幽州の刺史と爲す。儉上疏して曰はく、「陛下、位に即きて以來、未だ書す可き有らず。吳・蜀は險を恃み、未だ卒に平ぐ可からず。聊か此の方の無用の士を以て遼東を克定す可し」と。光祿大夫衛臻曰はく、「儉が陳ぶる所は、皆、戰國の細術にして、王者の事に非ざるなり。吳、頻歲、兵を稱げ、邊境を寇亂す。而るに猶ほ甲を按じ士を養ひ、未だ討を致すを果さざるは、誠に百姓の疲勞するを以ての故なり。淵、海表に生長し、相承くること三世、外は戎夷を撫し、内は戰射を脩む。而るに儉、偏軍を以て長驅し、朝に至り夕に卷かんと欲す。其の妄なるを知る」と。帝聽かず、儉をして諸軍及び鮮卑・烏桓を帥ゐて遼東の南界に屯せしめ、璽書をもて淵を徵す。淵遂に兵を發して反し、儉を遼隧に逆ふ。會、天雨ふること十餘日、遼水大に漲る。儉、與に戰ひ、利あらず、軍を引きて右北平に還る。淵因つて自立して燕王と爲り、紹漢と改元し、百官を置き、使を遣はして鮮卑に單于の璽を假し、邊民を封拜し、鮮卑を誘ひ呼び、以て北方を侵擾す。

漢の張后・殂す。

九月、冀・兗・徐・豫、大水あり。

西平の郭夫人、帝に寵有り。毛后、愛弛ぶ。帝、後園に遊び、曲宴して樂を極む。郭夫人、皇

【六】稱。擧ぐる也。
【七】三世。度、康、淵。
【八】遼隧。縣の名、遼東郡に屬す。故城は今の奉天省遼瀋道海城縣に在り。遼河畔なり。
【九】冀州は趙・鉅鹿・安平・平原・樂陵・渤海・河間・博陵・清河・中山・常山を統ぶ。徐州は彭城・下邳・東海・琅邪・廣陵・臨淮を統ぶ。豫州は潁川・汝南・汝陰・梁・沛・譙・魯・弋陽・安豐を統ぶ。
【一〇】後園は洛城の北隅に在り。曲宴は禁中の私宴。

后を延かんと請ふ。帝許さず。因つて左右に禁じて、(二)の宣ぶるを得ざらしむ。后、之を知り、明日、帝に謂つて曰はく、『昨日、北園に游宴せしは、樂しかりしか』と。帝、左右之を泄らせりと以ひ、殺す所十餘人。庚辰、后に死を賜ひ、然して猶は諡を加へて(三)悼と曰ふ。癸丑、愍陵に葬る。其の弟曾を遷して散騎常侍と爲す。

冬十月、帝、高堂隆の議を用ひ、洛陽の南委粟山を營して圓丘と爲す。

詔して曰はく、『昔、漢氏の初、秦が學を滅ぼせるの後を承け、殘缺を採撫し、以て郊祀を備へ、四百餘年、廢して(四)禘の禮無し。曹氏の世系は、有虞より出づ。今、皇皇たる帝天を圓丘に祀り、始祖虞舜を以て配し、皇皇たる后地を方丘に祭り、(五)舜の妃伊氏を以て配し、皇天の神を南郊に祀り、武帝を以て配し、皇地の祇を北郊に祭り、武宣皇后を以て配せん』と。

廬江の主簿呂習、密に人をして兵を吳に請はしめ、門を開きて内應を爲さんと欲す。吳主、衛將軍全琮をして、前將軍朱桓等を督して之に赴かしむ。既に至り、事露はる。吳の軍還る。

諸葛恪、丹陽に至り、書を(六)四部の屬城の長吏に移し、各をして其

【二】 宣ぶ。其の事を露はすなり。

【三】 悼。諡法に、中年にして早く夭するを悼と曰ひ、行を肆にして禮無きを悼と曰ふ。

【四】 採撫。拾ひ取る。

【五】 禘。天子、昊天を圓丘に祭るをいふ。

【六】 舜の妃。堯の女なり。堯は伊祁氏。

【七】 四部。當に四郡に作るべし。吳郡・會稽・新都・鄱陽をいふ。皆、丹陽と鄰接し、山越、阻に依りて出沒す。故に各々をして其の疆界を保たしむる也。

【八】 諸將をして入りて幽阻の

の疆界を保たしめ、明かに部伍を立て、其の化に従ふ平民をば、悉く屯居せしめ、乃ち(九)諸將を内れて、兵を幽阻(地)に羅ね、但だ藩籬を繕ひ、與に鋒を交へず、其の穀稼將に熟せんとするを俟ち、輒ち兵を縱ちて芟刈し、遺種無からしむ。舊穀既に盡き、新穀收まらず、平民屯居し、略ぼ入るる所無し。是に於て、山民饑窮し、漸く出でて(十)降首す。恪乃ち復た(十一)下に敕して曰はく、『山民、惡を去りて化に従はば、皆、當に撫慰し、徙して外縣に出すべし。嫌疑して拘執する所有るを得ず』と。(十二)白陽の長胡伉、降民周遺を得たり。遺は舊惡の民なり。(十三)縛送して府に言す。恪、伉が教に違ふを以て、遂に斬りて以て徇ふ。民、伉が人を執ふるに坐して戮せられしを聞き、官惟だ之を出さんと欲するのみなるを知り、是に於て老幼相攜へて出づ。(十四)歲期・人數、皆、本規の如し。恪自ら萬人を領し、餘は諸將に分給す。吳主、其の功を嘉し、恪を(十五)威北將軍に拜し、都郷侯に封じ、徙りて廬江の(十六)皖口に屯せしむ。

是の歲、長安の鍾篋・棗佗・銅人・承露盤を洛陽に徙す。盤折れ、聲、數十里に聞ゆ。銅人は、重くして致す可からず、(十七)霸城に留む。大に銅を發し、銅人二を鑄、號して翁仲と曰ひ、司馬門の外に列坐

地を扼せしむ、故に之を内と謂ふ。内は納と通す。

【九】 降首。降服自首。

【十】 下に敕す。教令を出して其の下に約敕する也。

【十一】 白陽は蓋し縣の名にして當に丹陽郡に在るべきも、今、考ふる所無し。

【十二】 歲期・人數。前卷青龍二年に見ゆ。

【十三】 本規。はじめの計畫。

【十四】 威北將軍は孫氏の創置する所。

【十五】 皖口。皖水の流れて大江に入る所、安徽省安慶道懷寧縣の西十五里に在り。

【十六】 霸城は即ち漢の京兆の霸陵縣の故城なり。今の陝西省關中道長安縣の東に在り。

せしむ。又、黃龍・鳳皇各一を鑄る、龍は高さ四丈、鳳は高さ三丈餘、内殿の前に置く。土山を芳林園の西北陬に起し、公卿・羣僚をして、皆土を負ひ、松竹雜木善草を其の上に樹る、山禽雜獸を捕へて其の中に置かしむ。司徒の軍議掾董尋、上疏して諫めて曰はく、「臣聞く、古の直士は、言を國に盡し、死亡を避けずと。故に周昌は高祖を桀紂に比し、劉輔は趙后を人婢に譬へたり。天生忠直にして、白刃・沸湯と雖も、往きて顧みざる者は、誠に時主の爲めに天下を愛惜するなり。建安以來、野戰死亡し、或は門殫き戸盡き、存する者有りと雖も、遺孤老弱なり。若し今、宮室狹小にして、當に之を廣大にすべきすら、猶ほ宜しく時に隨ひ、農務を妨げざるべし。況んや乃ち無益の物を作るをや。黃龍・鳳皇・九龍・承露盤は、此れ皆聖明の興さざる所なり。其の功、殿舎に三倍す。陛下、既に羣臣を尊び、顯すに冠冕を以てし、被するに文繡を以てし、載するに華輿を以てするは、小人に異にする所以なり。而るに方を穿ち土を擧げしめ、面目垢黒に、衣冠了鳥として、國の光を毀ち、謂に非ざるなり。孔子曰はく、「君は臣を使ふに禮を以てし、臣は君に事ふるに忠を以てす」と。忠無く禮無くんば、國何を以てか立たん。臣、言出づれば必ず死するを知る。而れども臣自ら牛の一毛

- 【二六】 西北陬。西北の隅。
- 【二七】 漢の公府には、軍議掾無し。此の官は魏創めて置きたる也。
- 【二八】 周昌。注、已に前に見ゆ。
- 【二九】 劉輔。三十一卷漢の成帝永始元年に見ゆ。
- 【三〇】 天生。天性なり。
- 【三一】 方。方穴。四角なる穴。
- 【三二】 了鳥。衣冠描敝せる貌。
- 【三三】 孔子云云。論語八佾篇に見ゆ。孔子、魯の定公に對ふる言。

に比す。生くとも既に益無し、死すとも亦何ぞ損せん。筆を乗りて涕を流し、心、世と辭す。臣、八子有り。臣死するの後、陛下を累はさん。將に奏せんとし、沐浴して以て命を待つ」と。帝曰はく、「董尋は死を畏れざるや」と。主者、「尋を收へん」と奏す。詔有り、問ふ勿からしむ。高堂隆・上疏して曰はく、「今世の小人は、好みて秦漢の奢靡を説き、以て聖心を蕩かし、亡國の不度の器を求取し、勞役費損し、以て徳政を傷ふ。禮樂の和を興し、神明の休を保つ所以に非ざるなり」と。帝聽かず。隆又上疏して曰はく、「昔、洪水、天に滔ること、二十二載、堯舜の君臣、南面するのみ。今、時に若ふの急無くして、而も公卿・大夫をして、竝に厮徒と共に事役を供せしむ。之を四夷に聞かするは、嘉聲に非ざるなり。之を竹帛に垂るは、令名に非ざるなり。今、吳・蜀の二賊は、徒に白地の小虜。聚邑の寇のみに非ず、乃ち僭號して帝と稱し、中國と衡を争はんと欲す。今、若し人有り來りて、「權・禪竝に徳政を脩め、租賦を輕省し、動くに耆賢に咨り、事、禮度に遵ふ」と告げば、陛下、之を聞き、豈に惕然として其の如きを惡み・卒に討滅し難しと以爲ひて、國の憂と爲さざらんや。若し告ぐる者をして、「彼の二賊、竝に無道を爲し、崇侈なること度

- 【三四】 不度の器。法度に合はざる器。長安の鍾虜・囊佗・銅人・承露盤をいふ。
- 【三五】 休。美なり。
- 【三六】 二十二載。鯀が九載にして績用成らざりしと、禹が兗州を治むること十有三載なりしとを合はせて、二十二載といふ。
- 【三七】 時に若ふの急。天の時に順つて爲すべき急務。
- 【三八】 白地。大漠にして草木を生ぜず白沙多き地。戎狄をいふ。
- 【三九】 聚邑の寇。竊に發して聚落郷邑に屯據する盜賊。
- 【四〇】 耆賢。老人、賢人。

無く、其の士民を役し、其の賦斂を重くし、下、其の命に堪へず、吁嗟すること日に甚だし」と曰はしめば、陛下、之を聞き、豈に彼が疲敝するを幸として、之を取ること難からずとせざらんや。苟くも此の如くならば、則ち心を易へて度る可し。事議の數、亦、遠からず。亡國の主は、自ら亡びじと謂ひ、然る後、亡ぶるに至る。賢聖の君は、自ら亡びんと謂ひ、然る後、亡びざるに至る。今、天下彫敝し、民は儻石の儲無く、國は終年の蓄無く、外は疆敵有り、六軍、邊に暴され、内は土功を興し、州郡騷動す。若し寇讐有らば、則ち臣懼る、版築の士、命を虜庭に投する能はざらんことを。又、將吏の奉祿、稍く折減せられ、之を昔に方ふるに、五分して一に居り、諸の休を受くる者、又、稟賜を絶ち、應に輸すべからざる者、今、皆、半を出す。此れ官入たること、昔よりも兼多にして、其の出し與ふる所、昔よりも參少なり。而して度支の經用、更に毎に足らず、牛肉の小賦、前後相繼ぐ。反つて之を推すに、凡そ此の諸費、必ず在る所有らん。且つ夫れ祿賜穀帛は、人主の以て吏民を惠養して、之が司命と爲る所の者なり。若し今廢する有らば、是れ其の命を奪ふなり。既に之を得、而して又之を失はば、此れ怨を生ずるの府なり」と。帝、之を覽、中書監令に謂つて

- 【四一】 儻石。儻は二石、石は一石、即ち少量の意。
- 【四二】 終年。一年なり。
- 【四三】 稟賜。稟給賜與。
- 【四四】 兼多。二倍以上なるをいふ。
- 【四五】 參少。三分の一以下なるをいふ。
- 【四六】 牛肉云云。此れ蓋し工徒に輸饗するならん。度支の經用、以て給するに足らず、故に牛肉を賦して、以てこれに供するなり。
- 【四七】 凡そ云云。諸費は皆營繕に在るを言ふ。
- 【四八】 中書監令。奏事を典る。

曰はく、「隆が此の奏を觀るに、朕をして懼れしむるかな」と。尙書衛覬・上疏して曰はく、「今の議者は、多くは悦ばすことを好むのみ。其の政治を言ふものは、則ち陛下を堯舜に比し、其の征伐を言ふものは、則ち二虜を狸鼠に比す。臣以爲ふに、然らず。四海の内、分れて三と爲り、羣士、力を陳べ、各、其の主の爲めにす。是れ六國分治せると、以て異なりと爲す無きなり。當今、千里、煙無く、遺民困苦す。陛下、善く意を留めずんば、將に遂に凋弊して、復た振ふ可きこと難からんとす。武皇帝の時、後宮、食は一肉に過ぎず、衣は錦繡を用ひず、茵蓐は縁飾せず、器物は丹漆する無く、用て能く天下を平定し、福を子孫に遺せり。此れ皆、陛下の覽る所なり。當今の務は、宜しく君臣上下、府庫を計校し、入るを量りて出づるを爲すべし。猶ほ恐らくは及ばざらん。而るに工役輟ま

- 【四九】 高露。高き所の露。
- 【五〇】 錄奪。收錄略奪する也。
- 【五一】 姿首。姿は容色の美なる者。首は髮の美なる者。

諫めて曰はく、「陛下は天の子なり。百姓吏民は、亦、陛下の子なり。今、彼を奪うて以て此に與ふるは、亦、以て兄の妻を奪うて弟に妻すに異なる無きなり。父母の恩に於て【三】偏なり。又、詔書に、生口の年紀顔色の妻と相當る者を以て自ら代ふるを得しむ。故に富者は則ち家を傾け産を盡し、貧者は【四】舉假貸貫し、貴く生口を買ひ、以て其の妻を贖ふ。縣官は、士に配するを以て名と爲し、而して實は之を掖庭に内れ、其の醜惡なるをば、乃ち出して將士に與ふ。婦を得る者は、未だ必ずしも喜ばず、而して妻を失ふ者は必ず憂有り、或は窮し或は愁へ、皆、志を得ず。夫れ君として天下を有ち、而も萬姓の懽心を得ざる者は、危殆ならざる鮮し。且つ軍師、外に在ること、數十萬人、一日の費、徒に千金のみに非ず、天下の賦を擧げて、以て此の役に奉ずとも、猶ほ將に給らざらんとす。況んや復た掖庭の【五】非員無録の女・椒房の母后の家有り、賞賜横しまに與へ、内外交、引き、【六】其の費、軍に半するをや。昔、漢の武帝、【七】地を掘りて海と爲し、【八】土を封じて山と爲す。頼に是の時、天下、一たり、敢て與に争ふ者莫かりしのみ。衰亂より以來、四五十載、馬は鞍を捨てず、士は甲を釋かず、疆寇、疆に在り、魏室を危くせんと圖る。陛下、戰戰業業として、節約を崇ぶを念はずして、乃ち奢靡を是れ務め、中尙方

【三】 偏。偏頗なり。
 【四】 舉假貸貫。金品を借るる也。
 【五】 非員は員數の外に出でたる者をいふ。無録は宮中の録籍に其の名無き者をいふ。
 【六】 其の費云云。其の費用、軍に給する費の半に達するをいふ。
 【七】 地云云。昆明池を開きしをいふ。
 【八】 土云云。三神山・漸臺を作りしをいふ。

は玩弄の物を作り、後園には承露の盤を建つ。斯れ誠に耳目の觀を快くせん。然れども亦、以て寇讎の心を驕せしむるに足る。惜しいかな、堯舜の節儉を捨てて、漢の武帝の侈事を爲すや。臣竊に陛下の爲めに取らざるなり」と。帝聽かず。高堂隆、病篤く、【一】口占して上疏して曰はく、「曾子、言へる有り、曰はく、「人の將に死せんとするとき、其の言ふや善し」と。臣、病に寝ね、増す有れども損する無し。常に恐らくは奄忽として、忠欵昭かならざらんことを。臣が丹誠、願はくは陛下、少しく省覽を垂れよ。臣、三代の天下を有てるを觀るに、聖賢相承け、數百載を歴、尺土も其の有に非ざるは莫く、一民も其の臣に非ざるは莫し。然るに【二】癸・辛の徒、心を縦にし欲を極むるや、皇天震怒し、宗國、墟と爲り、【三】紂は白旗に梟せられ、【四】桀は鳴條に放たれ、天子の尊は、湯・武、之を有つ。豈に伊は異人ならんや、皆、明王の【五】胄なり。【六】黃初の際、天、其の戒を兆し、異類の鳥、燕の巢に育長し、口爪曾赤し。此れ魏室の大異なり。宜しく鷹揚の臣を蕭牆の内に防ぐべし。諸王を選びて國に君とし兵を典り。【七】往往に基峙し、皇畿を鎮撫し、帝室を翼亮せしむ可し。夫れ皇天は親

【一】 口占。病篤くして、自ら書する能はず、故に口述して人をしてこれを書せしむるなり。
 【二】 曾子云云。論語泰伯篇に見ゆ。
 【三】 忠欵。忠誠なり。
 【四】 癸辛。桀と紂。
 【五】 紂云云。武王、紂の首を斬り、これを太白の旗に懸く。
 【六】 桀云云。商湯、桀を鳴條に放ち、遂にこれを南巢に放つ。
 【七】 胄。後裔なり。
 【八】 黃初云云。黃初元年、未央宮の中に、燕有り鷹を生み、口爪俱に赤し。
 【九】 鷹揚の臣。蓋し司馬氏を指すならんか。
 【十】 往往云云。碁石の如く諸處に據らしむる也。

無し。惟だ徳を是れ輔く。民、徳政を詠すれば、則ち期を延べ歴を過ごし、下、怨歎する有れば、則ち録を輟め能に授く。此に由りて之を觀れば、天下は乃ち天下の天下にして、獨り陛下の天下に非ざるなり」と。帝、手詔して、深く之を慰勞す。未だ幾くならずして卒す。

陳壽・評して曰はく、高堂隆は、學業脩明にして、志、君を匡すに存し、變に因りて戒を陳ぶること、懇誠より發す。忠なるかな。必ず正朔を改め、魏をして虞を祖とせしむるに至るに及びては、謂はゆる

其の通に過ぐる者か。

帝深く浮華の士を疾み、吏部尚書盧毓に詔して曰はく、「選舉するに、名有るを取ら莫かれ。名は、地に畫きて餅を作るが如く、啖ふ可からざるなり」と。毓對へて曰はく、「名は以て異人を致すに足らず、而れども以て常士を得可し。常士は教を畏れ善を慕ひ、然る後名有り。(名)當に疾むべき所に非ざるなり。愚臣、既に、以て異人を知るに足らず、又、主者、正に、名に循ひ常を案するを以て職と爲す。但だ當に以て其の後を驗する有るべきのみ。古は、敷き奏むるに言を以てし、明かに試みるに功を以てす。今は考績の法廢れて、毀譽を以て相進退す。故に眞僞渾雜し、虛實相蒙す」

- 【六八】 錄。皇天の圖録。天命をいふ。
- 【六九】 意其の通に過ぐ。意料の説を執ること甚だ堅く、反つて其の學の通習する所に過ぐるをいふ。
- 【七〇】 古云云。唐虞の治を言ふ也。
- 【七一】 説略。考課の大略を説く也。
- 【七二】 周官の考課。周の家宰、百官を總べ、歲終に、百官府をして各、其の治を正し、其の會を受け、其の事を致すを聽かしめ、而して王に詔げて廢置す。三歲にして、羣吏の治を大計して、これを誅賞す。其の詳細は周禮に見ゆ。
- 【七三】 狼。積む也。

と。帝、其の言を納れ、散騎常侍劉邵に詔して、考課の法を作らしむ。邵、都官考課の法七十二條を作り、又、説略一篇を作る。詔して、百官に下して議せしむ。司隸校尉崔林曰はく、「案するに、周官の考課は、其の文備はれり。(而)康王より以下、遂に以て陵夷せり。此れ即ち考課の法は、其の人に存すればなり。漢の季に及びて、其の失、豈に佐吏の職の密ならざるに在らんや。方今、軍旅、或は、狼に或は卒にして、増減すること常無く、固に、一にし難し。且つ、萬目張らざれば其の綱を擧げ、衆毛整はざれば其の領を振ふ。阜陶、虞に仕へ、伊尹、殷に臣として、不仁者遠ざかる。若し大臣、能く其の職に任へ、是の百辟に式せば、則ち孰か敢て肅まざらん。烏んぞ考課に在らんや」と。黃門侍郎杜恕曰はく、「明かに試みるに功を以てし、三載に績を考するは、誠に帝王の盛制なり。然れども、六代を歴て、考績の法著はれず、七聖を關りて、課試の文垂れず。臣誠に以爲ふに、其の法は粗ば依る可く、其の詳は備に擧げ難きが故なり。語に曰はく、「世に、亂人有りて、亂法無し」と。若し法をして専ら任す可からしめば、則ち唐虞は稷・契の佐を須たざる可く、殷・周は伊・呂の輔を貴ぶ無からん。今、考功を奏す

- 【七四】 萬目云云。綱を以て譬と爲す也。
- 【七五】 衆毛云云。裘を以て譬と爲す也。
- 【七六】 虞。舜なり。
- 【七七】 是の百辟に式す。辟は君なり。法度を是の百君に施す。詩の大雅蒸民に曰はく、王、仲山甫に命じ、是の百辟に式すと。
- 【七八】 六代。唐、虞、夏、殷、周、漢。
- 【七九】 七聖。堯、舜、禹、湯、文、武、周公。
- 【八〇】 關。通る也。
- 【八一】 亂人。世を治むる人。
- 【八二】 亂法。世を治むる法。

る者、周漢の云爲を陳べ、京房の本旨を綴る。課を爲すの要を明かにすと謂ふ可し。(然レ)於に以て揖讓の風を崇め、濟濟の治を興すには、臣以爲ふに未だ善を盡さざるなり。其の州郡をして士を考するに必ず、四科に由らしめんと欲し、皆、事効有り、然る後察舉し、試に公府に辟し、民に親しむ長吏と爲し、轉じて功次を以て郡守に補する者は、或は就きて秩を増し爵を賜ふは、此れ最も考課の急務なり。臣以爲ふに、便ち當に其の身を顯はし、其の言を用ひ、具に州郡を課するの法を爲らしめ、法具に施行ひ、必信の賞を立て、必行の罰を施すべし。公卿及び内職の大臣に至るまで、亦、當に俱に其の職を以て之を考課すべし。古の三公は、坐して道を論じ、内職の大臣は、言を納れ闕を補ひ、善として紀せざる無く、過として擧げざる無し。且つ天下は至つて大に、萬機は至つて衆く、誠に一明の能く徧く照らす所に非ず。故に、君を元首と爲し、臣を股肱と作すとは、其の一體にして相須ちて成るを明かにするなり。是を以て、古人稱す、「廊廟の材は、一木の支に非ず。帝王の業は、一士の略に非ず」と。是に由つて之を言へば、焉んぞ大臣・職を守り課を辦じ、以て雍熙を致す可き者有らんや。誠に

- 【八三】 云爲。魏志杜恕傳には法爲に作る。
- 【八四】 京房。漢の京房に、功を考し吏を課するの法有り。
- 【八五】 四科。即ち漢の左雄の上る所、黃瓊の増す所の者なり。五十二卷順帝漢安二年に見ゆ。孝廉・茂材・孝悌及び能く政に従ふ者の四科をいふ。
- 【八六】 内職大臣。朝廷に在る大臣。
- 【八七】 坐して道を論ず。周官考工記に曰はく、坐して道を論ずる、これを三公と謂ふと。
- 【八八】 支。魏志杜恕傳には枝に作る。「廊廟の材」云々の四句は、もと慎子に出で、班固引用して婁敬・叔孫通を贊す。
- 【八九】 雍熙。天下の泰平なるをいふ。

(大臣)身を容れ位を保ち、放退せらるるの辜無く、而して節を盡して公に在り、疑はるるの教を抱き、公義脩まらずして、私議、俗を成さしめば、仲尼、課を爲すと雖も、猶ほ一才を盡す能はじ。又況んや世俗の人に於てをや」と。司空の掾北地の傅嘏曰はく、「夫れ官を建て職を均しくし、民物を清理するは、本を立つる所以なり。名に循ひ實を責め、成規を糾勵するは、末を治むる所以なり。本綱未だ擧らずして、末程を造制し、國略崇からずして、考課を是れ先にするは、懼らくは以て賢愚の分を料り・幽明の理を精しくするに足らざらん」と。議、之を久しうて決せず、事竟に・行はれず。

- 【九〇】 末程は末節なり。國略は國の大計をいふ。
- 【九一】 焯然。明かなる貌。

臣光曰はく、治を爲すの要は、人を用ふるよりも先なるは莫し。而して人を知るの道は、聖賢も難しとする所なり。是の故に、之を毀譽に求むれば、則ち愛憎競ひ進みて、善惡渾殺す。之を功狀に考ふれば、則ち巧詐横しまに生じて、眞偽相冒す。之を要するに、其の本は、至公至明に在るのみ。人の上たる者、至公至明なれば、則ち羣下の能否、焯然として目中に形はれ、復た逃るる所無し。苟くも不公不明を爲せば、則ち考課の法は、適、曲私欺罔の資と爲すに足るなり。何を以てか之を言ふ。公明なる者は心なり、功狀なる者は迹なり。己の心、治むる能はずして、而して以て人の迹を考ふるは、亦難からずや。人の上たる者、誠に能く親疎貴賤を以て其の心を異にし・喜怒好惡をもて其の心を亂さざるときは、經を治むるの士を知らんと欲すれば、

則ち其の記覽(九二)博治にして、講論精通するを視て、斯に善く經を治むと爲し、獄を治むるの士を知らんと欲すれば、則ち其の情偽を曲盡して、冤抑する所無きを視て、斯に善く獄を治むと爲し、財を治むるの士を知らんと欲すれば、則ち其の倉庫盈實し、百姓富給するを視て、斯に善く財を治むと爲し、兵を治むるの士を知らんと欲すれば、則ち其の戰勝攻取し、敵人畏服するを視て、斯に善く兵を治むと爲し、百官に至るまで、皆然らざるは莫し。人に詢謀すと雖も、而も之を決するは己に在り、迹に考求すと雖も、而も之を察するは心に在り。其の實を研覈して、其の宜しきを斟酌するは、至精至微にして、口を以て述ぶ可からず、書を以て傳ふ可からざるなり。安んぞ豫め之が法を爲りて、悉く有司に委ぬるを得んや。

或は親貴なるは、不能なりと雖も而も職に任せられ、疎賤なるは、賢才なりと雖も而も選れられ、喜ぶ所好む所の者は、官を敗れども而も去らず、怒る所惡む所の者は、功有れども而も録せず、人に詢謀すれば、則ち毀譽相半して、決する能はず、其の迹を考求すれば、則ち文具はり實亡びて、察する能はずんば、復た之が善法を爲り、其の條目を繁くし、其の簿書を謹むと雖も、安んぞ能く其の眞を得んや。或は曰はく、人君の治、大なる者は天下、小なる者は國家、内外の官、千萬を以て數ふ。考察黜陟、安んぞ有司に委ねずして獨り其の事に任ずるを得んやと。(答へ)曰はく、其の然るを謂ふに非ざるなり。凡そ人の上たる者は、特に人君のみにあらず、太守は一郡の上に居り、刺

【九二】博治。ひろく、あまれき也。

史は一州の上に居り、九卿は屬官の上に居り、三公は百執事の上に居り、皆、此の道を用ひて、て下に在るの人を考察黜陟し、人君たる者も、亦、此の道を用ひて、以て公卿太守を黜陟せば、奚の煩勞か之れ有らんや。或は曰はく、考績の法は、唐虞の爲る所、京房・劉邵、述べて之を脩めしなり。烏んぞ廢す可けんやと。(答へ)曰はく、唐虞の官は、其の位に居るや久しく、其の任を受くるや専らに、其の法を立つるや寛に、其の成を責むるや遠し。是の故に、(九三)鯀の水を治むるや、九載にして、績用成らず、然る後其の罪を治む。(九四)禹の水を治むるや、九州の同じき所、四隩既に宅し、然る後其の功を賞す。京房・劉邵の法の、其の米鹽の課を校し、其の旦夕の效を責むるが若きに非ざるなり。事、固より、名同じくして實異なる者有り。察せざる可からざるなり。考績は、唐虞に行ふ可くして、漢魏に行ふ可からざるに非ず。京房・劉邵が其の本を得ずして其の末に牽趨するに由るが故なり。

初め右僕射衛臻、選舉を典る。中護軍蔣濟、臻に書を遺りて曰はく、(九五)漢主、亡虜を遇して上將と爲し、周武、(九六)漁父を抜きて太師と爲す。布衣・廝養も、王公に登る可し。何ぞ必ずしも文を

【九三】蘇云云。尙書の堯典に見ゆ。

【九四】其の罪を治む。鯀を羽山に殛せしをいふ。

【九五】禹の云云。尙書の禹貢に見ゆ。

【九六】九州云云。九州の全土皆同様に和平となり、四方の水邊の土地に至るまで、皆、住居に適するに至り、然る後、禹の功を賞して、玄珪を錫ふ。

【九七】漢主。高祖をいふ。

【九八】亡虜。韓信をいふ。

【九九】漁父。呂望を謂ふ。

守り、試みて而る後用ひん」と。臻曰はく、「然らず。子、【一〇〇】牧野を成康に同じくし。斷蛇を文景に喻へんと欲す。【一〇一】不經の擧を好み、拔奇の津を開かば、將に天下をして馳騁して起らしめんとす」と。盧毓、人を論じ、及び選舉するに、皆、性行を先にして、言才を後にす。黃門郎馮翊の李豐、嘗て以て毓に問ふ。毓曰はく、「才は善を爲す所以なり。故に大才は大善を成し、小才は小善を成す。今、之を才有りと稱して、而も善を爲す能はざるは、是れ才、器に中らざるなり」と。豐、其の言に服す。

【一〇〇】 牧野云云。草創の規略は承平の時に用ふ可からざるを謂ふ。
 【一〇一】 不經。常ならざる也。
 【一〇二】 津。わたしば。江河を濟るの要所。故に以て喻と爲す。

國譯資治通鑑第四終

資治通鑑卷第五十六

漢紀四十八

孝桓皇帝下

永康元年春正月東羌先零圍殺禰掠雲陽○當煎諸種復反段熲擊之於鸞鳥大破之西羌遂定○夫餘王夫台寇玄菟玄菟太守公孫域擊破之○夏四月先零羌寇三輔攻沒兩營殺千餘人○五月壬子晦日有食之○陳蕃既免朝臣震栗莫敢復爲黨人言者賈彪曰吾不西行大禍不解乃入雒陽說城門校尉竇武尙書魏郡霍諝等使訟之武上疏曰陛下即位以來未聞善政常侍黃門競行譎詐妄爵非人伏尋西京佞臣執政終喪天下今不慮前事之失復循覆車之軌臣恐二世之難必將復及趙高之變不朝則夕近者姦臣牢脩造設黨議遂收前司隸校尉李膺等逮考連及數百人曠年拘錄事無效驗臣惟膺等建忠抗節志經王室此誠陛下稷卨伊呂之佐而虛爲姦臣賊子之所誣枉天下寒心海內失望惟陛下留神澄省時見理出以厭人鬼喁喁之心今臺閣近臣尙書朱寓荀緄劉祐魏朗劉矩尹勳等皆國之貞士朝之良佐尙書郎張陵嬌皓苑康楊喬邊韶戴恢等文質彬彬明達國典內外之職羣才竝列而陛下委任近習專樹饜飧外典州郡內幹心膂宜以次貶黜案罪糾罰信任忠良平決臧否使邪正毀譽各得其所寶愛天官唯善是授如此咎徵可消天應可待問者有嘉禾芝草黃龍之見夫瑞生必於嘉士福至實由善人在德爲瑞無德爲災陛下所行不合天意不宜稱慶書奏因以病上還城門校尉槐里侯印綬霍諝亦爲表請帝意

稍解使中常侍王甫就獄訊黨人范滂等皆三木囊頭暴於階下甫以次辯詰曰卿等更相拔舉迭爲唇齒其意如何滂曰仲尼之言見善如不及見惡如探湯滂欲使善善同其清惡惡同其汙謂王政之所願聞不悟更以爲黨古之修善自求多福今之修善身陷大戮身死之日願埋滂於首陽山側上不負皇天下不愧夷齊甫愍然爲之改容乃得竝解桎梏李膺等又多引宦官子弟宦官懼請帝以天時宜赦六月庚申赦天下改元黨人二百餘人皆歸田里書名三府禁錮終身范滂往候霍諝諝而不謝或讓之滂曰昔叔向不見祁奚吾何謝焉滂南歸汝南南陽士大夫迎之者車數千兩鄉人殷陶黃穆侍衛於旁應對賓客滂謂陶等曰今子相隨是重吾禍也遂遁還鄉里初詔書下舉鉤黨郡國所奏相連及者多至百數唯平原相史弼獨無所上詔書前後迫切州郡髡笞掾史從事坐傳舍責曰詔書疾惡黨人旨意懇惻青州六郡其五有黨平原何治而得獨無弼曰先王疆理天下畫界分境水土異齊風俗不同它郡自有平原自無胡可相比若承望上司誣陷良善淫刑濫罰以逞非理則平原之人戶可爲黨相有死而已所不能也從事大怒卽收郡僚職送獄遂舉奏弼會黨禁中解弼以俸贖罪所脫者甚衆寶武所薦朱寓沛人苑康勃海人楊喬會稽人邊韶陳留人喬容儀偉麗數上言政事帝愛其才貌欲妻以公主喬固辭不聽遂閉口不食七日而死○秋八月巴郡言黃龍見初郫人欲就池浴見池水濁因戲相恐此中有黃龍語遂行民間太守欲以爲美故上之郡吏傅堅諫曰此走卒戲言耳太守不聽○六州大水勃海溢○冬十月先零羌寇三輔張奐遣司馬尹端董卓拒擊大破之斬其酋豪首虜萬餘人三州清定奐論功當封以不事宦官故不果封唯賜錢二十萬除家一人爲郎奐辭不受請徒屬弘農舊制邊人不得內徙詔以奐有功特許之拜董卓爲郎中卓隴西人性粗猛有謀羌胡畏之○十二月壬申復瘞陶王悝爲勃海王○丁丑帝崩于德陽前殿戊寅尊皇后曰皇太后太后臨

朝初竇后既立御見甚稀唯采女田聖等有寵后素忌忍帝梓宮尙在前殿遂殺田聖城門校尉竇武議立嗣召侍御史河間劉儵問以國中宗室之賢者儵稱解瀆亭侯宏宏者河間孝王之曾孫也祖淑父萇世封解瀆亭侯武乃入白太后定策禁中以儵守光祿大夫與中常侍曹節竝持節將中黃門虎賁羽林千人奉迎宏時年十二

孝靈皇帝上之上

建寧元年春正月壬午以城門校尉竇武爲大將軍前太尉陳蕃爲太傅與武及司徒胡廣參錄尙書事時新遭大喪國嗣未立諸尙書畏懼多託病不朝陳蕃移書責之曰古人立節事亡如存今帝祚未立政事日蹙諸君奈何委荼蓼之苦息偃在牀於義安乎諸尙書惶怖皆起視事○己亥解瀆亭侯至夏門亭使竇武持節以王青蓋車迎入殿中庚子卽皇帝位改元○二月辛酉葬孝桓皇帝于宣陵廟曰威宗○辛未赦天下○初護羌校尉段熲既定西羌而東羌先零等種猶未服度遼將軍皇甫規中郎將張奐招之連年旣降又叛桓帝詔問熲曰先零東羌造惡反逆而皇甫規張奐各擁強衆不時輯定欲令熲移兵東討未識其宜可參思術略熲上言曰臣伏見先零東羌雖數叛逆而降於皇甫規者已二萬許落善惡旣分餘寇無幾今張奐躊躇久不進者當慮外離內合兵往必驚且自冬踐春屯結不散人畜疲羸有自亡之執欲更招降坐制強敵耳臣以爲狼子野心難以恩納執窮雖服兵去復動唯當長矛挾脅白刃加頸耳計東種所餘三萬餘落近居塞內路無險折非有燕齊秦趙從橫之執而久亂并涼累侵三輔西河上郡已各內徙安定北地復至單危自雲中五原西至漢陽二千餘里匈奴諸羌竝擅其地是爲癰疽伏疾留滯脇下如不加誅轉就滋大若以騎五千步萬人車三千兩三冬二夏足以破定無慮用費爲錢五十四億如此則可令羣羌

破盡匈奴長服。內徙郡縣，得反本土。伏計永初中，諸羌反叛，十有四年，用二百四十億。永和之末，復經七年，用八十餘億。費耗若此，猶不誅盡，餘孽復起，于茲作害。今不暫疲民，則永寧無期。臣庶竭駑劣，伏待節度。帝許之，悉聽如所。上頌於是，將兵萬餘人，齎十五日糧，從彭陽直指高平，與先零諸種戰於逢義山。虜兵盛，頌衆皆恐，頌乃令軍中長鏃利刃，長矛三重，挾以強弩，列輕騎爲左右翼，謂將士曰：「今去家數千里，進則事成，走必盡死，努力共功名。」因大呼，衆皆應聲騰赴，馳騎於傍，突而擊之，虜衆大潰，斬首八千餘級。太后賜詔書，褒美曰：「須東羌盡定，當并錄功勤。」今且賜頌錢二十萬，以家一人爲郎中，敕中藏府調金錢綵物，增助軍費。拜頌破羌將軍。○閏月甲午，追尊皇祖爲孝元皇，夫人夏氏爲孝元后，考爲孝仁皇，尊帝母董氏爲愼園貴人。○夏四月戊辰，太尉周景薨，司空宣鄩免，以長樂衛尉王暢爲司空。○五月丁未朔，日有食之。○以太中大夫劉矩爲太尉。○六月，京師大水。○癸巳，錄定策功，封竇武爲開喜侯，武子機爲渭陽侯，兄子紹爲鄠侯，靖爲西鄉侯，中常侍曹節爲長安鄉侯。侯者凡十一人。涿郡盧植上書說武曰：「足下之於漢朝，猶且夷之在周室，建立聖主，四海有繫，論者以爲吾子之功於斯爲重。今同宗相後，披圖案牒，以次建之，何勳之有，豈可橫叨天功，以爲己力乎？宜辭大賞，以全身名。」武不能用。植身長八尺二寸，音聲如鍾，性剛毅，有大節，少事馬融，融性豪侈，多列女，倡歌舞於前，植侍講積年，未嘗轉眄，融以是敬之。太后以陳蕃舊德，特封高陽鄉侯，蕃上疏讓曰：「臣聞割地之封，功德是爲，臣雖無素潔之行，竊慕君子不以其道得之不居也。若受爵不讓，掩面就之，使皇天震怒，災流下民，於臣之身，亦何所寄？太后不許，蕃固讓，章前後十上，竟不受封。」○段熲將輕兵追羌出橋門，晨夜兼行，與戰於奢延澤，落川，令鮮水上，連破之。又戰於靈武谷，羌遂大敗。秋七月，頌至涇陽，餘寇四千落，悉散入漢陽山谷間，護匈奴中郎將張奐上言：「東羌雖破，餘種難盡，段熲性輕果，慮負敗難常，宜且以恩

降，可無後悔。」詔書下頌，頌復上言：「臣本知東羌雖衆，而輒弱易制，所以比陳愚慮，思爲永寧之算。而中郎將張奐說虜強難破，宜用招降，聖朝明鑒，信納瞽言，故臣謀得行，奐計不用，事勢相反，遂懷猜恨，信叛羌之訴，飾潤辭意，云臣兵累見折衄，又言羌一氣所生，不可誅盡，山谷廣大，不可空靜，血流污野，傷和致災，臣伏念周秦之際，戎狄爲害，中興以來，羌寇最盛，誅之不盡，雖降復叛，今先零雜種，累以反覆，攻沒縣邑，剽略人物，發冢露尸，禍及生死，上天震怒，假手行誅，昔邢爲無道，衛國伐之，師興而雨，臣動兵涉夏，連獲甘澗，歲時豐稔，人無疵疫，上占天心，不爲災傷，下察人事，衆和師克，自橋門以西，落川以東，故宮縣邑，更相通屬，非爲深險絕域之地，車騎安行，無應折衄，案奐爲漢吏，身當武職，駐軍二年，不能平寇，虛欲修文戢戈，招降獷敵，誕辭空說，僭而無徵，何以言之？昔先零作寇，趙充國徙令居內，煎當亂邊，馬援遷之三輔，始服終叛，至今爲梗，故遠識之士，以爲深憂，今傍郡戶口單少，數爲羌所創毒，而欲令降徒與之雜居，是猶種枳棘於良田，養蛇虺於室內也。故臣奉大漢之威，建長久之策，欲絕其本根，不使能殖，本規三歲之費，用五十四億，今適暮年，所耗未半，而餘寇殘燼，將向殄滅，臣每奉詔書，軍不內御，願卒斯言，一以任臣，臨時量宜，不失權便。」○八月，司空王暢免，宗正劉寵爲司空。○初，竇太后之立也，陳蕃有力焉，及臨朝，政無大小，皆委於蕃，蕃與竇武同心勦力，以獎王室，徵天下名賢，李膺、杜密、尹勳、劉瑜等皆列於朝廷，與共參政事。於是天下之士莫不延頸想望，太平而帝乳母趙嬈及諸女尚書，旦夕在太后側，中常侍曹節、王甫等共相朋結，諂事太后，太后信之，數出詔命，有所封拜，蕃武疾之，嘗共會朝堂，蕃私謂武曰：「曹節、王甫等自先帝時操弄國權，濁亂海內，今不誅之，後必難圖。」武深然之，蕃大喜，以手推席而起，武於是引同志尚書令尹勳等共定計策，會有日食之變，蕃謂武曰：「昔蕭望之因一石顯，況今石顯數十輩乎？蕃以八十之年，欲爲將軍除害，今可因日食斥罷宦官，以塞天

變。武乃白太后曰：「故事，黃門常侍，但當給事省內門戶，主近署財物耳。今乃使與政事，任重權。子弟布列，專爲貪暴。天下匈匈，正以此故。」宜悉誅廢，以清朝廷。太后曰：「漢元以來故事，世有宦官，但當誅其有罪者，豈可盡廢邪？」時中常侍管霸，頗有才略，專制省內。武先白收霸，及中常侍蘇康等，皆坐死。武復數白誅曹節等。太后尤豫未忍。故事，久不發，蕃上疏曰：「今京師蹶蹶，道路諠譁，言侯覽、曹節、公乘、王甫、鄭珣等，與趙夫人諸尚書，竝亂天下。附從者升進，忤逆者中傷，一朝羣臣，如河中木耳。汎汎東西，耽祿畏害。陛下今不急誅，此曹必生變亂，傾危社稷，其禍難量。」願出臣章，宣示左右，并令天下諸姦，知臣疾之。太后不納。是月，太白犯房之上，將入太微。侍中劉瑜，素善天官，惡之。上書皇太后曰：「案占書，宮門當閉，將相不利。姦人在主榜，願急防之。又與武蕃書，以星辰錯繆，不利大臣。宜速斷大計。於是武蕃以朱寓爲司隸校尉，劉祐爲河南尹，虞祁爲雒陽令。武奏免黃門令魏彪，以所親小黃門山水代之。使水奏收長樂尚書鄭珣，送北寺獄。蕃謂武曰：「此曹子，便當收殺。何復考爲？」武不從。令水與尹勳、侍御史祝瑨雜考，珣辭連及曹節、王甫、勳、水，即奏收節等。使劉瑜內奏。九月辛亥，武出宿歸府。典中書者，先以告長樂五官史朱瑀、瑀盜發武奏，罵曰：「中官放縱者，自可誅耳。我曹何罪，而當盡見族滅？」因大呼曰：「陳蕃、竇武，奏白太后廢帝爲大逆，乃夜召素所親壯健者，長樂從官史共普、張亮等十七人，唾血共盟，謀誅武等。」曹節白帝曰：「外間切切，請出御德陽前殿，令帝拔劍踴躍，使乳母趙嬈等擁衛左右，取棨信，閉諸禁門，召尚書官屬，脅以白刃，使作詔板。」拜王甫爲黃門令，持節至北寺獄，收尹勳、山水，冰疑不受詔。甫格殺之，并殺勳。出鄭珣，還兵劫太后，奪璽綬，令中謁者守南宮，閉門絕複道，使鄭珣等持節及侍御史謁者捕收武等。武不受詔，馳入步兵營，與其兄子步兵校尉紹共射殺使者，召會北軍五校士數千人屯都亭。下令軍士曰：「黃門常侍反，盡力者封侯，重賞。陳蕃聞難，將官屬諸生八十餘人，竝拔刃突入。」

承明門，到尚書門，攘臂呼曰：「大將軍，忠以衛國，黃門反逆，何云竇氏不道邪？」王甫時出，與蕃相遇，適聞其言，而讓蕃曰：「先帝新棄天下，山陵未成，武有何功，兄弟父子，竝封三侯，又設樂飲讌，多取掖庭宮人，旬日之間，貲財巨萬，大臣若此，爲是道邪？」公爲宰輔，苟相阿黨，復何求賊？使劍士收蕃，蕃拔劍叱甫，辭色逾厲，遂執蕃，送北寺獄。黃門從官騶、蹋、蹶、蕃曰：「死老魅，復能損我曹員數，奪我曹稟假，不即日殺之，時護匈奴中郎將張奐，徵還京師，曹節等以奐新至，不知本謀，矯制以少府周靖行車騎將軍，加節與奐率五營士討武。夜漏盡，王甫將虎賁羽林等，合千餘人，出屯朱雀掖門，與奐等合，已而悉軍闕下，與武對陳。甫兵漸盛，使其士大呼武軍曰：「竇武反，汝皆禁兵，當宿衛宮省，何故隨反者乎？」先降有賞，營府兵素畏服，中官於是武軍稍稍歸。甫自旦至食時，兵降略盡。武紹走，諸軍追圍之，皆自殺。梟首雒陽都亭。收捕宗親賓客姻屬，悉誅之。及侍中劉瑜，屯騎校尉馮述，皆夷其族。宦官又譖虎賁中郎將河間劉淑，故尚書會稽魏朗云：「與武等通謀，皆自殺。」遷皇太后於南宮，徙武家屬於日南。自公卿以下，嘗爲蕃武所舉者，及門生故吏，皆免官禁錮。議郎勃、海、巴、肅，始與武等同謀。曹節等不知，但坐禁錮。後乃知而收之，肅自載詣縣，縣令見肅入，閣解印綬，欲與俱去。肅曰：「爲人臣者，有謀不敢隱，有罪不逃刑，既不隱其謀矣，又敢逃其刑乎？」遂被誅。曹節遷長樂衛尉，封育陽侯。王甫遷中常侍，黃門令如故。朱瑀、共普、張亮等六人，皆爲列侯。十一人爲關內侯。於是羣小得志，士大夫皆喪氣。蕃友人陳留朱震，收葬蕃尸，匿其子逸，事覺繫獄。合門桎梏，震受考掠，誓死不言。逸由是得免。武府掾桂陽胡騰，殮斂武尸，行喪，坐以禁錮。武孫輔，年二歲，騰詐以爲己子，與令史南陽張敞共匿之於零陵界中，亦得免。張奐遷大司農，以功封侯。奐深病爲曹節等所賣，固辭不受。○以司徒胡廣爲太傅，錄尚書事。司空劉寵爲司徒，大鴻臚許栩爲司空。○冬十月甲辰晦，日有食之。○十一月，太尉劉矩免，以太僕沛國聞人襲爲太尉。○

十二月，鮮卑及濊貊寇幽并二州。○是歲，疏勒王季父和得殺其王自立。○烏桓大人上谷難樓有衆九千餘落，遼西丘力居有衆五千餘落，自稱王。遼東蘇僕延有衆千餘落，自稱峭王。右北平烏延有衆八百餘落，自稱汗魯王。

二年春正月丁丑，赦天下。○帝迎董貴人於河間。三月乙巳，尊爲孝仁皇后，居永樂宮。拜其兄寵爲執金吾，兄子重爲五官中郎將。○夏四月壬辰，有青蛇見於御坐上。癸巳，大風，雨雹，霹靂，拔大木百餘。詔公卿以下各上封事，大司農張奐上疏曰：昔周公葬不如禮，天乃動威。今竇武陳蕃忠貞未被明有妖眚之來，皆爲此也。宜急爲收葬，徙還家屬，其從坐禁錮一切蠲除。又皇太后雖居南宮，而恩禮不接，朝臣莫言，遠近失望。宜思大義，願復之報。上深嘉奐言，以問諸常侍，左右皆惡之，帝不得自從。奐又與尚書劉猛等共薦王暢、李膺，可參三公之選。曹節等彌疾其言，遂下詔切責之。奐等皆自囚，廷尉數日乃得出。竝以三月俸贖罪。郎中東郡謝弼上封事曰：臣聞惟虺惟蛇，女子之祥。伏惟皇太后定策宮闈，撥立聖明，書曰：父子兄弟，罪不相及。竇氏之誅，豈宜咎延太后幽隔空宮，愁感天心。如有霧露之疾，陛下當何面目以見天下孝和皇帝，不絕竇氏之恩。前世以爲美談，禮爲人後者爲之子。今以桓帝爲父，豈得不以太后爲母哉。願陛下仰慕有虞蒸蒸之化，凱風慰母之念。臣又聞開國承家，小人勿用。今功臣久外，未蒙爵秩，阿母寵私，乃享大封。大風雨雹，亦由於茲。又故太傅陳蕃勤身王室，而見陷羣邪，一旦誅滅，其爲酷濫，駭動天下。而門生故吏，竝離徒錮，蕃身已往，人百何贖。宜還其家屬，解除禁錮。夫台宰重器，國命所繫，今之四公，唯司空劉寵，斷斷守善，餘皆素餐致寇之人，必有折足覆餗之凶。可因災異，竝加罷黜，徵故司空王暢，長樂少府李膺，竝居政事。庶災變可消，國祚惟永。左右惡其言，出爲廣陵府丞。去官歸家。曹節從子紹爲東郡太守，以它罪收，斃於獄。帝以蛇妖問光祿勳楊賜，賜上封事曰：夫善不妄來，災不空發。王

者心有所想，雖未形顏色，而五星以之推移，陰陽爲其變度。夫皇極不建，則有龍蛇之孽。詩云：惟虺惟蛇，女子之祥。惟陛下思乾剛之道，別內外之宜，抑皇甫之權，割艷妻之愛，則蛇變可消。禎祥立應，賜秉之子也。○五月，太尉聞人襲司空許栩免。六月，以司徒劉寵爲太尉。太常汝南許訓爲司徒。太僕長沙劉駟爲司空。駟素附諸常侍，故致位公輔。○詔遣謁者馮禪說降漢陽散羌段熲，以春農百姓布野，羌雖暫降，而縣官無廩，必當復爲盜賊。不如乘虛放兵，執必殄滅。熲於是自進營，去羌所屯凡亭山四五十里，遣騎司馬田晏假司馬夏育將五千，先進擊破之。羌衆潰，東奔復聚射虎谷，分兵守谷上下門。熲規一舉滅之，不欲復令散走。秋七月，熲遣千人於西縣，結木爲柵，廣二十步，長四十里，遮之。分遣晏育等將七千人，銜枚夜上西山，結營穿壘，去虜一里許。又遣司馬張愷等將三千人，上東山，虜乃覺之。熲因與愷等挾東西山縱兵奮擊破之，追至谷上下門，窮山深谷之中，處處破之，斬其渠帥以下萬九千級。馮禪等所招降四千人，分置安定、漢陽、隴西三郡。於是東羌悉平。熲凡百八十戰，斬三萬八千餘級，獲雜畜四十二萬七千餘頭，費用四十四億。軍士死者四百餘人，更封新豐縣侯，邑萬戶。

臣光曰：書稱天地萬物父母，惟人萬物之靈。亶聰明作元后，元后作民父母。夫蠻夷戎狄，氣類雖殊，其就利避害，樂生惡死，亦與人同耳。御之得其道，則附順服從，失其道，則離叛侵擾，固其宜也。是以先王之政，叛則討之，服則懷之，處之四裔，不使亂禮義之邦而已。若乃視之如草木禽獸，不分臧否，不辨去來，悉艾殺之，豈作民父母之意哉。且夫羌之所以叛者，爲郡縣所侵冤故也。叛而不卽誅者，將帥非其人故也。苟使良將驅而出之，塞外擇良吏而牧之，則疆場之臣也，豈得專以多殺爲快邪。夫御之不得其道，雖華夏之民亦將盪起而爲寇，又可盡誅邪。然則段記明之爲將，雖克捷有功，君子所不與也。

九月江夏蠻反。州郡討平之。○丹楊山越圍太守陳黃。黃擊破之。○初李膺等雖廢錮。天下士大夫皆高尚其道。而汙穢朝廷。希之者唯恐不及。更共相標榜。爲之稱號。以竇武。陳蕃。劉淑。爲三君。君者。言一世之所宗也。李膺。荀翌。杜密。王暢。劉祐。魏朗。趙典。朱寓。爲八俊。俊者。言人之英也。郭泰。范滂。尹勳。巴肅。及南陽宗慈。陳留夏馥。汝南蔡衍。泰山羊陟。爲八顧。顧者。言能以德行引人者也。張儉。翟超。岑暉。苑康。及山陽劉表。汝南陳翔。魯國孔昱。山陽檀敷。爲八及。及者。言其能導人追宗者也。度尙。及東平張逸。王孝。東郡劉儒。泰山胡毋班。陳留秦周。魯國蕃嚮。東萊王章。爲八廚。廚者。言能以財救人者也。及陳寶。用事。復舉拔膺等。陳寶。誅膺等。復廢。宦官疾惡膺等。每下詔書。輒申黨人之禁。侯覽怨張儉。尤甚。覽鄉人朱竝。素佞邪。爲儉所棄。承覽意指。上書告儉。與同鄉二十四人。別相署號。共爲部黨。圖危社稷。而儉爲之魁。詔刊章捕儉等。冬十月。大長秋曹節。因此諷有司奏。諸鉤黨者。故司空虞放。及李膺。杜密。朱寓。荀翌。翟超。劉儒。范滂等。請下州郡考治。是時。上年十四。問節等曰。何以爲鉤黨。對曰。鉤黨者。卽黨人也。上曰。黨人何用爲惡。而欲誅之邪。對曰。皆相舉羣輩。欲爲不軌。上曰。不軌欲如何。對曰。欲圖社稷。上乃可其奏。或謂李膺曰。可去矣。對曰。事不辭難。罪不逃刑。臣之節也。吾年已六十。死生有命。去將安之。乃詣詔獄。考死。門生故吏。竝被禁錮。侍御史蜀郡景毅子願。爲膺門徒。未有錄牒。不及於譴。毅慨然曰。本謂膺賢。遣子師之。豈可以漏脫名籍。苟安而已。遂自表免歸。汝南督郵吳導。受詔捕范滂。至。征羌。抱詔書。閉傳舍。伏牀而泣。一縣不知所爲。滂聞之曰。必爲我也。卽自詣獄。縣令郭揖。大驚。出解印綬。引與俱亡。曰。天下大矣。子何爲在此。滂曰。滂死則禍塞。何敢以罪累君。又令老母流離乎。其母就與之訣。滂白母曰。仲博孝敬。足以供養。滂從龍舒君。歸黃泉。存亡各得其所。惟大人割不可忍之恩。勿增感戚。仲博者。滂弟也。龍舒君者。滂父龍舒侯相顯也。母曰。汝今得與李杜齊名。死亦何恨。既有令名。復求壽考。

可兼得乎。滂跪受教。再拜而辭。顧其子曰。吾欲使汝爲惡。惡不可爲。使汝爲善。則我不爲惡。行路聞之。莫不流涕。凡黨人死者百餘人。妻子皆徙邊。天下豪桀。及儒學有行義者。宦官一切指爲黨人。有怨隙者。因相陷害。匪眦之忿。濫入黨中。州郡承旨。或有未嘗交關。亦離禍毒。其死徙廢禁者。又六七百人。郭泰聞黨人之死。私爲之慟。曰。詩云。人之云亡。邦國殄瘁。漢室滅矣。但未知瞻烏爰止。于誰之屋耳。泰雖好臧否人倫。而不爲危言。覈論。故能處濁世。而怨禍不及焉。張儉。亡命困迫。望門投止。莫不重其名行。破家相容。後流轉東萊。止李篤家。外黃令毛欽。操兵到門。篤引欽就席。曰。張儉負罪亡命。篤豈得藏之。若審在此。此人名士。明廷宜執之乎。欽因起。撫篤曰。遵伯玉。恥獨爲君子。足下如何專取仁義。篤曰。今欲分之。明廷載半去矣。欽歎息而去。篤導儉。經北海。戲子然家。遂入漁陽。出塞。其所經歷。伏重誅者。以十數。連引收考者。布徧天下。宗親竝皆殄滅。郡縣爲之殘破。儉與魯國孔褒。有舊。亡抵褒。不遇。褒弟融。年十六。匿之。後事泄。儉得亡。走國相收。褒融送獄。未知所坐。融曰。保納舍藏者。融也。當坐。褒曰。彼來求我。非弟之過。更問其母。母曰。家事任長。妾當其辜。一門爭死。郡縣疑不能決。乃上讞之。詔書。竟坐褒。及黨禁解。儉乃還鄉里。後爲衛尉。卒。年八十四。夏馥聞張儉亡命。歎曰。孽自己作。空汗良善。一人逃死。禍及萬家。何以生爲。乃自翦須髮。形入林慮山中。隱姓名。爲治家備。親突煙炭。形貌毀瘁。積二三年。人無知者。馥弟靜。載緘帛。追求餉之。馥不受。曰。弟柰何。載禍相餉乎。黨禁未解而卒。初中常侍張讓父死。歸葬潁川。雖一郡畢至。而名士無往者。讓甚恥之。陳寔獨弔焉。及誅黨人。讓以寔故。多所全宥。南陽何顒。素與陳蕃李膺善。亦被收捕。乃變名姓。匿汝南間。與袁紹爲奔走之交。常私入雒陽。從紹計議。爲諸名士。罹黨事者。求救。援設權計。使得逃隱。所全免甚衆。初太尉袁湯三子。成。逢。隗。成。生。紹。逢。生。術。逢。隗。皆有名稱。少歷顯官。時中常侍袁赦。以逢隗宰相家。與之同姓。推崇以爲外援。故袁氏貴寵於世。

富奢甚。不與它公族同。紹壯健。有威容。愛士。養名賓。客輻湊。歸之。輜駟柴穀。填接街陌。術亦以俠氣聞。逢從兄子閔。少有操行。以耕學爲業。逢隗數餽之。無所受。閔見時方險亂。而家門富盛。常對兄弟歎曰。吾先公福祚。後世不能以德守之。而競爲驕奢。與亂世爭權。此卽晉之三郤矣。及黨事起。閔欲投迹深林。以母老不宜遠遁。乃築土室。四周於庭。不爲戶。自牖納飲食。母思閔。時往就視。母去。便自掩閉。兄弟妻子莫得見也。潛身十八年。卒於土室。初范滂等非許朝政。自公卿以下。皆折節下之。太學生爭慕其風。以爲文學將興。處士復用。申屠蟠獨歎曰。昔戰國之世。處士橫議。列國之王。至爲擁篲。先驅卒有坑儒燒書之禍。今之謂矣。乃絕迹於梁碭之間。因樹爲屋。自同傭人。居二年。滂等果罹黨錮之禍。唯蟠超然。免於評論。臣光曰。天下有道。君子揚于王庭。以正小人之罪。而莫敢不服。天下無道。君子囊括不言。以避小人之禍。而猶或不免。黨人生昏亂之世。不在其位。四海橫流。而欲以口舌救之。臧否人物。激濁揚清。撩虺蛇之頭。踐虎狼之尾。以至身被淫刑。禍及朋友。士類殲滅。而國隨以亡。不亦悲乎。夫唯郭泰。旣明且哲。以保其身。申屠蟠。見幾而作。不俟終日。卓乎其不可及已。

庚子晦。日有食之。○十一月。太尉劉寵免。太僕扶溝郭禧爲太尉。○鮮卑寇并州。○長樂太僕曹節。病困。詔拜車騎將軍。有頃。疾瘳。上印綬。復爲中常侍。位特進。秩中二千石。○高句驪王伯固寇遼東。玄菟太守耿臨討降之。三年春。三月丙寅晦。日有食之。○徵段熲還京師。拜侍中。熲在邊十餘年。未嘗一日葺寢。與將士同甘苦。故皆樂爲死戰。所嚮有功。○夏。四月。太尉郭禧罷。以太中大夫聞人襲爲太尉。○秋七月。司空劉翽罷。八月。以大鴻臚梁國橋玄爲司空。○九月。執金吾董寵坐矯。永樂太后屬請下獄死。○冬。鬱林太守谷永。以恩信招降烏潁人十餘萬。皆內屬。受冠帶。開置七縣。

○涼州刺史扶風孟佗。遣從事任涉。將敦煌兵五百人。與戊己校尉曹寬。西域長史張宴。將焉耆龜茲車師前後部。合三萬餘人。討疏勒。攻楨中城。四十餘日。不能下。引去。其後疏勒王連相殺害朝廷。亦不能復治。初中常侍張讓。有監奴。典任家事。威形誼赫。孟佗資產饒贍。與奴朋結。傾竭饋問。無所遺愛。奴威德之。問其所欲。佗曰。吾望汝曹爲我一拜耳。時賓客求謁讓者。車常數百千兩。佗詣讓。後至。不得進。監奴乃率諸倉頭。迎拜於路。遂共輦車入門。賓客咸驚。謂佗善於讓。皆爭以珍玩賂之。佗分以遺讓。讓大喜。由是以佗爲涼州刺史。四年春。正月甲子。帝加元服。赦天下。唯黨人不赦。○二月癸卯。地震。○三月辛酉朔。日有食之。○太尉聞人襲免。以太僕汝南李咸爲太尉。○大疫。司徒許訓免。以司空橋玄爲司徒。○夏。四月。以太常南陽來豔爲司空。○秋。七月。司空來豔免。○癸丑。立貴人宋氏爲皇后。后執金吾鄴之女也。○司徒橋玄免。以太常南陽宗俱爲司空。前司空許栩爲司徒。○帝以竇太后有援立之功。冬。十月。戊子朔。率羣臣朝太后於南宮。親饋上壽。黃門令董萌因此數爲太后訴冤。帝深納之。供養資奉。有加於前。曹節王甫疾之。誣萌以謗訕永樂宮。下獄死。○鮮卑寇并州。

資治通鑑卷第五十六

漢紀 孝靈皇帝上之上建寧三年——四年

資治通鑑卷第五十七

漢紀四十九

孝靈皇帝上之下

熹平元年春正月車駕上原陵司徒掾陳留蔡邕曰吾聞古不墓祭朝廷有上陵之禮始謂可損今見威儀察其本意乃知孝明皇帝至孝惻隱不易奪也禮有煩而不可省者此之謂也○三月壬戌太傅胡廣薨年八十二廣周流四公三十餘年歷事六帝禮任極優罷免未嘗滿歲輒復升進所辟多天下名士與故吏陳蕃李成並為三司練達故事明解朝章故京師諺曰萬事不理問伯始天下中庸有胡公然溫柔謹愨常遜言恭色以取媚於時無忠直之風天下以此薄之○五月己巳赦天下改元○長樂太僕侯覽坐專權驕奢策收印綬自殺○六月京師大水○竇太后母卒於比景太后憂思感疾癸巳崩於雲臺宦者積怨竇氏以衣車載太后尸置城南市舍數日曹節王甫欲用貴人禮殯帝曰太后親立朕躬統承大業豈宜以貴人終乎於是發喪成禮節等欲別葬太后而以馮貴人配祔詔公卿大會朝堂令中常侍趙忠監議太尉李咸時病扶輿而起擣椒自隨謂妻子曰若皇太后不得配食桓帝吾不生還矣既議坐者數百人各瞻望良久莫肯先言趙忠曰議當時定廷尉陳球曰皇太后以盛德良家母臨天下宜配先帝是無所疑忠笑而言曰陳廷尉宜便操筆球即下議曰皇太后自在椒房有聰明母儀之德遭時不造援立聖明承繼宗廟功烈至重先帝晏駕因遇大獄遷居空宮不幸早世家雖獲罪事非太后今若別葬誠失天下之望且馮貴人家

嘗被發掘骸骨暴露與賊併尸魂靈汙染且無功於國何宜上配至尊忠省球議作色俛仰蚩球曰陳廷尉建此議甚健球曰陳竇既冤皇太后無故幽閉臣常痛心天下憤歎今日言之退而受罪宿昔之願也李咸曰臣本謂宜爾誠與意合於是公卿以下皆從球議曹節王甫猶爭以為梁后家犯惡逆別葬懿陵武帝黜廢衛后而以李夫人配食今竇氏罪深豈得合葬先帝李咸復上疏曰臣伏惟章德竇后虐害恭懷安思閔后家犯惡逆而和帝無異葬之議順朝無貶降之文至於衛后孝武皇帝身所廢棄不可以為比今長樂太后尊號在身親嘗稱制且援立聖明光隆皇祚太后以陛下為子陛下豈得不以太后為母子無黜母臣無貶君宜合葬宜陵一如舊制帝省奏從之○秋七月甲寅葬桓思皇后於宜陵○有人書朱雀闕言天下大亂曹節王甫幽殺太后公卿皆尸祿無忠言者詔司隸校尉劉猛逐捕十日一會猛以誹書言直不肯急捕月餘主名不立猛坐左轉諫議大夫以御史中丞段熲代之熲乃四出逐捕及太學游生繫者千餘人節等又使熲以他事奏猛論輸左校初司隸校尉王寓依倚宦官求薦于太常張奐奐拒之寓遂陷奐以黨罪禁錮奐嘗與段熲爭擊羌不相平熲為司隸欲逐奐歸敦煌而害之奐奏記哀請於熲乃得免初魏郡李嵩為司隸校尉以舊怨殺扶風蘇謙謙子不韋瘞而不葬變姓名結客報怨嵩遷大司農不韋匿于廬中鑿地旁達嵩之寢室殺其妾并小兒嵩大懼以板藉地一夕九徙又掘嵩父冢斷取其頭標之于市嵩求捕不獲憤恚嘔血死不韋遇赦還家乃葬父行喪張奐素睦於蘇氏而段熲與嵩善熲辟不韋為司隸從事不韋懼稱病不詣熲怒使從事張賢就家殺之先以鴆與賢父曰若賢不得不韋便可飲此賢遂收不韋并其一門六十餘人盡誅之○勃海王悝之貶瘞陶也因中常侍王甫求復國許謝錢五千萬既而桓帝遣詔復悝國悝知非甫功不肯還謝錢中常侍鄭颯中黃門董騰數與悝交通甫密司察以告段熲冬十月收颯送北寺獄使尚書

令廉忠誣奏颯等謀迎立悝大逆不道遂詔冀州刺史收悝考實追責悝令自殺妃妾十一人子女七十人伎女二十四人皆死獄中傅相以下悉伏誅甫等十二人皆以功封列侯○十一月會稽妖賊許生起句章自稱陽明皇帝衆以萬數遣揚州刺史臧旻丹陽太守陳寅討之○十二月司徒許栩罷以大鴻臚袁隗爲司徒○鮮卑寇并州○是歲單于車兒死子屠特若尸逐就單于立

二年春正月大疫○丁丑司空宗俱薨○二月壬午赦天下○以光祿勳楊賜爲司空○三月太尉李咸免○夏五月以司隸校尉段熲爲太尉○六月北海地震○秋七月司空楊賜免以太常潁川唐珍爲司空珍衡之弟也○冬十二月太尉段熲罷○鮮卑寇幽并二州○癸酉晦日有食之

三年春二月己巳赦天下○以太常東海陳耽爲太尉○三月中山穆王暢薨無子國除○夏六月封河間王利子康爲濟南王奉孝仁皇祀○吳郡司馬富春孫堅召募精勇得千餘人助州郡討許生冬十一月臧旻陳寅大破生于會稽斬之○任城王博薨無子國絕○十月鮮卑入北地太守夏育率屠各追擊破之遷育爲護烏桓校尉鮮卑又寇并州○司空唐珍罷以永樂少府許訓爲司空

四年春三月詔諸儒正五經文字命議郎蔡邕爲古文篆隸三體書之刻石立于太學門外使後儒晚學咸取正焉碑始立其觀視及摹寫者車乘日千餘兩填塞街陌○初朝議以州郡相黨人情比周乃制婚姻之家及兩州人士不得對相監臨至是復有三互法禁忌轉密選用艱難幽冀二州久缺不補蔡邕上疏曰伏見幽冀舊壤鎧馬所出比年兵饑漸至空耗今者闕職經時吏民延屬而三府選舉踰月不定臣怪問其故云避三互一州有禁當取二州而已又二州之士或復限以歲月狐疑遲淹兩州懸空萬里蕭條無所管繫愚以爲三

互之禁禁之薄者今但申以威靈明其憲令對相部主尙畏懼不敢營私況乃三互何足爲嫌昔韓安國起自徒中朱買臣出於幽賤竝以才宜還守本邦豈復顧循三互繫以未制乎臣願陛下上則先帝獨除近禁其諸州刺史器用可換者無拘日月三互以差厥中朝廷不從

臣光曰叔向有言國將亡必多制明王之政謹擇忠賢而任之凡中外之臣有功則賞有罪則誅無所阿私法制不煩而天下大治所以然者何哉執其本故也及其衰也百官之任不能擇人而禁令益多防閑益密有功者以閔文不賞爲姦者以巧法免誅上下勞擾而天下大亂所以然者何哉逐其末故也孝靈之時刺史二千石貪如豺虎暴殄烝民而朝廷方守三互之禁以今視之豈不不足爲笑而深可爲戒哉

封河間王建孫佗爲任城王○夏四月郡國七大水○五月丁卯赦天下○延陵園災鮮卑寇幽州○六月弘農三輔螟○于窋王安國攻拘彌大破之殺其王戊己校尉西域長史各發兵輔立拘彌侍子定興爲王人衆裁千口

五年夏四月癸亥赦天下○益州郡夷反太守李顥討平之○大雩○五月太尉陳耽罷以司空許訓爲太尉○閏月永昌太守曹鸞上書曰夫黨人者或者年淵德或衣冠英賢皆宜股肱王室左右大猷者也而久被禁錮辱在塗泥謀反大逆尙蒙赦宥黨人何罪獨不開恕乎所以災異屢見水旱洊臻皆由于斯宜加沛然以副天心帝省奏大怒即詔司隸益州檻車收鸞送槐里獄掠殺之於是詔州郡更考黨人門生故吏父子兄弟在位者悉免官禁錮爰及五屬○六月壬戌以太常南陽劉逸爲司空○秋七月太尉許訓罷以光祿勳劉寬爲太尉○冬十月司徒袁隗罷○十一月丙戌以光祿大夫楊賜爲司徒○是歲鮮卑寇幽州六年春正月辛丑赦天下○夏四月大旱七州蝗令三公條奏長吏苛酷貪汚者罷免之平

原相漁陽陽球。坐嚴酷。徵詣廷尉。帝以球前爲九江太守。討賊有功。特赦之。拜議郎。○鮮卑寇三邊。○市賈小民相聚。爲宣陵孝子者數十人。詔皆除太子舍人。○秋七月。司空劉逸免。以衛尉陳球爲司空。○初。帝好文學。自造皇義篇五十章。因引諸生能爲文賦者。並待制鴻都門下。後諸爲尺牘及工書鳥篆者。皆加引召。遂至數十人。侍中祭酒樂松。賈護。多引無行。趣執之。徒置其間。熹陳閭里小事。帝甚悅之。待以不次之位。又久不親行郊廟之禮。會詔羣臣各陳政要。蔡邕上封事曰。夫迎氣五郊。清廟祭祀。養老辟雍。皆帝者之大業。祖宗所祇奉也。而有司數以蕃國疎喪。宮內產生。及吏卒小汙。廢闕不行。忘禮敬之大。任禁忌之書。拘信小故。以虧大典。自今齋制。宜如故典。庶答風靈。災妖之異。又古者取士。必使諸侯歲貢。孝武之世。郡舉孝廉。又有賢良文學之選。於是名臣輩出。文武並興。漢之得人。數路而已。夫書畫辭賦。才之小者。匡國治政。未有其能。陛下即位之初。先涉經術。聽政餘日。觀省篇章。聊以游意。當代博奕。非以爲教化。取士之本。而諸生競利。作者鼎沸。其高者。頗引經訓風喻之言。下則連偶俗語。有類俳優。或竊成文。虛冒名氏。臣每受詔于盛化門。差次錄第。其未及者。亦復隨輩。皆見拜擢。既加之恩。難復收改。但守奉祿于義。已弘。不可復使治民。及在州郡。昔孝宣會諸儒於石渠。章帝集學士於白虎。通經釋義。其事優大。文武之道。所宜從之。若乃小能小善。雖有可觀。孔子以爲致遠則泥。君子固當志其大者。又前一切以宣陵孝子爲太子舍人。臣聞孝文皇帝制喪服三十六日。雖繼體之君。父子至親。公卿列臣。受恩之重。皆屈情從制。不敢踰越。今虛僞小人。本非骨肉。既無幸私之恩。又無祿仕之實。惻隱之心。義無所依。至有姦軌之人。通容其中。桓思皇后祖載之時。東郡有盜人妻者。亡在孝中。本縣追捕。乃伏其辜。虛僞雜穢。難得勝言。太子官屬。宜搜選令德。豈有但取丘墓凶醜之人。其爲不祥。莫與大焉。宜遣歸田里。以明詐僞。書奏。帝乃親迎氣北郊。及行辟雍之禮。又詔宣陵孝子爲舍人者。悉

改爲丞尉焉。○護烏桓校尉夏育。上言鮮卑寇邊。自春以來。三十餘發。請徵幽州諸郡兵。出塞擊之。一冬二春。必能禽滅。先是護羌校尉田晏。坐事論刑。被原欲立功自効。乃請中常侍王甫。求得爲將。甫因此議遣兵。與育并力討賊。帝乃拜晏爲破鮮卑中郎將。大臣多有不同。乃召百官議於朝堂。蔡邕議曰。征討殊類。所由尙矣。然而時有同異。孰有可否。故謀有得失。事有成敗。不可齊也。夫以世宗神武。將帥良猛。財賦充實。所括廣遠。數十年間。官民俱匱。猶有悔焉。況今人財並乏。事劣昔時乎。自匈奴遁逃。鮮卑強盛。據其故地。稱兵十萬。才力勁健。意智益生。加以關塞不嚴。禁網多漏。精金良鐵。皆爲賊有。漢人逋逃。爲之謀主。兵利馬疾。過于匈奴。昔段熲良將。習兵善戰。有事西羌。猶十餘年。今育晏才策。未必過熲。鮮卑種衆。不弱于夏。并力蠻夷。夫邊垂之患。手足之疥搔。中國之困。曾背之癩疽。方今郡縣盜賊。尙不能禁。況此醜虜。而可伏乎。昔高祖忍平城之恥。呂后棄慢書之詬。方之於今。何者爲盛。天設山河。秦築長城。漢起塞垣。所以別內外。異殊俗也。苟無賊國內侮之患。則可矣。豈與蟲螳之虜。校往來之數哉。雖或破之。豈可殄盡。而方令本朝爲之旰食乎。昔淮南王安。諫伐越曰。如使越人蒙死以逆執事。斷輿之卒。有一不備而歸者。雖得越王之首。猶爲大漢羞之。而欲以齊民易醜虜。皇威辱外夷。就如其言。猶已危矣。況乎得失不可量邪。帝不從。八月。遣夏育出高柳。田晏出雲中。匈奴中郎將臧旻。率南單于。出鴈門。各將萬騎。三道出塞。二千餘里。檀石槐命三部大人。各帥衆逆戰。育等大敗。喪其節傳輜重。各將數十騎。奔還。死者什七八。三將檻車徵下獄。贖爲庶人。○冬十月。癸丑朔。日有食之。○太尉劉寬免。○辛丑。京師地震。○十一月。司空陳球免。○十二月甲寅。以太常河南孟穢爲太尉。○庚辰。司徒楊賜免。○以太常陳耽爲司空。○遼西太守甘陵趙苞。到官。遣使迎母及妻子。垂當到郡。道經柳城。值鮮卑萬餘人入

塞寇鈔苞母及妻子遂為所劫質載以擊郡苞率騎二萬與賊對陳賊出母以示苞苞悲號謂母曰為子無狀欲以微祿奉養朝夕不圖為母作禍昔為母子今為王臣義不得顧私恩毀忠節唯當萬死無以塞罪母遙謂曰威豪人各有命何得相顧以虧忠義爾其勉之苞即時進戰賊悉摧破其母妻皆為所害苞自上歸葬帝遣使弔慰封鄒侯苞葬訖謂鄉人曰食祿而避難非忠也殺母以全義非孝也如是有何面目立于天下遂歐血而死

光和元年春正月合浦交趾烏潯蠻反招引九真日南民攻沒郡縣○太尉孟轅罷○二月辛亥朔日有食之○癸丑以光祿勳陳國袁滂為司徒○己未地震○置鴻都門學其諸生皆敕州郡三公舉用辟召或出為刺史太守入為尚書侍中有封侯賜爵者士君子皆恥與為列焉○三月辛丑赦天下改元○以太常常山張顛為太尉顛中常侍奉之弟也○夏四月丙辰地震○侍中寺唯雞化為雄○司空陳耽免以太常來豔為司空○六月丁丑有黑氣愷帝所御溫德殿東庭中長十餘丈似龍○秋七月壬子青虹見玉堂後殿庭中詔召光祿大夫楊賜等詣金商門問以災異及消復之術賜對曰春秋讖曰天投蜺天下怨海內亂加四百之期亦復垂及今妾媵閹尹之徒共專國朝欺罔日月又鴻都門下招會羣小造作賦說見寵於時更相薦說旬月之間竝各拔擢樂松處常伯任芝居納言郗儉梁鵠各受豐爵不次之寵而令搢紳之徒委伏吠晦口誦堯舜之言身蹈絕俗之行棄捐溝壑不見逮及冠履倒易陵谷代處幸賴皇天垂象譴告周書曰天子見怪則修德諸侯見怪則修政卿大夫見怪則修職士庶人見怪則修身唯陛下斥遠佞巧之臣速徵鶴鳴之士斷絕尺一抑止繁游冀上天還威衆變可弭議郎蔡邕對曰臣伏思諸異皆亡國之怪也天於大漢殷勤不已故屢出祲變以當譴責欲令人君感悟改危即安今蜺墮雞化皆婦人干政之所致也前者乳母趙嬈貴重天下譏諛驕溢續以永樂門史霍玉依阻城社又為姦邪今道路紛紛復

云有程大人者察其風聲將為國患宜高為隄防明設禁令深惟趙霍以為至戒今太尉張顛為玉所進光祿勳偉璋有名貪濁又長水校尉趙玳屯騎校尉蓋升竝叨時幸榮富優足宜念小人在位之咎退思引身避賢之福伏見廷尉郭禧純厚老成光祿大夫橋玄聰達方正故太尉劉寵忠實守正竝宜為謀主數見訪問夫宰相大臣君之四體委任責成優劣已分不宜聽納小吏雕琢大臣也又尚方工技之作鴻都篇賦之文可且消息以示惟憂宰府孝廉士之高選近者以辟召不慎切責三公而今竝以小文超取選舉開請託之門違明王之典衆心不厭莫之敢言臣願陛下忍而絕之思惟萬機以答天望聖朝既自約厲左右近臣亦宜從化人自抑損以塞咎戒則天道虧滿鬼神福謙矣夫君臣不密上有漏言之戒下有失身之禍願寢臣表無使盡忠之吏受怨姦仇章奏帝覽而歎息因起更衣曹節於後竊視之悉宣語左右事遂漏露其為邕所裁黜者側目思報初邕與大鴻臚劉郃素不相平叔父衛尉質又與將作大匠陽球有隙球即中常侍程璜女婿也璜遂使人飛章言邕質數以私事請託於郃郃不聽邕含隱切志欲相中於是詔下尚書召邕詰狀邕上書曰臣實愚戇不顧後害陛下不念忠臣直言宜加掩蔽誹謗卒至便用疑怪臣年四十有六孤特一身得託名忠臣死有餘榮恐陛下於此不復聞至言矣於是下邕質於雒陽獄劾以仇怨奉公議害大臣大不敬棄市事奏中常侍河南呂強怒邕無罪力為伸請帝亦更思其章有詔減死一等與家屬髡徙朔方不得以赦令除陽球使客追路刺邕客感其義皆莫為用球又賂其部主使加毒害所賂者反以其情戒邕由是得免○八月有星孛于天市○九月太尉張顛罷以太常陳球為太尉○司空來豔薨○冬十月以屯騎校尉袁逢為司空○宋皇后無寵後宮幸姬衆共譖毀渤海王惲妃宋氏即后之姑也中常侍王甫恐后怨之因譖后挾左道祝詛帝信之遂策收璽綬后自致暴室以憂死父不其鄉侯鄼及兄弟竝被誅○丙子晦

日有食之。尚書盧植上言。凡諸黨錮。多非其罪。可加赦恕。申宥回枉。又宋后家屬。竝以無辜。委骸橫尸。不得斂葬。宜敕收拾。以安遊魂。又郡守刺史。一月數遷。宜依黜陟。以章能否。縱不九載。可滿三歲。又請謁希求。一宜禁塞。選舉之事。責成主者。又天子之體。理無私積。宜弘大務。獨略細微。帝不省。○十一月。太尉陳球免。○十二月。丁巳。以光祿大夫橋玄為太尉。○鮮卑寇酒泉。種衆日多。緣邊莫不被毒。○詔中尚方。為鴻都文學。樂松、江覽等三十二人。圖象立贊。以勸學者。尚書令陽球諫曰。臣案松覽等。皆出於微蔑。斗筭小人。依憑世戚。附託權豪。俛眉承睫。微進明時。或獻賦一篇。或鳥篆盈簡。而位升郎中。形圖丹青。亦有筆不點牘。辭不辨心。假手請字。妖僞百品。莫不蒙被殊恩。蟬蛻滓濁。是以有識掩口。天下嗟歎。臣聞圖象之設。以昭勸戒。欲令人君動鑒得失。未聞豎子小人。詐作文頌。而可妄竊天官。垂象圖素者也。今太學東觀。足以宣明聖化。願罷鴻都之選。以銷天下之謗。書奏不省。○是歲。初開西邸。賣官。入錢各有差。二千石。二千萬。四百石。四百萬。其以德次應選者半之。或三分之一。於西園立庫。以貯之。或詣闕上書。占令長。隨縣好醜。豐約有賈。富者則先入錢。貧者到官然後倍輸。又私令左右賣公卿。公千萬。卿五百萬。初帝為侯時。常苦貧。及即位。每歎桓帝不能作家居。曾無私錢。故賣官聚錢。以為私藏。帝嘗問侍中楊奇曰。朕何如桓帝。對曰。陛下之於桓帝。亦猶虞舜比德唐堯。帝不悅曰。卿強項。真楊震子孫。死後必復致大鳥矣。奇震之曾孫也。○南匈奴屠特若尸逐就單于死。子呼微立。

二年春。大疫。○三月。司徒袁滂免。以大鴻臚劉郃為司徒。○乙丑。太尉橋玄罷。拜太中大夫。以太中大夫段熲為太尉。玄幼子遊門次。為人所劫。登樓求貨。玄不與。司隸校尉河南尹圍守。玄家不敢迫。玄瞋目呼曰。姦人無狀。玄豈以一子之命。而縱國賊乎。促令攻之。玄子亦死。玄因上言。天下凡有劫質。皆并殺之。不得贖以財寶。開張姦路。由是劫質遂絕。○京兆地震。

○司空袁逢罷。以太常張濟為司空。○夏。四月。甲戌朔。日有食之。○王甫、曹節等。姦虐弄權。扇動內外。太尉段熲阿附之。節甫父子弟。為卿校牧守令長者。布滿天下。所在貪暴。甫養子吉。為沛相。尤殘酷。凡殺人。皆磔尸車上。隨其罪目。宣示屬縣。夏。月腐爛。則以繩連其骨。周徧一郡。乃止。見者駭懼。視事五年。凡殺萬餘人。尚書令陽球常拊髀發憤曰。若陽球作司隸。此曹子安得容乎。既而球果遷司隸。甫使門生於京兆界。辜權官財物七千餘萬。京兆尹楊彪發其姦。言之司隸。彪賜之子也。時甫休沐里舍。熲方以日食自劾。球詣闕謝恩。因奏甫。及中常侍淳于登。袁赦。封翊等罪惡。辛巳。悉收甫等。送雒陽獄。及甫子永樂。少府萌。沛相吉。球自臨考。甫等五毒備極。萌先嘗為司隸。乃謂球曰。父子既當伏誅。亦以先後之義。少以楚毒假借。考老父。球曰。爾罪惡無狀。死不滅責。乃欲論先後。求假借邪。萌乃罵曰。爾前奉事吾父子如奴。奴敢反汝主乎。今日臨阬。相擠行自及也。球使以土窒萌口。箠扑交至。父子悉死於杖下。熲亦自殺。乃僵磔甫尸於夏城門。大署榜曰。賊臣王甫。盡沒入其財產。妻子皆徒。比景。球既誅甫。欲以次表曹節等。乃敕中都官從事曰。且先去權貴大猾。乃議其餘耳。公卿豪右。若袁氏兒輩。從事自辦之。何須校尉邪。權門聞之。莫不屏氣。曹節等皆不敢出沐。會順帝虞貴人葬。百官會喪。還曹節見磔甫尸道次。慨然投淚曰。我曹可自相食。何宜使犬舐其汁乎。語諸常侍。今且俱入勿過里舍也。節直入省。白帝曰。陽球故酷暴吏。前三府奏。當免官。以九江微功。復見擢用。愆過之人。好為妄作。不宜使在司隸。以騁毒虐。帝乃徙球為衛尉。時球出謁。陵節敕尚書令召拜。不得稽留。尺一球被召急。因求見帝。曰。臣無清高之行。橫蒙鷹犬之任。前雖誅王甫。段熲。蓋狐狸小醜。未足宣示天下。願假臣一月。必令豺狼鴟梟。各服其辜。叩頭流血。殿上呵叱曰。衛尉扞詔邪。至于再三。乃受拜。於是曹節朱瑀等。權勢復盛。節領尚書令。郎中梁人審忠。上書曰。陛下即位之初。未能萬機。皇太后念在撫育。權時攝政。故中常

侍蘇康管霸。應時誅殄。太傅陳蕃。大將軍竇武。考其黨與。志清朝政。華容侯朱瑀。知事覺露。禍及其身。遂與造逆謀。作亂王室。撞踰省闕。執奪璽綬。迫脅陛下。聚會羣臣。離間骨肉。母子之恩。遂誅蕃武及尹勳等。因共割裂城社。自相封賞。父子兄弟。被蒙尊榮。素所親厚。布在州郡。或登九列。或據三司。不惟祿重位尊之責。而苟營私門。多蓄財貨。繕修第舍。連里竟巷。盜取御水。以作漁釣。車馬服玩。擬於天家。羣公卿士。杜口吞聲。莫敢有言。州牧郡守。承順風旨。辟召選舉。釋賢取愚。故蟲蝗爲之生。夷寇爲之起。天意憤盈。積十餘年。故頻歲日食於上。地震於下。所以譴戒人主。欲令覺悟。誅鉏無狀。昔高宗以雉雉之變。故獲中興之功。近者神祇啓悟。陛下發赫斯之怒。故王甫父子。應時馘截。路人士女。莫不稱善。若除父母之讎。誠怪陛下復忍孽臣之類。不悉殄滅。昔秦信趙高。以危其國。吳使刑臣。身遭其禍。今以不忍之恩。赦夷族之罪。姦謀一成。悔亦何及。臣爲郎十五年。皆耳目聞見。瑀之所爲。誠皇天所不復赦。願陛下留漏刻之聽。裁省臣表。埽滅醜類。以答天怒。與瑀考驗。有不如言。願受湯鑊之誅。妻子并徙。以絕忘言之路。章寢不報。中常侍呂強。清忠奉公。帝以衆例。封爲都鄉侯。強固辭不受。因上疏陳事曰。臣聞高祖重約。非功臣不侯。所以重天爵。明勸戒也。中常侍曹節等。宦官祜薄。品卑人賤。讒諂媚主。佞邪微寵。有趙高之禍。未被輶裂之誅。陛下不悟。妄授茅土。開國承家。小人是用。又并及家人。重金兼紫。交結邪黨。下比羣佞。陰陽乖刺。稼穡荒蕪。人用不康。罔不由茲。臣誠知封事已行。言之無逮。所以冒死干觸。陳愚忠者。實願陛下。損改既謬。從此一止。臣又聞後宮采女。數千餘人。衣食之費。日數百金。比穀雖賤。而戶有饑色。案法當貴。而今更賤者。由賦發繁數。以解縣官。寒不敢衣。飢不敢食。民有斯厄。而莫之卹。宮女無用。填積後庭。天下雖復盡力耕桑。猶不能供。又前召議郎蔡邕。對問於金商門。邕不敢懷道迷國。而切言極對。毀刺貴臣。譏呵宦官。陛下不密其言。至今宣露。羣邪項領。膏唇拭舌。競欲咀嚼。造作

飛條。陛下回受誹謗。致邕刑罪。室家徙放。老幼流離。豈不負忠臣哉。今羣臣皆以邕爲戒。上畏不測之難。下懼劍客之害。臣知朝廷不復得聞忠言矣。故太尉段熲。武勇冠世。習於邊事。垂髮服戎。功成皓首。歷事二主。勳烈獨昭。陛下既已式序。位登台司。而爲司隸校尉。陽球所見。誣脅一身。既斃。而妻子遠播。天下惆悵。功臣失望。宜徵邕。更加授任。反頹家屬。則忠貞路開。衆怨以弭矣。帝知其忠。而不能用。○丁酉。赦天下。○上祿長和海上言禮。從祖兄弟。別居異財。恩義已輕。服屬疎末。而今黨人。錮及五族。既乖典訓之文。有謬經常之法。帝覽之而悟。於是黨錮。自從祖以下。皆得解釋。○五月。以衛尉劉寬爲太尉。○護匈奴中郎將張修。與南單于呼微。不相能。修擅斬之。更立右賢王羌渠爲單于。秋。七月。修坐不先請而擅誅殺。檻車徵詣廷尉死。○初。司徒劉郃。兄侍中儵。與竇武同謀。俱死。永樂少府陳球。說郃曰。公出自宗室。位登台鼎。天下瞻望。社稷鎮衛。豈得雷同。容無違而已。今曹節等。放縱爲害。而久在左右。又公兄侍中。受害節等。今可表徙衛尉陽球。爲司隸校尉。以次收節等。誅之。政出聖主。天下太平。可翹足而待也。郃曰。凶豎多耳目。恐事未會。先受其禍。尙書劉納曰。爲國棟梁。傾危不持。焉用彼相邪。郃許諾。亦與陽球結謀。球小妻程璜之女。由是。節等頗得聞知。乃重賂璜。且脅之。璜懼迫。以球謀告節。節因共白帝曰。郃與劉納。陳球。陽球。交通書疏。謀議不軌。帝大怒。冬。十月。甲申。劉郃。陳球。劉納。陽球。皆下獄死。○巴郡板楯蠻反。遣御史中丞蕭瑗。督益州刺史。討之。不克。○十二月。以光祿勳楊賜。爲司徒。○鮮卑寇幽并二州。○三年。春。正月。癸酉。赦天下。○夏。四月。江夏蠻反。○秋。酒泉地震。○冬。有星孛于狼弧。○鮮卑寇幽并二州。○十二月。立貴人何氏爲皇后。徵后兄潁川太守進。爲侍中。后本南陽屠家。以選入掖庭。生皇子辨。故立之。○是歲。作畢圭靈昆苑。司徒楊賜。諫曰。先帝之制。左開鴻池。右作上林。不奢不約。以合禮中。今猥規郊城之地。以爲苑囿。壞沃衍。廢田園。驅居民。畜禽獸。殆

非所謂若保赤子之義。今城外之苑已有五六，可以逞情意，順四節也。宜惟夏禹卑宮，太宗露臺之意，以尉下民之勞。書奏，帝欲止，以問侍中任芝。樂松對曰：昔文王之囿百里，人以爲小。齊宣五里，人以爲大。今與百姓共之，無害於政也。帝悅，遂爲之。○巴郡板楯蠻反。○蒼梧桂陽賊攻郡縣，零陵太守楊琰制馬車數十乘，以排囊盛石灰於車上，繫布索於馬尾，又爲兵車，專轂弓弩及戰令，馬居前，順風鼓灰，賊不得視，因以火燒布，然馬驚，犇突賊陣，因使後車弓弩亂發，鉦鼓鳴震，羣盜波駭破散，追逐傷斬無數。梟其渠帥，郡境以清。荊州刺史趙凱誣奏琰實非身親破賊，而妄有其功。琰與相章奏，凱有黨助，遂檻車徵琰，防禁嚴密，無由自訟。乃噬臂出血，書衣爲章，具陳破賊形勢，及言凱所誣狀。潛令親屬詣闕通之，詔書原琰，拜議郎。凱受誣人之罪，琰喬之弟也。

資治通鑑卷第五十七

資治通鑑卷第五十八

漢紀五十一

孝靈皇帝中

光和四年春正月，初置驛，廐丞領受郡國調馬，豪右辜樞馬一匹，至二百萬。○夏四月，庚子，赦天下。○交阯烏滸蠻久爲亂，牧守不能禁，交阯人梁龍等復反，攻破郡縣，詔拜蘭陵令會稽朱儁爲交阯刺史，擊斬梁龍，降者數萬人，旬月盡定，以功封都亭侯。徵爲諫議大夫。○六月庚辰，雨雹如雞子。○秋九月，庚寅朔日，有食之。○太尉劉寬免，衛尉許鹹爲太尉。○閏月辛酉，北宮東掖庭永巷署災。○司徒楊賜罷。○冬十月，太常陳耽爲司徒。○鮮卑寇幽并二州，檀石槐死，子和連代立，和連才力不及父，而貪淫，後出攻北地，北地人射殺之。其子騫曼尙幼，兄子魁頭立，後騫曼長大，與魁頭爭國，衆遂離散。魁頭死，弟步度根立。○是歲，帝作列肆於後宮，使諸采女販賣，更相盜竊，爭鬪，帝著商賈服，從之飲宴爲樂。又於西園弄狗，著進賢冠，帶綬，又駕四驢，帝躬自操轡，驅馳周旋。京師轉相倣效，驢價遂與馬齊。帝好爲私穡，收天下之珍貨，每郡國貢獻，先輸中署，名爲導行費。中常侍呂強上疏諫曰：天下之財，莫不生于陰陽，歸之陛下，豈有公私，而今中尙方，斂諸郡之寶，中御府積天下之繒，西園引司農之藏，中廡聚太僕之馬，而所輸之府，輒有導行之財，調廣民困，費多獻少，姦吏因其利，百姓受其敝。又阿媚之臣，好獻其私，容諂姑息，自此而進，舊典選舉，委任三府，尙書受奏，御而已，受試任用，責以成功，功無可察，然後付之，尙書舉劾，請下廷尉覆案虛實，行其罪罰，於是三

公每有所選，參議掾屬咨其行狀，度其器能，然猶有曠職廢官，荒穢不治。今但任尚書，或有詔用，如是，三公得免選舉之負，尚書亦復不坐責賞，無歸。豈肯空自勞苦乎？書奏，不省。○何皇后性彊忌，後宮王美人、皇子協、后、酖殺美人。帝大怒，欲廢后，諸中宮固請得止。○大長秋華容侯曹節卒，中常侍趙忠代領大長秋。

五年春正月辛未，赦天下。○詔公卿以謠言舉刺史二千石，為民蠹害者。太尉許儼、司空張濟、承望內官，受取貨賂，其宦者子弟賓客，雖貪汙穢濁，皆不敢問，而虛糾邊遠小郡清脩有惠化者二十六人。吏民詣闕陳訴，司徒陳耽上言：公卿所舉，率黨其私，所謂放鴟梟而囚鸞鳳。帝以讓儼、濟，由是諸坐謠言徵者悉拜議郎。○二月，大疫。○三月，司徒陳耽免。○夏四月，旱。○以太常袁隗為司徒。○五月，庚申，永樂宮署災。○秋七月，有星孛于太微。○板楯蠻寇亂巴郡，連年討之不能尅。帝欲大發兵以問益州計吏，漢中程包對曰：板楯七姓，自秦世立功，復其租賦，其人勇猛善戰，昔永初中，羌入漢川，郡縣破壞，得板楯救之，羌死敗殆盡。羌人號為神兵，傳語種輩勿復南行。至建和二年，羌復大入，實賴板楯連摧破之，前車騎將軍馮緄南征武陵，亦倚板楯以成其功。近益州郡亂，太守李暉亦以板楯討而平之，忠功如此，本無惡心。長吏鄉亭更賦至重，僕役箠楚過於奴虜，亦有嫁妻賣子，或乃至自剄割。雖陳冤州郡而牧守不為通理，闕庭悠遠，不能自聞，含怨呼天，無所叩懇。故邑落相聚以叛，戾非有謀主，僭號以圖不軌。今但選明能牧守，自然安集，不煩征伐也。帝從其言，選用太守曹謙，宣詔赦之，即時皆降。○八月，起四百尺觀於阿亭道。○冬十月，太尉許儼罷，以太常楊賜為太尉。○帝校獵上林苑，歷函谷關，遂狩于廣成苑。十二月，還幸太學。○桓典為侍御史，宦官畏之，典常乘驄馬，京師為之語曰：行行且止，避驄馬御史。典，焉之孫也。六年春三月辛未，赦天下。○夏大旱。○爵號皇后母為舞陽君。○秋，金城河水溢出二十餘

里。○五原山岸崩。○初，鉅鹿張角奉事黃老，以妖術教授，號太平道，呪符水以療病，令病者跪拜首過，或時病愈，眾共神之。角分遣弟子周行四方，轉相誑誘，十餘年間，徒眾數十萬，自青徐幽冀荆揚兗豫八州之人莫不畢應，或棄賣財產，流移奔赴，填塞道路，未至病死者亦以萬數。郡縣不解其意，反言角以善道教化，為民所歸。太尉楊賜時為司徒，上書言：角誑耀百姓，遭赦不悔，稍益滋蔓，今若下州郡捕討，恐更騷擾，速成其患，宜切敕刺史二千石，簡別流民，各護歸本郡，以孤弱其黨，然後誅其渠帥，可不勞而定。會賜去位，事遂留中。司徒掾劉陶復上疏，申賜前議，言：角等陰謀益甚，四方私言云：角等竊入京師，覬視朝政，鳥獸獸心，私共嗚呼。州郡忌諱，不欲聞之，但更相告語，莫肯公文。宜下明詔，重募角等，賞以國土，有敢回避，與之同罪。帝殊不為意。方詔陶，次第春秋條例，角遂置三十六方，方猶將軍也。大方萬餘人，小方六七千，各立渠帥，訛言蒼天已死，黃天當立。歲在甲子，天下大吉。以白土書京城寺門及州郡官府，皆作甲子字。大方馬元義等先收荆揚數萬人，期會發於鄴。元義數往來京師，以中常侍封譚、徐奉等為內應，約以三月五日內外俱起。中平元年春，角弟子濟南唐周上書告之，於是收馬元義，車裂於雒陽。詔三公司隸案驗宮省直衛及百姓有事角道者，誅殺千餘人。下冀州逐捕角等，角等知事已露，晨夜馳救。諸方一時俱起，皆著黃巾，以為標幟。故時人謂之黃巾賊。二月，角自稱天公將軍，角弟寶稱地公將軍，寶弟梁稱人公將軍。所在燔燒官府，劫略聚邑，州郡失據，長吏多逃亡。旬月之間，天下響應，京師震動。安平甘陵人各執其王，應賊。三月，戊申，以河南尹何進為大將軍，封侯，率左右羽林五營營士屯都亭，脩理器械，以鎮京師。置函谷、太谷、廣成、伊闕、轅轅、旋門、孟津、小平津、八關都尉，帝召羣臣會議。北地太守皇甫嵩以為宜解黨禁，益出中藏錢西園廩馬，以班軍士，嵩規之，兄子也。上問計於中常侍呂強，對曰：黨錮久積，人情怨憤，若不赦宥，輕與張角

合謀為變滋大悔之無救今請先誅左右貪濁者大赦黨人料簡刺史二千石能否則盜無不平矣帝懼而從之壬子赦天下黨人還諸徙者唯張角不赦發天下精兵遣北中郎將盧植討張角左中郎將皇甫嵩右中郎將朱儁討潁川黃巾是時中常侍趙忠張讓夏惲郭勝段珪宋典等皆封侯貴寵上常言張常侍是我公趙常侍是我母由是宦官無所憚畏竝起第宅擬則宮室上嘗欲登永安侯臺宦官恐望見其居處乃使中大人尙但諫曰天子不當登高登高則百姓虛散上自是不敢復升臺榭及封諸徐奉事發上詰責諸常侍曰汝曹常言黨人欲為不軌皆令禁錮或有伏誅者今黨人更為國用汝曹反與張角通為可斬未皆叩頭曰此王甫侯覽所為也於是諸常侍人人求退各自徵還宗親子弟在州郡者趙忠夏惲等遂共譖呂強云與黨人共議朝廷數讀霍光傳強兄弟所在竝皆貪穢帝使中黃門持兵召強強聞帝召怒曰吾死亂起矣丈夫欲盡忠國家豈能對獄吏乎遂自殺忠惲復譖曰強見召未知所問而就外自屏有姦明審遂收捕其宗親沒入財產侍中河內向栩上便宜譏刺左右張讓誣栩與張角同心欲為內應收送黃門北寺獄殺之郎中山張鈞上書曰竊惟張角所以能與兵作亂萬民所以樂附之者其源皆由十常侍多放父兄弟婚親賓客典據州郡辜權財利侵掠百姓百姓之冤無所告訴故謀議不軌聚為盜賊宜斬十常侍縣頭南郊以謝百姓遣使者布告天下可不須師旅而大寇自消帝以鈞章示諸常侍皆免冠徒跣頓首乞自致雒陽詔獄竝出家財以助軍費有詔皆冠履視事如故帝怒鈞曰此真狂子也十常侍固當有一人善者不御史承旨遂誣奏鈞學黃巾道收掠死獄中○庚子南陽黃巾張曼成攻殺太守褚貢○帝問太尉楊賜以黃巾事賜所對切直帝不悅夏四月賜坐寇賊免以太僕弘農鄧盛為大尉已而帝閱錄故事得賜與劉陶所上張角奏乃封賜為臨晉侯陶為中陵鄉侯○司空張濟罷以大司農張溫為司空○皇甫嵩朱儁合將四萬餘

人共討潁川嵩備各統一軍備與賊波才戰敗嵩進保長社汝南黃巾敗太守趙謙於邵陵廣陽黃巾殺幽州刺史郭勳及太守劉衛○波才圍皇甫嵩於長社嵩兵少軍中皆恐賊依草結營會大風嵩約敕軍士皆束苴乘城使銳士間出圍外縱火大呼城上舉燎應之嵩從城中鼓譟而出犇擊賊陳賊驚亂走會騎都尉沛國曹操將兵適至五月嵩操與朱儁合軍更與賊戰大破之斬首數萬級封嵩都鄉侯操父嵩為中常侍曹騰養子不能審其生也本末或云夏侯氏子也操少機警有權數而任俠放蕩不治行業世人未之奇也唯太尉橋玄及南陽何顛異焉玄謂操曰天下將亂非命世之才不能濟也能安之者其在君乎顛見操歎曰漢家將亡安天下者必此人也玄謂操曰君未有名可交許子將子將者訓之從子劭也好人倫多所賞識與從兄靖俱有高名好共覈論鄉黨人物每月輒更其品題故汝南俗有月旦評焉嘗為郡功曹府中聞之莫不改操飾行曹操往造劭而問之曰我何如人劭鄙其為人答操乃劫之劭曰子治世之能臣亂世之姦雄操大喜而去朱儁之擊黃巾也其護軍司馬北地傅燮上疏曰臣聞天下之禍不由於外皆興於內是故虞舜先除四凶然後用十六相明惡人不去則善人無由進也今張角起於趙魏黃巾亂於六州此皆釁發蕭牆而禍延四海者也臣受戎任奉辭伐罪始到潁川戰無不冠黃巾雖盛不足為廟堂憂也臣之所懼在於治水不自其源末流彌增其廣耳陛下仁德寬容多所不忍故闖豎弄權忠臣不進誠使張角梟夷黃巾變服臣之所憂甫益深耳何者夫邪正之人不宜共國亦猶冰炭不可同器彼知正人之功顯而危亡之兆見皆將巧辭飾說共長虛偽夫孝子疑於屢至市虎成於三夫若不詳察真偽忠臣將復有杜郵之戮矣陛下宜思虞舜四罪之舉速行讒佞之誅則善人思進姦凶自息趙忠見其疏而惡之燮擊黃巾功多當封忠譖訴之帝識燮言得不加罪竟亦不封○張曼成屯宛下百餘日六月南陽太守秦頡擊曼成斬之○交阯土

多珍貨。前後刺史多無清行。財計盈給。輒求遷代。故吏民怨叛。執刺史。及合浦太守來遠。自稱柱天將軍。三府選京令東郡賈琮。為交趾刺史。琮到部。訊其反狀。咸言賦斂過重。百姓莫不空單。京師遙遠。告冤無所。民不聊生。故聚為盜賊。琮即移書告示。各使安其資業。招撫荒散。獨復徭役。誅斬渠帥。為大害者。簡選良吏。試守諸縣。歲間蕩定。百姓以安。巷路為之歌。曰。賈父來晚。使我先反。今見清平。吏不敢飯。○皇甫嵩。朱儁。乘勝進討。汝南陳國黃巾。追波才於陽翟。擊彭脫於西華。竝破之。餘賊降散。三郡悉平。嵩乃上言其狀。以功歸儁。於是進封儁西鄉侯。遷鎮賊中郎將。詔嵩討東郡。儁討南陽。北中郎將盧植。連戰破張角。斬獲萬餘人。角等走保廣宗。植築圍鑿。塹造作雲梯。垂當拔之。帝遣小黃門左豐視軍。或勸植以賂送豐。植不肯。豐還言於帝曰。廣宗賊易破耳。盧中郎固壘息軍。以待天誅。帝怒。檻車徵植。滅死一等。遣東中郎將隴西董卓代之。○巴郡張脩。以妖術為人療病。其法略與張角同。令病家出五斗米。號五斗米師。秋七月。脩聚眾反。寇郡縣。時人謂之米賊。○八月。皇甫嵩與黃巾戰於蒼亭。獲其帥卜巳。董卓攻張角。無功。抵罪。乙巳。詔嵩討角。○九月。安平王續。坐不道。誅。國除。初。續為黃巾所虜。國人贖之。得還。朝廷議復其國。議郎李燮曰。續守藩不稱。損辱聖朝。不宜復國。朝廷不從。燮坐謫。毀宗室。輸作左校。未滿歲。王坐誅。乃復拜議郎。京師為之語曰。父不肯立帝。子不肯立王。○冬。十月。皇甫嵩與張角弟梁。戰於廣宗。梁眾精勇。嵩不能尅。明日。乃閉營休士。以觀其變。知賊意稍懈。乃潛夜勒兵。雞鳴馳赴其陳。戰至晡時。大破之。斬梁。獲首三萬級。赴河死者五萬許人。角先已病死。剖棺戮屍。傳首京師。十一月。嵩復攻角弟寶於下曲陽。斬之。斬獲十餘萬人。即拜嵩為左車騎將軍。領冀州牧。封槐里侯。嵩能溫郵士卒。每軍行。頓止。須營幔脩立。然後就舍。軍士皆食。爾乃嘗飯。故所嚮有功。○北地先零羌。及枹罕河關羣盜反。共立湟中義從胡。北宮伯玉。李文侯。為將軍。殺護羌校尉泠徵。金城人邊章。韓遂。素著

名西州羣盜誘而劫之。使專任軍政。殺金城太守陳懿。攻燒州郡。初。武威太守倚恃權貴。恣行貪暴。涼州從事武都蘇正和。案致其罪。刺史梁鵠懼。欲殺正和。以免其負。訪於漢陽長史敦煌蓋勳。勳素與正和有仇。或勸勳因此報之。勳曰。謀事殺良。非忠也。乘人之危。非仁也。乃諫鵠曰。夫繼食鷹隼。欲其驚也。驚而亨之。將何用哉。鵠乃止。正和詣勳求謝。勳不見。曰。吾為梁使君謀。不為蘇正和也。怨之如初。後刺史左昌。盜軍殺數萬。勳諫之。昌怒。使勳與從事辛曾。孔常。別屯阿陽。以拒賊。欲因軍事罪之。而勳數有戰功。及北宮伯玉之攻金城也。勳勸昌救之。昌不從。陳懿既死。邊章等進圍昌於冀。昌召勳等自救。辛曾等疑不肯赴。勳怒曰。昔莊賈後期。穰苴奮劍。今之從事。豈重於古之監軍乎。曾等懼而從之。勳至冀。謂讓章等以背叛之罪。皆曰。左使君若早從君言。以兵臨我。庶可自改。今罪已重。不得降也。乃解圍去。叛羌圍校尉夏育於畜官。勳與州郡合兵。救育至狐槃。為羌所敗。勳餘眾不及百人。身被三創。堅坐不動。指木表曰。尸我於此。句就種羌。滇吾。以兵扞眾曰。蓋長史賢人。汝曹殺之者。為負天。勳仰罵曰。死反虜。汝何知。促來殺我。眾相視而驚。滇吾下馬與勳。勳不肯上。遂為羌所執。羌服其義勇。不敢加害。送還漢陽。後刺史楊雍。表勳領漢陽太守。○張曼成餘黨。更以趙弘為帥。眾復盛。至十餘萬。據宛城。朱儁與荊州刺史徐璆等合兵圍之。自六月至八月。不拔。有司奏徵儁。司空張溫上疏曰。昔秦用白起。燕任樂毅。皆曠年歷載。乃能尅敵。儁討潁川。已有功效。引師南指。方略已設。臨軍易將。兵家所忌。宜假日月。責其成功。帝乃止。儁擊弘。斬之。賊帥韓忠復據宛。拒儁。儁鳴鼓攻其西南。賊悉眾赴之。儁自將精卒。掩其東北。乘城而入。忠乃退保小城。惶懼乞降。諸將皆欲聽之。儁曰。兵固有形。同而執異者。昔秦項之際。民無定主。故賞附利。則進戰。鈍則乞降。縱敵長寇。非良計也。因急攻。連戰不尅。儁登土山望之。願謂司馬張超

曰吾知之矣。賊今外圍周固，內營逼急，乞降不受，欲出不得，所以死戰也。萬人一心，猶不可當，況十萬乎？不如微圍，并兵入城。忠見圍解，執必自出，自出則意散，破之道也。既而解圍，忠果出戰，備因擊大破之，斬首萬餘級。南陽太守秦頡殺忠，餘衆復奉孫夏爲帥，還屯宛。備急攻之，司馬孫堅率衆先登，癸巳拔宛城。孫夏走，備追至西鄂精山，復破之，斬萬餘級。於是黃巾破散，其餘州郡所誅一郡數千人。○十二月己巳，赦天下，改元。○豫州刺史太原王允破黃巾，得張讓賓客書，與黃巾交通，上之。上責讓，讓叩頭陳謝，竟亦不能罪也。讓由是以事中允，遂傳下獄，會赦，還爲刺史。旬日間，復以他罪被捕，楊賜不欲使更楚辱，遣客謝之曰：君以張讓之事，故一月再徵，凶慝難量，幸爲深計，諸從事好氣決者，共流涕奉藥而進之。允厲聲曰：吾爲人臣，獲罪於君，當伏大辟以謝天下，豈有乳藥求死乎？投杯而起，出就檻車。既至，大將軍進與楊賜、袁隗共上疏請之，得減死論。

二年春正月，大疫。○二月己酉，南宮雲臺災。庚戌，樂城門災。中常侍張讓、趙忠說帝，斂天下田晦十錢，以脩宮室，鑄銅人，樂安太守陸康上疏諫曰：昔魯宣稅晦而蜚災自生，哀公增賦而孔子非之，豈有聚奪民物以營無用之銅人，捐捨聖戒，自蹈亡王之法哉？內倖譖康，援引亡國以譬聖明，大不敬。檻車徵詣廷尉，侍御史劉岱表陳解釋，得免歸田里。康續之孫也。又詔發州郡材木，文石，部送京師。黃門常侍輒令譴呵不中者，因強折賤買，僅得本買十分之一。因復貨之官，官復不爲，卽受材木，遂至腐積。宮室連年不成，刺史太守復增私調，百姓呼嗟。又令西園騶分道督趣，恐動州郡，多受賂賂，刺史二千石及茂才孝廉遷除，皆責助軍脩宮錢。大郡至二三十萬，餘各有差，當之官者皆先至西園，諧價然後得去。其守清者乞不之官，皆迫遣之。時鉅鹿太守河內司馬直新除，以有清名，減責三百萬，直被詔恨然曰：爲民父母，而反割剝百姓，以稱時求，吾不忍也。辭疾不聽，行至孟津，上書極陳當世之失，卽吞藥自

殺。書奏，帝爲暫絕脩宮錢。○以朱儁爲右車騎將軍。○自張角之亂，所在盜賊竝起，博陵張牛角、常山褚飛燕及黃龍、左校、于氏根、張白騎、劉石、左髭文八、平漢、太計、司隸、緣城、雷公、浮雲、白雀、楊鳳、于毒、五鹿、李大目、白繞、眭固、苦蟾之徒，不可勝數。大者二三萬，小者六七千人。張牛角、褚飛燕合軍攻廩陶，牛角中流矢且死，令其衆奉飛燕爲帥，改姓張。飛燕名燕，輕勇趨捷，故軍中號曰飛燕。山谷寇賊多附之，部衆寔廣，殆至百萬。號黑山賊。河北諸郡縣竝被其害，朝廷不能討。燕乃遣使至京師，奏書乞降。遂拜燕平難中郎將，使領河北諸山谷事。歲得舉孝廉計吏。○司徒袁隗免。三月，以廷尉崔烈爲司徒。烈，寔之從兄也。是時三公往往因得舉孝廉，入錢西園而得之。段熲、張溫等雖有功勤名譽，然皆先輸貨財，乃登公位。烈因傳母入錢五百萬，故得爲司徒。及拜日，天子臨軒，百僚畢會，帝顧謂親幸者曰：悔不少靳，可至千萬。程夫人於傍應曰：崔公冀州名士，豈肯買官？賴我得是，反不知姝耶？烈由是聲譽頓衰。○北宮伯玉等寇三輔，詔左車騎將軍皇甫嵩鎮長安，以討之。時涼州兵亂不止，徵發天下役賦無已。崔烈以爲宜棄涼州，詔會公卿百官議之。議郎傅燮厲言曰：斬司徒，天下乃安。尚書奏變，廷辱大臣，帝以問燮，對曰：樊噲以冒頓悖逆，憤激思奮，未失人臣之節。季布猶曰：噲可斬也。今涼州天下要衝，國家藩衛，高祖初興，使酈商別定隴右，世宗拓境，列置四郡，議者以爲斷匈奴右臂，今牧御失和，使一州叛逆，烈爲宰相，不念爲國，思所以弭之之策，乃欲割棄一方萬里之土，臣竊惑之。若使左衽之虜，得居此地，士勁甲堅，因爲亂，此天下之至慮，社稷之深憂也。若烈不知，是極蔽也。知而故言，是不忠也。帝善而從之。○夏四月，庚戌，大雨雹。○五月，太尉鄧盛罷，以太僕河南張延爲太尉。○六月，以討張角功，封中常侍張讓等十人爲列侯。○秋七月，三輔螟。○皇甫嵩之討張角也，過鄴，見中常侍趙忠舍宅，踰制，奏沒入之。又中常侍張讓私求錢五千萬，嵩不與，二人由是奏嵩連戰無功，所費者多，徵嵩還，收

左車騎將軍印綬。削戶六千。八月。以司空張溫爲車騎將軍。執金吾袁滂爲副。以討北宮伯玉。拜中郎將董卓爲破虜將軍。興盪寇將軍周愷。竝統於溫。○九月。以特進楊賜爲司空。冬。十月。庚寅。臨晉文烈侯楊賜薨。以光祿大夫許相爲司空。相訓之子也。○諫議大夫劉陶上言。天下前遇張角之亂。後遭邊章之寇。今西羌逆類。已攻河東。恐遂轉盛。豕突上京。民有百走退死之心。而無一前鬪生之計。西寇浸前。車騎孤危。假令失利。其敗不救。臣自知言數見厭。而言不自裁者。以爲國安。則臣蒙其慶。國危。則臣亦先亡也。謹復陳當今要急八事。大較言。天下大亂。皆由宦官。宦官共讒陶曰。前張角事發。詔書示以威恩。自此以來。各各改悔。今者四方安靜。而陶疾害聖政。專言妖孽。州郡不上。陶何緣知。疑陶與賊通情。於是收陶。下黃門北寺獄。掠按日急。陶謂使者曰。臣恨不與伊呂同疇。而以三仁爲輩。今上殺忠善之臣。下有憔悴之民。亦在不久。後悔何及。遂閉氣而死。前司徒陳耽。爲人忠正。宦官怨之。亦誣陷死獄中。○張溫將諸郡兵。步騎十餘萬。屯美陽。邊章韓遂。亦進兵美陽。溫與戰。輒不利。十一月。董卓與右扶風鮑鴻等。并兵攻章。遂大破之。章遂走榆中。溫遣周慎。將三萬人追之。參軍事孫堅。說慎曰。賊城中無穀。當外轉糧食。堅願得萬人。斷其運道。將軍以兵繼後。賊必困乏。而不敢戰。走入羌中。并力討之。則涼州可定也。慎不從。引軍圍榆中。而章遂分屯葵園峽。反斷慎運道。慎懼。棄車重而退。溫又使董卓將兵三萬討先零羌。羌胡圍卓於望垣北。糧食乏絕。乃於所度水中立橋以捕魚。而潛從橋下過軍。比賊追之。決水已深。不得度。遂還屯扶風。張溫以詔書召卓。卓良久乃詣溫。溫責讓卓。卓應對不順。孫堅前耳語謂溫曰。卓不怖罪。而鴟張大語。宜以召不時至。陳軍法斬之。溫曰。卓素著威名於河隴之間。今日殺之。西行無依。堅曰。明公親率王師。威震天下。何賴於卓。觀卓所言。不假明公。輕上無禮。一罪也。章遂跋扈。經年。當以時進討。而卓云未可。沮軍疑衆。二罪也。卓受任無功。應召稽留。而軒昂自高。三罪也。

也。古之名將。仗鉞臨衆。未有不斷斬以成功者也。今明公垂意於卓。不即加誅。虧損威刑。於是在矣。溫不忍發。乃曰。君且還。卓將疑人。堅遂出。○是歲。帝造萬金堂於西園。引司農金錢。繪帛。初積堂中。復藏寄小黃門常侍家。錢各數千萬。又於河間買田宅。起第觀。

三年。春。二月。江夏兵趙慈反。殺南陽太守秦頴。○庚戌。赦天下。○太尉張延罷。遣使者持節。就長安。拜張溫爲太尉。三公在外。始於溫。○以中常侍趙忠爲車騎將軍。帝使忠論討黃巾之功。執金吾甄舉謂忠曰。傅南容前在東軍。有功不侯。天下失望。今將軍親當重任。宜進賢理。屈以副衆心。忠納其言。遣弟城門校尉延。致殷勤於傅。延謂變曰。南容少答我常侍。萬戶侯不足得也。變正色拒之曰。有功不論命也。傅變豈求私賞哉。忠愈懷恨。然憚其名。不敢害。出爲漢陽太守。○帝使鉤盾令宋典。脩南宮玉堂。又使掖庭令畢嵐。鑄四銅人。又鑄四鐘。皆受二千斛。又鑄天祿蝦蟇。吐水於平門外橋東。轉水入宮。又作翻車。渴烏。施於橋西。用灑南北郭路。以爲可省百姓灑道之費。○五月。壬辰晦。日有食之。○六月。荊州刺史王敏。討趙慈。斬之。○車騎將軍趙忠罷。○冬。十月。武陵蠻反。郡兵討破之。○前太尉張延。爲宦官所譖。下獄死。○十二月。鮮卑寇幽并二州。○徵張溫還京師。

四年。春。正月。己卯。赦天下。○二月。滎陽賊殺中牟令。三月。河南尹何苗。討滎陽賊。破之。拜苗爲車騎將軍。○韓遂殺邊章。及北宮伯玉。李文侯。擁兵十餘萬。進圍隴西。太守李相如叛。與遂連和。涼州刺史耿鄙率六郡兵討遂。鄙任治中程球。球通茲利。士民怨之。漢陽太守傅燮。謂鄙曰。使君統政日淺。民未知教。賊聞大軍將至。必萬人一心。邊兵多勇。其鋒難當。而新合之衆。上下未和。萬一內變。雖悔無及。不若息軍養德。明賞必罰。賊得寬挺。必謂我怯。羣惡爭執。其離可必。然後率已教之民。討成離之賊。其功可坐而待也。鄙不從。夏。四月。鄙行至狄道。州別駕。反應賊。先殺程球。次害鄙。賊遂進圍漢陽。城中兵少糧盡。燮猶固守。時北地胡騎數

千。隨賊攻郡。皆夙懷變恩。共於城外叩頭。求送變歸鄉里。變子幹。年十三。言於燮曰。國家昏亂。遂令大人不容於朝。今兵不足以自守。宜聽羌胡之請。還鄉里。徐俟有道而輔之。言未終。燮慨然歎曰。汝知吾必死邪。聖達節次守節。殷紂暴虐。伯夷不食周粟而死。吾遭世亂。不能養浩然之志。食祿。又欲避其難乎。吾行何之。必死於此。汝有才智。勉之。勉之。主簿楊會。吾之程嬰也。狄道人王國。使故酒泉太守黃衍說燮曰。天下已非復漢有。府君寧有意為吾屬帥乎。燮按劍叱衍曰。若剖符之臣。反為賊說邪。遂磨左右進兵。臨陳戰歿。耿鄙司馬扶風馬騰亦擁兵反。與韓遂合。共推王國為主。寇掠三輔。○太尉張溫。以寇賊未平。免。以司徒崔烈為太尉。○五月。以司空許相為司徒。光祿勳沛國丁宮為司空。○初。張溫發幽州烏桓突騎三千。以討涼州。故中山相漁陽張純請將之。溫不聽。而使涿令遼西公孫瓚將之。軍到薊中。烏桓以牢粟。逋縣多叛。還本國。張純忿不得將。乃與同郡故泰山太守張舉。及烏桓大人丘力居等連盟。劫略薊中。殺護烏桓校尉公綦稠。右北平太守劉政。遼東太守陽終等。眾至十餘萬。屯肥如。舉稱天子。純稱彌天將軍。安定王移書州郡云。舉當代漢。告天子避位。敕公卿奉迎。○冬。十月。長沙賊區星自稱將軍。眾萬餘人。詔以議郎孫堅為長沙太守。討擊平之。封堅烏程侯。○十一月。太尉崔烈罷。以太司農曹嵩為太尉。○十二月。屠各胡反。○是歲。賣關內侯直五百萬錢。○前太丘長陳寔卒。海內赴弔者三萬餘人。寔在鄉閭。平心率物。其有爭訟。輒求判正。曉譬曲直。退無怨者。至乃歎曰。寧為刑罰所加。不為陳君所短。楊賜。陳耽。每拜公卿。羣僚畢賀。輒歎寔大位未登。愧於先之。

資治通鑑卷第五十八

資治通鑑卷第五十九

漢紀五十一

孝靈皇帝下

中平五年。春。正月。丁酉。赦天下。○二月。有星孛于紫宮。○黃巾餘賊郭大等起於河西白波谷。寇太原河東。○三月。屠各胡攻殺并州刺史張懿。○太常江夏劉焉見王室多故。建議以爲四方兵寇。由刺史威輕。既不能禁。且用非其人。以致離叛。宜改置牧伯。選清名重臣。以居其任。焉內欲求交趾牧。侍中廣漢董扶私謂焉曰。京師將亂。益州分野。有天子氣。焉乃更求益州。會益州刺史郤儉賦斂煩擾。謠言遠聞。而耿鄙張懿皆爲盜所殺。朝廷遂從焉議。選列卿尚書爲州牧。各以本秩居任。以焉爲益州牧。太僕黃琬爲豫州牧。宗正東海劉虞爲幽州牧。州任之重。自此而始。焉魯恭王之後。虞東海恭王之五世孫也。虞嘗爲幽州刺史。民夷懷其恩信。故用之。董扶及太倉令趙躡皆棄官隨焉入蜀。○詔發南匈奴兵配劉虞。討張純。單于羌渠遣左賢王將騎詣幽州。國人恐發兵無已。於是右部醜落反。與屠各胡合。凡十餘萬人。攻殺羌渠。國人立其子右賢王於扶羅爲持至尸逐侯單于。○夏。四月。太尉曹嵩罷。○五月。以永樂少府南陽樊陵爲太尉。六月。罷。○益州賊馬相趙祗等起兵。縣汭自號黃巾。殺刺史郤儉。進擊巴郡犍爲。旬月之間。破壞三郡。有衆數萬。自稱天子。州從事賈龍率吏民攻相。等數日。破走。州界清靜。龍乃選吏卒迎劉焉。焉徙治縣竹。撫納離叛。務行寬惠。以收人心。○郡國七大水。○故太傅陳蕃子逸與術士襄楷會於冀州刺史王芬坐。楷曰。天文不利。宦者

黃門常侍真族滅矣。逸喜芬曰：「若然者，芬願驅除，因與豪傑轉相招合。」上書言黑山賊攻劫郡縣，欲因以起兵。會帝欲北巡河間舊宅，芬等謀以兵微劫，誅諸常侍黃門，因廢帝立合肥侯，以其謀告議郎曹操。操曰：「夫廢立之事，天下之至不祥也。古人有『權成敗，計輕重』而行之者，伊霍是也。伊霍皆懷至忠之誠，據宰輔之執，因秉政之重，同衆人之欲，故能計從事立。今諸君徒見曩者之易，未視當今之難，而造作非常，欲望必克，不亦危乎？芬又呼平原華歆、陶丘洪，共定計。洪欲行，歆止之曰：「夫廢立大事，伊霍之所難，芬性疎而不武，此必無成。洪乃止。會北方夜半有赤氣，東西竟天。太史上言：「北方有陰謀，不宜北行。」帝乃止。赦芬罷兵。俄而徵之，芬懼，解印綬，亡走。至平原，自殺。○秋七月，以射聲校尉馬日磾爲太尉，日磾融之族孫也。○八月初，置西園八校尉，以小黃門蹇碩爲上軍校尉，虎賁中郎將袁紹爲中軍校尉，屯騎校尉鮑鴻爲下軍校尉，議郎曹操爲典軍校尉，趙融爲助軍左校尉，馮芳爲助軍右校尉，諫議大夫夏牟爲左校尉，淳于瓊爲右校尉，皆統於蹇碩。帝自黃巾之起，留心戎事，碩壯健有武略，帝親任之。雖大將軍亦領屬焉。○九月，司徒許相罷，以司空丁宮爲司徒。光祿勳南陽劉弘爲司空。○以衛尉條侯董重爲票騎將軍，重永樂太后兄子也。○冬十月，青徐黃巾復起，寇郡縣。○望氣者以爲京師當有大兵，兩宮流血，帝欲厭之，乃大發四方兵，講武於平樂觀。下起大壇，上建十二重華蓋，蓋高十丈，壇東北爲小壇，復建九重華蓋，高九丈，列步騎數萬人，結營爲陳，甲子，帝親出臨軍，駐大華蓋下。大將軍進，駐小華蓋下。帝躬擐甲介馬，稱無上將軍，行陳三市而還，以兵授進。帝問討虜校尉蓋勳曰：「吾講武如是，何如？」對曰：「臣聞先王耀德不觀兵，今寇在遠而設近陳，不足以昭果毅，祇驕武耳。」帝曰：「善。」恨見君晚，羣臣初無是言也。勳謂袁紹曰：「上甚聰明，但蔽於左右耳。」與紹謀共誅嬖倖。蹇碩懼，出勳爲京兆尹。○十一月，王國圍陳倉，詔復拜皇甫嵩爲左將軍，督前將軍董卓合兵四萬人以拒之。○張純與

丘力居、鈔略、青徐、幽冀四州，詔騎都尉公孫瓚討之。瓚與戰於屬國石門，純等大敗，棄妻子，踰塞走，悉得所略男女。瓚深入無繼，反爲丘力居等所圍於遼西管子城，二百餘日，糧盡，衆潰。士卒死者什五六。○董卓謂皇甫嵩曰：「陳倉危急，請速救之。」嵩曰：「不然，百戰百勝，不如不戰而屈人兵。」陳倉雖小，城守固備，未易可拔。王國雖強，攻陳倉不下，其衆必疲，疲而擊之，全勝之道也。將何救焉？國攻陳倉八十餘日不拔。

六年春二月，國衆疲敝，解圍去。皇甫嵩進兵擊之，董卓曰：「不可。」兵法窮寇勿追，歸衆勿追。嵩曰：「不然，前吾不擊，避其銳也。今而擊之，待其衰也。所擊疲師，非歸衆也。國衆且走，莫有鬪志，以整擊亂，非窮寇也。遂獨進擊之，使卓爲後拒，連戰大破之，斬首萬餘級，卓大慙恨。由是與嵩有隙。○韓遂等其廢王國而劫故信都令漢陽閻忠，使督統諸部，忠病死，遂等稍爭權利，更相殺害。由是寢衰。○幽州牧劉虞到部，遣使至鮮卑中，告以利害，責使送張舉、張純首，厚加購賞。丘力居等聞虞至，喜，各遣譯自歸。舉純走出塞，餘皆降散。虞上罷諸屯兵，但留降虜校尉公孫瓚將步騎萬人屯右北平。三月，張純、客王政殺純，送首詣虞。公孫瓚志欲掃滅烏桓，而虞欲以恩信招降。由是與瓚有隙。○夏四月丙午朔，日有食之。○太尉馬日磾免，遣使即拜幽州牧劉虞爲太尉，封容丘侯。○蹇碩忌大將軍進，與諸常侍共說帝遣進西擊韓遂。帝從之。進陰知其謀，奏遣袁紹收徐兗二州兵，須紹還而西，以稽行期。○初，帝數失皇子，何皇后生子辯，養於道人史子眇家，號曰史侯。王美人生子協，董太后自養之，號曰董侯。羣臣請立太子，帝以辯輕佻，無威儀，欲立協，猶豫未決。會疾篤，屬協於蹇碩。丙辰，帝崩于嘉德殿。碩時在內，欲先誅何進而立協，使人迎進，欲與計事。進即駕往，碩司馬潘隱與進早舊，迎而目之，進驚馳從，僂道歸營，引兵入屯百郡邸，因稱疾不入。戊午，皇子辯即皇帝位，年十四。尊皇后曰皇太后，太后臨朝。赦天下，改元爲光熹，封皇弟協爲勃海王，協年九歲。以後將軍袁

隗爲太傅與大將軍何進參錄尚書事進既秉朝政忿蹇碩圖己陰規誅之袁紹因進親客張津勸進悉誅諸宦官進以袁氏累世貴寵而紹與從弟虎賁中郎將術皆爲豪桀所歸信而用之復博徵智謀之士何顯荀攸及河南鄭泰等二十餘人以顯爲北軍中侯攸爲黃門侍郎泰爲尚書與同腹心攸爽之從孫也蹇碩疑不自安與中常侍趙忠宋典等書曰大將軍兄弟秉國專朝今與天下黨人謀誅先帝左右掃滅我曹但以碩典禁兵故且沈吟今宜共閉上閣急捕誅之中常侍郭勝進同郡人也太后及進之貴幸勝有力焉故親信何氏與趙忠等議不從碩計而以其書示進庚午進使黃門令收碩誅之因悉領其屯兵票騎將軍董重與何進權勢相害中官挾重以爲黨助董太后每欲參干政事何太后輒相禁塞董后忿恚嘗曰汝今勸張怙汝兄耶吾敕票騎斷何進頭如反手耳何太后聞之以告進五月進與三公共奏孝仁皇后使故中常侍夏惲等交通州郡辜較財利悉入西省故事藩后不得留京師請遷宮本國奏可辛巳進舉兵圍票騎府收董重免官自殺六月辛亥董太后憂怖暴崩民間由是不附何氏○辛酉葬孝靈皇帝于文陵何進懲蹇碩之謀稱疾不入陪喪又不送山陵○大水○秋七月徙勃海王協爲陳留王○司徒丁宮罷○袁紹復說何進曰前竇武欲誅內寵而反爲所害者但坐言語漏泄五營兵士皆畏服中人而竇氏反用之自取禍滅今將軍兄弟竝領勁兵部曲將吏皆英俊名士樂盡力命事在掌握此天贊之時也將軍宜一爲天下除患以垂名後世不可失也進乃白太后請盡罷中常侍以下以三署郎補其處太后不聽曰中官統領禁省自古及今漢家故事不可廢也且先帝新棄天下我奈何楚楚與士人共對事乎進難違太后意且欲誅其放縱者紹以爲中官親近至尊出納號令今不悉廢後必爲患而太后母舞陽君及何苗數受諸宦官賂遺知進欲誅之數白太后爲其障蔽又言大將軍專殺左右擅權以弱社稷太后疑以爲然進新貴素敬憚中官雖外慕大

名而內不能斷故事久不決紹等又爲畫策多召四方猛將及諸豪傑使竝引兵向京城以脅太后進然之主簿廣陵陳琳諫曰諺稱掩目捕雀夫微物尚不可欺以得志況國之大事其可以詐立乎今將軍總皇威握兵要龍驤虎步高下在心此猶鼓洪爐燎毛髮耳但當速發雷霆行權立斷則天人順之而反委釋利器更徵外助大兵聚會彊者爲雄所謂倒持干戈授人以柄功必不成祗爲亂階耳進不聽典軍校尉曹操聞而笑曰宦者之官古今宜有但世主不當假之權寵使至於此既治其罪當誅元惡一獄吏足矣何至紛紛召外兵乎欲盡誅之事必宜露吾見其敗也初靈帝徵董卓爲少府卓上書言所將湟中義從及秦胡兵皆詣臣言牢直不畢稟賜斷絕妻子饑凍牽挽臣車使不得行羌胡慙腸狗態臣不能禁止輒將順安慰增異復上朝廷不能制及帝寢疾璽書拜卓并州牧令以兵屬皇甫嵩卓復上書言臣誤蒙天恩掌戎十年士卒大小相狎彌久戀臣畜養之恩爲臣奮一旦之命乞將之北州效力邊垂嵩從子鄴說嵩曰天下兵柄在大人與董卓耳今怨隙已結執不俱存卓被詔委兵而上書自請此逆命也彼度京師政亂故敢躊躇不進此懷姦也二者刑所不赦且其凶戾無親將士不附大人今爲元帥杖國威以討之上顯忠義下除凶害無不濟也嵩曰違命雖罪專誅亦有責也不如顯奏其事使朝廷裁之乃上書以聞帝以讓卓卓亦不奉詔駐兵河東以觀時變何進召卓使將兵詣京師侍御史鄭泰諫曰董卓彊忍寡義志欲無貳若借之朝政授以大事將恣凶欲必危朝廷明公以親德之重據阿衡之權秉意獨斷誅除有罪誠不宜假卓以爲資援也且事留變生殷鑒不遠宜在速決尚書盧植亦言不宜召卓進皆不從泰乃棄官去謂荀攸曰何公未易輔也進府掾王匡騎都尉鮑信皆泰山人進使還鄉里募兵并召東郡太守橋瑁屯成臯使武猛都尉丁原將數千人寇河內燒孟津火照城中皆以誅宦官爲言董卓聞召即時就道并上書曰中常侍張讓等竊侍承寵濁亂海內

臣聞揚湯止沸莫若去薪潰癰雖痛勝於內食昔趙鞅與晉陽之甲以逐君側之惡今臣輒鳴鐘鼓如雒陽請收讓等以清姦穢太后猶不從何苗謂進曰始共從南陽來俱以貧賤依省內以致富貴國家之事亦何容易覆水不收宜深思之且與省內和也卓至澠池而進更狐疑使諫議大夫种劭宣詔止之卓不受詔遂前至河南劭迎勞之因譬令還軍卓疑有變使其軍士以兵脅劭劭怒稱詔叱之軍士皆披遂前質卓卓辭屈乃還軍夕陽亭劭嵩之孫也袁紹懼進變計因脅之曰交構已成形勢已露將軍復欲何待而不早決之乎事久變生復爲寶氏矣進於是以前爲司隸校尉假節專命擊斷從事中郎王允爲河南尹紹使雒陽方略武吏司察宦者而促董卓等使馳驛上奏欲進兵平樂觀太后乃恐悉罷中常侍小黃門使還里舍唯留進所私人以守省中諸常侍小黃門皆詣進謝罪唯所措置進謂曰天下匈匈正患諸君耳今董卓垂至諸君何不早各就國袁紹勸進便於此決之至于再三進不許紹又爲書告諸州郡詐宣進意使捕案中官親屬進謀積日頗泄中官懼而思變張讓子婦太后之妹也讓向子婦叩頭曰老臣得罪當與新婦俱歸私門惟受恩累世今當遠離宮殿情懷戀戀願復一入直得暫奉望太后陛下顏色然後退就溝壑死不恨矣子婦言於舞陽君入白太后乃詔諸常侍皆復入直八月戊辰進入長樂宮白太后請盡誅諸常侍中常侍張讓段珪相謂曰大將軍稱疾不臨喪不送葬今欲入省此意何爲寶氏事竟復起邪使潛聽具聞其語乃率其黨數十人持兵竊自側闥入伏省戶下進出因詐以太后詔召進入坐省閤讓等詰進曰天下憤憤亦非獨我曹罪也先帝嘗與太后不快幾至成敗我曹涕泣救解各出家財千萬爲禮和悅上意但欲託卿門戶耳今乃欲滅我曹種族不亦太甚乎於是尙方監渠穆拔劍斬進於嘉德殿前讓珪等爲詔以故太尉樊陵爲司隸校尉少府許相爲河南尹尙書得詔板疑之曰請大將軍出共議中黃門以進頭擲與尙書曰何進謀反已

伏誅矣進部曲將吳匡張璋在外聞進被害欲引兵入宮宮門閉虎賁中郎將袁術與匡共斫攻之中黃門持兵守閤會日暮術因燒南宮青瑣門欲以脅出讓等讓等入白太后言大將軍兵反燒宮攻尙書闥因將太后少帝及陳留王劫省內官屬從複道走北宮尙書盧植執戈於閤道牕下仰數段珪珪懼乃釋太后太后投閤得免袁紹與叔父隗矯詔召樊陵許相斬之紹及何苗引兵屯朱雀闕下捕得趙忠等斬之吳匡等素怨苗不與進同心而又疑其與宦官通謀乃令軍中曰殺大將軍者即車騎也吏士能爲報讎乎皆流涕曰願致死匡遂引兵與董卓弟奉車都尉曼攻殺苗棄其屍於苑中紹遂閉北宮門勒兵捕諸宦者無少長皆殺之凡二千餘人或有不須而誤死者紹因進兵排宮或上端門屋以攻省內庚午張讓段珪等因迫遂將帝與陳留王數十人步出穀門夜至小平津六璽不自隨公卿無得從者唯尙書盧植河南中部掾閔貢夜至河上貢厲聲責讓等且曰今不速死吾將殺汝因手劍斬數人讓等惶怖又手再拜叩頭向帝辭曰臣等死陛下自愛遂投河而死貢扶帝與陳留王夜步逐螢光南行欲還宮行數里得民家露車共乘之至雒舍止幸未帝獨乘一馬急進未明到城西聞帝在北因與公卿往奉迎於北芒阪下帝見卓將兵卒至恐怖涕泣羣公謂卓曰有詔却兵卓曰公諸人爲國大臣不能匡正王室至使國家播蕩何却兵之有卓與帝語語不可了乃更與陳留王語問禍亂由起王答自初至終無所遺失卓大喜以王爲賢且爲董太后所養卓自以與太后同族遂有廢立之意是日帝還宮赦天下改光熹爲昭寧失傳國璽餘璽皆得之以丁原爲執金吾騎都尉鮑信自泰山募兵適至說袁紹曰董卓擁強兵將有異志今不早圖必爲所制及其新至疲勞襲之可禽也紹畏卓不敢發信乃引兵還泰山董卓之入也步騎不過三千自嫌兵少恐不爲遠近所服率四五日輒夜潛出軍

近營。明日乃大陳旌鼓而還。以爲西兵復至。雒中無知者。俄而進及弟苗部曲。皆歸於卓。卓又陰使丁原部曲司馬五原呂布殺原。而并其衆。卓兵於是大盛。乃諷朝廷。以久雨。策免司空劉弘。而代之。初蔡邕徙朔方。會赦得還。五原太守王智甫之弟也。奏邕謗訕朝廷。邕遂亡命江海。積十二年。董卓聞其名。而辟之。稱疾不就。卓怒。嘗曰。我能族人。邕懼而應命。到。署祭酒。甚見敬重。舉高第。三日之間。周歷三臺。遷爲侍中。○董卓謂袁紹曰。天下之主。宜得賢明。每念靈帝。令人憤毒。董侯似可。今欲立之。爲能勝史侯否。人有小智大癡。亦知復何如。爲當且爾。劉氏種不足復遺。紹曰。漢家君天下。四百許年。恩澤深渥。兆民戴之。今上富於春秋。未有不善。宣於天下。公欲廢嫡立庶。恐衆不從。公議也。卓按劍叱紹曰。豎子敢然。天下之事。豈不在我。我欲爲之。誰敢不從。爾謂董卓刀爲不利乎。紹勃然曰。天下健者。豈惟董公。引佩刀橫揖徑出。卓以新至。見紹大家。故不敢害。紹縣節於上東門。逃奔冀州。九月癸酉。卓大會百僚。奮首而言曰。皇帝闇弱。不可以奉宗廟。爲天下主。今欲依伊尹霍光故事。更立陳留王。何如。公卿以下。皆惶恐莫敢對。卓又抗言曰。昔霍光定策。延年按劍。有敢沮大議。皆以軍法從事。坐者震動。尙書盧植獨曰。昔太甲既立。不明。昌邑罪過千餘。故有廢立之事。今上富於春秋。行無失德。非前事之比也。卓大怒。罷坐。將殺植。蔡邕爲之請。議郎彭伯亦諫。卓曰。盧尙書海內大儒。人之望也。今先害之。天下震怖。卓乃止。但免植官。植遂逃隱於上谷。卓以廢立議。示太傅袁隗。隗報如議。甲戌。卓復會羣僚於崇德前殿。遂脅太后。策廢少帝曰。皇帝在喪。無人子之心。威儀不類人君。今廢爲弘農王。立陳留王協爲帝。袁隗解帝璽綬。以奉陳留王。扶弘農王下殿。北面稱臣。太后顛涕羣臣含悲。莫敢言者。卓又議。太后踰迫永樂宮。至令憂死。逆婦姑之禮。乃遷太后於永安宮。赦天下。改昭寧爲永漢。丙子。卓酖殺何太后。公卿以下。不布服。會葬。素衣而已。卓又發何苗棺。出其尸。支解節斷。棄於道邊。殺苗母舞陽君。棄尸於苑。

枳落中。○詔除公卿以下子弟爲郎。以補宦官之職。侍於殿上。○乙酉。以太尉劉虞爲大司馬。封襄贛侯。董卓自爲太尉。領前將軍事。加節傳斧鉞。虎賁更封郎侯。○丙戌。以太中大夫楊彪爲司空。○甲午。以豫州牧黃琬爲司徒。○董卓率諸公上書。追理陳蕃竇武。及諸黨人。悉復其爵位。遣使弔祠。擢用其子孫。○自六月雨。至于是月。○冬十月乙巳。葬靈思皇后。○白波賊寇河東。董卓遣其將牛輔擊之。初。南單于於扶羅既立。國人殺其父者。遂叛。共立須卜骨都侯爲單于。於扶羅詣闕自訟。會靈帝崩。天下大亂。於扶羅將數千騎。與白波賊合兵。寇郡縣。時民皆保聚。鈔掠無利。而兵遂挫傷。復欲歸國。國人不受。乃止。河東平陽。須卜骨都侯爲單于。一年而死。南庭遂虛其位。以老王行國事。○十一月。以董卓爲相國。贊拜不名。入朝不趨。劍履上殿。○十二月戊戌。以司徒黃琬爲太尉。司空楊彪爲司徒。光祿勳荀爽爲司空。初尙書武威周毖。城門校尉汝南伍瓊。說董卓矯桓靈之政。擢用天下名士。以收衆望。卓從之。命毖瓊與尙書鄭泰。長史何顒等。沙汰穢惡。顯拔幽滯。於是徵處士荀爽。陳紀。韓融。申屠蟠。復就拜爽平原相。行至宛陵。遷光祿勳。視事三日。進拜司空。自被徵命。及登台司。凡九十。至。獨申屠蟠得徵書。人勸之行。蟠笑而不答。卓終不能屈。年七十餘。以壽終。卓又以尙書韓馥爲冀州牧。侍中劉岱爲兖州刺史。陳留孔伋爲豫州刺史。東平張邈爲陳留太守。潁川張咨爲南陽太守。卓所親愛。竝不處顯職。但將校而已。○詔除光熹昭寧永漢三號。○董卓性殘忍。一旦專政。據有國家。甲兵珍寶。威震天下。所願無極。語賓客曰。我相貴無上也。侍御史擾龍宗。詣卓白事。不解劍。立槌殺之。是時。雒中貴戚。室第相望。金帛財產。家家充積。卓縱放兵士。突其廬舍。剽虜資物。妻略婦女。不避貴戚。人情崩恐。不保朝夕。卓購求袁紹急。周毖伍瓊說卓曰。夫廢立大事。非常人所及。袁紹不達大體。恐懼出奔。非有它志。今急購之。執必爲

變。袁氏樹恩四世，門生故吏，徧於天下。若收豪桀，以聚徒衆，英雄因之而起。則山東非公之有也。不如赦之，拜一郡守，紹喜於免罪，必無患矣。卓以爲然，乃卽拜紹勃海太守，封邯鄲侯。又以袁術爲後將軍，曹操爲驍騎校尉。術畏卓，出犇南陽。操變易姓名，間行東歸。過中牟，爲亭長所疑，執詣縣。時縣已被卓書，唯功曹心知是操，以世方亂，不宜拘天下雄雋，因白令釋之。操至，陳留散家財，合兵得五千人。是時豪桀多欲起兵討卓者，袁紹在勃海，冀州牧韓馥遣數郡從事守之，不得動搖。東郡太守橋瑁詐作京師三公移書，與州郡陳卓罪惡云。見逼迫，無以自救，企望義兵，解國患難，馥得移請諸從事，問曰：今當助袁氏邪？助董卓邪？治中從事劉子惠曰：今興兵爲國，何謂袁董卓？馥有慙色。子惠復言：兵者凶事，不可爲首。今宜往視他州有發動者，然後和之。冀州於他州不爲弱也。他人功未有在冀州之右者也。馥然之，馥乃作書與紹，道卓之惡，聽其舉兵。

孝獻皇帝甲

初平元年春正月，關東州郡皆起兵，以討董卓。推勃海太守袁紹爲盟主，紹自號車騎將軍。諸將皆板授官號。紹與河內太守王匡屯河內，冀州牧韓馥留鄴，給其軍糧。豫州刺史孔伷屯潁川，兖州刺史劉岱、陳留太守張邈、遼東太守超、東郡太守橋瑁、山陽太守袁遺、濟北相鮑信與曹操俱屯酸棗。後將軍袁術屯魯陽，衆各數萬。豪桀多歸心袁紹者，鮑信獨謂曹操曰：夫略不出世，能撥亂反正者，君也。苟非其人，雖彊必斃。君殆天之所啓乎？○辛亥，赦天下。○癸酉，董卓使郎中令李儒，酖殺弘農王辯。○卓議大發兵，以討山東。尚書鄭泰曰：夫政在德，不在衆也。卓不悅曰：如卿此言，兵爲無用邪？泰曰：非謂其然也。以爲山東不足加大兵耳。明公出自西州，少爲將帥，閑習軍事。袁本初公卿子弟，生處京師，張孟卓東平長者，坐

不闕堂。孔公緒清談高論，噓枯吹生，竝無軍旅之才。臨鋒決敵，非公之儔也。況王爵不加，尊卑無序。若恃衆怙力，將各碁峙，以觀成敗，不肯同心共膽，與齊進退也。且山東承平日久，民不習戰。關西頃遭羌寇，婦女皆能挾弓而鬪。天下所畏者，無若并涼之人。與羌胡義從，而明公擁之，以爲爪牙，譬猶驅虎兇，以赴犬羊。鼓烈風以掃枯葉，誰敢禦之。無事徵兵，以驚天下。使患役之民，相聚爲非，棄德恃衆，自虧威重也。卓乃悅。○董卓以山東兵盛，欲遷都以避之。公卿皆不欲，而莫敢言。卓表河南尹朱儁爲太僕，以爲己副。使者召拜，儁辭不肯受。因曰：國家西遷，必孤天下之望。以成山東之釁。臣不知其可也。使者曰：召君受拜，而君拒之，不問徙事，而君陳之，何也？儁曰：副相國，非臣所堪也。遷都非計，事所急也。辭所不堪，言其所急。臣之宜也。由是止不爲副。卓大會公卿，議曰：高祖都關中，十有一世。光武宮雒陽，於今亦十一世矣。案石包讖，宜徙都長安，以應天人之意。百官皆默然。司徒楊彪曰：移都改制，天下大事，故盤庚遷亳，殷民胥怨。昔關中遭王莽殘破，故光武更都雒邑。歷年已久，百姓安樂。今無故捐宗廟，棄園陵，恐百姓驚動，必有糜沸之亂。石包讖妖邪之書，豈可信用？卓曰：關中肥饒，故秦得并吞六國，且隴右材木自出，杜陵有武帝陶竈，并功營之，可使一朝而辦。百姓何足與議？若有前却，我以大兵驅之，可令詣滄海。彪曰：天下動之至易，安之甚難。惟明公慮焉。卓作色曰：公欲沮國計邪？太尉黃琬曰：此國之大事，楊公之言，得無可思？卓不答。司空荀爽見卓意壯，恐害彪等，因從容言曰：相國豈樂此邪？山東兵起，非一日可禁。故當遷以圖之。此秦漢之執也。卓意小解。琬退，又爲駁議。二月乙亥，卓以災異，奏免琬彪等，以光祿勳趙謙爲太尉。太僕王允爲司徒。城門校尉伍瓊督軍校尉周毖固諫遷都，卓大怒曰：卓初入朝，二君勸用善士，故卓相從。而諸君到官，舉兵相圖。此二君賣卓，卓何用相負？庚辰，收瓊毖斬之。楊彪黃琬恐懼，詣卓謝。卓亦悔殺瓊毖，乃復表彪爲光祿大夫。○卓徵京兆尹蓋勳爲議郎。時左將

軍皇甫嵩將兵三萬屯扶風。勳密與嵩謀討卓。卓亦微嵩爲城門校尉。嵩長史梁衍說嵩曰：「董卓寇掠京邑，廢立從意。今微將軍，大則危禍，小則困辱。今及卓在雒陽，天子來西，以將軍之衆迎接至尊，奉令討逆。微兵羣帥，袁氏逼其東，將軍迫其西，此成禽也。嵩不從，遂就微勳以衆弱不能獨立，亦還京師。卓以勳爲越騎校尉，河南尹朱儁爲卓陳軍事。卓折儁曰：「我百戰百勝，決之於心，卿勿妄說。」且汗我刀。蓋勳曰：「昔武丁之明，猶求箴諫，況如卿者而欲杜人之口乎？」卓乃謝之。○卓遣軍至陽城，值民會於社下，悉就斬之，駕其車重載其婦女，以頭繫車轅，歌呼還雒。云：「攻賊大獲，卓焚燒其頭，以婦女與甲兵爲婢妾。」○丁亥，車駕西遷。董卓收諸富室，以罪惡誅之，沒入其財物。死者不可勝計。悉驅徙其餘民數百萬口於長安。步騎驅蹙，更相蹈藉，餓餓寇掠，積尸盈路。卓自留屯畢圭苑中，悉燒官廟官府居家。二百里內，室屋蕩盡。無復雞犬。又使呂布發諸帝陵及公卿以下冢墓，收其珍寶。卓獲山東兵，以猪膏塗布十餘匹，用纏其身，然後燒之。先從足起。○三月乙巳，車駕入長安。居京兆府舍，後乃稍葺宮室而居之。時董卓未至，朝政大小皆委之王允。允外相彌縫，內謀王室。甚有大臣之度。自天子及朝中皆倚允。允屈意承卓。卓亦雅信焉。○董卓以袁紹之故，戊午殺太傅袁隗。太僕袁基及其家尺口以上五十餘人。○初，荊州刺史王叡與長沙太守孫堅共擊零桂賊。以堅武官言頗輕之。及州郡舉兵討董卓，叡與堅亦皆起兵。叡素與武陵太守曹寅不相能。揚言當先殺寅。寅懼詐作按行使者檄移堅，說叡罪過，令收行刑。訖以狀上。堅承檄，即勒兵襲叡。叡聞兵至，登樓望之。遣問欲何爲。堅前部答曰：「兵久戰勞苦，欲詣使君求資直耳。叡見堅，驚曰：「兵自求賞，孫府君何以在其中？」堅曰：「被使者檄誅君，叡曰：「我何罪？」堅曰：「坐無所知。」叡窮迫，刮金飲之而死。堅前至南陽，衆已數萬人。南陽太守張咨不肯給軍糧。堅誘而斬之。郡中震慄，無求不獲。前到魯陽，與袁術合兵。術由是得據南陽。表堅行破虜將軍，領豫州刺史。詔以

北軍中候劉表爲荊州刺史。時寇賊縱橫，道路梗塞，表單馬入宜城，請南郡名士蒯良、蒯越與之謀。曰：「今江南宗賊甚盛，各擁衆不附。若袁術因之禍必至矣。吾欲徵兵，恐不能集。其策焉出？」蒯良曰：「衆不附者，仁不足也。附不治者，義不足也。苟仁義之道行，百姓歸之，如水之趣下。何患徵兵之不集乎？」蒯越曰：「袁術驕而無謀，宗賊帥多貪暴，爲下所患。若使人示之以利，必以衆來。使君誅其無道，撫而用之，一州之人有樂存之心，聞君威德，必襁負而至矣。兵集衆附，南據江陵，北守襄陽，荊州八郡可傳檄而定。公路雖至，無能爲也。表曰：「善。」乃使越誘宗賊帥至者五十五人，皆斬之，而取其衆，遂徙治襄陽。鎮撫郡縣，江南悉平。○董卓在雒陽，袁紹等諸軍皆畏其彊，莫敢先進。曹操曰：「舉義兵以誅暴亂，大衆已合，諸君何疑？」向使董卓倚王室，據舊京，東向以臨天下，雖以無道行之，猶足爲患。今焚燒宮室，劫遷天子，海內震動，不知所歸。此天亡之時也。一戰而天下定矣。」遂引兵西，將據成臯。張邈遣將衛茲分兵隨之。進至滎陽，汴水遇卓將玄菟徐榮與戰，操兵敗，爲流矢所中。所乘馬被創，從弟洪以馬與操，操不受。洪曰：「天下可無洪，不可無君。」遂步從操。夜遁去。榮見操所將兵少，力戰盡日。謂酸棗未易攻也。亦引兵還。操到酸棗，諸軍十餘萬，日置酒高會，不圖進取。操責讓之，因爲謀曰：「諸君能聽吾計，使勃海引河內之衆，臨孟津，酸棗諸將守成臯，據放倉，塞輜轅，太谷全制其險，使袁將軍率南陽之軍，軍丹析，入武關，以震三輔，皆高壘深壁，勿與戰，益爲疑兵，示天下形勢，以順誅逆，可立定也。今兵以義動，持疑不進，失天下望，竊爲諸君恥之。」邈等不能用。操乃與司馬沛國夏侯惇等詣揚州，募兵得千餘人，還屯河內。頃之，酸棗諸軍食盡，衆散。劉岱與橋瑁相惡，岱殺瑁。以王肱領東郡太守，青州刺史焦和亦起兵討董卓。務及諸將西行，不爲民人保障。兵始濟河，黃巾已入其境。青州素殷實，甲兵甚盛，和每望寇犇北，未嘗接風塵。交旗鼓也。性好卜筮，信鬼神，入見其人，清談于雲，出觀其政，賞罰淆亂。州遂蕭條，悉爲丘墟。頃之，

和病卒。袁紹使廣陵臧洪領青州，以撫之。○夏四月，以幽州牧劉虞為太傅，道路壅塞，信命竟不得通。先是，幽部應接荒外，資費甚廣，歲常割青冀賦調二億有餘，以足之。時處處斷絕，委輸不至，而虞敝衣繩屨，食無兼肉，務存寬政，勸督農桑，開上谷胡市之利，通漁陽鹽鐵之饒，民悅年登，穀石三十。青徐士庶避難歸虞者，百餘萬口。虞皆收視，溫卹為安立生業，流民皆忘其遷徙焉。○五月，司空荀爽薨。○六月辛丑，以光祿大夫种拂為司空，拂，邵之父也。○董卓遣大鴻臚韓融、少府陰脩、執金吾胡母班、將作大匠吳脩、越騎校尉王瓌、安集關東解譬袁紹等。胡母班、吳脩、王瓌至河內，袁紹使王匡悉收擊殺之。袁術亦殺陰脩、韓融，以名德免。○董卓壞五銖錢，更鑄小錢，悉取雒陽及長安銅人鐘虡，飛廉銅馬之屬，以鑄之。由是貨賤物貴，穀石至數萬錢。○冬，孫堅與官屬會飲於魯陽城東，董卓步騎數萬猝至，堅方行酒談笑，整頓部曲，無得妄動。後騎漸益，堅徐罷坐，導引入城，乃曰：向堅所以不即起者，恐兵相蹈藉，諸君不得入耳。卓兵見其整，不敢攻而還。○王匡屯河陽津，董卓襲擊，大破之。○左中郎將蔡邕議：孝和以下廟號稱宗者，皆宜省去，以遵先典，從之。○中郎將徐榮薦同郡故冀州刺史公孫度於董卓，卓以為遼東太守，度到官，以法誅滅郡中名豪大姓百餘家，郡中震慄。乃東伐高句驪，西擊烏桓，語所親吏柳毅、陽儀等曰：漢祚將絕，當與諸卿圖王耳。於是分遼東為遼西、中、遼郡，各置太守，越海收東萊諸縣，置營州刺史，自立為遼東侯，平州牧，立漢二祖廟，承制郊祀天地，藉田，乘鸞路，設旄頭羽騎。

資治通鑑卷第五十九

資治通鑑卷第六十

漢紀五十二

孝獻皇帝乙

初平二年春正月辛丑，赦天下。○關東諸將議以朝廷幼冲，迫於董卓，遠隔關塞，不知存否，幽州牧劉虞宗室賢雋，欲共立為主。曹操曰：吾等所以舉兵而遠近莫不響應者，以義動故也。今幼主微弱，制於姦臣，非有昌邑亡國之釁，而一旦改易，天下其孰安之？諸君北面，我自西向，韓馥、袁紹以書與袁術曰：帝非孝靈子，欲依絳灌誅廢少主，迎立代王，故事奉大司馬虞為帝，術陰有不臣之心，不利國家，有長君，乃外託公義，以拒之。紹復與術書曰：今西名有幼君，無血脉之屬，公卿以下皆媚事卓，安可復信？但當使兵往屯關要，皆自蹙死。東立聖君，太平可冀，如何有疑？又室家見戮，不念子胥，可復北面乎？術答曰：聖主聰叡，有周成之質，賊卓因危亂之際，威服百寮，此乃漢家小厄之會，乃云今上無血脉之屬，豈不誣乎？又曰：室家見戮，可復北面，此卓所為，豈國家哉？懷懷赤心，志在滅卓，不識其他。馥紹竟遣故樂浪太守張岐等齎議上，虞尊號，虞見岐等厲色叱之曰：今天下崩亂，主上蒙塵，吾被重恩，未能清雪國恥，諸君各據州郡，宜共勦力，盡心王室，而反造逆謀，以相垢汙，邪固拒之。馥等又請虞領尚書事，承制封拜，復不聽。欲犇匈奴，以自絕。紹等乃止。○二月丁丑，以董卓為太師，位在諸侯王上。○孫堅移屯梁東，為卓將徐榮所敗，復收散卒，進屯陽人。卓遣東郡太守胡軫督步騎五千擊之，以呂布為騎督，軫與布不相得，堅出擊，大破之，梟其都督華雄，或謂袁術曰：堅

若得雒不可復制。此爲除狼而得虎也。術疑之。不運軍糧。堅夜馳見術。畫地計校曰。所以出
身不顧者。上爲國家討賊。下慰將軍家門之私讎。堅與卓非有骨肉之怨也。而將軍受浸潤
之言。還相嫌疑。何也。術蹶踏。卽調發軍糧。堅還屯。卓遣將軍李傕說堅。欲與和親。令堅疏子
弟任刺史郡守者。許表用之。堅曰。卓逆天無道。今不夷汝三族。縣示四海。則吾死不瞑目。豈
將與乃和親邪。復進軍大谷。距雒九十里。卓自出與堅戰於諸陵間。卓敗走。卻屯澠池。聚兵
於陝。堅進至雒陽。擊呂布。復破走。堅乃掃除宗廟祠以太牢。得傳國璽於城南甄官井中。分
兵出新安澠池間。以要卓。卓謂長史劉艾曰。關東軍敗數矣。皆畏孤。無能爲也。惟孫堅小戇。
頗能用人。當語諸將。使知忌之。孤昔與周慎。西征邊韓於金城。孤語張溫。求引所將兵。爲慎
作後駐。溫不聽。溫又使孤討先零。叛羌欲歸道。孤知其不克。而不得止。遂行。留別部司馬劉靖。將步
騎四千屯安定。以爲聲勢。叛羌欲歸道。孤小擊輒開。畏安定有兵故也。虜謂安定當數萬
人。不知但靖也。而孫堅隨周慎行。謂慎求先將萬兵。造金城。使慎以二萬作後駐。邊韓畏慎
大兵。不敢輕與堅戰。而堅兵足以斷其運道。兒曹用其言。涼州或能定也。溫旣不能用孤。慎
又不能用堅。卒用敗走。堅以佐軍司馬所見略與人同。固自爲可。但無故從諸袁兒。終亦死
耳。乃使東中郎將董越屯澠池。中郎將段熲屯華陰。中郎將牛輔屯安邑。其餘諸將布在諸
縣。以禦山東。輔卓之壻也。卓引還長安。孫堅修塞諸陵。引軍還魯陽。○夏四月。董卓至長安。
公卿皆迎拜車下。卓抵手謂御史中丞皇甫嵩曰。義真怖未乎。嵩曰。明公以德輔朝廷。大慶
方至。何怖之有。若淫刑以逞。將天下皆懼。豈獨嵩乎。卓黨欲尊卓比太公稱尙父。卓以問蔡
邕。邕曰。明公德誠爲巍巍。然比之太公。愚意以爲未可。宜須關東平定。車駕還反舊京。然
後議之。卓乃止。卓使司隸校尉劉翳籍吏民。有爲子不孝。爲臣不忠。爲吏不清。爲弟不順者。
皆身誅。財物沒官。於是更相誣引。冤死者以千數。百姓囂囂。道路以目。○六月丙戌。地震。○

秋七月。司空种拂免。以光祿大夫濟南淳于嘉爲司空。太尉趙謙罷。以太常馬日磾爲太尉。○
初何進遣雲中張楊還并州募兵。會進敗。楊留上黨。有衆數千人。袁紹在河內。楊往歸之。與
南單于於扶羅屯漳水。韓馥以豪傑多歸心。袁紹忌之。陰貶節其軍糧。欲使其衆離散。會馥
將麴義叛。馥與戰而敗。紹因與義相結。紹客逢紀謂紹曰。將軍舉大事。而仰人資給。不據一州。
無以自全。紹曰。冀州兵強。吾士饑乏。設不能辦。無所容立。紀曰。韓馥庸才。可密要公孫瓚。使
取冀州。馥必駭懼。因遣辯士爲陳禍福。馥迫於倉卒。必肯遜讓。紹然之。卽以書與瓚。瓚遂引
兵而至。外託討董卓。而陰謀襲馥。馥與戰不利。會董卓入關。紹還軍延津。使外甥陳留高幹
及馥所親潁川辛評。荀誥。郭圖等說馥曰。公孫瓚將燕代之卒。乘勝來南。而諸郡應之。其鋒不
可當。袁車騎引軍東向。其意未可量也。竊爲將軍危之。馥懼曰。然則爲之奈何。誥曰。君自料
寬仁容衆。爲天下所附。孰與袁氏。馥曰。不如也。臨危吐決。智勇過人。又孰與袁氏。馥曰。不如
也。世布恩德。天下家受其惠。又孰與袁氏。馥曰。不如也。誥曰。袁氏一時之傑。將軍資三不如
之勢。久處其上。彼必不爲將軍下也。夫冀州天下之重資也。彼若與公孫瓚并力取之。危亡
可立而待也。夫袁氏將軍之舊。且爲同盟。當今之計。若舉冀州。以讓袁氏。彼必厚德將軍。瓚
亦不能與之爭矣。是將軍有讓賢之名。而身安於泰山也。馥性恇怯。因然其計。馥長史耿武。
別駕閔純。治中李歷。聞而諫曰。冀州帶甲百萬。穀支十年。袁紹孤客窮軍。仰我鼻息。譬如嬰
兒在股掌之上。絕其哺乳。立可餓殺。柰何欲以州與之。馥曰。吾袁氏故吏。且才不如本初。度德
而讓。古人所貴。諸君獨何病焉。先是馥從事趙浮。程煥將彊弩萬張。屯孟津。聞之。率兵馳還。
時紹在朝歌清水。浮等從後來。船數百艘。衆萬餘人。整兵鼓夜過。紹營。紹甚惡之。浮等到。謂
馥曰。袁本初軍無斗糧。各已離散。雖有張楊於扶羅新附。未肯爲用。不足敵也。小從事等請
以見兵拒之。旬日之間。必土崩瓦解。明將軍但當開閣高枕。何憂何懼。馥又不聽。乃避位出

居。中常侍趙忠故舍遣子送印綬以讓紹。紹將至。從事十人爭棄去。獨耿武、閔純、杖刀拒之。不能禁。乃止。紹皆殺之。紹遂領冀州牧。承制以馥爲奮威將軍。而無所將御。亦無官屬。紹以廣平沮授爲奮武將軍。使監護諸將。寵遇甚厚。魏郡審配、鉅鹿田豐。竝以正直不得志於韓馥。紹以豐爲別駕。配爲治中。及南陽許攸、逢紀、潁川荀彧。皆爲謀主。紹以河內朱漢爲都官從事。漢先爲韓馥所不禮。且欲微迎紹意。擅發兵圍守馥第。拔刃登屋。馥走上樓。收得馥大兒。槌折兩脚。紹立收漢殺之。馥猶憂怖。從紹索去。往依張邈。後紹遣使詣邈。有所計議。與邈耳語。馥在坐上。謂爲見圖。無何起至。涸以書刀自殺。鮑信謂曹操曰。袁紹爲盟主。因權專利。將自生亂。是復有一卓也。若抑之。則力不能制。祇以避難。且可規大河之南。以待其變。操善之。會黑山于毒、白繞、眭固等十餘萬衆。略東郡。王肱不能禦。曹操引兵入東郡。擊白繞於濮陽。破之。袁紹因表操爲東郡太守。治東武陽。○南單于劫張楊以叛。袁紹屯於黎陽。董卓以楊爲建義將軍。河內太守。○太史望氣言。當有大臣戮死者。董卓使人誣衛尉張溫。與袁術交通。冬十月壬戌。笞殺溫於市。以應之。○青州黃巾寇勃海。衆三十萬。欲與黑山合。公孫瓚率步騎二萬人逆擊於東光南。大破之。斬首三萬餘級。賊棄其輜重。犇走度河。瓚因其半濟薄之。賊復大破。死者數萬。流血丹水。收得生口七萬餘人。車甲財物不可勝算。威名大震。○劉虞子和爲侍中。帝思東歸。使和僞逃。董卓潛出武關。詣虞。令將兵來迎。和至南陽。袁術利虞爲援。留和不遣。許兵至俱西。令和爲書與虞。虞得書。遣數千騎詣和。公孫瓚知術有異志。止之。虞不聽。瓚恐術聞而怨之。亦遣其從弟越將千騎詣術。而陰教術執和。奪其兵。由是虞瓚有隙。和逃術來北復爲袁紹所留。是時關東州郡務相兼并。以自彊大。袁紹、袁術亦自離貳。術遣孫堅擊董卓。未返。紹以會稽周昂爲豫州刺史。襲奪堅陽城。堅歎曰。同舉義兵。將救社稷。逆賊垂破而各若此。吾當誰與戮力乎。引兵擊昂。走之。袁術遣公孫越助堅攻昂。越爲

流矢所中死。公孫瓚怒曰。余弟死。禍起於紹。遂出軍屯磐河。上書數紹罪惡。進兵攻紹。冀州諸城多叛。紹從瓚。紹懼。以所佩勃海太守印綬授瓚。瓚從弟範遣之。郡而範遂背紹。領勃海兵以助瓚。瓚乃自署其將帥。嚴綱爲冀州刺史。田楷爲青州刺史。單經爲兖州刺史。又悉改置郡縣守令。○初。涿郡劉備。中山靖王之後也。少孤貧。與母以販履爲業。長七尺五寸。垂手下。髯。顧自見其耳。有大志。少語言。喜怒不形於色。嘗與公孫瓚同師事盧植。由是往依瓚。瓚使備與田楷徇青州有功。因以爲平原相。備少與河東關羽、涿郡張飛相友善。以羽飛爲別部司馬。分統部曲。備與二人寢則同牀。恩若兄弟。而稠人廣坐。侍立終日。隨備周旋。不避艱險。常山趙雲爲本郡將吏兵。詣公孫瓚。瓚曰。聞貴州人皆願袁氏。君何獨迷而能反乎。雲曰。天下誦誦未知孰是。民有倒縣之厄。鄙州論議從仁政所在。不爲忽。袁公私明將軍也。劉備見而奇之。深加接納。雲遂從備。至平原。爲備主騎兵。○初。袁術之得南陽。戶口數百萬。而術奢淫肆欲。徵斂無度。百姓苦之。稍稍離散。既與袁紹有隙。各立黨援。以相圖謀。術結公孫瓚。而紹連劉表。豪傑多附於紹。術怒曰。羣豎不吾從。而從吾家奴乎。又與公孫瓚書曰。紹非袁氏子。紹聞大怒。術使孫堅擊劉表。表遣其將黃祖逆戰於樊鄧之間。堅擊破之。遂圍襄陽。表夜遣黃祖潛出發兵。祖將兵欲還。堅逆與戰。祖敗走。竄峴山中。堅乘勝夜追祖。祖部曲兵從竹木間暗射。堅殺之。堅所舉孝廉長沙桓階。詣表請堅喪。表義而許之。堅兄子賁率其士衆就袁術。術復表賁爲豫州刺史。術由是不能勝表。○初。董卓入關。留朱儁守雒陽。而儁潛與山東諸將通謀。懼爲卓所襲。出犇荊州。卓以弘農楊懿爲河南尹。儁復引兵還雒陽。擊懿。走之。儁以河南殘破。無所資。乃東屯中牟。移書州郡。請師討卓。徐州刺史陶謙上儁行車騎將軍。遣精兵三千助之。餘州郡亦有所給。謙、丹陽人。朝廷以黃巾寇亂。徐州用謙爲刺史。謙至擊黃巾。大破走之。州境晏然。○劉焉在益州。陰圖異計。沛人張魯自祖父陵以來。世爲五斗米道。

客居于蜀魯母以鬼道常往來焉家焉乃以魯爲督義司馬以張脩爲別部司馬與合兵掩殺漢中太守蘇固斷絕斜谷閣殺害漢使焉上書言米賊斷道不得復通又託他事殺州中豪彊王咸李權等十餘人以立威刑隄爲太守任岐及校尉賈龍由此起兵攻焉焉擊殺岐龍焉意漸盛作乘輿車具千餘乘劉表上焉有似子夏在西河疑聖人之論時焉子範爲左中郎將誕爲治書御史璋爲奉車都尉皆從帝在長安惟小子別部司馬瑁素隨焉帝使璋曉諭焉焉留璋不遣○公孫度威行海外中國人士避亂者多歸之北海管寧邴原王烈皆往依焉寧少時與華歆爲友嘗與歆共鋤菜見地有金寧揮鋤不顧與瓦石無異歆捉而擲之入以是知其優劣邴原遠行遊學八九年而歸師友以原不飲酒會米肉送之原曰本能飲酒但以荒思廢業故斷之耳今當遠別可一飲燕於是共坐飲酒終日不醉寧原俱以操尚稱度虛館以候之寧既見度乃廬於山谷時避難者多居郡南而寧獨居北示無還志後漸來從之旬月而成邑寧每見度語唯經典不及世事還山專講詩書習俎豆非學者無見也由是度安其賢民化其德邴原性剛直清議以格物度以下心不安之寧謂原曰潛龍以不見成德言非其時皆招禍之道也密遣原逃歸度聞之亦不復追也王烈器業過人少時名聞在原寧之右善於教誘鄉里有盜牛者主得之盜請罪曰刑戮是甘乞不使王彥方知也烈聞而使入謝之遺布一端或問其故烈曰盜懼吾聞其過是有恥惡之心既知恥惡則善心將生故與布以勸爲善也後有老父遺劍於路行道一人見而守之至暮老父還尋得劍怪之以事告烈烈使推求乃先盜牛者也諸有爭訟曲直將質之於烈或至塗而反或望廬而還皆相推以直不敢使烈聞之度欲以爲長史烈辭之爲商賈以自穢乃免

三年春正月丁丑赦天下○董卓遣牛輔將兵屯陝輔分遣校尉北地李傕張掖郭汜武威張濟將步騎數萬擊破朱儁於中牟因掠陳留潁川諸縣所過殺虜無遺初荀淑有孫曰或少有才名何顒見而異之曰王佐才也及天下亂或謂父老曰潁川四戰之地宜亟避之鄉人多懷土不能去或獨率宗族去依韓馥會袁紹已奪馥位待或以上賓之禮或度紹終不能定大業聞曹操有雄略乃去紹從操操與語大悅曰吾子房也以爲奮武司馬其鄉人留者多爲催汜等所殺○袁紹自出拒公孫瓚與瓚戰於界橋南二十里瓚兵三萬其鋒甚銳紹令麴義領精兵八百先登彊弩千張夾承之瓚輕其兵少縱騎騰之義兵伏楯下不動未至十數步一時同發謹呼動地瓚軍大敗斬其所置冀州刺史嚴綱獲甲首千餘級追至界橋瓚斂兵還戰義復破之遂到瓚營拔其牙門餘衆皆走初兖州刺史劉岱與紹瓚連和紹令妻子居岱所瓚亦遣從事范方將騎助岱及瓚擊破紹軍語岱令遣紹妻子別救范方若岱不遣紹家將騎還吾定紹將加兵於岱岱與官屬議連日不決聞東郡程昱有智謀召而問之昱曰若棄紹近援而求瓚遠助此假人於越以救溺子之說也夫公孫瓚非袁紹之敵也今雖壞紹軍然終爲紹所禽岱從之范方將其騎歸未至而瓚敗○曹操軍頓丘于毒等攻東武陽操引兵西入山攻毒等本屯諸將皆請救武陽操曰使賊聞我西而還武陽自解也不還我能敗其本屯虜不能拔武陽必矣遂行毒聞之棄武陽還操遂擊眭固及匈奴於扶羅於內黃皆大破之○董卓以其弟旻爲左將軍兄子璜爲中軍校尉皆典兵事宗族內外竝列朝廷卓侍妾懷抱中子皆封侯弄以金紫卓車服僭擬天子召呼三臺尚書以下皆自詣卓府啓事又築塢於郿高厚皆七丈積穀爲三十年儲自云事成雄據天下不成守此足以畢老卓忍于誅殺諸將言語有蹉跌者便戮於前人不聊生司徒王允與司隸校尉黃琬僕射士孫瑞尚書楊瓚密謀誅卓中郎將呂布便弓馬膂力過人卓自以遇人無禮行止常以布自衛甚愛信之誓爲父子然卓性剛褊嘗小失卓意卓拔手戟擲布布拳捷避之而改容顧謝卓意亦解布由是陰怨于卓卓又使布守中閣而私於傅婢益不自安王允素善

待布。布見允，自陳卓幾見殺之狀。允因以誅卓之謀告布，使爲內應。布曰：「如父子何？」曰：「君自姓呂，本非骨肉。今憂死不暇，何謂父子？擲戟之時，豈有父子情邪？」布遂許之。夏四月辛巳，帝有疾，新愈，大會未央殿。卓朝服乘車而入，陳兵夾道，自營至宮。左步右騎，屯衛周帟。令呂布等扞衛前後。王允使士孫瑞自書詔以授布，布令同郡騎都尉李肅與勇士秦誼、陳衛等十餘人，僞著衛士服，守北掖門內，以待卓。卓入門，肅以戟刺之。卓衷甲不入，傷臂墮車。顧大呼曰：「呂布何在？」布曰：「有詔討賊臣。」卓大罵曰：「庸狗敢如是邪？」布應聲持矛刺卓，趣兵斬之。主簿田儀及卓蒼頭前赴其尸。布又殺之。凡所殺三人，布卽出懷中詔版以令吏士曰：「詔討卓耳，餘皆不問。」吏士皆正立不動。大稱萬歲。百姓歌舞於道。長安中士女賣其珠玉衣裝，市酒肉相慶者，填滿街肆。弟旻、瓚等及宗族老弱在郿，皆爲其羣下所斫射死。暴卓尸於市。天時始熱，卓素充肥，脂流於地。守尸吏爲大炷，置卓躋中，然之。光明達曙，如是積日。諸袁門生聚董氏之尸，焚灰揚之於路。塢中有金二三萬斤，銀八九萬斤，錦綺奇玩積如丘山。以王允錄尚書事，呂布爲奮威將軍，假節儀比三司，封溫侯，共秉朝政。卓之死也，左中郎將高陽侯蔡邕在王允坐，聞之驚歎。允勃然叱之曰：「董卓國之大賊，幾亡漢室，君爲王臣，所宜同疾，而懷其私遇，反相傷痛，豈不共爲逆哉？」卽收付廷尉。邕謝曰：「身雖不忠，古今大義耳。所厭聞口所常玩，豈當背國而嚮卓也？願隳首刎足，繼成漢史。」士大夫多矜救之，不能得。太尉馬日磾謂允曰：「伯喈曠世逸才，多識漢事，當續成後史，爲一代大典，而所坐至微，誅之無乃失人望乎？」允曰：「昔武帝不殺司馬遷，使作謗書，流於後世。方今國祚中衰，戎馬在郊，不可令佞臣執筆，在幼主左右，旣無益聖德，復使吾黨蒙其訕議，日磾退而告人曰：「王公其無後乎？」善人國之紀也。制作國之典也。滅紀廢典，其能久乎？」邕遂死獄中。初，黃門侍郎荀攸與尚書鄭泰、侍中种輯等謀曰：「董卓驕忍無親，雖資彊兵實一匹夫耳，可直刺殺也。」事垂就而覺，攸繫獄，泰逃。

犇袁術，攸言語飲食自若。會卓死得免。○青州黃巾寇兖州，劉岱欲擊之，濟北相鮑信諫曰：「今賊衆百萬，百姓皆震恐，士卒無鬪志，不可敵也。然賊軍無輜重，唯以鈔略爲資，今不若畜士衆之力，先爲固守，彼欲戰不得，攻又不能，其勢必離散。然後選精銳據要害，擊之可破也。岱不從，遂與戰，果爲所殺。曹操部將東郡陳宮謂操曰：「州今無主，而王命斷絕，宮請說州中綱紀，明府尋往牧之，資之以收天下。此霸王之業也。」宮因往說別駕治中曰：「今天下分裂，而州無主，曹東郡命世之才也。若迎以牧州，必寧生民。鮑信等亦以爲然，乃與州吏萬潛等至東郡，迎操領兖州刺史，操遂進兵擊黃巾於壽張，東不利，賊衆精悍，操兵寡弱，操撫循激勵，明設賞罰，承間設奇，晝夜會戰，戰輒禽獲，賊遂退走。鮑信戰死，操購求其喪，不得，乃刻木如信狀，祭而哭焉。詔以京兆金尚爲兖州刺史，將之部，操逆擊之。尚犇袁術。○五月，以征西將軍皇甫嵩爲車騎將軍。○初，呂布勸王允盡殺董卓部曲，允曰：「此輩無罪，不可。布欲以卓財物班賜公卿將校，允又不從。允素以劍客遇布，布負其功勞，多自誇伐，旣失意，望漸不相平。允性剛稜疾惡，初懼董卓，故折節下之。卓旣殲滅，自謂無復患難，頗自驕傲，以是羣下不甚附之。允始與士孫瑞議，特下詔赦卓部曲，旣而疑曰：「部曲從其主耳，今若名之惡逆而赦之，恐適使深自疑，非所以安之也。」乃止。又議悉罷其軍，或說允曰：「涼州人素憚袁氏，而畏關東，今若一旦解兵開關，必人人自危，可以皇甫嵩義真爲將軍，就領其衆，因使留陝，以安撫之。」允曰：「不然。關東舉義兵者，皆吾徒也。今若距險屯陝，雖安涼州，而疑關東之心，不可也。時百姓訛言，當悉誅涼州人，卓故將校遂轉相恐動，皆擁兵自守，更相謂曰：「蔡伯喈但以董公親厚，尙從坐。今旣不赦我曹，而欲使解兵，今日解兵，明日當復爲魚肉矣。」呂布使李肅至陝，以詔命誅牛輔，輔等逆與肅戰，肅敗走弘農。布誅殺之，輔懼失守，會營中無故自驚，輔欲走，爲左右所殺。李傕等還，輔已死，傕等無所依，遣使詣長安求救。王允曰：「一歲不可再赦，不許。」

催等益懼。不知所爲。欲各解散。間行歸鄉里。討虜校尉武威賈詡曰。諸君若棄軍單行。則一亭長能束君矣。不如相率而西。以攻長安。爲董公報仇。事濟。奉國家以正天下。若其不合。走未晚也。催等然之。乃相與結盟。率軍數千。晨夜西行。王允以胡文才。楊整脩。皆涼州大人。召使東解。釋之。不假借以溫顏。謂曰。關東鼠子。欲何爲邪。卿往呼之。於是二人往。實召兵而還。催隨道收兵。比至長安。已十餘萬。與卓故部曲樊稠。李蒙等合。圍長安城。城峻不可攻。守之八日。呂布軍有叟兵。內反。六月。戊午。引催衆入城。放兵虜掠。布與戰城中。不勝。將數百騎。以卓頭繫馬鞍。出走。駐馬青瑣門外。招王允同去。允曰。若蒙社稷之靈。上安國家。吾之願也。如其不獲。則奉身以死之。朝廷幼少。恃我而已。臨難苟免。吾不忍也。努力謝關東諸公。勤以國家爲念。太常种拂曰。爲國大臣。不能禁暴禦侮。使白刃向宮。去將安之。遂戰而死。催汜屯南宮掖門。殺太僕魯廵。大鴻臚周奐。城門校尉崔烈。越騎校尉王頎。吏民死者萬餘人。狼藉滿道。王允扶帝。上宣平門。避兵。催等於城門下。伏地叩頭。帝謂催等曰。卿等放兵縱橫。欲何爲乎。催等曰。董卓忠於陛下。而無故爲呂布所殺。臣等爲卓報讎。非敢爲逆也。請事畢。詣廷尉受罪。催等圍門樓。共表請司徒王允出問。太師何罪。允窮蹙。乃下見之。己未。赦天下。以李催爲揚武將軍。郭汜爲揚烈將軍。樊稠等皆爲中郎將。催等收司隸校尉黃琬殺之。初。王允以同郡宋翼爲左馮翊。王宏爲右扶風。催等欲殺允。恐二郡爲患。乃先徵翼。宏遣使謂翼曰。郭汜李催以我二人在外。故未危王公。今日就徵。明日俱族。計將安出。翼曰。雖禍福難量。然王命所不得避也。宏曰。關東義兵鼎沸。欲誅董卓。今卓已死。其黨與易制耳。若舉兵共討催等。與山東相應。此轉禍爲福之計也。翼不從。宏不能獨立。遂俱就徵。甲子。催收允及翼。宏并殺之。允妻子皆死。宏臨命。詬曰。宋翼豎儒。不足議大計。催尸王允於市。莫敢收者。故吏平陵令京兆趙戩棄官。收而葬之。始允自專討卓之勞。士孫瑞歸功不候。故得免於難。

臣光曰。易稱勞謙。君子有終。吉。士孫瑞有功不伐。以保其身。可不謂之智乎。

催等以賈詡爲左馮翊。欲侯之。詡曰。此救命之計。何功之有。固辭不受。又以爲尙書僕射。詡曰。尙書僕射。官之師長。天下所望。詡名不素重。非所以服人也。乃以爲尙書。○呂布自武關。犇南陽。袁術待之甚厚。布自恃有功於袁氏。恣兵鈔掠。術患之。布不自安。去從張楊於河內。李催等購求布急。布又逃歸袁紹。○丙子。以前將軍趙謙爲司徒。○秋。七月。庚子。以太尉馬日磾爲太傅。錄尙書事。○八月。以車騎將軍皇甫嵩爲太尉。○詔太傅馬日磾。太僕趙岐。杖節鎮撫關東。○九月。以李催爲車騎將軍。領司隸校尉。假節。郭汜爲後將軍。樊稠爲右將軍。張濟爲驃騎將軍。皆封侯。催汜稠筮朝。濟出屯弘農。○司徒趙謙罷。○甲申。以司空淳于嘉爲司徒。光祿大夫楊彪爲司空。錄尙書事。○初。董卓入關。說韓遂。馬騰與共圖山東。遂騰率衆詣長安。會卓死。李催等以遂爲鎮西將軍。遣還金城。騰爲征西將軍。遣屯郿。○冬。十月。荊州刺史劉表遣使貢獻。以表爲鎮南將軍。荊州牧。封成武侯。○十二月。太尉皇甫嵩免。以光祿大夫周忠爲太尉。參錄尙書事。○曹操追黃巾。至濟北。悉降之。得戎卒三十餘萬。男女百餘萬口。收其精銳者。號青州兵。操辟陳留毛玠爲治中從事。玠言於操曰。今天下分崩。乘輿播蕩。生民廢業。饑饉流亡。公家無經歲之儲。百姓無安固之志。難以持久。夫兵義者勝。守位以財。宜奉天子。以令不臣。脩耕植。以畜軍資。如此則霸王之業可成也。操納其言。遣使詣河內太守張楊。欲假塗西至長安。楊不聽。定陶董昭說楊曰。袁曹雖爲一家。勢不久羣。曹今雖弱。然實天下之英雄也。當故結之。況今有緣。宜通其上事。并表薦之。若事有成。永爲深分。楊於是通操上事。仍表薦操。昭爲操作書。與李催郭汜等。各隨輕重。致殷勤。催汜見操使。以爲關東欲自立天子。今曹操雖有使命。非其誠實。議留操使。黃門侍郎鍾繇說催汜曰。方今英雄並起。各矯命專制。唯曹兗州乃心王室。而逆其忠欸。非所以副將來之望也。催汜乃厚

加報答。繇皓之曾孫也。○徐州刺史陶謙與諸守相共奏記。推朱儁爲太師。因移檄收伯欲。以同討李傕等。奉迎天子。會李傕用太尉周忠。尚書賈詡策。徵儁入朝。儁乃辭謙議。而就徵。復爲太僕。○公孫瓚復遣兵擊袁紹。至龍湊。紹擊破之。瓚遂還幽州。不敢復出。○揚州刺史汝南陳溫卒。袁紹使袁遺領揚州。袁術擊破之。遺走至沛。爲兵所殺。術以下邳陳瑀爲揚州刺史。

四年春正月甲寅朔。日有食之。○丁卯。赦天下。○曹操軍甄城。袁術爲劉表所逼。引兵屯封丘。黑山別部及匈奴於扶羅皆附之。曹操擊破術軍。遂圍封丘。術走襄邑。又走寧陵。操追擊連破之。術走九江。揚州刺史陳瑀拒術不納。術退保陰陵。集兵於淮北。復進向壽春。瑀懼走歸下邳。術遂領其州。兼稱徐州伯。李傕欲結術爲援。以術爲左將軍。封陽翟侯。假節。○袁紹與公孫瓚所置青州刺史田楷連戰二年。士卒疲困。糧食並盡。互掠百姓。野無青草。紹以其子譚爲青州刺史。楷與戰不勝。會趙岐來和解關東。瓚乃與紹和親。各引兵去。○三月。袁紹在薄落津。魏郡兵反。與黑山賊于毒等數萬人共覆鄴城。殺其太守。紹還屯斥丘。○夏。曹操還軍定陶。○徐州治中東海王朗及別駕琅邪趙昱說刺史陶謙曰。求諸侯莫如勤王。今天子越在西京。宜遣使奉貢。謙乃遣昱奉章至長安。詔拜謙徐州牧。加安東將軍。封溧陽侯。以昱爲廣陵太守。朗爲會稽太守。是時徐方百姓殷盛。穀實差豐。流民多歸之。而謙信用譏邪。疎遠忠直。刑政不治。由是徐州漸亂。許劭避地廣陵。謙禮之甚厚。劭告其徒曰。陶恭祖外慕聲名。內非真正。待吾雖厚。其執必薄。遂去之。後謙果捕諸寓士。人乃服其先識。○六月。扶風大雨雹。○華山崩裂。○太尉周忠免。以太僕朱儁爲太尉。錄尚書事。○下邳闕宣聚衆數千人。自稱天子。陶謙擊殺之。○大雨晝夜二十餘日。漂沒民居。○袁紹出軍入朝。哥鹿腸山討于毒。圍攻五日。破之。斬毒及其衆萬餘級。紹遂尋山北行。進擊諸賊左髡丈八等。皆斬之。又

擊劉石。青牛角黃龍。左校郭大賢。李大目。于氏根等。復斬數萬級。皆屠其屯壁。遂與黑山賊張燕及四營屠各。鴈門烏桓戰於常山。燕精兵數萬。騎數千匹。紹與呂布共擊燕。連戰十餘日。燕兵死傷雖多。紹軍亦疲。遂俱退。呂布將士多暴橫。紹患之。布因求還雒陽。紹承制。以布領司隸校尉。遣壯士送布。而陰圖之。布使人鼓箏於帳中。密亡去。送者夜起。斫帳被皆壞。明日。紹聞布尚在。懼閉城自守。布引軍復歸張楊。○前太尉曹嵩避難在琅邪。其子操令泰山太守應劭迎之。嵩輜重百餘兩。陶謙別將守陰平。士卒利嵩財寶。掩襲嵩於華費間。殺之。并少子德。秋。操引兵擊謙。攻拔十餘城。至彭城大戰。謙兵敗。走保郟。初。京雒董卓之亂。民流移東出。多依徐土。遇操至。坑殺男女數十萬口於泗水。水爲不流。操攻郟。不能克。乃去。攻取慮睢陵夏丘。皆屠之。雞犬亦盡。墟邑無復行人。○冬。十月。辛丑。京師地震。○有星孛于天市。○司空楊彪免。丙午。以太常趙溫爲司空。錄尚書事。○劉虞與公孫瓚積不相能。瓚數與袁紹相攻。虞禁之不可。而稍節其稟假。瓚怒。屢違節度。又復侵犯百姓。虞不能制。乃遣驛使奉章。陳其暴掠之罪。瓚亦上虞稟糧不周。二奏交馳。互相非毀。朝廷依違而已。瓚乃築小城於薊城東南。以居之。虞數請會。瓚輒稱病不應。虞恐其終爲亂。乃率所部兵合十萬人。以討之。時瓚部曲放散在外。會卒掘東城欲走。虞兵無部伍。不習戰。又愛民廬舍。敕不聽焚燒。戒軍士曰。無傷餘人。殺一伯珪而已。攻圍不下。瓚乃簡募銳士數百人。因風縱火。直衝突之。虞衆大潰。虞與官屬北奔。居庸。瓚追攻之。三日。城陷。執虞并妻子還薊。猶使領州文書。會詔遣使者段訓增虞封邑。督六州事。拜瓚前將軍。封易侯。瓚乃誣虞。前與袁紹等謀稱尊號。脅訓斬虞及妻子於薊市。故常山相孫瑾掾張逸張瓚等相與就虞。罵瓚極口。然後同死。瓚傳虞首於京師。故吏尾敦於路。劫虞首歸葬之。虞以恩厚得衆心。北州百姓流舊。莫不痛惜。初。虞欲遣使奉章。詣長安。而難其人。衆咸曰。右北平田疇。年二十二。年雖少。然有奇材。虞乃備禮請

以爲掾。具車騎將行。疇曰：今道路阻絕，寇虜縱橫，稱官奉使，爲衆所指，願以私行。期於得達而已。虞從之。疇乃自選家客二十騎，俱上西關，出塞，傍北山，直趣朔方。循間道，至長安，致命詔拜。疇爲騎都尉。疇以天子方蒙塵，未安，不可以荷佩榮寵，固辭不受。得報馳還。比至，虞已死。疇謁祭虞墓，陳發章表，哭泣而去。公孫瓚怒，購求獲疇，謂曰：汝不送章報我，何也？疇曰：漢室衰微，人懷異心。唯劉公不失忠節，章報所言，於將軍未美，恐非所樂聞，故不進也。且將軍既滅，無罪之君，又讎守義之臣，疇恐燕趙之士，皆將蹈東海而死，莫有從將軍者也。瓚乃釋之。疇北歸，無終。率宗族及他附從者數百人，掃地而盟曰：君仇不報，吾不可以立於世。遂入徐無山中，營深險，平敞地而居，躬耕以養父母，百姓歸之。數年間，至五千餘家。疇謂其父老曰：今衆成郡邑，而莫相統一，又無法制以治之，恐非久安之道。疇有愚計，願與諸君共施之，可乎？皆曰：可。疇乃爲約束，相殺傷犯盜，誣訟者，隨輕重抵罪，重者至死。凡二十餘條。又制爲婚姻嫁娶之禮，與學校講授之業。班行於衆，衆皆便之。至道不拾遺，北邊翕然服其威信。烏桓、鮮卑各遣使致饋。疇悉撫納，令不爲寇。○十二月辛丑，地震。○司空趙溫免。乙巳，以衛尉張喜爲司空。

資治通鑑卷第六十

資治通鑑卷第六十一

漢紀五十三

孝獻皇帝丙

興平元年春正月辛酉赦天下。○甲子，帝加元服。○二月戊寅，有司奏立長秋宮，詔曰：皇妣宅兆未卜，何忍言後宮之選乎？壬午，三公奏改葬皇妣王夫人，追上尊號曰靈懷皇后。○陶謙告急於田楷，楷與平原相劉備救之，備自有兵數千人，謙益以丹陽兵四千，備遂去楷歸謙。謙表爲豫州刺史，屯小沛，曹操軍食亦盡，引兵還。○馬騰私有求於李傕，不獲而怒，欲舉兵相攻。帝遣使者和解之，不從。韓遂率衆來和，騰既而復與騰合，諫議大夫种劭、侍中馬宇、左中郎將劉範謀使騰襲長安，已爲內應，以誅傕等。壬申，騰遂勒兵，屯長平觀，劭等謀泄，出犇槐里，傕使樊稠、郭汜及兄子利擊之，騰遂敗，走還涼州。又攻槐里，劭等皆死。庚申，詔赦騰等。夏四月，以騰爲安狄將軍，遂爲安降將軍。○曹操使司馬荀彧、壽張令程昱守甄城，復往攻陶謙，遂略地，至琅邪東海，所過殘滅，還擊破劉備於郟東，謙恐，欲走歸丹陽，會陳留太守張邈，叛操迎呂布，操乃引軍還。初，張邈少時，好游俠，袁紹皆與之善，及紹爲盟主，有驕色，邈正議責紹，紹怒，使操殺之，操不聽，曰：孟卓親友也，是非當容之。今天下未定，柰何自相危也？操之前攻陶謙，志在必死，敕家曰：我若不還，往依孟卓。後還見邈，垂泣相對，陳留高柔謂鄉人曰：曹將軍雖據兗州，本有四方之圖，未得安坐守也，而張府君恃陳留之資，將乘間爲變，欲與諸君避之，何如？衆人皆以曹張相親，柔又年少，不然其言。柔從兄幹自河北呼

柔舉宗從之。呂布之捨袁紹，從張楊也。過邈，臨別，把手共誓。紹聞之大恨。邈畏操終為紹殺己也，心不自安。前九江太守陳留邊讓嘗譏議操，操聞而殺之，并其妻子。讓素有才名，由是兗州士大夫皆恐懼。陳宮性剛直壯烈，內亦自疑，乃與從事中郎許汜、王楷及邈弟超共謀叛。操宮說邈曰：「今天下分崩，雄傑竝起，君以千里之衆當四戰之地，撫劍顧眄，亦足以為人豪，而反受制於人，不亦鄙乎？」今州軍東征，其處空虛，呂布壯士善戰，無前若權迎之，共牧兗州，觀天下形勢，俟時事之變，此亦縱橫之一時也。邈從之。時操使宮將兵留屯東郡，遂以其衆潛迎布為兗州牧。布至，邈乃使其黨劉翊告荀彧曰：「呂將軍來助，曹使君擊陶謙，宜亟供其軍食。衆疑惑，或知邈為亂，即勒兵設備，急召東郡太守夏侯惇於濮陽。惇來，布遂據濮陽。時操悉軍攻陶謙，留守兵少，而督將大吏多與邈宮通謀。惇至其夜，誅謀叛者數十人。衆乃定。豫州刺史郭貢率衆數萬來至城下，或言與呂布同謀，衆甚懼，貢求見荀彧，或將往。惇等曰：「君一州鎮也，往必危，不可。」或曰：「貢與邈等分非素結也，今來速，計必未定，及其未定說之，縱不為用，可使中立。若先疑之，彼將怒而成計。」貢見或無懼意，謂鄆城未易攻，遂引兵去。是時兗州郡縣皆應布，唯鄆城范東阿不動。布軍降者言：「陳宮欲自將兵取東阿，又使汎巖取范，吏民皆恐。程昱本東阿人，或謂昱曰：『今舉州皆叛，唯有此三城，宮等以重兵臨之，非有以深結其心，三城必動。』君民之望也，宜往撫之。」昱乃歸過范，說其令靳允曰：「聞呂布執君母弟妻子，孝子誠不可為心。今天下大亂，英雄竝起，必有命世能息天下之亂者，此智者所宜詳擇也。得主者昌，失主者亡。陳宮叛迎呂布，而百城皆應，似能有為。然以君觀之，布何如人哉？夫布蠱中少親，剛而無禮，匹夫之雄耳。宮等以執假合，不能相君也。兵雖衆，終必無成。曹使君智略不世出，殆天所授，君必固范。我守東阿，則田單之功可立也。孰與違忠從惡，而母子俱亡乎？」唯君詳慮之。允流涕曰：「不敢有貳心。」時汎巖已在縣，允乃見巖，伏兵刺殺之，歸勸

兵自守

徐衆評曰：允於曹公未成君臣，母至親也。於義應去，衛公子開方仕齊，積年不返，管仲以為不懷其親，安能愛君？是以求忠臣，必於孝子之門。允宜先救至親，徐庶母為曹公所得，劉備遣庶歸北，欲為天下者，恕人子之情也。曹公亦宜遣允。昱又遣別騎絕倉亭津，陳宮至不得渡，昱至東阿，東阿令潁川棗祗已率厲吏民拒城堅守，卒完三城以待操，操還執昱手曰：「微子之力，吾無所歸矣。」表昱為東平相，屯范。呂布攻鄆城，不能下，西屯濮陽。曹操曰：「布一旦得一州，不能據東平，斷亢父泰山之道，乘險要我，而乃屯濮陽，吾知其無能為也，乃進攻之。」○五月，以揚武將軍郭汜為後將軍，安集將軍樊稠為右將軍，竝開府如三公，合為六府。皆參選舉。李傕等各欲用其所舉，若一違之，便忿憤喜怒，主者患之，乃以次第用其所舉，先從催起。汜次之，稠次之，三公所舉終不見用。○河西四郡以去涼州治遠，隔以河寇，上書求別置州。六月，丙子，詔以陳留郡鄆商為雍州刺史，典治之。○丁丑，京師地震，戊寅，又震。○乙巳晦，日有食之。○秋七月壬子，太尉朱儁免。○戊午，以太常楊彪為太尉，錄尚書事。○甲子，以鎮南將軍楊定為安西將軍，開府如三公。○自四月不雨，至于八月，穀一斛直錢五十萬，長安中人相食，帝令侍御史侯汶出太倉米豆為貧人作糜，餓死者如故。帝疑稟賦不實，取米豆各五升於御前作糜，得二盆，乃杖汶五十。於是悉得全濟。○八月，馮翊羌寇屬縣，郭汜樊稠等率衆破之。○呂布有別屯在濮陽西，曹操夜襲破之，未及還，會布至，身自搏戰，自旦至日昃，數十合，相持甚急，操募人陷陳，司馬陳留典韋將應募者進當之，布弓弩亂發，矢至如雨，韋不視，謂人曰：「虜來十步，乃白之。」人曰：「十步矣。」又曰：「五步乃白。」人懼，疾言虜至矣。韋持戟大呼而起，所抵無不應手倒者。布衆退，會日暮，操乃得引去，拜韋都尉，令常將親兵數百人，繞大帳左右。濮陽大姓田氏為反間，操得入城，燒其

東門示無反意。及戰軍敗，布騎得操，而不識，問曰：「曹操何在？」操曰：「乘黃馬走者是也。」布騎乃釋操，而追黃馬者，操突火而出，至營，自力勞軍，令軍中促爲攻具，進復攻之，與布相守百餘日。蝗蟲起，百姓大餓，布糧食亦盡，各引去。九月，操還鄆城，布到乘氏，爲其縣人李進所破，東屯山陽。冬，十月，操至東阿，袁紹使人說操，欲使操遣家居鄴，操新失兖州，軍食盡，將許之。程昱曰：「意者將軍殆臨事而懼，不然，何慮之不深也？夫袁紹有并天下之心，而智不能濟也。將軍自度能爲之下乎？將軍以龍虎之威，可爲之韓彭邪？今兖州雖殘，尙有三城，能戰之士不下萬人，以將軍之神武，與文若昱等收而用之，霸王之業可成也。願將軍更慮之。」操乃止。○十二月，司徒淳于嘉罷，以衛尉趙溫爲司徒，錄尚書事。○馬騰之攻李傕也，劉焉二子範、誕皆死。議郎河南龐參、素與焉善，乃募將焉諸孫入蜀，會天火燒城，焉徙治成都，疽發背而卒。州大吏趙韞等貪焉子璋，溫仁，共上璋爲益州刺史，詔拜潁川扈瑄爲刺史，璋將沈彌、婁發、甘寧、反擊璋，不勝，走入荊州，詔乃以璋爲益州牧，璋以韞爲征東中郎將，率衆擊劉表，屯胸臆。○徐州牧陶謙疾篤，謂別駕東海糜竺曰：「非劉備不能安此州也。」謙卒，竺率州人迎備，備未敢當，曰：「袁公路近在壽春，君可以州與之。」典農校尉下邳陳登曰：「公路驕豪，非治亂之主，今欲爲使君合步騎十萬，上可以匡主濟民，下可以割地守境，若使君不見聽許，登亦未敢聽使君也。」北海相孔融謂備曰：「袁公路豈憂國忘家者邪？冢中枯骨，何足介意，今日之事，百姓與能，天與不取，悔不可追。」備遂領徐州。○初，太傅馬日磾與趙岐俱奉使，至壽春，岐守志不撓，袁術憚之，日磾頗有求於術，術侵侮之，從日磾借節視之，因奪不還，條軍中十餘人，使促辟之，日磾從術求去，術留不遣，又欲逼爲軍師，日磾病，其失節，嘔血而死。○初，孫堅娶錢唐吳氏，生四男，策、權、翊、匡，及一女，堅從軍於外，留家壽春，策年十餘歲，已交結知名，舒人周瑜與策同年，亦英達，夙成，聞策聲問，自舒來造焉，便推結分好，勸策徙居舒，策從之，瑜乃推

道旁大宅與策，升堂拜母，有無通共，及堅死，策年十七，還葬曲阿，已乃渡江居江都，結納豪俊，有復讐之志。丹陽太守會稽周昕與袁術相惡，術上策舅吳景領丹陽太守，攻昕奪其郡，以策從兄賁爲丹陽都尉，策以母弟託廣陵張紘，徑到壽春，見袁術，涕泣言曰：「亡父昔從長沙入討董卓，與明使君會於南陽，同盟結好，不幸遇難，勳業不終，策感惟先人舊恩，欲自懇結，願明使君垂察其誠，術甚奇之，然未肯還其父兵，謂策曰：『孤用貴舅爲丹陽太守，賢從伯陽爲都尉，彼精兵之地，可還依召募，策遂與汝南呂範及族人孫河迎其母，詣曲阿，依舅氏，因緣召募得數百人，而爲涇縣大帥祖郎所襲，幾至危殆，於是復往見術，術以堅餘兵千餘人還策，表拜懷義校尉，策騎士有罪，逃入術營，隱於內廐，策指使人就斬之，訖詣術謝，術曰：『兵人好叛，當共疾之，何爲謝也？』由是軍中益畏憚之。術初許以策爲九江太守，已而更用丹陽陳紀，後術欲攻徐州，從廬江太守陸康求米三萬斛，康不與，術大怒，遣策攻康，謂曰：『前錯用陳紀，每恨本意不遂，今若得康，廬江真卿有也。』策攻康拔之，術復用其故吏劉勳爲太守，策益失望，侍御史劉繇，岱之弟也，素有盛名，詔書用爲揚州刺史，州舊治壽春，術已據之，繇欲南渡江，吳景孫賁迎置曲阿，及策攻廬江，繇聞之，以景賁本術所置，懼爲袁孫所并，遂構嫌隙，迫逐景賁，景賁退屯歷陽，繇遣將樊能于糜屯橫江，張英屯當利口，以拒之，術乃自用故吏惠衢爲揚州刺史，以景爲督軍中郎將，與賁共將兵擊英等。二年春正月癸丑，赦天下。○曹操敗呂布於定陶。○詔即拜袁紹爲右將軍。○董卓初死，三輔民尙數十萬戶，李傕等放兵劫掠，加以饑饉，二年間，民相食略盡。李傕、郭汜、樊稠各相與矜功爭權，欲圖者數矣，賈詡每以大體責之，雖內不能善，外相含容，樊稠之擊馬騰，韓遂也，李利戰不甚力，稠叱之曰：「人欲截汝父頭，何敢如此？我不能斬卿邪？」及騰遂敗走，稠追至陳倉，遂語稠曰：「本所爭者，非私怨，王家事耳，與足下州里人，欲相與善語而別，乃俱却騎，前接

馬交臂相加。共語良久而別。軍還。李利告。韓樊交馬語。不知所道。意愛甚密。惟亦以稠勇而得衆忌之。稠欲將兵東出關。從惟索益兵。二月。惟請稠會議。便於坐殺稠。由是諸將轉相疑貳。惟數設酒請郭汜。或留汜止宿。汜妻恐汜愛惟婢妾。思有以間之。會惟送饋妻。以豉爲藥。適以示汜曰。一栖不兩雄。我固疑將軍信李公也。他日惟復請汜飲。大醉。汜疑其有毒。絞糞汁飲之。於是各治兵相攻矣。帝使侍中尚書和。惟汜不從。汜謀迎帝幸其營。夜有亡者告惟。三月丙寅。惟使兄子暹將數千兵圍宮。以車三乘迎帝。太尉楊彪曰。自古帝王無在人。家者。諸君舉事。柰何如是。暹曰。將軍計定矣。於是羣臣步從乘輿以出。兵即入殿中。掠宮人御物。帝至。惟營。惟又徙御府金帛。置其營。遂放火燒宮殿官府。居民悉盡。帝復使公卿和。惟汜留楊彪。及司空張喜。尚書王隆。光祿勳劉淵。衛尉士孫瑞。太僕韓融。廷尉宣璠。大鴻臚榮邵。大司農朱雋。將作大匠梁邵。屯騎校尉姜宜等。於其營。以爲質。朱雋憤懣。發病死。○夏四月甲午。立貴人琅邪伏氏爲皇后。以后父侍中完爲執金吾。○郭汜饗公卿。議攻李惟。楊彪曰。羣臣共鬪。一人劫天子。一人質公卿。可行乎。汜怒。欲手刃之。彪曰。卿尚不奉國家。吾豈求生邪。中郎將楊密固諫。汜乃止。惟召羌胡數千人。先以御物繒綵與之。許以宮人婦女。欲令攻郭汜。汜陰與惟黨。中郎將張苞等謀攻惟。丙申。汜將兵夜攻惟門。矢及帝簾帷中。又貫惟左耳。苞等燒屋。火不然。楊奉於外拒汜。汜兵退。苞等因將所領兵歸汜。是日。惟復移乘輿幸北塢。使校尉監塢門。內外隔絕。侍臣皆有飢色。帝求米五斗。牛骨五具。以賜左右。惟曰。朝哺上。計何用米爲。乃以臭牛骨與之。帝大怒。欲詰責之。侍中楊琦諫曰。惟自知所犯悖逆。欲轉車駕幸池陽。黃白城。臣願陛下忍之。帝乃止。司徒趙溫與惟書曰。公前屠陷王城。殺戮大臣。今爭。匪皆之隙。以成千鈞之讎。朝廷欲令和解。詔命不行。而復欲轉乘輿於黃白城。殺戮大臣。今所不解也。於易。一爲過。再爲涉。三而弗改。滅其頂凶。不如早共和解。惟大怒。欲殺溫。其弟應

諫之數日乃止。惟信巫覡厭勝之術。常以三牲祠董卓於省門外。每對帝。或言明陛下。或言明帝。爲帝說。郭汜無狀。帝亦隨其意。應答之。惟喜。自謂良得天子歡心也。閏月己卯。帝使謁者僕射皇甫郛和。惟汜。郛先詣汜。汜從命。又詣惟。惟不肯曰。郭多盜馬虜耳。何敢欲與。吾等邪。必誅之。君觀吾方略。士衆足辦郭多。否邪。郭多又劫質公卿。所爲如是。而君苟欲左右之。邪。郛曰。近者董公之彊。將軍所知也。呂布受恩而反圖之。斯須之間。身首異處。此有勇而無謀也。今將軍身爲上將。荷國寵榮。汜質公卿。而將軍脅主。誰輕重乎。張濟與汜有謀。楊奉。白波賊帥耳。猶知將軍所爲非是。將軍雖寵之。猶不爲用也。惟呵之令出。郛出詣省門。白惟不肯奉詔。辭語不順。帝恐惟聞之。亟令郛去。惟遣虎賁王昌呼欲殺之。昌知郛忠直。縱令去。還答惟言。追之不及。○辛巳。以車騎將軍李惟爲大司馬。在三公之右。○呂布將薛蘭。李封。屯鉅野。曹操攻之。布救蘭等。不勝而走。操遂斬蘭等。操軍乘氏。以陶謙已死。欲遂取徐州。還乃定。布荀彧曰。昔高祖保關中。光武據河內。皆深根固本。以制天下。進足以勝敵。退足以堅守。故雖有困敗。而終濟大業。將軍本以兗州首事。平山東之難。百姓無不歸心悅服。且河濟天下之要地也。今雖殘壞。猶易以自保。是亦將軍之關中河內也。不可以不先定。今已破李封。薛蘭。若分兵東擊陳宮。宮必不敢西顧。以其間收熟麥。約食畜穀。一舉而布可破也。破布。然後南結揚州。共討袁術。以臨淮泗。若舍布而東。多留兵。則不足用。少留兵。則民皆保城。不得樵采。布乘虛寇暴。民心益危。唯甄城范衛可全。其餘非己之有。是無兗州也。若徐州不定。將軍當安所歸乎。且陶謙雖死。徐州未易亡也。彼懲往年之敗。將懼而結親。相爲表裏。今東方皆已收麥。必堅壁清野。以待將軍。攻之不拔。略之無獲。不出十日。則十萬之衆未戰而先自困耳。前討徐州。威罰實行。其子弟念父兄之恥。必人自爲守。無降心。就能破之。尚不可有也。夫事固有棄此取彼者。以大易小可也。以安易危可也。權一時之執。不患本之不固。可也。今

三者莫利。惟將軍熟慮之。操乃止。布復從東緡，與陳宮將萬餘人來戰。操兵皆出收麥，在者不能千人。屯營不固，屯西有大隄，其南樹木幽深，操隱兵隄裏，出半兵隄外，布益進。乃令輕兵挑戰，既合，伏兵乃悉乘隄，步騎竝進，大破之。追至其營而還，布夜走。操復攻拔定陶，分兵平諸縣。布東奔劉備，張邈從布，使其弟超將家屬，保雍丘。布初見備，甚尊敬之，謂備曰：「我與卿同邊地人也，布見關東起兵，欲誅董卓，布殺卓東出，關東諸將無安布者，皆欲殺布耳。請備於帳中坐，婦牀上，令婦向拜，酌酒飲食。」名備為弟，備見布語言無常，外然之，而內不悅。○李傕、郭汜相攻連月，死者以萬數。六月，傕將楊奉謀殺傕，事泄，遂將兵叛傕。傕衆稍衰。庚午，鎮東將軍張濟自陝至，欲和傕。傕遷乘輿，權幸弘農，帝亦思舊京，遣使宣諭。十反，汜、傕許和，欲質其愛子。傕妻愛其男，和計未定，而羌胡數來闕省門，曰：「天子在此中邪？」李將軍許我宮人，今皆何在？帝患之，使侍中劉艾謂宣義將軍賈詡曰：「卿前奉職公忠，故仍升榮寵。今羌胡滿路，宜思方略，詔乃召羌胡大帥，飲食之，許以封賞，羌胡皆引去。惟由此單弱，於是復有言和解之計者，惟乃從之，各以女為質。」秋七月甲子，車駕出宣平門，當度橋，汜兵數百人遮橋，曰：「此天子非也，車不得前。」惟兵數百人皆持大戟，在乘輿車前，兵欲交，侍中劉艾大呼曰：「是天子也，使侍中楊琦、高舉車帷。」帝曰：「諸君何敢迫近至尊邪？」汜兵乃却。既度橋，士衆皆稱萬歲。夜到霸陵，從者皆飢，張濟賦給各有差，惟出屯池陽。丙寅，以張濟為票騎將軍，開府如三公。郭汜為車騎將軍，楊定為後將軍，楊奉為典義將軍，皆封列侯。又以故牛輔部曲董承為安集將軍，郭汜欲令車駕幸高陵，公卿及濟以為宜幸弘農，大會議之，不決。帝遣使諭汜曰：「弘農近郊，廟勿有疑也。汜不從，帝遂終日不食。」汜聞之曰：「可且幸近縣。」八月甲辰，車駕幸新豐。丙子，郭汜復謀脅帝還都，郡侍中種輯知之，密告楊定、董承、楊奉，令會新豐。郭汜自知謀泄，乃棄軍入南山。○曹操圍雍丘，張邈詣袁術求救，未至，為其下所殺。○冬十月，以曹操為

兖州牧。○戊戌，郭汜黨夏育、高碩等謀脅乘輿西行，侍中劉艾見火起不止，請帝出幸一營，以避火。楊定、董承將兵迎天子，幸楊奉營。夏育等勒兵欲止乘輿，楊定、楊奉力戰破之，乃得出。壬寅，行幸華陰，寧輯將軍段熲具服御及公卿已下資儲，欲上幸其營。熲與楊定有隙，定黨種輯、左靈言熲欲反，太尉楊彪、司徒趙溫、侍中劉艾、尚書梁紹皆曰：「段熲不反，臣等敢以死保董承。」楊定脅弘農督郵令言郭汜來在熲營，帝疑之，乃露次於道南。丁未，楊奉、董承、楊定將攻熲，使種輯、左靈請帝為詔，帝曰：「熲罪不著，奉等攻之，而欲令朕有詔邪？」輯固請，至夜半，猶弗聽。奉等乃輒攻熲營，十餘日不下，熲供給御膳，稟贍百官，無有二意。詔使侍中尚書告諭定等，令與熲和解，定等奉詔還營。李傕、郭汜悔令車駕東，聞定攻熲，相招共救之，因欲劫帝而西。楊定聞傕、汜至，欲還藍田，為汜所遮，單騎亡走荊州。張濟與楊奉、董承不相平，乃復與傕、汜合。十二月，帝幸弘農，張濟、李傕、郭汜共追乘輿，大戰於弘農東澗，承奉軍敗，百官士卒死者不可勝數。棄御物符策典籍，略無所遺。射聲校尉沮偽被創墜馬，傕謂左右曰：「尚可活否？」偽罵之曰：「汝等凶逆，逼劫天子，使公卿被害，宮人流離，亂臣賊子未有如此也。傕乃殺之。」壬申，帝露次曹陽，承奉乃譎傕等與連和，而密遣間使至河東，招故白波帥李樂、韓暹、胡才及南匈奴右賢王去卑，竝率其衆數千騎來，與承奉共擊傕等，大破之，斬首數千級。於是董承等以新破，傕等可復東引。庚申，車駕發東，董承、李樂、衛乘輿，胡才、楊奉、韓暹、匈奴右賢王於後為拒。傕等復來戰，奉等大敗，死者甚於東澗。光祿勳鄧淵、廷尉宣璠、少府田芬、大司農張義皆死。司徒趙溫、太常王絳、衛尉周忠、司隸校尉管邵為傕所遮，欲殺之。賈詡曰：「此皆大臣，卿奈何害之？」乃止。李樂曰：「事急矣，陛下宜御馬。」上曰：「不可，舍百官而去，此何辜哉？」兵相連綴四十里，方得至陝，乃結營自守。時殘破之餘，虎賁羽林不滿百人，惟汜兵繞營叫呼，吏士失色，各有分散之意。李樂懼，欲令車駕御船過砥柱，出孟津，楊彪以為河道險難，非萬

乘所宜乘。乃使李樂夜渡潛具船。舉火爲應。上與公卿步出營。皇后兄伏德扶后。一手挾絹十疋。董承使符節令孫徽從。人間斫之。殺旁侍者。血濺后衣。河岸高十餘丈。不得下。乃以絹爲輦。使人居前。負帝。餘皆匍匐而下。或從上自投。冠幘皆壞。既至河邊。士卒爭赴舟。董承、李樂以戈擊之。手指於舟中。可掬。帝乃御船。同濟者。皇后及楊彪以下。纔數十人。其宮女及吏民不得渡者。皆爲兵所掠奪。衣服俱盡。髮亦被截。凍死者不可勝計。衛尉士孫瑞爲催所殺。催見河北有火。遣騎候之。適見上渡河。呼曰。汝等將天子去邪。董承懼射之。以被爲幔。既到大陽。幸李樂營。河內太守張楊使數千人負米來貢餉。乙亥。帝御牛車。幸安邑。河東太守王邑奉獻綿帛。悉賦公卿以下。封邑爲列侯。拜胡才爲征東將軍。張楊爲安國將軍。皆假節開府。其壘壁羣帥。競求拜職。刻印不給。至乃以錐畫之。乘輿居棘籬中。門戶無關閉。天子與羣臣會。兵士伏籬上觀。互相鎮壓以爲笑。帝又遣太僕韓融至弘農。與催汜等連和。催乃放遣公卿百官。頗歸所掠宮人及乘輿器服。已而糧穀盡。宮人皆食菜果。乙卯。張楊自野王來朝。謀以乘輿還雒陽。諸將不聽。楊復還野王。是時。長安城空。四十餘日。疆者四散。羸者相食。二三年間。關中無復人跡。沮授說袁詔曰。將軍累葉台輔。世濟忠義。今朝廷播越。宗廟殘毀。觀諸州郡。雖外託義兵。內實相圖。未有憂存社稷。卹民之意。今州域粗定。兵強士附。西迎大駕。卽宮鄴都。挾天子而令諸侯。畜士馬。以討不庭。誰能禦之。潁川郭圖。淳于瓊曰。漢室陵遲。爲日久矣。今欲興之。不亦難乎。且英雄並起。各據州郡。連徒聚衆。動有萬計。所謂秦失其鹿。先得者王。今迎天子自近。動輒表聞。從之則權輕。違之則拒命。非計之善者也。授曰。今迎朝廷。於義爲得。於時爲宜。若不早定。必有先之者矣。紹不從。○初。丹陽朱治嘗爲孫堅校尉。見袁術政德不立。勸孫策歸取江東。時吳景攻樊能。張英等歲餘不克。策說術曰。家有舊恩在東。願助舅討橫江。橫江拔。因投本土。召募可得二萬兵。以佐明使君。定天下。術知其恨。而以劉繇據曲

阿。王朗在會稽。謂策未必能定。乃許之。表策爲折衝校尉。將兵千餘人。騎數十匹。行收兵。比至歷陽。衆五六千。時周瑜從父尚爲丹陽太守。瑜將兵迎之。仍助以資糧。策大喜曰。吾得卿諧也。進攻橫江。當利皆拔之。樊能、張英敗走。策渡江。轉鬪所向皆破。莫敢當其鋒者。百姓聞孫郎至。皆失魂魄。長吏委城郭。竄伏山草。及策至。軍士奉令不敢虜略。雞犬菜茹一無所犯。民乃大悅。競以牛酒勞軍。策爲人美姿顏。能笑語。性濶達。聽受善於用人。是以士民見者莫不盡心。樂爲致死。策攻劉繇。牛渚營盡得。邸閣糧穀戰具。時彭城相薛禮下邳相丹陽笮融。依繇爲盟主。禮據秣陵城。融屯縣南。策皆擊破之。又破繇別將於梅陵。轉攻湖孰。江乘。皆下之。進擊繇於曲阿。繇同郡太史慈時自東萊來省繇。會策至。或勸繇可以慈爲大將。繇曰。我若用子義。許子將不當笑我邪。但使慈偵視輕重。時獨與一騎。卒遇策於神亭。策從騎十三皆堅。舊將遼西韓當。零陵黃蓋輩也。慈便前鬪。正與策對策刺慈馬。而擊得慈項上手戟。慈亦得策兜鍪。會兩家兵騎。竝各來赴。於是解散。繇與策戰。兵敗走丹徒。策入曲阿。勞賜將士。發恩布令。告諭諸縣。其劉繇笮融等故鄉部曲。來降首者。一無所問。樂從軍者。一身行。復除門戶。不樂者。不强。旬日之間。四面雲集。得見兵二萬餘人。馬千餘匹。威震江東。丙辰。袁術表策行殄寇將軍。策將呂範言於策曰。今將軍事業日大。士衆日盛。而綱紀猶有不整者。範願暫領都督。佐將軍部分之。策曰。子衡。既士大夫。加手下已有大衆。立功於外。豈宜復屈小職。知軍中細事乎。範曰。不然。今捨本土而託將軍者。非爲妻子也。欲濟世務也。譬猶同舟涉海。一事不牢。卽俱受其敗。此亦範計。非但將軍也。策笑無以答。範出。便釋袴褶。執鞭詣閣下。啓事。自稱領都督。策乃授傳。委以衆事。由是軍中肅睦。威禁大行。策以張紘爲正議校尉。彭城張昭爲長史。常令一人居守。一人從征討。及廣陵秦松、陳端等亦參與謀。策待昭以師友之禮。文武之事。一以委昭。昭每得北方士大夫書疏。專歸美於昭。策聞之。歡笑曰。昔管子

相齊。一則仲父。二則仲父。而桓公爲霸者宗。今子布賢。我能用之。其功名獨不在我乎。袁術以從弟胤爲丹陽太守。周尙。周瑜。皆還壽春。劉繇自丹徒。將犇會稽。許劭曰。會稽富實。策之所貪。且窮在海隅。不可往也。不如豫章。北連豫壤。西接荊州。若收合吏民。遣使貢獻。與曹兗州相聞。雖有袁公路隔在其間。其人豺狼。不能久也。足下受王命。孟德。景升。必相救濟。繇從之。○初。陶謙以笮融爲下邳。相使督廣陵。下邳。彭城。糧運。融遂斷三郡委輸。以自入。大起浮屠祠。課人誦讀佛經。招致旁郡好佛者。至五千餘戶。每浴佛。輒多設飲食。布席於路。經數十里。費以鉅億計。及曹操擊破陶謙。徐士不安。融乃將男女萬口。走廣陵。廣陵太守趙昱。待以賓禮。先是。彭城相薛禮。爲陶謙所逼。屯秣陵。融利廣陵資貨。遂乘酒酣。殺昱。放兵大掠。因過江。依禮。既而復殺之。劉繇使豫章太守朱皓。攻袁術所用太守諸葛玄。玄退保西城。及繇沂江西上。駐於彭澤。使融助皓攻玄。許劭謂繇曰。笮融出軍。不顧名義者也。朱文明。喜推誠以信人。宜使密防之。融到。果詐殺皓。代領郡事。繇進討融。融敗走入山。爲民所殺。詔以前太傅掾華歆爲豫章太守。丹陽都尉朱治。逐吳郡太守許貢。而據其郡。貢南依山賊嚴白虎。○張超在雍丘。曹操圍之急。超曰。惟臧洪當來救吾。衆曰。袁曹方睦。洪爲袁所表用。必不敗。好以招禍。超曰。子源。天下義士。終不背本。但恐見制。強力不相及耳。洪時爲東郡太守。徒跣號泣。從紹請兵。將赴其難。紹不與。請自率所領以行。亦不許。雍丘遂潰。張超自殺。操夷其三族。洪由是怨紹。絕不與通。紹與兵圍之。歷年不下。紹令洪邑人陳琳。以書喻之。洪復書曰。僕小人也。本乏志用。中因行役。蒙主人傾蓋。恩深分厚。遂竊大州。寧樂今日自還。接刃乎。當受任之初。自謂究竟大事。共尊王室。豈悟本州被侵。郡將避厄。請師見拒。辭行被拘。使洪故君。遂至淪滅。區區微節。無所獲申。豈得復全交友之道。重虧忠孝之名乎。斯所以忍悲揮戈。收淚告絕。行矣。孔璋。足下微利於境外。臧洪投命於君親。吾子託身於盟主。臧洪策名於長安。子謂

余身死而名滅。僕亦笑。子生而無聞焉。紹見洪書。知無降意。增兵急攻城。城中糧穀已盡。外無彊救。洪自度。必不免。呼將吏士民。謂曰。袁氏無道。所圖不軌。且不救洪。郡將洪於大義。不得不死。念諸君無事。空與此禍。可先城未敗。將妻子出。皆垂泣曰。明府與袁氏。本無怨隙。今爲本朝郡將之故。自致殘困。吏民何忍。當舍明府去也。初。尙掘鼠。煮筋角。後無可復食者。主簿啓。內厨米三升。請稍以爲餽。粥。洪歎曰。何能獨甘此邪。使作薄糜。徧班士衆。又殺其愛妾。以食將士。將士咸流涕。無能仰視者。男女七八千人。相枕而死。莫有離叛者。城陷。生執洪。紹大會諸將。見洪。謂曰。臧洪。何相負若此。今日服未。洪據地瞋目曰。諸袁事漢。四世五公。可謂受恩。今王室衰弱。無扶翼之意。欲因際會。希冀非望。多殺忠良。以立姦威。洪親見呼張陳留爲兄。則洪府君亦宜爲弟。同共戮力。爲國除害。奈何擁衆。觀人屠滅。惜洪力劣。不能推刃。爲天下報仇。何謂服乎。紹本愛洪。意欲令屈服原之。見洪辭切。知終不爲己用。乃殺之。洪邑人陳容。少親慕洪。時在紹坐。起謂紹曰。將軍舉大事。欲爲天下除暴。而先誅忠義。豈合天意。臧洪發舉爲郡將。柰何殺之。紹慙。使人牽出。謂曰。汝非臧洪儔。空復爾爲。容顧曰。仁義豈有常。蹈之則君子。背之則小人。今日寧與臧洪同日而死。不與將軍同日而生也。遂復見殺。在坐無不歎息。竊相謂曰。如何一日殺二烈士。○公孫瓚既殺劉虞。盡有幽州之地。志氣益盛。恃其才力。不恤百姓。記過忘善。睚眦必報。衣冠善士。名在其右者。必以法害之。有材秀者。必抑困使在窮苦之地。或問其故。瓚曰。衣冠皆自以職分當貴。不謝人惠。故所寵愛。類多商販庸兒。與爲兄弟。或結婚姻。所在侵暴。百姓怨之。劉虞從事漁陽鮮于輔等。合率州兵。欲共報仇。以燕國閻柔。素有恩信。推爲烏桓司馬。柔招誘胡漢數萬人。與瓚所置漁陽太守雛丹。戰于潞北。斬丹等四千餘級。烏桓峭王。亦率種人。及鮮卑七千餘騎。隨輔。南迎虞子和。與袁紹將麴義。合兵十萬。共攻瓚。破瓚於鮑丘。斬首二萬餘級。於是代郡。廣陽。上谷。右北平。各殺瓚所置

長吏復與鮮于輔劉和兵合。瓚軍屢敗。先是有童謠曰：燕南垂，趙北際，中央不合大如礪。唯
有此中可避世。瓚自謂易地當之。遂徙鎮易。爲圍塹十重。於塹裏築京，皆高五六丈。爲樓其上。
中塹爲京，特高十丈。自居焉。以鐵爲門，斥去左右。男人七歲以上，不得入門。專與姬妾居。
其文簿書記，皆汲而上之。令婦人習爲大聲，使聞數百步。以傳宣教令。疎遠賓客，無所親信。
謀臣猛將，稍稍乖散。自此之後，希復攻戰。或問其故。瓚曰：我昔驅畔胡於塞表，埽黃巾於孟
津。當此之時，謂天下指麾可定。至於今日，兵革方始。觀此，非我所決。不如休兵力耕，以救凶
年。兵法百樓不攻。今吾諸營樓櫓數十重，積穀三百萬斛，食盡此穀，足以待天下之事矣。○
南單于於扶羅死，弟呼厨泉立，居于平陽。

資治通鑑卷第六十一

資治通鑑卷第六十二

漢紀五十四

孝獻皇帝丁

建安元年春正月癸酉大赦改元。○董承張楊欲以天子還雒陽。楊奉李樂不欲。由是諸將
更相疑貳。二月韓暹攻董承。承奔野王。韓暹屯聞喜。胡才楊奉之塢鄉。胡才欲攻韓暹。上使
人喻止之。○汝南潁川黃巾何儀等擁衆附袁術。曹操擊破之。○張楊使董承先繕修雒陽
宮。太僕趙岐爲承說劉表。使遣兵詣雒陽。助修宮室。軍資委輸。前後不絕。夏五月丙寅。帝遣
使至楊奉。李樂韓暹營。求送至雒陽。奉等從詔。六月乙未。車駕幸聞喜。○袁術攻劉備。以爭
徐州。備使司馬張飛守下邳。自將拒術於盱眙淮陰。相持經月。更有勝負。下邳相曹豹陶謙
故將也。與張飛相失。飛殺之。城中乖亂。袁術與呂布書勸令襲下邳。許助以軍糧。布大喜。引
軍水陸東下。備中郎將丹陽許耽開門迎之。張飛敗走。布虜備妻子。及將吏家口。備聞之。引
還。比至下邳。兵潰。備收餘兵。東取廣陵。與袁術戰。又敗。屯於海西。飢餓困餒。吏士相食。從事
東海糜竺以家財助軍。備請降於布。布亦忿袁術運糧不繼。乃召備。復以爲豫州刺史。與并
執擊術。使屯小沛。布自稱徐州牧。布將河內郝萌夜攻布。布科頭袒衣。走詣都督高順營。順
即嚴兵入府討之。萌敗走。比明。萌將曹性擊斬萌。○庚子。楊奉韓暹奉帝東還。張楊以糧迎
道路。秋七月甲子。車駕至雒陽。幸故中常侍趙忠宅。丁丑。大赦。八月辛丑。幸南宮。楊安殿。張
楊以爲己功。故名其殿曰楊安。楊謂諸將曰：天子當與天下共之。朝廷自有公卿大臣。楊當

出扞外難。遂還野王。楊奉亦出屯梁。韓暹、董承並留宿衛。癸卯，以安國將軍張楊爲大司馬。楊奉爲車騎將軍，韓暹爲大將軍，領司隸校尉，皆假節鉞。是時，宮室燒盡，百官披荆棘，依墻壁間。州郡各擁強兵，委輸不至，羣僚飢乏。尚書郎以下，自出採稻，或飢死墻壁間。或爲兵士所殺。○袁術以讖言代漢者當塗高，自云名字應之。又以袁氏出陳爲舜後，以黃代赤，德運之次。遂有僭逆之謀。聞孫堅得傳國璽，拘堅妻而奪之。及聞天子敗於曹陽，乃會羣下，議稱尊號。衆莫敢對。主簿閻象進曰：昔周自后稷至于文王，積德累功，參分天下，有其二。猶服事殷。明公雖奕世克昌，未若周之盛。漢室雖微，未若殷紂之暴也。術默然。術聘處士張範、範不往，使其弟承謝之。術謂承曰：孤以土地之廣，士民之衆，欲徵福齊桓，擬迹高祖，何如？承曰：在德不在彊。夫用德以同天下之欲，雖由匹夫之資，而興霸王之功，不足爲難。若苟欲僭擬于時而動衆之所奔，誰能興之？術不悅。孫策聞之，與術書曰：成湯討桀，稱有夏多罪。武王伐紂，曰：殷有重罰。此二主者，雖有聖德，假使時無失道之過，無由逼而取也。今主上非有惡於天下，徒以幼小，脅於彊臣，異於湯武之時也。且董卓貪淫驕陵，志無紀極，至于廢主自興，亦猶未也。而天下同心疾之，況效尤而甚焉者乎？又聞幼主明智聰敏，有夙成之德，天下雖未被其恩，咸歸心焉。使君五世相承，爲漢宰輔，榮寵之盛，莫與爲比。宜效忠守節，以報王室。則且夷之美，率土所望也。時人多惑圖緯之言，妄牽非類之文，苟以悅主爲美，不顧成敗之計。古今所慎，可不執慮，忠言逆耳，駁議致憎。苟有益於尊明，無所敢辭。術始自以爲有淮南之衆，料策必與己合。及得其書，愁沮發疾，既不納其言，策遂與之絕。○曹操在許，謀迎天子。衆以爲山東未定，韓暹、楊奉負功恣睢，未可卒制。荀彧曰：昔晉文公納周襄王，而諸侯景從。漢高祖爲義帝縞素，而天下歸心。自天子蒙塵，將軍首唱義兵，徒以山東擾亂，未遑遠赴。今鑾駕旋軫，東京榛蕪，義士有存本之思，兆民懷感舊之哀，誠因此時奉主上，以從人望，大順也。

秉至公，以服天下，大略也。扶弘義，以致英俊，大德也。四方雖有逆節，其何能爲？韓暹、楊奉、安足恤哉。若不時定，使豪桀生心，後雖爲慮，亦無及矣。操乃遣揚武中郎將曹洪將兵西迎天子。董承等據險拒之，洪不得進。議郎董昭以楊奉兵馬最彊，而少黨援，作操書與奉曰：吾與將軍聞名慕義，便推赤心。今將軍拔萬乘之艱難，反之舊都，翼佐之功，超世無疇，何其休哉。方今羣凶猾夏，四海未寧，神器至重，事在維輔，必須衆賢，以清王軌。誠非一人所能獨建，心腹四支，實相恃賴。一物不備，則有闕焉。將軍當爲內主，吾爲外援。今吾有糧，將軍有兵，有無相通，足以相濟。死生契闊，相與共之。奉得書喜悅，語諸將軍曰：兗州諸軍近在許耳，有兵有糧，國家所當依仰也。遂共表操爲鎮東將軍，襲父爵費亭侯。韓暹、楊奉以暹、楊有翼車駕之功，詔一切勿問。辛亥，以曹操領司隸校尉，錄尚書事。操於是誅尚書馮碩等三人，討有罪也。封衛將軍董承等十三人爲列侯，賞有功也。贈射聲校尉沮儁爲弘農太守，於死節也。操引董昭竝坐，問曰：今孤來此，當施何計？昭曰：將軍興義兵，以誅暴亂，入朝天子，輔翼王室，此五霸之功也。此下諸將，人殊意異，未必服從。今留匡弼，事執不便，惟有移駕幸許耳。然朝廷播越，新還舊京，遠近跋望，冀一朝獲安。今復徙駕，不厭衆心，夫行非常之事，乃有非常之功。願將軍算其多者。操曰：此孤本志也。楊奉近在梁耳，聞其兵精，得無爲孤累乎？昭曰：奉少黨援，心相憑結，鎮東費亭之事，皆奉所定。宜時遣使，厚遣答謝，以安其意。說京都無糧，欲車駕暫幸魯陽。魯陽近許，轉運稍易，可無縣乏之憂。奉爲人勇而寡慮，必不見疑。比使往來，足以定計。奉何能爲累？操曰：善。即遣使詣奉。庚申，車駕出轅轅而東，遂遷都許。己巳，幸曹操營，以操爲大將軍，封武平侯。始立宗廟社稷於許。○孫策將取會稽，吳人嚴白虎等衆各萬餘人，處處屯聚。諸將欲先擊白虎等，策曰：白虎等羣盜，非有大志，此成禽耳。遂引兵渡浙江，會稽功

曹虞翻說太守王朗曰策善用兵不如避之朗不從發兵拒策於固陵策數渡水戰不能克策叔父靜說策曰朗負阻城守難可卒拔查瀆南去此數十里宜從彼據其內所謂攻其無備出其不意者也策從之夜多然火爲疑兵分軍投查瀆道襲高遷屯朗大驚遣故丹陽太守周昕等帥兵逆戰策破昕等斬之朗遁走虞翻追隨營護朗浮海至東冶策追擊大破之朗乃詣策降策自領會稽太守復命虞翻爲功曹待以交友之禮策好游獵翻諫曰明府喜輕出微行從官不暇嚴吏卒常苦之夫君人者不重則不威故白龍魚服困於豫且白蛇自放劉季害之願少留意策曰君言是也然不能改○九月司徒淳于嘉太尉楊彪司空張喜皆罷○車駕之東遷也楊奉自梁欲邀之不及冬十月曹操征奉奉南犇袁術遂攻其梁屯拔之○詔書下袁紹責以地廣兵多而專自樹黨不聞勤王之師但擅相討伐紹上書深自陳懇戊辰以紹爲太尉封鄴侯紹恥班在曹操下怒曰曹操當死數矣我輒救存之今乃挾天子以令我乎表辭不受操懼請以大將軍讓紹丙戌以操爲司空行車騎將軍事操以荀彧爲侍中守尚書令操問彧以策謀之士或薦其從子蜀郡太守攸及潁川郭嘉操徵攸爲尚書與語大悅曰公達非常人也吾得與之計事天下當何憂哉以爲軍師初郭嘉往見袁紹紹甚敬禮之居數十日謂紹謀臣辛評郭圖曰夫智者審於量主故百全而功名可立袁公徒欲效周公之下士而不知用人之機多端寡要奸謀無決欲與共濟天下大難定霸王之業難矣吾將更舉而求主子盍去乎二人曰袁氏有恩德於天下人多歸之且今最强去將何之嘉知其不寤不復言遂去之操召見與論天下事喜曰使孤成大業者必此人也嘉出亦喜曰真吾主也操表嘉爲司空祭酒操以山陽滿寵爲許令操從弟洪有賓客在許界數犯法寵收治之洪書報寵寵不聽洪以白操操召許主者寵知將欲原宥乃速殺之操喜曰當事不當爾邪○北海太守孔融負其高氣志在靖難而才疎意廣訖無成功高談清教盈

溢官曹辭氣溫雅可玩而誦論事考實難可悉行但能張磔網羅而日理甚疎造次能得人其心久久亦不願附也其所任用好奇取異多剽輕小才至於尊事名儒鄭玄執子孫禮易其鄉名曰鄭公鄉及清儒之士左承祖劉義遜等皆備在坐席而已不與論政事曰此民望不可失也黃巾來寇融戰敗走保都昌時袁曹公孫首尾相連融兵弱糧寡孤立一隅不與相通左承祖勸融宜自託強國融不聽而殺之劉義遜奔去青州刺史袁譚攻融自春至夏戰士所餘纔數百人流矢交集而融猶隱几讀書談笑自若城夜陷乃奔東山妻子爲譚所虜曹操與融有舊徵爲將作大匠袁譚初至青州其土自河而西不過平原譚北排田楷東破孔融威惠甚著其後信任羣小肆志奢淫聲望遂衰○中平以來天下亂離民奔農業諸軍竝起率乏糧穀無終歲之計飢則寇掠飽則棄餘瓦解流離無敵自破者不可勝數袁紹在河北軍人仰食桑樵袁術在江淮取給蒲贏民多相食州里蕭條羽林監棗祇請建置屯田曹操從之以祇爲屯田都尉以騎都尉任峻爲典農中郎將募民屯田許下得穀百萬斛於是州郡例置田官所在積穀倉粟皆滿故操征伐四方無運糧之勞遂能兼并羣雄軍國之饒起於祇而成於峻○袁術畏呂布爲己害乃爲子求婚布復許之術遣將紀靈等步騎三萬攻劉備備求救於布諸將謂布曰將軍常欲殺劉備今可假手於術布曰不然術若破備則北連泰山諸將吾爲在術圍中不得不救也便率步騎千餘馳往赴之靈等聞布至皆斂兵而止布屯沛城西南遣鈴下請靈等靈等亦請布布往就之與備共飲食布謂靈等曰玄德布弟也爲諸君所困故來救之布性不喜合鬪喜解鬪耳乃令軍候植載於營門布彎弓顧曰諸君觀布射戟小支中者當各解兵不中可留決鬪布卽一發正中戟支靈等皆驚言將軍天威也明日復歡會然後各罷備合兵得萬餘人布惡之自出兵攻備備敗走歸曹操操厚遇之以爲豫州牧或謂操曰備有英雄之志今不早圖後必爲患操以問郭嘉嘉曰有

是然公起義兵爲百姓除暴推誠仗信以招俊傑猶懼其未也今備有英雄名以窮歸己而害之是以害賢爲名也如此則智士將自疑回心擇主公誰與定天下乎夫除一人之患以沮四海之望安危之機也不可不察操笑曰君得之矣遂益其兵給糧食使東至沛收散兵以圖呂布初備在豫州舉陳郡袁渙爲茂才渙爲呂布所留布欲使渙作書罵辱備渙不可再三彊之不許布大怒以兵脅渙曰爲之則生不爲則死渙顏色不變笑而應之曰渙聞唯德可以辱人不聞以罵使彼固君子邪且不恥將軍之言彼誠小人邪將復將軍之意則辱在此不在於彼且渙它日之事劉將軍猶今日之事將軍也如一旦去此復罵將軍可乎布慚而止○張濟自關中引兵入荊州界攻穰城爲流矢所中死荊州官屬皆賀劉表曰濟以窮來主人無禮至于交鋒此非牧意牧受弔不受賀也使入納其衆衆聞之喜皆歸心焉濟族子建忠將軍繡代領其衆屯宛初帝既出長安宣義將軍賈詡上還印綬往依段熲于華陰詡素知名爲熲軍所望熲禮奉甚備詡潛謀歸張繡或曰熲待君厚矣君去安之詡曰熲性多疑有忌詡意禮雖厚不可恃久將爲所圖我去必喜又望吾結大援於外必厚吾妻子繡無謀主亦願得詡則家與身必俱全矣詡遂往繡執子孫禮熲果善視其家詡說繡附於劉表繡從之詡往見表表以客禮待之詡曰表平世三公才也不見事變多疑無決無能爲也劉表愛民養士從容自保境內無事關西兗豫學士歸之者以千數表乃起立學校講明經術命故雅樂郎河南杜夔作雅樂樂備表欲庭觀之夔曰今將軍號不爲天子合樂庭作之無乃不可乎表乃止平原禰衡少有才辨而尙氣剛傲孔融薦之於曹操衡罵辱操操怒謂融曰禰衡豎子孤殺之猶雀鼠耳顧此人素有虛名遠近將謂孤不能容之乃送與劉表表延禮以爲上賓衡稱表之美盈口而好譏貶其左右於是左右因形而譖之曰衡稱將軍之仁西伯不過也唯以爲不能斷終不濟者必由此也其言實指表短而非衡所言也表由

是怒以江夏太守黃祖性急送衡與之祖亦善待焉後衡衆辱祖祖殺之
二年春正月曹操討張繡軍于清水繡舉衆降操納張濟之妻繡恨之又以金與繡驍將胡車兒繡聞而疑懼襲擊操軍殺操長子昂操中流矢敗走校尉典韋與繡力戰左右死傷略盡韋被數十創繡兵前搏之韋雙挾兩人擊殺之瞋目大罵而死操收散兵還住舞陰繡率騎來追操擊破之繡走還穰復與劉表合是時諸軍大亂平虜校尉泰山于禁獨整衆而還道逢青州兵劫掠人禁數其罪而擊之青州兵走詣操禁既至先立營壘不時謁操或謂禁道逢青州兵已訴君矣宜促詣公辨之禁曰今賊在後追至無時不先爲備何以待敵且公聰明譖訴何緣得行徐鑿塹安營訖乃入謁具陳其狀操悅謂禁曰清水之難吾猶狼狽將軍在亂能整討暴擊壘有不可動之節雖古名將何以加之於是錄禁前後功封益壽亭侯操引軍還許○袁紹與操書辭語驕慢操謂荀彧郭嘉曰今將討不義而力不敵何如對曰劉項之不敵公所知也漢祖惟智勝項羽故羽雖彊終爲所禽今紹有十敗公有十勝紹雖彊無能爲也紹繁禮多儀公體任自然此道勝也紹以逆動公奉順以率天下此義勝也桓靈以來政失於寬紹以寬濟寬故不攝公糾之以猛上下知制此治勝也紹外寬內忌用人而疑之所任唯親戚子弟公外易簡而內機明用人無疑唯才所宜不問遠近此度勝也紹多謀少決失在後事公得策輒行應變無窮此謀勝也紹高議揖讓以收名譽士之好言飾外者多歸之公以至心待人不爲虛美士之忠正遠見而有實者皆願爲用此德勝也紹見人飢寒恤念之形於顏色其所不見慮或不及公於目前小事時有所忽至于大事與四海接恩之所加皆過其望雖所不見慮無不周此仁勝也紹大臣爭權讒言惑亂公御下以道浸潤不行此明勝也紹是非不可知公所是進之以禮所不是正之以法此文勝也紹好爲虛執不知兵要公以少克衆用兵如神軍人恃之敵人畏之此武勝也操笑曰如卿所言孤何德

以堪之。嘉又曰：紹方北擊公孫瓚，可因其遠征，東取呂布。若紹為寇，布為之援，此深害也。或曰：不先取呂布，河北未易圖也。操曰：然吾所惑者，又恐紹侵擾關中，西亂羌胡，南誘蜀漢，是我獨以兗豫抗天下六分之五也。為將奈何？或曰：關中將帥以十數，莫能相一。唯韓遂、馬騰最彊，彼見山東方爭，必各擁衆自保。今若撫以恩德，遣使連和，雖不能久安，比公安定，山東足以不動。侍中尚書僕射鍾繇有智謀，若屬以西事，公無憂矣。操乃表繇以侍中、守司隸校尉，持節督關中諸軍，特使不拘科制。繇至長安，移書騰、遂等，為陳禍福。騰遂各遣子入侍。○袁術稱帝於壽春，自稱仲家。以九江太守為淮南尹，置公卿百官，郊祀天地，沛相陳珪、球弟子也。少與術遊，術以書召珪，又劫質其子，期必致珪。珪答書曰：曹將軍興復典刑，將撥平凶慝，以為足下當僂力同心，匡翼漢室，而陰謀不軌，以身試禍，欲吾營私阿附，有死不能也。術欲以故兗州刺史金尚為太尉，尚不許而逃去。術殺之。○三月，詔將作大匠孔融持節拜袁紹大將軍，兼督冀青幽并四州。○夏五月，蝗。○袁術遣使者韓胤以稱帝事告呂布，因求迎婦。布遣女隨之。陳珪恐徐揚合從為難，未已，往說布曰：曹公奉迎天子，輔贊國政，將軍宜與協同策謀，共存大計。今與袁術結昏，必受不義之名。將有累卵之危矣。布亦怨術初不已受也。女已在塗，乃追還絕昏。械送韓胤，梟首許市。陳珪欲使子登詣曹操，布固不肯。會詔以布為左將軍，操復遣布手書，深加尉納。布大喜，即遣登奉章謝恩，并答操書。登見操，因陳布勇而無謀，輕於去就，宜早圖之。操曰：布狼子野心，誠難久養，非卿莫究其情偽。即增珪秩中二千石，拜登廣陵太守，臨別，操執登手曰：東方之事，便以相付。令陰合部衆，以為內應。始布因登求徐州牧，不得，登還，布怒，拔戟斫几曰：卿父勸吾協同曹操，絕婚公路，今吾所求無獲，而卿父子竝顯重，但為卿所賣耳。登不為動容。徐對之曰：登見曹公言養將軍，譬如養虎，當飽其肉，不飽則將噬人。公曰：不如卿言。譬如養鷹，飢即為用，飽則颺去。其言如此。布意乃解。袁

術遣其大將張勳、橋蕤等與韓暹、楊奉連執步騎數萬趣下邳。七道攻布，布時有兵三千，馬四百匹，懼其不敵，謂陳珪曰：今致術軍，卿之由也。為之奈何？珪曰：暹奉與術卒合之師耳，謀無素定，不能相維。子登策之，比於連雞，執不俱棲，立可離也。布用珪策，與暹奉書曰：二將軍親拔大駕而布，手殺董卓，俱立功名。今奈何與袁術同為賊乎？不如相與并力破術，為國除害。且許悉以術軍資與之。暹奉大喜，即回計從布。布進軍，去勳營百步，暹奉兵同時叫呼，竝到勳營，勳等散走。布兵追擊，斬其將十人首，所殺傷墮水死者殆盡。布因與暹奉合軍，向壽春。水陸竝進，到鍾離。所過虜掠，還渡淮，北留書辱術。術自將步騎五千，揚兵淮上。布騎皆於水北大哈笑之。而還，泰山賊帥臧霸、裴瑒、邪相蕭建於莒，破之，霸得建資實，許以賂布。而未送布，自往求之。其督將高順諫曰：將軍威名宣播，遠近所畏，何求不得，而自行求賂？萬一不克，豈不損邪？布不從。既至莒，霸等不測，往意固守拒之。無獲而還。順為人清白，有威嚴，少言辭。所將七百餘兵，號令整齊，每戰必克。名陷陳營，布後疎順，以魏續有內外之親，奪其兵，以與續。及當攻戰，則復令順將，順亦終無恨意。布性決易，所為無常。順每諫曰：將軍舉動，不肯詳思，忽有失得，動輒言誤，豈可數乎？布知其忠而不能從。○曹操遣議郎王誦以詔書拜孫策為騎都尉，襲爵烏程侯，領會稽太守，使與呂布及吳郡太守陳瑀共討袁術。策欲得將軍號，以自重，誦便承制，假策明漢將軍。策治嚴行，到錢唐，瑀陰圖襲策，潛結祖郎嚴白虎等，使為內應，策覺之，遣其將呂範、徐逸攻瑀於海西，瑀敗，單騎奔袁紹。○初，陳王寵有勇善弩射，黃巾賊起，寵治兵自守，國人畏之，不敢離叛。國相會稽駱俊素有威恩，是時王侯無復租祿，而數見侵奪，或并日而食，轉死溝壑，而陳獨富彊，鄰郡人多歸之。有衆十餘萬，及州郡兵起，寵率衆屯陽夏，自稱輔漢大將軍。袁術求糧於陳，駱俊拒絕之。術忿恚，遣客詐殺俊，及寵陳由是破敗。○秋九月，司空曹操東征袁術，術聞操來，奔軍走，留其將橋蕤等於蕪陽，以拒

操擊破蕤等皆斬之。術走渡淮。時天旱歲荒。士民凍餒。術由是遂衰。操辟陳國何夔爲掾。問以袁術何如。對曰。天之所助者順。人之所助者信。術無信順之實。而望天人之助。其可得乎。操曰。爲國失賢則亡。君不爲術所用。亡不亦宜乎。操性嚴。掾屬公事。往往加杖。夔常蓄毒藥。誓死無辱。是以終不見及。沛國許褚。勇力絕人。聚少年及宗族數千家。堅壁以禦外寇。淮汝陳梁間。皆畏憚之。操徇淮汝。褚以衆歸操。操曰。此吾樊噲也。即日拜都尉。引入宿衛。諸從褚俠客。皆以爲虎士焉。○故太尉楊彪。與袁術昏姻。曹操惡之。誣云欲圖廢立。奏收下獄。劾以大逆。將作大臣孔融聞之。不及朝服往見。操曰。楊公。四世清德。海內所瞻。周書。父子兄弟。罪不相及。況以袁氏歸罪楊公乎。操曰。此國家之意。融曰。假使成王殺邵公。周公可得言不。知邪。操使許令滿寵按彪獄。融與尙書令荀彧皆屬寵。曰。但當受辭。勿加考掠。寵一無所報。考訊如法。數日求見。操言之曰。楊彪考訊無它辭語。此人有名海內。若罪不明白。必大失民望。竊爲明公惜之。操即日赦出彪。初。或融聞寵考掠彪皆怒。及因此得出。乃更善寵。彪見漢室衰微。政在曹氏。遂稱脚擊。積十餘年。不行。由是得免於禍。○馬日磾喪至京師。朝廷議欲加禮。孔融曰。日磾以上公之尊。秉髦節之使。而曲媚奸臣。爲所牽率。王室大臣。豈得以見脇爲辭。聖上哀矜舊臣。未忍追案。不宜加禮。朝廷從之。金尙喪至京師。詔百官弔祭。拜其子瑋爲郎中。○冬十一月。曹操復攻張繡。拔湖陽禽劉表將鄧濟。又攻舞陰。下之。○韓暹。楊奉。在下邳。寇掠徐揚間。軍飢餓。辭呂布欲詣荊州。布不聽。奉知劉備與布有宿憾。私與備相聞。欲共擊布。備陽許之。奉引軍詣沛。備請奉入城。飲食未半。於坐上縛奉斬之。暹失奉。孤特與十餘騎歸并州。爲杼秋令張宣所殺。胡才。李樂。留河東。才爲怨家所殺。樂自病死。郭汜爲其將伍習所殺。○潁川杜襲。趙儼。繁欽。避亂荊州。劉表俱待以賓禮。欽數見奇於表。襲喻之曰。吾所以與子俱來者。徒欲全身以待時耳。豈謂劉牧當爲撥亂之主。而規長者委身哉。子若見能

不已。非吾徒也。吾與子絕矣。欽慨然曰。請敬受命。及曹操迎天子都許。儼謂欽曰。曹鎮東必能匡濟華夏。吾知歸矣。遂還詣操。操以儼爲朗陵長。陽安都尉。江夏李通妻伯父。犯法。儼收治。致之大辟。時殺生之柄。決於牧守。通妻子號泣。以請其命。通曰。方與曹公勦力。義不以私廢公。嘉儼執憲不阿。與爲親交。

三年春正月。曹操還許。三月。將復擊張繡。荀攸曰。繡與劉表相恃爲彊。然繡以遊軍。仰食於表。表不能供也。執必乖離。不如緩軍以待之。可誘而致也。若急之。其執必相救。操不從。圍繡於穰。○夏四月。使謁者僕射裴茂。詔關中諸將段煨等討李傕。夷其三族。以煨爲安南將軍。封閔鄉侯。○初。袁紹每得詔書。患其有不便於己者。欲移天子自近。使說曹操。以許下埤溼。雒陽殘破。宜徙都鄴城。以就全實。操拒之。田豐說紹曰。徙都之計。既不克從。宜早圖許。奉迎天子。動託詔書。號令海內。此算之上者。不爾。終爲人所禽。雖悔無益也。紹不從。會紹亡卒。詣操云。田豐勸紹襲許。操解穰圍而還。張繡率衆追之。五月。劉表遣兵救繡。屯於安衆。守險以絕軍後。操與荀彧書曰。吾到安衆。破繡必矣。及到安衆。操軍前後受敵。操乃夜鑿險。僞遁。表繡悉軍來追。操縱奇兵。步騎夾攻。大破之。它日。或問操。前策賊必破。何也。操曰。虜邊吾歸師。而與吾死地。吾是以知勝矣。繡之追操也。賈詡止之曰。不可追也。追必敗。繡不聽。進兵交戰。大敗而還。詡登城謂繡曰。促更追之。更戰必勝。繡謝曰。不用公言。以至於此。今已敗。奈何。復追。詡曰。兵執有變。促追之。繡素信詡言。遂收散卒。更追合戰。果以勝還。乃問詡曰。繡以精兵追退軍。而公曰必敗。以敗卒擊勝兵。而公曰必克。悉如公言。何也。詡曰。此易知耳。將軍雖善用兵。非曹公敵也。曹公軍新退。必自斷後。故知必敗。曹公攻將軍。既無失策。力未盡。而一朝引退。必國內有故也。已破將軍。必輕軍速進。留諸將斷後。諸將雖勇。非將軍敵。故雖用敗兵。而戰必勝也。繡乃服。○呂布復與袁術通。遣其中郎將高順。及北地太守雁門張遼。攻劉備。

曹操遣將軍夏侯惇救之。爲順等所敗。秋九月，順等破沛城，虜備妻子，備單身走。曹操欲自擊布，諸將皆曰：「劉表張繡在後，而遠襲呂布，其危必也。」荀攸曰：「表繡新破，不敢動。布驍猛，又恃袁術，若從橫淮泗間，豪傑必應之。今乘其初叛，衆心未一，往可破也。」操曰：「善。」比行，泰山屯帥臧霸、孫觀、吳敦、尹禮、昌豨等皆附於布。操與劉備遇于梁，進至彭城，陳宮謂布宜逆擊之，以逸待勞，無不克也。布曰：「不如待其來。」蹙著泗水中。冬十月，操屠彭城，廣陵太守陳登率郡兵爲操先驅，進至下邳。布自將，屢與操戰，皆大敗，還保城，不敢出。操遣布書爲陳禍，福布懼，欲降。陳宮曰：「曹操遠來，執不能久。將軍若以步騎出屯於外，宮將餘衆閉守於內，若向將軍，宮引兵而攻其背，若但攻城，則將軍救于外，不過旬月，操軍食盡，擊之可破也。布然之。欲使宮與高順守城，自將騎斷糧道。布妻謂布曰：「宮順素不和，將軍一出，宮順必不同心共城守也。如有蹉跌，將軍當於何自立乎？且曹氏待公臺如赤子，猶舍而歸我，今將軍厚公臺，不過曹氏而欲委全城，捐妻子，孤軍遠出，若一旦有變，妾豈得復爲將軍妻哉？布乃止。潛遣其官屬許汜、王楷求救於袁術。術曰：「布不與我女，理自當敗。何爲復來？」汜楷曰：「明上今不救，布爲自敗耳。」布破，明上亦破也。術乃嚴兵爲布作聲援，布恐術爲女不至，故不遣救兵。以縣纏女身縛著馬上，夜自送女出，與操守兵相觸，格射不得過，復還城。河內太守張楊素與布善，欲救之，不能，乃出兵東市遙爲之執。十一月，楊將楊醜殺楊，以應操，別將眭固復殺醜，將其衆北合袁紹。楊性仁和，無威刑，下人謀反發覺，對之涕泣，輒原不問，故及於難。操掘塹圍下邳積久，士卒疲敝，欲還。荀攸、郭嘉曰：「呂布勇而無謀，今屢戰皆北，銳氣衰矣。三軍以將爲主，主衰則軍無奮意。陳宮有智而遲，今及布氣之未復，宮謀之未定，急攻之，布可拔也。」乃引沂泗灌城，月餘，布益困迫。臨城，謂操軍士曰：「卿曹無相困我，我當自首。明公、陳宮曰：「逆賊曹操，何等明公！今日降之，若卵投石，豈可得全也？」布將侯成亡其名馬，已而復得之，諸將合禮。

以賀成，成分酒肉，先入獻布。布怒曰：「布禁酒，而卿等醞釀爲欲，因酒共謀布邪？」成忿懼，十二月癸酉，成與諸將宋憲、魏續等共執陳宮、高順，率其衆降。布與麾下登白門樓，兵圍之急，布令左右取其首詣操，左右不忍，乃下降。布見操曰：「今日已往，天下定矣。」操曰：「何以言之？」布曰：「明公之所患，不過於布，今已服矣。若令布將騎，明公將步，天下不足定也。」願謂劉備曰：「玄德，卿爲坐上客，我爲降虜，繩縛我急，獨不可一言邪？」操笑曰：「縛虎不得不急，乃命緩布縛，劉備曰：「不可。明公不見呂布事，丁建陽董太師乎？操領之，布目備曰：「大耳兒，最叵信。操謂陳宮曰：「公臺平生自謂智有餘，今竟何如？」宮指布曰：「是子不用宮言，以至於此。若其見從，亦未必爲禽也。」操曰：「柰卿老母何？」宮曰：「宮聞以孝治天下者，不害人之親。老母存否？」在明公不在宮也。操曰：「奈卿妻子何？」宮曰：「宮聞施仁政於天下者，不絕人之祀。妻子存否？」在明公不在宮也。操未復言，宮請就刑，遂出不顧。操爲之泣涕，并布順皆縊殺之。傳首許市。操召陳宮之母，養之終其身。嫁宮女，撫視其家，皆厚於初。前尚書令陳紀、紀子羣，在布軍中，操皆禮用之。張遼將其衆降，拜中郎將，臧霸自亡匿，操募索得之，使霸招吳敦、尹禮、孫觀等，皆詣操降。操乃分琅邪、東海爲城陽、利城、昌慮郡，悉以霸等爲守相。初，操在兖州，以徐翕、毛暉爲將，及兖州亂，翕、暉皆叛。兖州既定，翕暉亡命投霸，操語劉備，令霸送二首。霸謂備曰：「霸所以能自立者，以不爲此也。霸受主公生全之恩，不敢違命。然王霸之君，可以義告，願將軍爲之辭，備以霸言白操。操歎息，謂霸曰：「此古人之事，而君能行之，孤之願也。皆以翕暉爲郡守，陳登以功加伏波將軍。」○劉表與袁紹深相結約，治中鄧羲諫表，表曰：「內不失貢職，外不背盟主，此天下之達義也。治中獨何怪乎？」羲乃辭疾而退。長沙太守張羨，性屈強，表不禮焉。郡人桓階說羨舉長沙零陵桂陽三郡以拒表，遣使附於曹操。羨從之。○孫策遣其正議校尉張紘獻方物，曹操欲撫納之，表策爲討逆將軍，封吳侯，以弟女配策弟匡，又爲子彰取孫貴女，禮辟策弟權，翊。

以張紘爲侍御史。袁術以周瑜爲居巢長。以臨淮魯肅爲東城長。瑜、肅知術終無所成。皆弃官渡江。從孫策。策以瑜爲建威中郎將。肅因家於曲阿。曹操表徵王朗。策遣朗還。操以朗爲諫議大夫。參司空軍事。袁術遣間使齎印綬與丹陽宗帥祖郎等。使激動山越。共圖孫策。劉繇之奔豫章也。太史慈遁於蕪湖山中。自稱丹陽太守。策已定宣城。以東惟涇。以西六縣未服。慈因進住涇縣。大爲山越所附。於是策自將討祖郎於陵陽。禽之。策謂郎曰。爾昔襲孤。斫孤馬鞍。今創軍立事。除弃宿恨。惟取能用。與天下通耳。非但汝。汝勿恐怖。郎叩頭謝罪。即破械。署門下賊曹。又討太史慈於勇里。禽之。解縛。捉其手曰。寧識神亭時邪。若卿爾時得我。云何。慈曰。未可量也。策大笑曰。今日之事。當與卿共之。聞卿有烈義。天下智士也。但所託未得其人耳。孤是卿知己。勿憂。不如意也。即署門下督軍。還祖郎。太史慈俱在前導軍。人以爲榮。會劉繇卒于豫章。士衆萬餘人。欲奉豫章太守華歆爲主。歆以爲因時擅命。非人臣所宜。衆守之連月。卒謝遣之。其衆未有所附。策命太史慈往撫安之。謂慈曰。劉牧往責吾爲袁氏攻廬江。吾先君兵數千人。盡在公路許。吾志在立事。安得不屈意於公路而求之乎。其後不遵臣節。諫之不從。丈夫義交。苟有大故。不得不離。吾交求公路。及絕之。本末如此。恨不及其生時。與共論辨也。今兒子在豫章。卿往視之。并宣孤意於其部曲。部曲樂來者。與俱來。不樂來者。且安慰之。并觀華子魚。所以牧御方規。何如。卿須幾兵。多少隨意。慈曰。慈有不赦之罪。將軍量同桓文。當盡死以報德。今竝息兵。兵不宜多。將數十人足矣。左右皆曰。慈必北去。不還。策曰。子義捨我。當復從誰。餞送昌門。把腕別曰。何時能還。答曰。不過六十日。慈行。議者猶紛紜言。遣之非計。策曰。諸君勿復言。孤斷之詳矣。太史子義雖氣勇。有膽烈。然非縱橫之人。其心秉道義。重然諾。一以意許。知己死亡。不相負。諸君勿憂也。慈果如期而反。謂策曰。華子魚良德也。然無它方規。自守而已。又丹陽僮芝。自擅廬陵。番陽民帥別立宗部。言我已別立郡。

海昏。上繚不受。發召子魚。但覩視之而已。策拊掌大笑。遂有兼并之志。○袁紹連年攻公孫瓚。不能克。以書諭之。欲相與釋憾。連和。瓚不答。而增修守備。謂長史太原關靖曰。當今四方虎爭。無有能坐吾城下。相守經年者。明矣。袁本初其若我何。紹於是大興兵。以攻瓚。先是瓚別將有爲敵所圍者。瓚不救。曰。救一人。使後將恃救。不肯力戰。及紹來攻。瓚南界別營。自度守則不能自固。又知必不見救。或降。或潰。紹軍徑至其門。瓚遣子續請救於黑山諸帥。而欲自將突騎出傍西山。擁黑山之衆。侵掠冀州。橫斷紹後。關靖諫曰。今將軍將士莫不懷瓦解之心。所以猶能相守者。願戀其居處老少。而恃將軍爲主故耳。堅守曠日。或可使紹自退。若舍之而出。後無鎮重。易京之危可立待也。瓚乃止。紹漸相攻逼。瓚衆日蹙。

資治通鑑卷第六十二

資治通鑑卷第六十三

漢紀五十五

孝獻皇帝戊

建安四年春，黑山賊帥張燕與公孫續率兵十萬，三道救之。未至，瓚密使行人齎書告續，使引五千鐵騎於北隰之中，起火為應。瓚欲自內出戰，紹候得其書，如期舉火。瓚以為救至，遂出戰。紹設伏擊之，瓚大敗，復還自守。紹為地道，穿其樓下，施木柱之，度足達半，便燒之。樓輒傾倒，稍至京中。瓚自計必無全，乃悉縊其姊妹妻子，然後引火自焚。紹趣兵登臺，斬之。田楷戰死。關靖歎曰：「前若不止將軍自行，未必不濟。吾聞君子陷人危，必同其難，豈可以獨生乎？」策馬赴紹軍而死。續為屠各所殺。漁陽田豫說太守鮮于輔曰：「曹氏奉天子，以令諸侯，終能定天下。宜早從之。」輔乃率其眾以奉王命。詔以輔為建忠將軍，都督幽州六郡。初，烏桓王丘力居死，子樓班年少，從子蹋頓有武略，代立。總攝上谷大人難樓、遼東大人蘇僕延、右北平大人烏延等。袁紹攻公孫瓚，蹋頓以烏桓助之。瓚滅，紹承制，皆賜蹋頓、難樓、蘇僕延、烏延等單于印綬。又以閻柔得烏桓心，因加寵慰，以安北邊。其後，難樓、蘇僕延奉樓班為單于，以蹋頓為王。然蹋頓猶秉計策。○陸固屯射犬，夏四月，曹操進軍臨河，使將軍史渙、曹仁渡河擊之。仁操從弟也，固自將兵北詣袁紹求救。與渙仁遇於犬城，渙仁擊斬之。操遂濟河，圍射犬。射犬降。操還軍敖倉，初操在兖州，舉魏种、孝廉、兖州叛，操曰：「唯魏种，且不弃孤。」及聞种走，操怒曰：「种不南走越，北走胡，不置汝也。」既下射犬，生禽种，操曰：「唯其才也，釋其縛而用之。」以為

河內太守，屬以河北事。○以衛將軍董承為車騎將軍。○袁術既稱帝，淫侈滋甚，媵御數百，無不兼羅紈，厭梁肉，自下飢困，莫之收恤。既而資實空盡，不能自立，乃燒宮室，葬其部曲陳簡、雷薄於灤山，復為簡等所拒。遂大窮，士卒散走，憂慙不知所為，乃遣使歸帝號於從兄紹，曰：「祿去漢室久矣，袁氏受命當王。符瑞炳然，今君擁有四州，人戶百萬，謹歸大命。君其興之。」袁譚自青州迎術，欲從下邳北過曹操，遣劉備及將軍清河朱靈邀之。術不得過，復走壽春。六月，至江亭，坐簀牀而歎曰：「袁術乃至是乎？因憤慨結病，歔血死。術從弟胤畏曹操，不敢居壽春，率其部曲奉術柩及妻子奔廬江太守劉勳於皖城。故廣陵太守徐璆得傳國璽獻之。○袁紹既克公孫瓚，心益驕，貢御稀簡，主簿耿包密白紹，宜應天人稱尊號。紹以包白事示軍府僚屬，皆言包妖妄，宜誅。紹不得已，殺包以自解。紹簡精兵十萬騎萬匹，欲以攻許。沮授諫曰：「近討公孫瓚，師出歷年，百姓疲敝，倉庫無積，未可動也。宜務農息民，先遣使獻捷天子，若不得通，乃表曹操，隔我王路。然後進屯黎陽，漸營河南，益作舟船，繕修器械，分遣精騎抄其邊鄙，令彼不得安。我取其逸，如此可坐定也。」郭圖審配曰：「以明公之神武，引河朔之彊眾，以伐曹操，易如覆手，何必乃爾？」授曰：「夫救亂誅暴，謂之義兵，恃眾憑彊，謂之驕兵。義者無敵，驕者先滅。曹操奉天子以令天下，今舉師南向，於義則違，且廟勝之策，不在彊弱。曹操法令既行，士卒精練，非公孫瓚坐而受攻者也。今奔萬安之術，而興無名之師，竊為公懼之。圖配曰：「武王伐紂，不為不義，況兵加曹操，而云無名，且以公今日之彊，將士思奮，不及時以定大業，所謂天與不取，反受其咎。此越之所以霸，吳之所以滅也。監軍之計在於持牢，而非見時知幾之變也。」紹納圖言。圖等因是譖授曰：「授監統內外，威震三軍，若其寢盛，何以制之？夫臣與主同者亡，此黃石之所忌也。且御眾於外，不宜知內，紹乃分授所統為三都督，使授及郭圖、淳于瓊各典一軍，騎都尉清河崔琰諫曰：「天子在許，民望助順，不可攻也。紹不從。許下諸

將聞紹將攻許，皆懼。曹操曰：吾知紹之爲人，志大而智小，色厲而膽薄，忌克而少威，兵多而分畫不明，將驕而政令不壹，土地雖廣，糧食雖豐，適足以爲吾奉也。孔融謂荀彧曰：紹地廣兵強，田豐許攸，智士也，爲之謀，審配逢紀，忠臣也，任其事，顏良文醜，勇將也，統其兵，殆難克乎？或曰：紹兵雖多，而法不整，田豐剛而犯上，許攸貪而不治，審配專而無謀，逢紀果而自用，此數人者，執不相容，必生內變。顏良文醜，一夫之勇耳，可一戰而禽也。秋八月，操進軍黎陽，使臧霸等將精兵入青州，以扞東方，留于禁屯河上。九月，操還許，分兵守官渡。袁紹遣人招張繡，并與賈詡書，結好。繡欲許之，詡於繡坐上，顯謂紹使曰：歸謝袁本初，兄弟不能相容，而能容天下國士乎？繡驚懼曰：何至于此？竊謂詡曰：若此，當何歸？詡曰：不如從曹公。繡曰：袁強曹弱，又先與曹爲讐，從之如何？詡曰：此乃所以宜從也。夫曹公奉天子，以令天下，其宜從一也。紹彊盛，我以少衆從之，必不以我爲重。曹公衆弱，其得我必喜，其宜從二也。夫有霸王之志者，固將釋私怨，以明德於四海，其宜從三也。願將軍無疑。冬十一月，繡率衆降。曹操執繡手，與歡宴。爲子均取繡女，拜揚武將軍。表詔爲執金吾，封都亭侯。關中諸將以袁曹方爭，皆中立，願望涼州牧韋端使從事天水楊阜詣許。阜還，關右諸將問袁曹勝敗孰在。阜曰：袁公寬而不斷，好謀而少決，不斷則無威，少決則後事。今雖彊，終不能成大業。曹公有雄才遠略，決機無疑，法一而兵精，能用度外之人，所任各盡其力，必能濟大事者也。曹操使治書侍御史河東衛凱鎮撫關中，時四方大有還民。關中諸將多引爲部曲，凱書與荀彧曰：關中膏腴之地，頃遭荒亂，人民流入荊州者十萬餘家，聞本土安寧，皆企望思歸，而歸者無以自業，諸將各競招懷，以爲部曲，郡縣貧弱，不能與爭，兵家遂彊，一旦變動，必有後憂。夫鹽國之大寶也，亂來放散，宜如舊置使者監賣，以其直益市犂牛，若有歸民，以供給之，勤耕積粟，以豐殖關中，遠民間之，必日夜競還。又使司隸校尉留治關中，以爲之主，則諸將日削，官民日盛。

此彊本弱，敵之利也。或曰：白操操從之，始遣謁者僕射監鹽官，司隸校尉治弘農，關中由是服從。袁紹使人求助於劉表，表許之，而竟不至，亦不援曹操。從事中郎南陽韓嵩別駕零陵劉先說表曰：今兩雄相持，天下之重在於將軍，若欲有爲，起乘其敝，可也。如其不然，固將擇所宜從，豈可擁甲十萬，坐觀成敗，求援而不能助，見賢而不肯歸，此兩怨必集於將軍，恐不得中立矣。曹操善用兵，賢俊多歸之，其執必舉袁紹，然後移兵，以向江漢，恐將軍不能禦也。今之勝計，莫若舉荊州以附曹操，操必重德將軍，長享福祚，垂之後嗣，此萬全之策也。劉越亦勸之，表狐疑不決，乃遣嵩詣許。曰：今天下未知所定，而曹操擁天子都許，君爲我觀其釁。嵩曰：聖達節，次守節，嵩守節者也。夫君臣名定，以死守之，今策名委質，唯將軍所命，雖赴湯蹈火，死無辭也。以嵩觀之，曹公必得志於天下，將軍能上順天子，下歸曹公，使嵩可也。如其猶豫，嵩至京師，天子假嵩一職，不獲辭命，則成天子之臣，將軍之故吏耳。在君爲君，則嵩守天子之命，義不得復爲將軍死也。惟加重思，無爲負嵩，表以爲憚，使彊之。至許，詔拜嵩侍中，零陵太守，及還，盛稱朝廷。曹公之德，勸表遣子入侍，表大怒，以爲懷貳。大會寮屬，陳兵持節將斬之，數曰：韓嵩敢懷貳邪？衆皆恐，欲令嵩謝。嵩不爲動容，徐謂表曰：將軍負嵩，嵩不負將軍。具陳前言，表妻蔡氏諫曰：韓嵩，楚國之望也，且其言直，誅之無辭。表猶怒，考殺從行者，知無他意，乃弗誅而囚之。○揚州賊帥鄭寶欲略居民，以赴江表，以淮南劉曄高族名人，欲劫之，使唱此謀。曄患之，會曹操遣使詣州，有所案問，曄要與歸家。寶來候使者，曄留與宴飲，手刃殺之，斬其首，以令寶軍。曰：曹公有令，敢有動者，與寶同罪。其衆數千人皆讐服，推曄爲主，曄以其衆與廬江太守劉勳勳怪其故，曄曰：寶無法制，其衆素以鈔略爲利，僕宿無資，而整齊之，必懷怨難久，故以相與耳。勳以袁術部曲衆多，不能贍，遣從弟偕求米於上繚諸宗帥，不能滿數，偕召勳使襲之，孫策惡勳兵強，僞卑辭以事勳，曰：上繚宗民數欺鄙郡，欲擊之路。

不便。上繚甚富實。願君伐之。請出兵以爲外援。且以珠寶葛越賂勳。勳大喜。外內盡賀。劉曄獨否。勳問其故。對曰。上繚雖小。城堅池深。攻難守易。不可旬日而舉也。兵疲於外。而國內虛。策乘虛襲我。則後不能獨守。是將軍進屈於敵。退無所歸。若軍必出。禍今至矣。勳不聽。遂伐上繚。至海昏。宗帥知之。皆空壁逃。遷勳了無所得。時策引兵西擊黃祖。行及石城。聞勳在海昏。策乃分遣從兄賁。輔將八千人屯彭澤。自與領江夏太守周瑜將二萬人襲皖城。克之。得術勳妻子。及部曲三萬餘人。表汝南李術爲廬江太守。給兵三千人。以守皖城。皆徙所得民東詣吳。勳還至彭澤。孫賁孫輔邀擊破之。勳走。保流沂。求救於黃祖。祖遣其子射。率船軍五千人助勳。策復就攻勳。大破之。勳北歸。曹操射亦遁走。策收得勳兵二千餘人。船千艘。遂進擊黃祖。十二月辛亥。策軍至沙羨。劉表遣從子虎及南陽韓晞將長矛五千來救祖。甲寅。策與戰。大破之。斬晞。祖脫身走。獲其妻子及船六千艘。士卒殺溺死者數萬人。策盛兵將徇豫章。屯于椒丘。謂功曹虞翻曰。華子魚自有名字。然非吾敵也。若不開門讓城。金鼓一震。不得無所傷害。卿便在前。具宣孤意。翻乃往見華。歆曰。竊聞明府與鄱郡故王府君齊名中州。海內所宗。雖在東垂。常懷瞻仰。歆曰。孤不如王會稽。翻復曰。不審豫章資糧器仗。士民勇果。孰與鄱郡。歆曰。大不如也。翻曰。明府言不如王會稽。謙光之譚耳。精兵不如會稽。實如尊教。孫討逆智略超世。用兵如神。前走劉揚州。君所親見。南定鄱郡。亦君所聞也。今欲守孤城。自料資糧已不足。不早爲計。悔無及也。今大軍已次椒丘。僕便還去。明日日中。迎檄不到者。與君辭矣。歆曰。久在江表。常欲北歸。孫會稽來。吾便去也。乃夜作檄。明且遣吏齎迎策。便進軍。歆葛巾迎策。策謂歆曰。府君年德名望。遠近所歸。策年幼稚。宜修子弟之禮。便向歆拜。禮爲上賓。

孫盛曰。歆既無夷皓韜邈之風。又失王臣匪躬之操。繞心於邪儒之說。交臂於陵肆之徒。

位奪節墮。咎孰大焉。

策分豫章爲廬陵郡。以孫賁爲豫章太守。孫輔爲廬陵太守。會僮芝病。輔遂進取廬陵。留周瑜鎮巴丘。孫策之克皖城也。撫視袁術妻子。及入豫章。收載劉繇喪。善遇其家。士大夫以是稱之。會稽功曹魏騰嘗逆策意。策將殺之。衆憂恐。計無所出。策母吳夫人倚大井。謂策曰。汝新造江南。其事未集。方當優賢禮士。捨過錄功。魏功曹在公盡規。汝今日殺之。則明日人皆叛汝。吾不忍見禍之及。當先投此井中耳。策大驚。遂釋騰。初吳郡太守會稽盛憲。舉高岱孝廉。許貢來領郡。岱將憲避難於營帥許昭家。烏程鄒佗。錢銅。及嘉興王晟等。各聚衆萬餘。或數千人。不附孫策。策引兵撲討。皆破之。進攻嚴白虎。白虎兵敗。奔餘杭。投許昭。程普請擊昭。策曰。許昭有義於舊君。有誠於故友。此丈夫之志也。乃舍之。○曹操復屯官渡。操常從士徐他等謀殺操。入操帳。見校尉許褚。色變。褚覺而殺之。○初車騎將軍董承稱受帝衣帶中密詔。與劉備謀誅曹操。操從容謂備曰。今天下英雄。惟使君與操耳。本初之徒。不足數也。備方食。失匕箸。值天雷震。備因曰。聖人云。迅雷風烈。必變。良有以也。遂與承及長水校尉種輯。將軍吳子蘭。王服等同謀。會操遣備。與朱靈邀袁術。程昱。郭嘉。董昭。皆諫曰。備不可遣也。操悔。追之不及。術既南走。朱靈等還。備遂殺徐州刺史車胄。留關羽守下邳。行太守事。身還小沛。東海賊昌豸。及郡縣多叛。操爲備。備衆數萬人。遣使與袁紹連兵。操遣司空長史沛國劉岱。中郎將扶風王忠擊之。不克。備謂岱等曰。使汝百人來。無如我何。曹公自來。未可知耳。五年春正月。董承謀洩。壬午。曹操殺承及王服。種輯皆夷。三族。操欲自討劉備。諸將皆曰。與公爭天下者。袁紹也。今紹方來。而棄之東。紹乘人後。若何。操曰。劉備人傑也。今不擊。必爲後患。郭嘉曰。紹性遲而多疑。來必不速。備新起。衆心未附。急擊之。必敗。操師遂東。冀州別駕田豐說袁紹曰。曹操與劉備連兵。未可卒解。公舉軍而襲其後。可一往而定。紹辭以子疾。未得

行。豐舉杖擊地曰：嗟乎！遭難遇之時，而以嬰兒病，失其會，惜哉！事去矣。曹操擊劉備，破之，獲其妻子，進拔下邳，禽關羽。又擊昌豨，破之。備奔青州，因袁譚以歸。袁紹聞備至，去鄴二百里，迎之。駐月餘，所亡士卒稍稍歸之。曹操還軍官渡，紹乃議攻許田。豐曰：曹操既破劉備，則許下非復空虛，且操善用兵，變化無方，衆雖少，未可輕也。今不如以久持之。將軍據山河之固，擁四州之衆，外結英雄，內修農戰，然後簡其精銳，分爲奇兵，乘虛迭出，以擾河南，救右則擊其左，救左則擊其右，使敵疲於奔命，民不得安業，我未勞而彼已困，不及三年，可坐克也。今釋廟勝之策，而決成敗於一戰，若不如志，悔無及也。紹不從。豐彊諫，許紹以爲沮衆，械擊之。於是移檄州郡，數操罪惡。二月，進軍黎陽，沮授臨行，會其宗族，散資財以與之，曰：執存則威無不加，執亡則不保一身，哀哉！其弟宗曰：曹操士馬不敵，君何懼焉？授曰：以曹操之明略，又挾天子以爲資，我雖克伯珪，衆實疲敝，而主驕將怵，軍之破敗，在此舉矣。楊雄有言：六國蚩蚩，爲嬴弱姬，其今之謂乎？振威將軍程昱以七百兵守鄆城，曹操欲益昱兵二千，昱不肯。曰：袁紹擁十萬衆，自以所向無前，今見昱兵少，必輕易不來攻。若益昱兵，過則不可不攻，攻之必克，徒兩損其勢，願公無疑。紹聞昱兵少，果不往。操謂賈詡曰：程昱之膽，過於賁育矣。袁紹遣其將顏良攻東郡太守劉延於白馬，沮授曰：良性促狹，雖驍勇不可獨任。紹不聽。夏四月，曹操北救劉延，荀攸曰：今兵少不敵，必分其勢，乃可。公到延津，若將渡，兵向其後者，紹必西應之。然後輕兵襲白馬，掩其不備，顏良可禽也。操從之。紹聞兵渡，即分兵西邀之。操乃引軍兼行，趣白馬，未至十餘里，良大驚，來逆戰。操使張遼、關羽先登擊之，羽望見良，麾蓋策馬刺良於萬衆之中，斬其首而還。紹軍莫能當者，遂解白馬之圍，徙其民循河而西。紹渡河追之，沮授諫曰：勝負變化，不可不詳。今宜留屯延津，分兵官渡，若其克獲，還迎不晚。設其有難，衆弗可還。紹弗從。授臨濟，歎曰：上盈其志，下務其功，悠悠黃河，吾其濟乎！遂以疾辭。紹不許。

而意恨之。復省其所部，并屬郭圖。紹軍至延津南，操勒兵駐營南阪下，使登壘望之，曰：可。五百騎有頃，復白騎稍多，步兵不可勝數。操曰：勿復白，令騎解鞍放馬。是時白馬輻重就道，諸將以爲敵騎多，不如還保營。荀攸曰：此所以餌敵，如何去之？操顧攸而笑。紹騎將文醜與劉備將五六千騎前後至，諸將復白可上馬。操曰：未也。有頃，騎至稍多，或分趣輻重。操曰：可矣。乃皆上馬。時騎不滿六百，遂縱兵擊，大破之。斬醜，醜與顏良皆紹名將也。再戰，悉禽之。紹軍奪氣。初，操壯關羽之爲人，而察其心神，無久留之意，使張遼以其情問之。羽歎曰：吾極知曹公待我厚，然吾受劉將軍恩，誓以共死，不可背之。吾終不留，要當立効，以報曹公，乃去耳。遼以羽言報操，操義之。及羽殺顏良，操知其必去，重加賞賜，羽盡封其所賜，拜書告辭，而奔劉備於袁軍。左右欲追之，操曰：彼各爲其主，勿追也。操還軍官渡，閻柔遣使詣操，操以柔爲烏桓校尉，鮮于輔身見操於官渡，操以輔爲右度遼將軍，還鎮幽土。○廣陵太守陳登治射陽，孫策西擊黃祖，登誘嚴白虎餘黨圖爲後害，策還擊登，軍到丹徒，須待運糧，初策殺吳郡太守許貢，貢奴客潛民間，欲爲貢報讐，策性好獵，數出驅馳，所乘馬精駿，從騎絕不能及。卒遇貢客三人，射策中頰，後騎尋至，皆刺殺之。策創甚，召張昭等謂曰：中國方亂，以吳越之衆，三江之固，足以觀成敗，公等善相吾弟，呼權，佩以印綬，謂曰：舉江東之衆，決機於兩陳之間，與天下爭衡，卿不如我，舉賢任能，各盡其心，以保江東，我不如卿。丙午，策卒。時年二十六。權悲號未視事。張昭曰：孝廉，此寧哭時邪？乃改易權服，扶令上馬，使出巡軍，昭率僚屬上表，朝廷下移屬城，中外將校各令奉職。周瑜自巴丘將兵赴喪，遂留吳，以中護軍與張昭共掌衆事。時策雖有會稽、吳郡、丹陽、豫章、廬江、廬陵，然深險之地，猶未盡從。流寓之士皆以安危去就爲意，未有君臣之固。而張昭、周瑜等謂權可與共成大業，遂委心而服事焉。○秋七月，立皇子馮爲南陽王。壬午，馮薨。○汝南黃巾劉辟等叛曹操，應袁紹。紹遣劉備將兵助辟。郡縣

多應之。紹遣使拜陽安都尉李通爲征南將軍。劉表亦陰招之。通皆拒焉。或勸通從紹。通按劍叱之曰。曹公明哲。必定天下。紹雖彊盛。終爲之虜耳。吾以死不貳。卽斬紹使。送印綬詣操。通急錄戶調。朗陵長趙儼見通曰。方今諸郡竝叛。獨陽安懷附。復趣收其縣絹。小人樂亂。無乃不可乎。通曰。公與袁紹相持甚急。左右郡縣背叛。乃爾。若綿絹不調。送觀聽者。必謂我願望有所須待也。儼曰。誠亦如君慮。然當權其輕重。小緩調。當爲君釋此患。乃書與荀彧曰。今陽安郡百姓困窮。鄰城竝叛。易用傾蕩。乃一方安危之機也。且此郡人執守忠節。在險不貳。以爲國家宜垂慰撫。而更急斂縣絹。何以勸善。或卽白操。悉以縣絹還民。上下歡喜。郡內遂安。通擊羣賊瞿恭等。皆破之。遂定淮汝之地。時操制新科。下州郡。頗增嚴峻。而調縣絹方急。長廣太守何夔言於操曰。先王辨九服之賦。以殊遠近。制三典之刑。以平治亂。愚以爲此郡宜依遠域新邦之典。其民間小事。使長吏臨時隨宜。上不背正法。下以順百姓之心。比及三年。民安其業。然後乃可齊之以法也。操從之。劉備略汝潁之間。自許以南。吏民不安。曹操患之。曹仁曰。南方以大將軍方有目前急。其執不能相救。劉備以彊兵臨之。其背叛故宜也。備新將紹兵。未能得其用。擊之可破也。操乃使仁將騎擊備。破走之。盡復收諸叛縣。而還備還至紹軍。陰欲離紹。乃說紹南連劉表。紹遣備將本兵。復至汝南。與賊龔都等合衆數千人。曹操遣將蔡揚擊之。爲備所殺。袁紹軍陽武。沮授說紹曰。北兵雖衆。而勁果不及南。南軍穀少。而資儲不如北。南幸於急戰。北利在緩師。宜徐持久。曠以日月。紹不從。八月。紹進營稍前。依沙埴爲屯。東西數十里。操亦分營與相當。○九月。庚午朔。日有食之。○曹操出兵與袁紹戰。不勝。復還堅壁。紹爲高櫓。起土山。射營中。皆蒙楯而行。操乃爲霹靂車。發石以擊紹樓。皆破。紹復爲地道。攻操。操輒於內爲長塹。以拒之。操衆少糧盡。士卒疲乏。百姓困於征賦。多叛歸紹者。操患之。與荀彧書。議欲還許。以致紹師。或報曰。紹悉衆聚官渡。欲與公決勝敗。公

以至弱。當至彊。若不能制。必爲所乘。是天下之大機也。且紹布衣之雄耳。能聚人而不能用以公之神武。明哲而輔以大順。何向而不濟。今穀食雖少。未若楚漢在滎陽成阜間也。是時劉項莫肯先退者。以爲先退則執屈也。公以十分居一之衆。畫地而守之。搃其喉而不得進。已半年矣。情見勢竭。必將有變。此用奇之時。不可失也。操從之。乃堅壁持之。操見運者。撫之曰。却十五日。爲汝破。紹不復勞汝矣。紹運穀車數千乘。至官渡。荀彧言於操曰。紹運車且暮至。其將韓猛銳而輕敵。擊可破也。操曰。誰可使者。彧曰。徐晃可。乃遣偏將軍河東徐晃與史渙邀擊。猛破走之。燒其輜重。冬十月。紹復遣車運穀。使其將淳于瓊等將兵萬餘人。送之。宿紹營北四十里。沮授說紹。可遣蔣奇。別爲支軍於表。以絕曹操之鈔。紹不從。許攸曰。曹操兵少。而悉師拒我。許下餘守。執必空弱。若分遣輕軍。星行掩襲。許可拔也。許拔。則奉迎天子。以討操。操成禽矣。如其未潰。可令首尾奔命。破之必也。紹不從。曰。吾要當先取操。會攸家犯法。審配收繫之。攸怒。遂奔操。操聞攸來。跳出迎之。撫掌笑曰。子卿遠來。吾事濟矣。既入坐。謂操曰。袁氏軍盛。何以待之。今有幾糧乎。操曰。尙可支一歲。攸曰。無是。更言之。又曰。可支半歲。攸曰。足下不欲破袁氏邪。何言之不實也。操曰。向言戲之耳。其實可一月。爲之柰何。攸曰。公孤軍獨守。外無救援。而糧穀已盡。此危急之日也。袁氏輜重萬餘乘。在故市烏巢。屯軍無嚴備。若以輕兵襲之。不意而至。燔其積聚。不過三日。袁氏自敗也。操大喜。乃留曹洪荀攸守營。自將步騎五千人。皆用袁軍旗幟。銜枚縛馬口。夜從間道出。人抱束薪。所歷道有問者。語之曰。袁公恐曹操鈔略後軍。遣兵以益備。聞者信以爲然。皆自若。既至。圍屯大放火。營中驚亂。會明瓊等望見。操兵少。出陳門外。操急擊之。瓊退保營。操遂攻之。紹聞操擊瓊。謂其子譚曰。就操破瓊。吾拔其營。彼固無所歸矣。乃使其將高覽張郃等攻操營。郃曰。曹公精兵。往必破瓊等。瓊等破。則事去矣。請先往救之。郭圖固請攻操營。郃曰。曹公營固。攻之必不拔。若瓊等見禽。吾

屬盡為虜矣。紹但遣輕騎救瓊，而以重兵攻操營，不能下。紹騎至烏巢，操左右或言賊騎稍近，請分兵拒之。操怒曰：「賊在背後，乃白士卒皆殊死戰，遂大破之。」斬瓊等，盡燔其糧，殺士卒千餘人，皆取其鼻、牛馬、割脣舌，以示紹軍。紹軍將士皆恟懼，郭圖慙其計之失，復譖張郃於紹曰：「郃快軍敗，其鼻、牛馬、割脣舌，以示紹軍。紹軍將士皆恟懼，郭圖慙其計之失，復譖張郃於紹曰：郃快軍敗，卻忿懼，遂與高覽、樊、於、是紹軍驚擾大潰，紹及譚等幅巾乘馬，與八百騎渡河，操追之不及，盡收其輜重圖書珍寶。餘衆降者操盡阬之。前後所殺七萬餘人。沮授不及紹渡，為操軍所執，乃大呼曰：授不降也。為所執耳。操與之有舊，迎謂曰：分野殊異，遂用圯絕，不圖今日乃相禽也。」授曰：冀州失策，自取犇北，授知力俱困，宜其見禽。操曰：本初無謀，不相用計，今喪亂未定，方當與君圖之。授曰：叔父母弟，縣命袁氏，若蒙公靈，速死為福。操歎曰：孤早相得，天下不足慮也。遂赦而厚遇焉。授尋謀歸袁氏，操乃殺之。操收紹書，中得許下及軍中人書，皆焚之。曰：當紹之疆，孤猶不能自保，況衆人乎？冀州城邑多降於操，袁紹走至黎陽北岸，入其將軍蔣義渠營，把其手曰：孤以首領相付矣。義渠避帳而處之，使宣號令。衆聞紹在，稍復歸之。或謂田豐曰：君必見重矣。豐曰：公貌寬而內忌，不亮吾忠，而吾數以至言逆之。若勝而喜，猶能救我。今戰敗而志內忌將發，吾不望生。紹軍士皆拊膺泣曰：向令田豐在此，必不至於敗。紹聞將軍之退，拊手大笑，喜其言之中也。紹於是謂僚屬曰：吾不用田豐，言果為所笑。遂殺之。初，曹操聞豐不從，戎喜曰：紹必敗矣。及紹犇遁，復曰：向使紹用其別駕計，尙未可知也。審配二子，為操所禽。紹將孟岱言於紹曰：配在位專政，族大兵彊，且二子在南，必懷反計。郭圖、辛評亦以為然。紹遂以岱為監軍，代配守鄴，護軍逢紀素與配不睦，紹以問之。紀曰：配天性烈直，每慕古人之節，必不以二子在南為不義也。願公勿疑。紹曰：君不惡之邪？紀曰：先所

爭者私情也，今所陳者國事也。紹曰：善，乃不廢配。配由是更與紀親。冀州城邑叛紹者，紹稍復擊定之。紹為人寬雅有局度，喜怒不形於色，而性矜，復自高，短於從善，故至於敗。○冬十月辛亥，有星孛于大梁。○廬江太守李術攻殺揚州刺史嚴象，廬江梅乾、雷緒、陳蘭等各聚衆數萬，在江淮間。曹操表沛國劉馥為揚州刺史，時揚州獨有九江，馥單馬造合肥空城，建立州治，招懷乾、緒等，皆貢獻相繼，數年中，恩化大行。流民歸者以萬數。於是廣屯田，與陂塘，官民有畜，乃聚諸生立學校，又高為城壘，多積木石，以脩戰守之備。○曹操聞孫策死，欲因喪伐之。侍御史張紘諫曰：乘人之喪，既非古義，若其不克，成讐棄，好不如因而厚之。操即表權為討虜將軍，領會稽太守，操欲令紘輔權內附，乃以紘為會稽東部都尉。紘至吳，太夫人以權年少，委紘與張昭共輔之。紘思惟補察，知無不為。太夫人問揚武都尉會稽董襲曰：江東可保不？襲曰：江東有山川之固，而討逆明府恩德在民，討虜承基，大小用命，張昭秉衆，事襲等為爪牙，此地地利人和之時也。萬無所憂。權遣張紘之部，或以紘本受北任，嫌其志趣，不止於此。權不以介意。魯肅將北還，周瑜止之，因薦肅於權曰：肅才宜佐時，當廣求其比，以成功業。權即見肅，與語，悅之。賓退，獨引肅，合榻對飲。曰：今漢室傾危，孤思有桓文之功，君何以佐之？肅曰：昔高帝欲尊義帝，而不獲者，以項羽為害也。今之曹操猶昔項羽，將軍何由得為桓文乎？肅竊料之，漢室不可復興，曹操不可卒除，為將軍計，惟有保守江東，以觀天下之變耳。若因北方多務，勦除黃祖，進伐劉表，竟長江所極，據而有之，此王業也。權曰：今盡力一方，冀以輔漢耳。此言非所及也。張昭毀肅年少，羸疎，權益貴重之，賞賜儲備，富擬其舊。權料諸小將，兵少而用薄者，并合之。別部司馬汝南呂蒙軍容鮮整，士卒練習，權大悅，增其兵，寵任之功。曹駱統勸權尊賢接士，勤求損益，饗賜之日，人人別進，問其燥濕，加以密意，誘諭使言，察其志趣，權納用焉。統、俊之子也。廬陵太守孫輔，恐權不能保江東，陰遣人齎書呼曹操，

行人以告。權悉斬輔親近，分其部曲，徙輔置東。曹操表徵華歆為議郎、參司空軍事。廬江太守李術不肯事權，而多納其亡叛，權以狀白曹操曰：「嚴刺史昔為公所，而李術害之，肆其無道，宜速誅滅。今術必復詭說求救，明公居阿衡之任，海內所瞻，願敕執事，勿復聽受。因舉兵攻術於皖城，術求救於操，操不救，遂屠其城，梟術首，徙其部曲二萬餘人。」○劉表攻張羨，連年不下。曹操方與袁紹相拒，未暇救之。羨病死，長沙復立其子懌。表攻懌，及零、桂皆平之。於是表地方數千里，帶甲十餘萬，遂不供職貢。郊祀天地，居處服用，僭擬乘輿，焉。張魯以劉璋闇懦，不復承順。襲別部司馬張修，殺之，而并其衆。璋怒，殺魯母及弟魯，遂據漢中。與璋為敵。璋遣中郎將龐羲擊之，不克。璋以羲為巴郡太守，屯閬中，以禦魯。羲輒召漢昌、寶民為兵，或構羲於璋，璋疑之。趙建數諫不從，亦悲恨。初，南陽三輔民流入益州者數萬家，劉焉悉收以為兵，名曰東州兵。璋性寬柔，無威略。東州人侵暴舊民，璋不能禁。趙建素得人心，因益州士民之怨，遂作亂，引兵數萬攻璋。厚賂荊州，與之連和。蜀郡、廣漢、犍為皆應之。

資治通鑑卷第六十三

資治通鑑卷第六十四

漢紀五十六

孝獻皇帝己

建安六年春三月丁卯朔，日有食之。○曹操就穀於安民，以袁紹新破，欲以其間擊劉表。荀彧曰：「紹既新敗，其衆離心，宜乘其困遂定之，而欲遠師江漢，若紹收其餘燼，乘虛以出人後，則公事去矣。」操乃止。夏四月，操揚兵河上，擊袁紹倉亭軍，破之。秋九月，操還許。○操自擊劉備於汝南，備奔劉表。龔都等皆散，表聞備至，自出郊迎，以上賓禮待之，益其兵，使屯新野。備在荊州數年，嘗於表坐，起至廁，慨然流涕，表怪問備，備曰：「平常身不離鞍，髀肉皆消，今不復騎，髀裏肉生，日月如流，老將至矣，而功業不建，是以悲耳。」○曹操遣夏侯淵、張遼圍昌豨於東海，數月糧盡，議引軍還。遼謂淵曰：「數日已來，每行諸圍，豨輒屬目視遼，又其射矢更稀，此必豨計猶豫，故不力戰。遼欲挑與語，儻可誘也。」乃使謂豨曰：「公有命，使遼傳之，豨果下與遼語。遼為說操神武，方以德懷四方，先附者受大賞。豨乃許降。遼遂單身上三公山，入豨家，拜妻子，豨歡喜，隨遼詣操。操遣豨還。○趙建圍劉璋於成都，東州人恐見誅滅，相與力戰。建遂敗退，追至江州，殺之。龐羲懼，遣吏程祁，宣旨於其父漢昌，令畿、索、寶兵，畿曰：「郡合部曲，本不為亂，縱有讒諛，要在盡誠。若遂懷異志，不敢聞命。羲更使祁說之，畿曰：『我受牧恩，當為盡節。汝為郡吏，自宜效力，不義之事，有死不為。』羲怒，使人謂畿曰：『不從，太守禍將及家。』畿曰：『樂羊食子，非無父子之恩，大義然也。今雖羹祁以賜畿，畿啜之矣。』羲乃厚謝於璋，璋擢畿為江陽。」

太守朝廷聞益州亂。以五官中郎將牛夏爲益州刺史。徵璋爲卿。不至。張魯以鬼道教民。使病者自首。其過爲之請禱。實無益於治病。然小人昏愚。競共事之。犯法者三原。然後乃行刑。不置長吏。皆以祭酒爲治。民夷便樂之。流移寄在其地者。不敢不奉其道。後遂襲取巴郡。朝廷力不能征。遂就寵魯爲鎮民中郎將。領漢寧太守。通貢獻而已。民有地中得玉印者。羣下欲尊魯爲漢寧王。功曹巴西閻圃諫曰。漢川之民。戶出十萬。財富土沃。四面險固。上匡天子。則爲桓文。次及寶融。不失富貴。今承制署置。執足斬斷。不煩於王。願且不稱。勿爲禍先。魯從之。

七年春正月。曹操軍譙。遂至浚儀。治睢陽渠。遣使以太牢祀橋玄。進軍官渡。○袁紹自軍敗。慙憤發病。嘔血。夏五月。薨。初。紹有三子。譚。熙。尚。紹後妻劉氏愛尚。數稱於紹。紹欲以爲後。而未顯言之。乃以譚繼。兄後。出爲青州刺史。沮授諫曰。世稱萬人逐兔。一人獲之。貪者悉止。分定故也。譚長子當爲嗣。而斥使居外。禍其始此矣。紹曰。吾欲令諸子各據一州。以視其能。於是中子熙爲幽州刺史。外甥高幹爲并州刺史。逢紀審配素爲譚所疾。辛評郭圖皆附於譚。而與配紀有隙。及紹薨。衆以譚長欲立之。配等恐譚立而評等爲害。遂矯紹遺命。奉尚爲嗣。譚至。不得立。自稱車騎將軍。屯黎陽。尚少與之兵。而使逢紀隨之。譚求益兵。審配等又議不與。譚怒。殺逢紀。秋九月。曹操渡河攻譚。譚告急於尚。尚留審配守鄴。自將助譚。與操相拒。連戰。譚尙數敗。退而固守。尚遣所置河東太守郭援與高幹。匈奴南單于共攻河東。發使與關中諸將馬騰等連兵。騰等陰許之。援所經城邑皆下。河東郡吏賈逵守絳。援攻之。急。城將潰。父老與援約。不害逵。乃降。援許之。援欲使逵爲將。以兵劫之。逵不動。左右引逵使叩頭。逵叱之曰。安有國家長吏爲賊叩頭。援怒。將斬之。或伏其上。以救之。絳吏民聞將殺逵。皆乘城呼曰。負約殺我賢君。寧俱死耳。乃囚於壺關。著土窖中。蓋以車輪。逵謂守者曰。此間無健兒邪。

而使義士死此中乎。有祝公道者。適聞其言。乃夜往。盜引出逵。折械遣去。不語其姓名。曹操使司隸校尉鍾繇圍南單于於平陽。未拔。而援至。繇使新豐令馮翊張既說馬騰爲言利害。騰疑未決。傅幹說騰曰。古人有言。順道者昌。逆德者亡。曹公奉天子誅暴亂。法明政治。上下用命。可謂順道矣。袁氏恃其疆大。背弃王命。驅胡虜以陵中國。可謂逆德矣。今將軍既事有道。陰懷兩端。欲以坐觀成敗。吾恐成敗既定。奉辭責罪。將軍先爲誅首矣。於是騰懼。幹因曰。智者轉禍爲福。今曹公與袁氏相持。而高幹郭援合攻河東。曹公雖有萬全之計。不能禁河東之不危也。將軍誠能引兵討援。內外擊之。其執必舉。是將軍一舉斷袁氏之臂。解一方之急。曹公必重德將軍。將軍功名無與比矣。騰乃遣子超將兵萬餘人。與繇會。初諸將以郭援衆盛。欲釋平陽去。鍾繇曰。袁氏方疆。援之來。關中陰與之通。所以未悉叛者。願吾威名故耳。若弃而去。示之以弱。所在之民。誰非寇讐。縱吾欲歸。其得至乎。此爲未戰先自敗也。且援剛復好勝。必易吾軍。若渡汾爲營。及其未濟。擊之。可大克也。援至。果徑前渡汾。衆止之。不從。濟水未半。繇擊大破之。戰罷。衆人皆言援死。而不得其首。援之甥也。晚後。馬超校尉南安龐德於韃中出一頭。繇見之而哭。德謝繇。繇曰。援雖我甥。乃國賊也。卿何謝之。有南單于遂降。○劉表使劉備北侵。至葉。曹操遣夏侯惇于禁等拒之。備一旦燒屯去。惇等追之。裨將軍鉅鹿李典曰。賊無故退。疑必有伏。南道窄狹。山木深。不可追也。惇等不聽。使典留守。而追之。果入伏裏。兵大敗。典往救之。備乃退。○曹操下書責孫權任子權召羣僚會議。張昭秦松等猶豫不決。權引周瑜詣吳夫人前。定議。瑜曰。昔楚國初封。不滿百里之地。繼嗣賢能。廣土開境。遂據荆揚。傳業延祚。九百餘年。今將軍承父兄餘資。兼六郡之衆。兵精糧多。將士用命。鑄山爲銅。煮海爲鹽。境內富饒。人思亂。有何逼迫。而欲送質。質一入。不得不與曹氏相首尾。與相首尾。則命召不得不往。如此。便見制於人也。極不過一侯印。僕從十餘人。車數乘。馬數匹。豈

與南面稱孤同哉。不如勿遣。徐觀其變。若曹氏能率義以正天下。將軍事之未晚。若圖爲暴亂。彼自亡之不暇。焉能害人。吳夫人曰。公瑾議是也。公瑾與伯符同年。小一月耳。我視之如子也。汝其兄事之。遂不送質。

八年春二月。曹操攻黎陽。與袁譚袁尙戰於城下。譚尙敗。走還鄴。夏四月。操追至鄴。收其麥。諸將欲乘勝遂攻之。郭嘉曰。袁紹愛此二子。莫適立也。今權力相伴。各有黨與。急之則相保。緩之則爭心生。不如南向荊州。以待其變。變成而後擊之。可一舉定也。操曰善。五月。操還許。留其將賈信屯黎陽。譚謂尙曰。我鎧甲不精。故前爲曹操所敗。今操軍退。人懷歸志。及其未濟。出兵掩之。可令大潰。此策不可失也。尙疑之。既不益兵。又不易甲。譚大怒。郭圖辛評因謂譚曰。使先公出將軍爲兄後者。皆審配之謀也。譚遂引兵攻尙。戰于門外。譚敗。引兵還南皮。別駕北海王修率吏民自青州往救譚。譚欲更還攻尙。修曰。兄弟者。左右手也。譬人將鬪而斷其右手。曰我必勝。其可乎。夫弃兄弟而不親。天下其誰親之。彼讒人離間骨肉。以求一朝之利。願塞耳勿聽也。若斬佞臣數人。復相親睦。以御四方。可橫行於天下。譚不從。譚將劉詢起兵潞陰。以叛譚。諸城皆應之。譚歎曰。今舉州皆叛。豈孤之不德邪。王修曰。東萊太守管統。雖在海表。此人不反。必來。後十餘日。統果弃其妻子來赴譚。妻子爲賊所殺。譚更以統爲樂。安太守秋八月。操擊劉表軍于西平。袁尙自將攻袁譚。大破之。譚奔平原。嬰城固守。尙圍之急。譚遣辛評弟毗詣曹操請救。劉表以書諫譚曰。君子違難。不適讐國。交絕不出惡聲。況忘先人之讐。棄親戚之好。而爲萬世之戒。遺同盟之恥哉。若冀州有不弟之傲。仁君當降志辱身。以濟事爲務。事定之後。使天下平。其曲直不亦爲高義邪。又與尙書曰。金木水火以剛柔相濟。然後克得其和。能爲民用。青州天性峭急。迷於曲直。仁君度數弘廣。綽然有餘。當以大包小。以優容劣。先除曹操。以卒先公之恨。事定後。乃議曲直之計。不亦善乎。若迷而不反。則

胡夷將有譏誚之言。況我同盟。復能勦力爲君之役哉。此韓盧東郭。自困於前。而遺田父之獲者也。譚尙皆不從。辛毗至西平。見曹操。致譚意。羣下多以爲劉表彊。宜先平之。譚尙不足憂也。荀攸曰。天下方有事。而劉表坐保江漢之間。其無四方之志可知矣。袁氏據四州之地。帶甲數十萬。紹以寬厚得衆心。使二子和睦。以守其成業。則天下之難未息也。今兄弟違惡。其執不兩全。若有所并。則力專。力專則難圖也。及其亂而取之。天下定矣。此時不可失也。操從之。後數日。操更欲先平荊州。使譚尙自相敵。辛毗望操色。知有變。以語郭嘉。嘉白操。操謂毗曰。譚必可信。尙必可克。不毗對曰。明公無問信與詐也。直當論其執耳。袁氏本兄弟相伐。非謂它人能間其間。乃謂天下可定於己也。今一旦求救於明公。此可知也。顯甫見顯思困而不能取。此力竭也。兵革敗於外。謀臣誅於內。兄弟譏鬪。國分爲二。連年戰伐。介冑生蟻。加以旱蝗。飢饉並臻。天災應於上。人事困於下。民無愚智。皆知土崩瓦解。此乃天亡尙之時也。今往攻鄴。尙不還救。卽不能自守。還救卽譚踵其後。以明公威應困窮之敵。擊疲敝之寇。無異迅風之振秋葉矣。天以尙與明公。明公不取。而伐荊州。荊州豐樂。國未有變。仲虺有言。取亂侮亡。方今二袁不務遠略。而內相圖。可謂亂矣。居者無食。行者無糧。可謂亡矣。朝不謀夕。民命靡繼。而不殺之欲。待他年。他年或登。又自知亡。而改修厥德。失所以用兵之要矣。今因其請救而撫之。利莫大焉。且四方之寇。莫大於河北。河北平。則六軍盛。而天下震矣。操曰。善。乃許譚平。冬十月。操至黎陽。尙聞操渡河。乃釋平原。還鄴。尙將呂曠高翔。畔歸曹操。譚復陰刻將軍印。以假曠翔。操知譚詐。乃爲子整聘譚女。以安之。而引軍還。○孫權西伐黃祖。破其舟軍。惟城未克。而山寇復動。權還。過豫章。使征虜中郎將呂範平鄱陽。會稽。盪寇中郎將程普討樂安。建昌都尉太史慈領海昏。以別部司馬黃蓋韓當周泰呂蒙等守劇縣。令長討山越。悉平之。建安漢興南平民作亂。聚衆各萬餘人。權使南部都尉會稽賀齊進討。皆平之。復

立縣邑。料出兵萬人，拜齊平東校尉。九年春正月，曹操濟河，過淇水，入白溝，以通糧道。二月，袁尙復攻袁譚於平原，留其將審配、蘇由守鄴。曹操進軍，至洹水，蘇由欲爲內應，謀泄，出犇操。操進至鄴，爲土山地道以攻之。尙武安長尹楷屯毛城，以通上黨糧道。夏四月，操留曹洪攻鄴，自將擊楷，破之而還。又擊尙將沮鵠於邯鄲，拔之。易陽令韓範涉長梁岐，皆舉縣降。徐晃言于操曰：「二袁未破，諸城未下者，傾耳而聽，宜旌賞二縣，以示諸城。」操從之。範、岐皆賜爵關內侯。黑山賊帥張燕遣使求助，操拜平北將軍。五月，操毀土山地道，鑿塹圍城，周回四十里。初，令淺示，若可越，配望見笑之，不出爭利。操一夜潛之，廣深二丈，引漳水以灌之。城中餓死者過半。秋七月，尙將兵萬餘人還救鄴，未到，欲令審配知外動止，先使主簿鉅鹿李孚入城，孚研問事狀，繫著馬邊，自著平上幘，將三騎投暮詣鄴下，自稱都督。歷北圍循表而東，步步呵責守圍將士，隨輕重行其罰。遂歷操營前，至南圍，當章門，復責怒守圍者，收縛之。因開其圍，馳到城下，呼城上人，城上人以繩引孚，得入。配等見孚悲喜，鼓譟稱萬歲。守圍者以狀聞，操笑曰：「此非徒得入也，方且復出，孚知外圍益急，不可復冒，乃請配悉出城中老弱，以省穀。夜簡別數千人，皆使持白幘，從三門竝出降。孚復將三騎作降人服，隨輩夜出，突圍得去。尙兵既至，諸將皆以爲此歸師，人自爲戰，不如避之。」操曰：「尙從大道來，當避之。若循西山來者，此成禽耳。」尙果循西山來，東至陽平亭，去鄴十七里。臨滏水爲營，夜舉火，以示城中。城中亦舉火相應，配出兵城北，欲與尙對決。圍操逆擊之，敗還。尙亦破走，依曲漳爲營，操遂圍之。未合，尙懇遣使求降，操不聽。圍之益急。尙夜遁，保祁山。操復進圍之。尙將馬延、張顛等臨陳降，衆大潰。尙奔中山，盡收其輜重，得尙印綬節鉞及衣物，以示城中。城中崩沮，審配令士卒曰：「堅守死戰，操軍疲矣。」幽州方至，何憂無主。操出行圍，配伏弩射之，幾中。配兄子榮爲東門校尉，八月戊寅，榮夜開門，內操兵，配

拒戰城中。操兵生獲之，辛評家繫鄴獄。辛毗馳往欲解之，已悉爲配所殺。操兵縛配詣帳下，毗逆以馬鞭擊其頭，罵之曰：「奴！汝今日真死矣。」配顧曰：「狗輩，正由汝曹破我冀州，恨不得殺汝也。且汝今日能殺生我邪？有頃，操引見，謂配曰：『曩日孤之行圍，何弩之多也？』配曰：『猶恨其少。』操曰：『卿忠於袁氏，亦自不得不爾。』意欲活之，配意氣壯烈，終無撓辭，而辛毗等號哭不已。遂斬之。冀州人張子謙先降，素與配不善，笑謂配曰：『正南，卿竟何如？我配厲聲曰：『汝爲降虜，審配爲忠臣，雖死，豈羨汝生邪？』臨行刑，叱持兵者令北向曰：『我君在北也。』操乃臨祀紹墓，哭之流涕，慰勞紹妻，還其家人寶物，賜雜繒絮，稟食之。初，袁紹與操共起兵，紹問操曰：『若事不輯，則方面何所可據？』操曰：『足下意以爲何如？』紹曰：『吾南據河，北阻燕代，兼戎狄之衆，南向以爭天下，庶可以濟乎？』操曰：『吾任天下之智力，以道御之，無所不可。』九月，詔以操領冀州牧，操讓還兖州。初，袁尙遣從事安平牽招，至上黨督軍糧，未還。尙走中山，招說高幹以并州迎尙，并力觀變。幹不從，招乃東詣曹操。操復以爲冀州從事，又辟崔琰爲別駕。操謂琰曰：『昨案戶籍，可得三十萬衆，故爲大州也。』琰對曰：『今九州幅裂，二袁兄弟親尋干戈，冀方蒸庶，暴骨原野，未聞王師存問風俗，救其塗炭，而校計甲兵，唯此爲先，斯豈鄙州士女所望於明公哉？』操改容謝之，許依恃功驕慢，嘗於衆坐呼操小字曰：『某甲，卿非我，不得冀州也。』操笑曰：『汝言是也，然內不樂，後竟殺之。』冬十月，有星孛于東井。○高幹以并州降，操復以幹爲并州刺史。○曹操之圍鄴也，袁譚復背之，略取甘陵、安平、勃海、河間。攻袁尙於中山，尙敗走。故安從袁熙，譚悉收其衆，還屯龍湊。操與譚書，責以負約，與之絕婚。女還，然後進討。十二月，操軍其門，譚拔平原，走保南皮。臨清河而屯，操入平原，略定諸縣。○曹操表公孫康度爲武威將軍，封永寧鄉侯。度曰：『我王遼東，何永寧也？』藏印綬於武庫，是歲，度卒。子康嗣位，以永寧鄉侯封其弟恭。操以牽招嘗爲袁氏領烏桓，遣詣柳城，撫慰烏桓，值峭王嚴五千騎，欲助袁譚，又公孫康遣

使韓忠假峭王單于印綬。峭王大會羣長，忠亦在坐。峭王問招，昔袁公言受天子之命，假我爲單于。今曹公復言當更白天子，假我真單于。遼東復持印綬來，如此誰當爲正？招答曰：昔袁公承制，得有所拜。假中間違錯，天子命曹公代之。言當白天子，更假真單于。遼東下郡，何得擅稱拜假也？忠曰：我遼東在滄海之東，擁兵百餘萬，又有扶餘、濊貊之用，當今之執疆者爲右。曹操何得獨爲是也？招呵忠曰：曹公允恭明哲，翼戴天子，伐叛柔服，寧靜四海。汝君臣頑闇，今恃險遠，背違王命，欲擅拜假，弄神器，方當屠戮，何敢慢易？答毀大人，便捉忠頭，頓築拔刀欲斬之。峭王驚怖，徒跣抱招，以救請忠。左右失色，招乃還坐。爲峭王等說成敗之效，禍福所歸，皆下席跪伏，敬受敕教，便辭遼東之使，罷所嚴騎。○丹陽大都督嫪覽，郡丞戴員，殺太守孫翊，將軍孫河屯京城，馳赴宛陵，覽員復殺之，遣人迎揚州刺史劉馥，令住歷陽，以丹陽應之。覽入居軍府中，欲逼取翊妻徐氏。徐氏給之曰：乞須晦日設祭除服，然後聽命。覽許之。徐氏潛使所親語翊，親近舊將孫高、傅嬰等，與共圖覽。高嬰涕泣許諾，密呼翊時侍養者二十餘人，與盟誓合謀。到晦日設祭，徐氏哭泣盡哀，畢乃除服，薰香沐浴，言笑懽悅。大小悽愴，怪其如此。覽密覘，無復疑意。徐氏呼高嬰置戶內，使人召覽入。徐氏出戶拜覽，適得一拜。徐大呼：二君可起！高嬰俱出，共殺覽。餘人即就外殺員。徐氏乃還，縗經，奉覽員首以祭。翊墓舉軍震駭，孫權聞亂，從椒丘還至丹陽，悉族誅覽員，餘黨擢高嬰爲牙門，其餘賞賜有差。河子韶年十七，收河餘衆屯京城，權引軍歸吳。夜至京城下營，試攻驚之，兵皆棄城，傳檄備警，謹聲動地，頗射外人。權使曉諭，乃止。明日見韶拜承烈校尉，統河部曲。

十年春正月，曹操攻南皮，袁譚出戰，士卒多死。操欲緩之，議郎曹純曰：今縣師深入，難以持久。若進不能克，退必喪威，乃自執桴鼓以率攻者，遂克之。譚出走，追斬之。李孚自稱冀州主簿，求見操曰：今城中疆弱相陵，人心擾亂，以爲宜令新降爲內所識信者，宣傳明教。操即使孚往入城，告諭吏民，使各安故業，不得相侵。城中乃安。操於是斬郭圖等及其妻子。袁譚使王修運糧於樂安，聞譚急，將所領兵往赴之。至高密，聞譚死，下馬號哭曰：無君焉歸？遂詣曹操，乞收葬譚尸。操許之，復使修還樂安督軍糧。譚所部諸城皆服，唯樂安太守管統不下。操命修取統首，修以統亡國忠臣，解其縛，使詣操。操悅而赦之，辟修爲司空掾。郭嘉說操多辟青冀幽并名士，以爲掾屬，使人心歸附。操從之，官渡之戰，袁紹使陳琳爲檄書，數操罪惡，連及家世，極其醜詆。及袁氏敗，琳歸操，操曰：卿昔爲本初移書，但可罪狀孤身，何乃上及父祖邪？琳謝罪，操釋之，使與陳留阮瑀俱管記室。先是，漁陽王松據涿郡，郡人劉放說松以地歸操，操辟放參司空軍事。袁熙爲其將，焦觸張南所攻，與尙俱犇遼西烏桓。觸自號幽州刺史，驅率諸郡太守令長，背袁向曹。陳兵數萬，殺白馬而盟，令曰：敢違者斬，衆莫敢仰視。各以次敵，別駕代郡韓珩曰：吾受袁公父子厚恩，今其破亡，智不能救，勇不能死，於義闕矣。若乃北面曹氏，所不能爲也。一坐爲珩失色。觸曰：夫舉大事，當立大義，事之濟否，不待一人。可卒珩志，以厲事君，乃捨之。觸等遂降，曹操皆封爲列侯。○夏四月，黑山賊帥張燕率其衆十餘萬降，封安國亭侯。○故安趙犢、霍奴等殺幽州刺史及涿郡太守，三郡烏桓攻鮮于輔於犢平。秋八月，操討犢等，斬之。乃度潞水，救犢平。烏桓走出塞。○冬十月，高幹聞操討烏桓，復以并州叛。執上黨太守，舉兵守壺關口。操遣其將樂進、李典擊之。河內張晟，衆萬餘人，寇崞澗，間弘農張琰起兵以應之。河東太守王邑被徵，郡掾衛固及中郎將范先等詣司隸校尉鍾繇，請留之。繇不許，固等外以請邑爲名，而內實與高幹通謀。曹操謂荀彧曰：關西諸將，外服內貳，張晟寇亂，殺滎南通劉表，固等因之，將爲深害。當今河東天下之要地也，君爲我舉賢才，以鎮之。或曰：西平太守京兆杜畿，勇足以當難，智足以應變，操乃以畿爲河東太守。鍾繇促王邑交符，邑佩印綬，徑從河北，詣許自歸。衛固等使兵數千人絕陝津，杜畿至，數月不得渡。

操遣夏侯惇討固等。未至，畿曰：河東有三萬戶，非皆欲爲亂也。今兵迫之急，欲爲善者無主，必懼而聽於固。固等執專討之不勝，爲難未已。討之而勝，是殘一郡之民也。且固等未顯絕王命，外以請故君爲名，必不害新君。吾單車直往，出其不意，固爲人，多計而無斷，必僞受吾。吾得居郡一月，以計縻之足矣。遂詭道從鄆津度。范先欲殺畿，以威衆且觀畿去就於門下。斬殺主簿以下三十餘人。畿舉動自若。於是固曰：殺之無損，徒有惡名。且制之在我。遂奉之。畿謂固先曰：衛范河東之望也。吾仰成而已。然君臣有定義，成敗同之。大事當共平議。以固爲都督，行丞事，領功曹，將校吏兵三千餘人。皆范先督之。固等喜，雖陽事畿，不以爲意。固欲大發兵，畿患之，說固曰：今大發兵，衆情必擾，不如徐以貲募兵。固以爲然，從之。得兵甚少。畿又喻固等曰：人情顧家，諸將掾史，可分遣休息。急緩召之不難。固等惡逆衆心，又從之。於是善人在外，陰爲己援，惡人分散，各還其家。會白騎攻東垣，高幹入獲澤。畿知諸縣附己，乃出單將數十騎，赴堅壁而守之。吏民多舉城助畿者。比數十日，得四千餘人。固等與高幹、張晟共攻畿，不下。略諸縣，無所得。曹操使議郎張既、西徵關中諸將馬騰等，皆引兵會擊晟等，破之。斬固琰等首，其餘黨與皆赦之。於是杜畿治河東，務崇寬惠，民有辭訟，畿爲陳義理，遣歸。歸思之，父老皆自相責怒，不敢訟。勸耕桑，課畜牧，百姓家家豐實。然後興學校，舉孝弟，修戎事，講武備。河東遂安。畿在河東十六年，常爲天下最。○祕書監侍中荀悅作申鑒五篇，奏之。悅爽之，兄子也。時政在曹氏，天子恭己，悅志在獻替而謀無所用。故作是書。其大略曰：爲政之術，先屏四患，乃崇五政。僞亂俗，私壞法，放越軌，奢敗制，四者不除，則政末由行矣。是謂四患。興農桑，以養其生。審好惡，以正其俗。宣文教，以章其化。立武備，以乘其威。明賞罰，以統其法。是謂五政。人不畏死，不可懼以罪。人不樂生，不可勸以善。故在上者，先豐民財，以定其志。是謂養生。善惡要乎功罪，毀譽効於準驗。聽言責事，舉名察實，無或詐僞，以蕩衆心。故俗無姦

怪，民無淫風，是謂正俗。榮辱者，賞罰之精華也。故禮教榮辱，以加君子，化其情也。桎梏鞭撻，以加小人，化其形也。若教化之廢，推中人而墜於小人之域，教化之行，引中人而納於君子之塗，是謂章化。在上者，必有武備，以戒不虞。安居則寄之內政，有事則用之軍旅，是謂秉威。賞罰，政之柄也。人主不妄賞，非愛其財也。賞妄行，則善不勸矣。不妄罰，非矜其人也。罰妄行，則惡不懲矣。賞不勸，謂之止善。罰不懲，謂之縱惡。在上者，能不止下爲善，不縱下爲惡，則國法立矣。是謂統法。四患既蠲，五政又立，行之以誠，守之以固，簡而不怠，疎而不失，乘拱揖讓而海內平矣。

資治通鑑卷第六十四

漢紀孝獻皇帝已建安十年

資治通鑑卷第六十五

漢紀五十七

孝獻皇帝庚

建安十一年春正月有星孛于北斗○曹操自將擊高幹留其世子丕守鄴使別駕從事崔琰傳之操圍壺關三月壺關降高幹自入匈奴求救單于不受幹獨與數騎亡欲南奔荊州上洛都尉王琰捕斬之并州悉平曹操使陳郡梁習以別部司馬領并州刺史時荒亂之餘胡狄雄張吏民亡叛入其部落兵家擁衆各爲寇害習到官誘喻招納皆禮召其豪右稍稍薦舉使詣幕府豪右已盡次發諸丁彊以爲義從又因大軍出征令諸將分請以爲勇力吏兵已去之後稍移其家前後送鄴凡數萬口其不從命者與兵致討斬首千數降附者萬計單于恭順名王稽顙服事供職同於編戶邊境肅清百姓布野勸農桑令行禁止長老稱詠以爲自所聞識刺史未有如習者習乃貢達名士避地州界者河內常林楊俊王象荀緯及太原王凌之徒操悉以爲縣長後皆顯名於世初山陽仲長統遊學至并州過高幹幹善遇之訪以世事統謂幹曰君有雄志而無雄材好士而不能擇人所以爲君深戒也幹雅自多不悅統言統遂去之幹死荀彧舉統爲尚書郎著論曰昌言其言治亂略曰豪桀之當天命者未始有天下之分者也無天下之分故戰爭者競起焉角智者皆窮角力者皆負形不堪復仇執不足復校乃始羈首係頸就我之銜繼耳及繼體之時豪桀之心既絕士民之志已定貴有常家尊在一入當此之時雖下愚之才居之猶能使恩同天地威侔鬼神周孔數

千無所復角其聖賁育百萬無所復奮其勇矣彼後嗣之愚主見天下莫敢與之違自謂若天地之不可亡也乃奔其私嗜騁其邪欲君臣宣淫上下同惡荒廢庶政奔忘人物信任親愛者盡佞諂容說之人也寵貴隆豐者盡后妃姬妾之家也遂至熬天下之脂膏斲生民之骨髓怨毒無聊禍亂竝起中國擾攘四夷侵叛土崩瓦解一朝而去昔之爲我哺乳之子孫者今盡是我飲血之寇讎也至于運徙執去猶不覺悟者豈非富貴生不仁沈溺致愚疾邪存亡以之迭代治亂從此周復天道常然之大數也○秋七月武威太守張猛殺雍州刺史邯鄲商州兵討誅之猛奐之子也○八月曹操東討海賊管承至淳于遣將樂進李典擊破之承走入海島○昌豨復叛操遣于禁討斬之○是歲立故琅邪王容子熙爲琅邪王齊北海阜陵下邳常山甘陵濟陰平原八國皆除○烏桓乘天下亂略有漢民十餘萬戶袁紹皆立其酋豪爲單于以家人子爲己女妻焉遼西烏桓蹋頓尤彊爲紹所厚故尙兄弟歸之數入塞爲寇欲助尙復故地曹操將擊之鑿平虜渠泉州渠以通運○孫權擊山賊麻保二屯平之

十二年春二月曹操自淳于還鄴丁酉操奏封大功臣二十餘人皆爲列侯因表萬歲亭侯荀彧功狀三月增封彧千戶又欲授以三公或使荀攸深自陳讓至于十數乃止○曹操將擊烏桓諸將皆曰袁尙亡虜耳夷狄貪而無親豈能爲尙用今深入征之劉備必說劉表以襲許萬一爲變事不可悔郭嘉曰公雖威震天下胡恃其遠必不設備因其無備卒然擊之可破滅也且袁紹有恩於民夷而尙兄弟生存今四州之民徒以威附德施未加舍而南征尙因烏桓之資招其死主之臣胡人一動民夷俱應以生蹋頓之心成覬覦之計恐青冀非己之有也表坐談客耳自知才不足以御備重任之則恐不能制輕任之則恐備不爲用雖虛國遠征公無憂矣操從之行至易郭嘉曰兵貴神速今千里襲人輜重多難以趨利且彼聞

之必爲備不如留輜重輕兵兼道以出掩其不意初袁紹數遣使召田疇於無終又即授將軍印使安輯所統疇皆拒之及曹操定冀州河間邢顛謂疇曰黃巾起來二十餘年海內鼎沸百姓流離今聞曹公法令嚴民厭亂矣亂極則平請以身先遂裝還鄉里疇曰邢顛天民之先覺者也操以顛爲冀州從事疇忿烏桓多殺其本郡冠蓋意欲討之而力未能操遣使辟疇疇戒其門下趣治嚴門人皆曰袁公慕君禮命五至君義不屈今曹公使一來而君若恐弗及者何也疇笑曰此非君所識也遂隨使者到軍拜爲參軍隨軍次無終時方夏雨水而濱海洿下溇滯不通虜亦遮守蹊要軍不得進操患之以問田疇疇曰此道秋夏每常有水淺不通車馬深不載舟船爲難久矣舊北平郡治在平岡道出盧龍達于柳城自建武以來陷壞斷絕垂二百載而尚有微逕可從今虜將以大軍當由無終不得進而退懈弛無備若嘿回軍從盧龍口越白檀之險出空虛之地路近而便掩其不備蹋頓可不戰而禽也操曰善乃引軍還而畧大木表於水側路傍曰方今夏暑道路不通且俟秋冬乃復進軍虜候騎見之誠以爲大軍去也操令疇將其衆爲鄉導上徐無山塹山堙谷五百餘里經白檀歷平岡涉鮮卑庭東指柳城未至二百里虜乃知之尙熙與蹋頓及遼西單于樓班右北平單于能臣抵之等將數萬騎逆軍八月操登白狼山卒與虜遇衆甚盛操車重在後被甲者少左右皆懼操登高望虜陣不整乃縱兵擊之使張遼爲前鋒虜衆大崩斬蹋頓及名王已下胡漢降者二十餘萬口遼東單于速僕丸與尙熙奔遼東太守公孫康其衆尙有數千騎或勸操遂擊之操曰吾方使康斬送尙熙首不煩兵矣九月操引兵自柳城還公孫康欲取尙熙以爲功乃先置精勇于廡中然後請尙熙入未及坐康叱伏兵禽之遂斬尙熙并速僕丸首送之諸將或問操公還而康斬尙熙何也操曰彼素畏尙熙吾急之則并力緩之則自相圖其執然也操鼻尙首令二軍敢有哭之者斬牽招獨設祭悲哭操義之舉爲茂才時天寒

且旱二百里無水軍又乏食殺馬數千匹以爲糧鑿地入三十餘丈方得水既還科問前諫者衆莫知其故人人皆懼操皆厚賞之曰孤前行乘危以徼倖雖得之天所佐也顧不可以爲常諸君之諫萬安之計是以相賞後勿難言之○冬十月辛卯有星孛于鶉尾○乙巳黃巾殺濟南王贛○十一月曹操至易水烏桓單于代郡普富盧上郡那樓皆來賀師還論功行賞以五百戶封田疇爲亭侯疇曰吾始爲劉公報仇率衆遁逃志義不立反以爲利非本志也固讓不受操知其至心許而不奪操之北伐也劉備說劉表襲許表不能用及聞操還表謂備曰不用君言故爲失此大會備曰今天下分裂日尋干戈事會之來豈有終極乎若能應之於後者則此未足爲恨也○是歲孫權西擊黃祖虜其人民而還○權母吳氏疾篤引見張昭等屬以後事而卒○初琅邪諸葛亮寓居襄陽隆中每自比管仲樂毅時人莫之許也惟穎川徐庶與崔州平謂爲信然州平烈之子也劉備在荊州訪士於襄陽司馬徽徽曰儒生俗士豈識時務識時務者在乎俊傑此間自有伏龍鳳雛備問爲誰曰諸葛孔明龐士元也徐庶見備於新野備器之庶謂備曰諸葛孔明臥龍也將軍豈願見之乎備曰君與俱來庶曰此人可就見不可屈致也將軍宜枉駕顧之備由是詣亮凡三往乃見因屏人曰漢室傾頽姦臣竊命孤不度德量力欲信大義于天下而智術淺短遂用猖蹶至于今日然志猶未已君謂計將安出亮曰今曹操已擁百萬之衆挾天子而令諸侯此誠不可與爭鋒孫權據有江東已歷三世國險而民附賢能爲之用此可與爲援而不可圖也荊州北據漢沔利盡南海東連吳會西通巴蜀此用武之國而其主不能守此殆天所以資將軍也益州險塞沃野千里天府之土劉璋闇弱張魯在北民殷國富而不知存恤智能之士思得明君將軍既帝室之胄信義著於四海若跨有荊益保其巖阻撫和戎越結好孫權內修政治外觀時變則霸業可成漢室可興矣備曰善於是與亮情好日密關羽張飛不悅備解之曰孤

之有孔明猶魚之有水也。願諸君勿復言。羽飛乃止。司馬徽清雅。有知人之鑒。同縣龐德。公素有重名。徽兄事之。諸葛亮每至德公家。獨拜牀下。德公初不令止。德公從子統。少時樸鈍。未有識者。惟德公與徽重之。德公嘗謂孔明為臥龍。士元為鳳雛。德操為水鑑。故德操與劉備語而稱之。

十三年春正月。司徒趙溫辟曹操子丕。操表溫。辟臣子弟。選舉故不以實。策免之。○曹操還鄴。作玄武池。以肄舟師。○初。巴郡甘寧將僮客八百人。歸劉表。表。儒人。不習軍事。寧觀表事。執終必無成。恐一朝衆散。并受其禍。欲東入吳。黃祖在夏口。軍不得過。乃留依祖三年。祖以凡人畜之。孫權擊祖。祖軍敗走。權校尉凌操將兵急追之。寧善射。將兵在後。射殺操。祖由是得免。軍罷還營。待寧如初。祖都督蘇飛數薦寧。祖不用。寧欲去。恐不免。飛乃白祖。以寧為邦長。寧遂亡奔孫權。周瑜呂蒙共薦達之。權禮異。同於舊臣。寧獻策於權曰。今漢祚日微。曹操終為篡盜。南荆之地。山川形便。誠國之西執也。寧觀劉表。慮既不遠。兒子又劣。非能承業。傳基者也。至尊當早圖之。不可後操圖之。計宜先取黃祖。今昏耄已甚。財穀並乏。左右貪縱。吏士心怨。舟船戰具。頓廢不修。怠於耕農。軍無法伍。至尊今往。其破可必。一破祖軍。鼓行而西。據楚關。大執彌廣。即可漸規巴蜀矣。權深納之。張昭時在坐。難曰。今吳下業業。若軍果行。恐必致亂。寧謂昭曰。國家以蕭何之任付君。君居守而憂亂。奚以希慕古人乎。權舉酒屬寧曰。興霸今年行討。如此酒矣。決以付卿。卿但當勉建方略。令必克祖。則卿之功。何嫌張長史之言乎。權遂西擊黃祖。祖橫兩蒙衝。挾守沔口。以楫闔大紮。繫石為碇。上有千人。以弩交射。飛矢雨下。軍不得前。偏將軍董襲與別部司馬凌統俱為前部。各將敢死百人。人被兩鎧。乘大舸。突入蒙衝裏。襲身以刀斷兩紮。蒙衝乃橫流。大兵遂進。祖令都督陳就。以水軍逆戰。平北都尉呂蒙勒前鋒。親梟就首。於是將士乘勝。水陸並進。傳其城。盡銳攻之。遂屠其城。祖挺

身走。追斬之。虜其男女數萬口。權先作兩函。欲以盛祖及蘇飛首。權為諸將置酒。甘寧下席叩頭。血涕交流。為權言。飛疇昔舊恩。寧不值飛。固已捐骸於溝壑。不得致命於麾下。今飛罪當夷戮。特從將軍乞其首領。權感其言。謂曰。今為君置之。若走去何寧。曰。飛免分裂之禍。受更生之恩。逐之尚必不走。豈當圖亡哉。若爾。寧頭當代入函。權乃赦之。凌統怨寧殺其父操。常欲殺寧。權命統不得讐之。令寧將兵屯於它所。○夏六月。罷三公官。復置丞相御史大夫。癸巳。以曹操為丞相。操以冀州別駕從事崔琰為丞相。西曹掾司空東曹掾陳留毛玠為丞相。東曹掾元城令河內司馬朗為主簿。弟懿為文學。掾冀州主簿盧毓為法曹。議令史毓。植之子也。琰玠並典選舉。其所舉用。皆清正之士。雖於時有盛名。而行不由本者。終莫得進。拔敦實。斥華僞。進冲遜。抑阿黨。由是天下之士莫不以廉節自勵。雖貴寵之臣。輿服不敢過度。至乃長吏還者。垢面羸衣。獨乘柴車。軍吏入府。朝服徒行。吏潔於上。俗移於下。操聞之。歎曰。用人如此。使天下人自治。吾復何為哉。司馬懿少聰達。多大略。崔琰謂其兄朗曰。君弟聰亮。明允剛斷。英特非子所及也。操聞而辟之。懿辭以風痺。操怒。欲收之。懿懼就職。○操使張遼屯長社。臨發。軍中有謀反者。夜驚亂起火。一軍盡擾。遼謂左右曰。勿動。是不一營盡反。必有造變者。欲以驚動人耳。乃令軍中其不反者安坐。遼將親兵數十人。中陳而立。有頃。皆定。即得首謀者。殺之。遼在長社。于禁屯潁陰。樂進屯陽翟。三將任氣。多共不協。操使司空主簿趙儼。并參三軍。每事訓諭。遂相親睦。○初。前將軍馬騰與鎮西將軍韓遂結為異姓兄弟。後以部曲相侵。更為讎敵。朝廷使司隸校尉鍾繇涼州刺史韋端和解之。徵騰入屯槐里。曹操將征荊州。使張既說騰。令釋部曲還朝。騰許之。已而更猶豫。既恐其為變。乃移諸縣。促儲侍。二千石郊迎。騰不得已發。東操表騰為衛尉。以其子超為偏將軍。統其衆。悉徙其家屬詣鄴。○秋七月。曹操南擊劉表。○八月丁未。以光祿勳山陽郗慮為御史大夫。○壬子。太中大夫孔

融奔市。融恃其才望，數戲侮曹操，發辭偏宕，多致乖忤。操以融名重天下，外相容忍，而內甚嫌之。融又上書，宜準古王畿之制，千里寰內，不以封建諸侯。操疑融所論建漸廣，益憚之。融與郗慮有隙，慮承操風旨，構其罪，令丞相軍謀祭酒路粹奏。融昔在北海，見王室不靜，而招合徒衆，欲規不軌，及與孫權使語，謗訕朝廷。又前與白衣禰衡，跌蕩放言，更相贊揚，衡謂融曰：「仲尼不死，融答，顏回復生，大逆不道，宜極重誅。」操遂收融，并其妻子，皆殺之。初，京兆脂習與融善，每戒融剛直太過，必罹世患。及融死，許下莫敢收者。習往撫尸曰：「文舉舍我死，吾何用生爲？」操收習，欲殺之。既而赦之。○初，劉表二子，琦、琮，琮娶其後妻蔡氏之姪。蔡氏遂愛琮而惡琦，表妻弟蔡瑁、外甥張允，並得幸于表。日相與毀琦而譽琮，琦不自寧。與諸葛亮謀自安之術，亮不對。後乃共升高樓，因令去梯，謂亮曰：「今日上不至天，下不至地，言出口而入吾耳，可以言未。」亮曰：「君不見申生在內而危，重耳居外而安乎？琦意感悟，陰規出計，會黃祖死，琦求代其任，表乃以琦爲江夏太守，表病甚，琦歸省疾，瑁允恐其見表，而父子相感，更有託後之意，乃謂琦曰：「將軍命君撫臨江夏，其任至重，今釋衆擅來，必見譴怒，傷親之歡，重增其疾，非孝敬之道也。」遂過于戶外，使不得見。琦流涕而去。表卒，瑁允等遂以琮爲嗣。琮以侯印授琦，琦怒，投之地。將因奔喪作難，會曹操軍至，琦奔江南，章陵太守蒯越及東曹掾傅巽等勸琮降操，曰：「逆順有大體，強弱有定執，以人臣而拒人主，逆道也。以新造之楚而禦中國，必危也。以劉備而敵曹公，不當也。三者皆短，將何以待敵？且將軍自料，何如劉備？若備不足禦曹公，則雖全楚不能以自存也。若足禦曹公，則備不爲將軍下也。」琮從之。九月，操至新野，琮遂舉州降，以節迎操。諸將皆疑其詐，婁圭曰：「天下擾擾，各貪王命，以自重，今以節來，是必至誠。」操遂進兵。時劉備屯樊，琮不敢告備。備久之乃覺，遣所親問琮，琮令官屬宋忠詣備宣旨。時曹操已在宛，備乃大驚駭，謂忠曰：「卿諸人作事如此，不早相語，今禍至，方告我，不亦太劇乎？」引刀向忠曰：「今斷卿頭，不足以解忿，亦恥丈夫臨別，復殺卿輩，遣忠去，乃呼部曲共議，或勸備攻琮，荆州可得，備曰：「劉荆州臨亡，託我以孤遺，背信自濟，吾所不爲，死何面目？以見劉荆州乎？」備將其衆去，過襄陽，駐馬呼琮，琮懼不能起。琮左右及荆州人，多歸備，備過辭，表墓涕泣而去。比到當陽，衆十餘萬人，輜重數千兩，日行十餘里，別遣關羽乘船數百艘，使會江陵，或謂備曰：「宜速行保江陵，今雖擁大衆，被甲者少，若曹公兵至，何以拒之？」備曰：「夫濟大事，必以人爲本，今人歸吾，吾何忍棄去？」

習鑿齒論曰：劉玄德雖顛沛險難，而信義愈明，執偪事危而言不失道，追景升之願，則情感三軍，戀赴義之士，則甘與同敗，終濟大業，不亦宜乎？

劉琮將王威說琮曰：「曹操聞將軍既降，劉備已走，必懈弛無備，輕行單進，若給威奇兵數千，徼之於險，操可獲也。」獲操，即威震四海，非徒保守今日而已。琮不納。操以江陵有軍實，恐劉備據之，乃釋輜重，輕軍到襄陽，聞備已過，操將精騎五千急追之。一日一夜行三百餘里，及於當陽之長坂，備棄妻子與諸葛亮、張飛、趙雲等數十騎走。操大獲其人，衆輜重，徐庶母爲操所獲，庶辭備，指其心曰：「本欲與將軍共圖王霸之業者，以此方寸之地也。今已失老母，方寸亂矣，無益於事，請從此別。」遂詣操，張飛將二十騎拒後，飛據水斷橋，瞋目橫矛曰：「身是張益德也，可來共決死。」操兵無敢近者，或謂備趙雲已北走，備以手戟擲之曰：「子龍不棄我走也。」頃之，雲身抱備子禪，與關羽船會，得濟河，遇劉琦衆萬餘人，俱到夏口。曹操進軍江陵，以劉琮爲青州刺史，封列侯，并蒯越等侯者凡十五人，釋韓嵩之囚，待以交友之禮，使條品州人優劣，皆擢而用之，以嵩爲大鴻臚，蒯越爲光祿勳，劉先爲尚書，鄧羲爲侍中，荆州大將南陽文聘、別屯在外，琮之降也，呼聘欲與俱，聘曰：「聘不能全州，當待罪而已。」操濟漢，聘乃詣操，操曰：「來何遲邪？」聘曰：「先日不能輔弼劉荆州，以奉國家，荆州雖沒，常願據守漢川，保全土境，生不

負於孤弱，死無愧於地下，而計不在己，以至于此，實懷悲慙，無顏早見耳。遂歎欷流涕，操爲之愴然，字謂之曰：仲業，卿真忠臣也。厚禮待之，使統本兵，爲江夏太守。初，袁紹在冀州，遣使迎汝南士大夫西平和洽，以爲冀州士平民彊，英桀所利，不如荆州。士險民弱，易倚也。遂從劉表。表以上客待之，洽曰：所以不從本初，辟爭地也。昏世之主，不可曠近，久而不去，讒慝將興。遂南之武陵，表辟南陽劉望之爲從事，而其友二人，皆以讒毀爲表所誅，望之又以正諫不合，投傳告歸。望之弟廙，謂望之曰：趙殺鳴犢，仲尼回輪，今兄既不能法柳下惠和光，同塵於內，則宜模范蠡，遷化於外，坐而自絕於時，殆不可也。望之不從，尋復見害。廙犇揚州，南陽韓暨避袁術之命，徙居山都山。劉表又辟之，遂遁居孱陵。表深恨之，暨懼應命，除宜城長。河東裴潛亦爲表所禮重，潛私謂王暢之子粲，及河內司馬芝曰：劉牧非霸王之才，乃欲西伯自處，其敗無日矣。遂南適長沙，於是操以暨爲丞相，士曹屬潛參丞相軍事。洽、廙、粲皆爲掾屬，芝爲督令，從人望也。○冬十月，癸未朔，日有食之。○初，魯肅聞劉表卒，言於孫權曰：荆州與國鄰接，江山險固，沃野萬里，士民殷富，若據而有之，此帝王之資也。今劉表新亡，二子不協，軍中諸將各有彼此，劉備天下梟雄，與操有隙，寄寓於表，表惡其能而不能用也。若備與彼協心，上下齊同，則宜撫安，與結盟好，如有難違，宜別圖之，以濟大事。肅請得奉命弔表二子，并慰勞其軍中用事者，及說備使撫表衆，同心一意，共治曹操，備必喜而從命。如其克諧，天下可定也。今不速往，恐爲操所先，權即遣肅行。到夏口，聞操已向荆州，晨夜兼道，比至南郡，而琮已降，備南走。肅徑迎之，與備會于當陽長坂。肅宣權旨，論天下事，執殷勤之意，且問備曰：豫州今欲何至？備曰：與蒼梧太守吳巨有舊，欲往投之。肅曰：孫討虜，聰明仁惠，敬賢禮士，江表英豪咸歸附之，已據有六郡，兵精糧多，足以立事。今爲君計，莫若遣腹心，自結於東，以共濟世業，而欲投吳巨，巨是凡人，偏在遠郡，行將爲人所併，豈足託乎？備甚悅，肅又謂

諸葛亮曰：我子瑜友也。即共定交。子瑜者，亮兄瑾也。避亂江東，爲孫權長史，備用肅計，進住鄂縣之樊口。曹操自江陵將順江東下，諸葛亮謂劉備曰：事急矣，請奉命求救於孫將軍。遂與魯肅俱詣孫權。亮見權於柴桑，說權曰：海內大亂，將軍起兵江東，劉豫州收衆漢南，與曹操共爭天下。今操芟夷大難，略已平矣，遂破荆州，威震四海，英雄無用武之地，故豫州遁逃至此。願將軍量力而處之，若能以吳越之衆，與中國抗衡，不如蚤與之絕。若不能，何不按兵束甲，北面而事之？今將軍外託服從之名，而內懷猶豫之計，事急而不斷，禍至無日矣。權曰：苟如君言，劉豫州何不遂事之乎？亮曰：田橫，齊之壯士耳，猶守義不辱，況劉豫州王室之胄，英才蓋世，衆士慕仰，若水之歸海。若事之不濟，此乃天也，安能復爲之下乎？權勃然曰：吾不能舉全吳之地，十萬之衆，受制於人，吾計決矣。非劉豫州莫可以當曹操者，然豫州新敗之後，安能抗此難乎？亮曰：豫州軍雖敗於長坂，今戰士還者及關羽水軍精甲萬人，劉琦合江夏戰士亦不下萬人。曹操之衆，遠來疲敝，聞追豫州，輕騎一日一夜行三百餘里，此所謂強弩之末勢，不能穿魯縞者也。故兵法忌之曰：必蹶上將軍。且北方之人，不習水戰，又荆州之民附操者，偪兵執耳，非心服也。今將軍誠能命猛將統兵數萬，與豫州協規同力，破操軍必矣。操軍破，必北還，如此，則荆吳之執強，鼎足之形成矣。成敗之機，在於今日。權大悅，與其羣下謀之。是時，曹操遣權書曰：近者奉辭伐罪，旌麾南指，劉琮束手。今治水軍八十萬衆，方與將軍會獵於吳。權以示臣下，莫不響震失色。長史張昭等曰：曹公豺虎也，挾天子以征四方，動以朝廷爲辭，今日拒之，事更不順。且將軍大執，可以拒操者，長江也。今操得荆州，奄有其地，劉表治水軍，蒙衝鬪艦，乃以千數，操悉浮以沿江，兼有步兵，水陸俱下，此爲長江之險，已與我共之矣。而執力喪寡，又不可論。愚謂大計不如迎之。魯肅獨不言，權起更衣，肅追於宇下，權知其意，執肅手曰：卿欲何言？肅曰：向察衆人之議，專欲誤將軍，不足與圖大事。今肅可

迎操耳。如將軍不可也。何以言之。今肅迎操。操當以肅還付鄉黨。品其名位。猶不失下曹從事。乘犢車。從吏卒。交游士林。累官故不失州郡也。將軍迎操。欲安所歸乎。願早定大計。莫用衆人之議也。權歎息曰。諸人持議甚失孤望。今卿廓開大計。正與孤同。時周瑜受使至番陽。肅勸權召瑜還。瑜至。謂權曰。操雖託名漢相。其實漢賊也。將軍以神武雄才。兼仗父兄之烈。割據江東。地方數千里。兵精足用。英雄樂業。當橫行天下。爲漢家除殘去穢。況操自送死。而可迎之邪。請爲將軍籌之。今北土未平。馬超韓遂。尙在關西。爲操後患。而操舍鞍馬。仗舟楫。與吳越爭衡。今又盛寒。馬無藁草。驅中國士衆。遠涉江湖之間。不習水土。必生疾病。此數者。用兵之患也。而操皆冒行之。將軍禽操。宜在今日。瑜請得精兵數萬人。進住夏口。保爲將軍破之。權曰。老賊欲廢漢自立久矣。徒忌二袁。呂布。劉表與孤耳。今數雄已滅。惟孤尙存。孤與老賊。執不兩立。君言當擊。甚與孤合。此天以君授孤也。因拔刀斫前奏案曰。諸將吏敢復有言當迎操者。與此案同。乃罷會。是夜。瑜復見權曰。諸人徒見操書言水步八十萬。而各恐。不復料其虛實。便開此議。甚無謂也。今以實校之。彼所將中國人。不過十五六萬。且已久疲。所得表衆。亦極七八萬耳。尙懷狐疑。夫以疲病之卒。御狐疑之衆。衆數雖多。甚未足畏。瑜得精兵五萬。自足制之。願將軍勿慮。權撫其背曰。公瑾。卿言至此。甚合孤心。子布元表。諸人。各願妻子。挾持私慮。深失所望。獨卿與子敬。與孤同耳。此天以卿二人贊孤也。五萬兵難卒合。已選三萬人。船糧戰具俱辦。卿與子敬。程公便在前發。孤當續發。人衆多載資糧。爲卿後援。卿能辨之者。誠決。邂逅不如意。便還就孤。孤當與孟德決之。遂以周瑜程普爲左右督。將兵與備并力逆操。以魯肅爲贊軍。校尉。助畫方略。劉備在樊口。日遣邏吏於水次。候望權軍。吏望見瑜。船馳往白備。備遣人慰勞之。瑜曰。有軍任。不可得委署。儻能屈威。誠副其所望。備乃乘單舸。往見瑜曰。今拒曹公。深爲得計。戰卒有幾。瑜曰。三萬人。備曰。恨少。瑜曰。此自足用。豫

州但觀瑜破之。備欲呼魯肅等共會語。瑜曰。受命不得妄委署。若欲見子敬。可別過之。備深愧喜。進與操遇於赤壁。時操軍衆已有疾疫。初一交戰。操軍不利。引次江北。瑜等在南岸。瑜部將黃蓋曰。今寇衆我寡。難與持久。操軍方連船艦。首尾相接。可燒而走也。乃取蒙衝鬪艦十艘。載燥荻。枯柴。灌油其中。裹以帷幕。上建旌旗。豫備走舸。繫於其尾。先以書遺操。詐云欲降。時東南風急。蓋以十艦最著前。中江舉帆。餘船以次俱進。操軍吏士皆出營立觀。指言蓋降。去北軍二里餘。同時發火。火烈風猛。船往如箭。燒盡北船。延及岸上營落。頃之。烟炎張天。人馬燒溺。死者甚衆。瑜等率輕銳繼其後。雷鼓大震。北軍大壞。操引軍從華容道步走。遇泥濘道不通。天又大風。悉使羸兵負艸填之。騎乃得過。羸兵爲人馬所陷。藉陷泥中。死者甚衆。劉備周瑜水陸竝進。追操至南郡。時操軍衆以飢疫死者太半。操乃留征南將軍曹仁。橫野將軍徐晃。守江陵。折衝將軍樂進。守襄陽。引軍北還。周瑜程普將數萬衆。與曹仁隔江。未戰。甘寧請先徑進取夷陵。往即得其城。因入守之。益州將襲肅舉軍降。周瑜表以肅兵益橫野中郎將呂蒙。蒙盛稱肅有膽用。且慕化遠來。於義宜益。不宜奪也。權善其言。還肅兵。曹仁遣兵圍甘寧。寧困急。求救于周瑜。諸將以爲兵少不足分。呂蒙謂周瑜程普曰。留凌公績於江陵。蒙與君行。解圍釋急。執亦不久。蒙保公績能十日守也。瑜從之。大破仁兵于夷陵。獲馬三百匹而還。於是將士形執自倍。瑜乃渡江屯北岸。與仁相拒。十二月。孫權自將圍合肥。使張昭攻九江之當塗。不克。劉備表劉琦爲荊州刺史。引兵南徇四郡。武陵太守金旋。長沙太守韓玄。桂陽太守趙範。零陵太守劉度。皆降。廬江營帥雷緒率部曲數萬口歸備。備以諸葛亮爲軍師中郎將。使督零陵桂陽長沙三郡。調其賦稅。以充軍實。以偏將軍趙雲。頭桂陽太守。○益州牧劉璋。聞曹操克荊州。遣別駕張松。致敬於操。松爲人短小。放蕩。然識達精果。操時已定荊州。走劉備。不復存錄。松主簿楊修。白操辟松。操不納。松以此怨。歸勸劉璋。絕操。與劉

備相結璋從之。

習鑿齒論曰昔齊桓一矜其功而叛者九國曹操暫自驕伐而天下三分皆勤之於數十年之內而奔之於俯仰之頃豈不惜乎。

曹操追念田疇功恨前聽其讓曰是成一人之志而虧王法大制也乃復以前爵封疇疇上疏陳誠以死自誓操不聽欲引拜之至于數四終不受有司劾疇謂介違道苟立小節宜免官加刑操下世子及大臣博議世子丕以疇同於子文辭祿申胥逃賞宜勿奪以優其節尚書荀彧司隸校尉鍾繇亦以為可聽操猶欲侯之疇素與夏侯惇善操使惇自以其情喻之惇就疇宿而勸之疇揣知其指不復發言惇臨去固邀疇疇曰疇負義逃竄之人耳蒙恩全活為幸多矣豈可賣盧龍之塞以易賞祿哉縱國私疇疇獨不愧於心乎將軍雅知疇者猶復如此若必不得已請願效死勿首於前言未卒涕泣橫流惇具以答操操喟然知不可屈乃拜為議郎操幼子倉舒卒操傷惜之甚司空掾邴原女早亡操欲求與倉舒合葬原辭曰嫁為非禮也原之所以自容於明公公之所以待原者以能守訓典而不易也若聽明公之命則是凡庸也明公焉以為哉操乃止○孫權使威武中郎將賀齊討丹陽黥賊黥帥陳僕祖山等二萬戶屯林歷山四面壁立不可得攻軍住經月齊陰募輕捷士於隱險處夜以鐵戈拓山潛上縣布以援下人得上者百餘人令分布四面鳴鼓角賊大驚守路者皆逆走還依衆大軍因是得上大破之權乃分其地為新都郡以齊為太守。

資治通鑑卷第六十五

資治通鑑卷第六十六

漢紀五十八

孝獻皇帝辛

建安十四年春三月曹操軍至譙○孫權圍合肥久不下權率輕騎欲身往突敵長史張紘諫曰夫兵者凶器戰者危事也今麾下恃盛壯之氣忽疆暴之虜三軍之衆莫不寒心雖斬將奪旗威震敵場此乃偏將之任非主將之宜也願抑賁育之勇懷霸王之計權乃止曹操遣將軍張喜將兵解圍久而未至揚州別駕楚國蔣濟密白刺史偽得喜書云步騎四萬已到零婁遣主簿迎喜三部使齎書語城中守將一部得入城二部為權兵所得權信之遽燒圍走○秋七月曹操引水軍自渦入淮出肥水軍合肥開芍陂屯田○冬十月荊州地震○十二月操軍還譙○廬江人陳蘭梅成據潯六叛操遣盪寇將軍張遼討斬之因使遼與樂進李典等將七千餘人屯合肥○周瑜攻曹仁歲餘所殺傷甚衆仁委城走權以瑜領南郡太守屯據江陵程普領江夏太守治沙羨呂範領彭澤太守呂蒙領尋陽令劉備表權行車騎將軍領徐州牧會劉琦卒權以備領荊州牧周瑜分南岸地以給備備立營於油口改名公安權以妹妻備妹才捷剛猛有諸兄風侍婢百餘人皆執刀侍立備每入心常凜凜曹操密遣九江蔣幹往說周瑜幹以才辯獨步于江淮之間乃布衣葛巾自託私行詣瑜瑜出迎之立謂幹曰子翼良苦遠涉江湖為曹氏作說客邪因延幹與周觀營中行視倉庫軍資器仗訖還飲宴示之侍者服飾珍玩之物因謂幹曰丈夫處世遇知己之主外託君臣之義內

結骨肉之恩。言行計從。禍福共之。假使蘇張更生。能移其意乎。幹但笑。終無所言。還白操。稱瑜雅量高致。非言辭所能問也。○丞相掾和洽言于曹操曰。天下之人。材德各殊。不可以一節取也。儉素過中。自以處身。則可以此格物。所失或多。今朝廷之議。吏有著新衣。乘好車者。謂之不清。形容不飾。衣裘敝壞者。謂之廉潔。至令士大夫。故汙辱其衣。藏其輿服。朝府大吏。或自挈壺飧。以入官寺。夫立教觀俗。貴處中庸。爲可繼也。今崇一概難堪之行。以檢殊塗。勉而爲之。必有疲瘁。古之大教。務在通人情而已。凡激詭之行。則容隱僞矣。操善之。十五年春。下令曰。孟公綽。爲趙魏老。則優。不可以爲滕薛大夫。若必廉士。而後可用。則齊桓其何以霸世。二三子其佐我。明揚仄陋。唯才是舉。吾得而用之。○二月乙巳朔。日有食之。○冬。曹操作銅爵臺於鄴。○十二月己亥。操下令曰。孤始舉孝廉。自以本非巖穴知名之士。恐爲世人之所凡愚。欲好作政教。以立名譽。故在濟南。除殘去穢。平心選舉。以是爲彊豪所忿。恐致家禍。故以病還鄉里。時年紀尚少。乃於譙東五十里。築精舍。欲秋夏讀書。冬春射獵。爲二十年規。待天下清。乃出仕耳。然不能得如意。徵爲典軍校尉。意遂更欲爲國家討賊立功。使題墓道。言漢故征西將軍曹侯之墓。此其志也。而遭值董卓之難。興舉義兵。後領兖州。破降黃巾三十萬衆。又討擊袁術。使窮沮而死。摧破袁紹。梟其二子。復定劉表。遂平天下。身爲宰相。人臣之貴已極。意望已過矣。設使國家無有孤。不知當幾人稱帝。幾人稱王。或者人見孤彊盛。又性不信天命。恐妄相忖度。言有不遜之志。每用耿耿。故爲諸君陳道此言。皆肝鬲之要也。然欲孤便爾委捐所典兵衆。以還執事。歸就武平侯國。實不可也。何者。誠恐已離兵爲人所禍。既爲子孫計。又已敗。則國家傾危。是以不得慕虛名而處實禍也。然兼封四縣。食戶三萬。何德堪之。江湖未靜。不可讓位。至於邑土。可得而辭。令上還陽夏。柘。苦。三縣。戶二萬。但食武平萬戶。且以分損謗議。少減孤之責也。○劉表故吏士多歸劉備。備以周瑜所給地。

少。不足以容其衆。乃自詣京。見孫權。求都督荊州。瑜上疏於權曰。劉備以梟雄之姿。而有關羽張飛熊虎之將。必非久屈爲人用者。愚謂大計宜徒備置吳。盛爲築宮室。多其美女玩好。以娛其耳目。分此二人。各置一方。使如瑜者。得挾與攻戰。大事可定也。今猥割土地。以資業之。聚此三人。俱在疆場。恐蛟龍得雲雨。終非池中物也。呂範亦勸留之。權以曹操在北方。當廣擊英雄。不從。備還公安。久乃聞之。歎曰。天下智謀之士。所見略同。時孔明諫孤莫行。其意亦慮此也。孤方危急。不得不往。此誠險塗。殆不免周瑜之手。周瑜詣京。見權曰。今曹操新敗。憂在腹心。未能與將軍連兵相事也。乞與奮威俱進取蜀。而并張魯。因留奮威固守其地。與馬超結援。瑜還與將軍據襄陽。以蹙操。北方可圖也。權許之。奮威者。孫堅弟子奮威將軍丹陽太守瑜也。周瑜還江陵。爲行裝。於道病困。與權牋曰。修短命矣。誠不足惜。但恨微志未展。不復奉教命耳。方今曹操在北。疆場未靜。劉備寄寓。有似養虎。天下之事。未知終始。此朝士肝食之秋。至尊垂慮之日也。魯肅忠烈。臨事不苟。可以代瑜。儻所言可采。瑜死不朽矣。卒於巴丘。權聞之。哀慟曰。公瑾有王佐之資。今忽短命。孤何賴哉。自迎其喪于蕪湖。瑜有一女。二男。權爲長子。登娶其女。以其男循爲騎都尉。妻以女。胤爲興業都尉。妻以宗女。初瑜見友于孫策。太夫人又使權以兄奉之。是時。權位爲將軍。諸將賓客。爲禮尚簡。而瑜獨先盡敬。便執臣節。程普頗以年長。數陵侮瑜。瑜折節下之。終不與校。普後自敬服。而親重之。乃告人曰。與周公瑾交。若飲醇醪。不覺自醉。權以魯肅爲奮武校尉。代瑜領兵。令程普領南郡太守。魯肅勸權以荊州借劉備。與共拒曹操。權從之。乃分豫章爲番陽郡。分長沙爲漢昌郡。復以程普領江夏太守。魯肅爲漢昌太守。屯陸口。初。權謂呂蒙曰。卿今當塗掌事。不可不學。蒙辭以軍中多務。權曰。孤豈欲卿治經爲博士邪。但當涉獵見往事耳。卿言多務。孰若孤。孤嘗讀書。自以爲大有所益。蒙乃始就學。及魯肅過尋陽。與蒙論議。大驚曰。卿今者才略。非復吳下阿蒙。

蒙曰。士別三日。卽更刮目相待。大兄何見事之晚乎。肅遂拜蒙母。結友而別。劉備以從事龐統守耒陽令。在縣不治。免官。魯肅遺備書曰。龐士元。非百里才也。使處治中別駕之任。始當展其驥足耳。諸葛亮亦言之。備見統與善譚。大器之。遂用統爲治中。親待亞于諸葛亮。與亮竝爲軍師中郎將。○初蒼梧士燮。爲交趾太守。交州刺史朱符。爲夷賊所殺。州郡擾亂。燮表其弟壹。領合浦太守。顛領九真太守。武領南海太守。燮體器寬厚。中國士人多往依之。雄長一州。偏在萬里。威尊無上。出入儀衛甚盛。震服百蠻。朝廷遣南陽張津。爲交州刺史。津好鬼神事。常著絳帕頭。鼓琴燒香。讀道書。云可以助化。爲其將區景所殺。劉表遣零陵賴恭。代津爲刺史。是時蒼梧太守史璜死。表又遣吳巨代之。朝廷賜燮璽書。以燮爲綏南中郎將。董督七郡。領交趾太守如故。巨與恭相失。巨舉兵逐恭。恭走還零陵。孫權以番陽太守臨淮步騭爲交州刺史。士燮率兄弟奉承節度。吳巨外附內違。騭誘而斬之。威聲大震。權加燮左將軍。燮遣子入質。由是嶺南始服屬於權。

十六年春正月。以曹操世子丕爲五官中郎將。置官屬。爲丞相副。○三月。操遣司隸校尉鍾繇討張魯。使征西護軍夏侯淵等將兵出河東。與繇會。倉曹屬高柔諫曰。大兵西出。韓遂馬超疑爲襲己。必相扇動。宜先招集三輔三輔苟平。漢中可傳檄而定也。操不從。關中諸將果疑之。馬超韓遂。侯選程銀楊秋李堪張橫梁興成宜馬玩等十部皆反。其衆十萬。屯據潼關。操遣安西將軍曹仁督諸將拒之。敕令堅壁勿與戰。命五官將丕留守鄴。以奮武將軍程昱參丕軍事。門下督廣陵徐宣爲左護軍。留統諸軍。樂安國淵爲居府長史。統留事。秋七月。操自將擊超等。議者多言關西兵習長矛。非精選前鋒不可當也。操曰。戰在我。非在賊也。賊雖習長矛。將使不得以刺諸君。但觀之。八月。操至潼關。與超等夾關而軍。操急持之。而潛遣徐晃朱靈以步騎四千人渡蒲阪津。據河西爲營。閏月。操自潼關北渡河。兵衆先渡。操獨與虎

士百餘人留南岸斷後。馬超將步騎萬餘人攻之。矢下如雨。操猶據胡牀不動。許褚扶操上船。船中流矢死。褚左手舉馬蓋以蔽操。右手刺船。校尉丁斐放牛馬以餌賊。賊亂取牛馬。操乃得渡。遂自蒲阪渡西河。循河爲甬道。而南超等退拒渭口。操乃多設疑兵。潛以舟載兵入渭。爲浮橋。夜分兵結營於渭南。超等夜攻營。伏兵擊破之。超等屯渭南。遣使求割河以西。請和。操不許。九月。操進軍悉渡渭。超等數挑戰。又不許。固請割地。求送任子。賈詡以爲可。僞許之。操復問計策。詡曰。離之而已。操曰。解韓遂請與操相見。操與遂有舊。於是交馬語。移時不及軍事。但說京都舊故。拊手歡笑。時秦胡觀者前後重沓。操笑謂之曰。爾欲觀曹公邪。亦猶人也。非有四目兩口。但多智耳。既罷。超等問遂。公何言。遂曰。無所言也。超等疑之。他日。操又與遂書。多所點竄。如遂改定者。超等愈疑。遂操乃與克日會戰。先以輕兵挑之。戰良久。乃縱虎騎夾擊。大破之。斬成宜李堪等。遂超奔涼州。楊秋韓安定諸將問操曰。初賊守潼關。渭北道缺。不從河東擊馮翊。而反守潼關。引日而後北渡。何也。操曰。賊守潼關。若吾入河東。賊必引守諸津。則西河未可渡。吾故盛兵向潼關。賊悉衆南守。西河之備虛。故二將得擅取西河。然後引軍北渡。賊不能與吾爭西河者。以二將之軍也。連車樹柵。爲甬道而南。旣爲不可勝。且以示弱。渡渭爲壘。虜至不出。所以驕之也。故賊不爲營壘。而求割地。吾順言許之。所以從其意。使自安而不爲備。因畜士卒之力。一旦擊之。所謂疾雷不及掩耳。兵之變化。固非一道也。始關中諸將。每一部到。操輒有喜色。諸將問其故。操曰。關中長遠。若賊各依險阻。征之。不三二年不可定也。今皆來集。其衆雖多。莫相歸服。軍無適主。一舉可滅。爲功差易。吾是以喜。冬十月。操自長安北征楊秋。圍安定。秋降。復其爵位。使留撫其民。十二月。操自安定還。留夏侯淵屯長安。以議郎張既爲京兆尹。既招懷流民。興復縣邑。百姓懷之。遂超之叛也。弘農馮翊縣邑多應之。河東民獨無異心。操與超等夾渭爲軍。軍食一仰河東。及超等破餘畜

尚二十餘萬斛。操乃增河東太守杜畿秩中二千石。○扶風法正爲劉璋軍議校尉。璋不能用。又爲其州里俱僑客者所鄙。正邑邑不得志。益州別駕張松與正善。自負其才。忖璋不足與有爲。常竊歎息。松勸璋結劉備。璋曰：誰可使者？松乃舉正。璋使正往。正辭謝。佯爲不得已而行。還爲松說備有雄略。密謀奉戴。以爲州主。會曹操遣鍾繇向漢中。璋聞之。內懷恐懼。松因說璋曰：曹公兵無敵于天下。若因張魯之資。以取蜀土。誰能禦之？劉豫州使君之宗室。而曹公之深讎也。善用兵。若使之討魯。魯必破矣。魯破。則益州疆。曹公雖來。無能爲也。今州諸將。龐羲、李異等皆恃功驕豪。欲有外意。不得豫州。則敵攻其外。民攻其內。必敗之道也。璋然之。遣法正將四千人迎備。主簿巴西黃權諫曰：劉左將軍有驍名。今請到。欲以部曲遇之。則不滿其心。欲以賓客禮待。則一國不容二君。若客有泰山之安。則主有累卵之危。不若閉境以待。時清。璋不聽。出權爲廣漢王累。自倒懸于州門。以諫。璋一無所納。法正至。荆州陰獻策於劉備曰：以明將軍之英才。乘劉牧之懦弱。張松州之股肱。響應於內。以取益州。猶反掌也。備疑未決。龐統言於備曰：荆州荒殘。人物殫盡。東有孫車騎。北有曹操。難以得志。今益州戶口百萬。土沃財富。誠得爲資。大業可成也。備曰：今指與吾爲水火者。曹操也。操以急吾以寬。操以暴吾以仁。操以譎吾以忠。每與操反。事乃可成耳。今以小利而失信義於天下。柰何？統曰：亂離之時。固非一道所能定也。且兼弱攻昧。逆取順守。古人所貴。若事定之後。封以大國。何負於信？今日不取。終爲人利耳。備以爲然。乃留諸葛亮、關羽等守荆州。以趙雲領留營司馬。備將步卒數萬人入益州。孫權聞備西上。遣舟船迎妹。而夫人欲將備子禪還吳。張飛、趙雲勒兵截江。乃得禪還。劉璋敕在所供奉。備入境如歸。前後贈遺。以巨億計。備至巴郡。巴郡太守嚴顏拊心歎曰：此所謂獨坐窮山。放虎自衛者也。備自江州北由墊江水詣涪。璋率步騎三萬餘人車乘帳幔。精光耀日。往會之。張松令法正白備。便於會襲璋。

備曰：此事不可倉卒。龐統曰：今因會執之。則將軍無用兵之勞。而坐定一州也。備曰：初入他國。恩信未著。此不可也。璋推備行。大司馬領司隸校尉。備亦推璋行。鎮西大將軍領益州牧。所將吏士更相之適。歡飲百餘日。璋增備兵。厚加資給。使擊張魯。又令督白水軍。備并軍三萬餘人。車甲器械資貨甚盛。璋還成都。備北到葭萌。未即討魯。厚樹恩德。以收衆心。十七年春正月。曹操還鄴。詔操贊拜不名。入朝不趨。劍履上殿。如蕭何故事。○操之西征也。河間民田銀、蘇伯反。扇動幽冀。五官將丕欲自討之。功曹常林曰：北方吏民樂安。厭亂。服化已久。守善者多。銀、伯、羊相聚。不能爲害。方今大軍在遠。外有疆敵。將軍爲天下之鎮。輕動遠舉。雖克不武。乃遣將軍賈信討之。應時克滅。餘賊千餘人請降。議者皆曰：公有舊法。困而後降者不赦。程昱曰：此乃擾攘之際。權時之宜。今天下略定。不可誅之。縱誅之。宜先啓開議者。皆曰：軍事有專無請。昱曰：凡專命者。謂有臨時之急耳。今此賊制在賈信之手。故老臣不願將軍行之也。丕曰：善。即白操。操果不誅。既而聞昱之謀。甚悅。曰：君非徒明於軍計。又善處人父子之間。故事破賊。文書以一爲十。國淵上首級。皆如其實數。操問其故。淵曰：夫征討外寇。多其斬獲之數者。欲以大武功聳民聽也。河間在封域之內。銀等叛逆。雖克捷有功。淵竊恥之。操大悅。○夏五月癸未。誅衛尉馬騰。夷三族。○六月庚寅晦。日有食之。○秋七月。螟。○馬超等餘衆屯藍田。夏侯淵擊平之。郿賊梁興寇略馮翊。諸縣恐懼。皆寄治郡下。議者以爲當移就險阻。左馮翊鄒瑄曰：興等破散。藏竄山谷。雖有隨者。率協從耳。今當廣開降路。宜諭威信。而保險自守。此示弱也。乃聚吏民治城郭。爲守備。募民逐賊。得其財物婦女。十以七賞。民大悅。皆願捕賊。賊之失妻子者。皆還求降。瑄責其得他婦女。然後還之。於是轉相寇盜。黨與離散。又遣吏民有恩信者。分布山谷。告諭之。出者相繼。乃使諸縣長吏各還本治。以安集之。興等懼。將餘衆聚郿城。操使夏侯淵助瑄討之。遂斬興。餘黨悉平。瑄泰之弟也。○九月庚

戊立皇子熙爲齊陰王。懿爲山陽王。邈爲濟北王。敦爲東海王。○初張紘以秣陵山川形勝勸孫權以爲治所。及劉備東過秣陵亦勸權居之。權於是作石頭城徙治秣陵。改秣陵爲建業。○呂蒙聞曹操欲東兵說孫權夾濡須水口立塢。諸將皆曰。上岸擊賊。洗足入船。何用塢爲。蒙曰。兵有利鈍。戰無百勝。如有邂逅。敵步騎蹙人。不暇及水。其得入船乎。權曰。善。遂作濡須塢。冬十月曹操東擊孫權。○董昭言於曹操曰。自古以來。人臣匡世。未有今日之功。有今日之功。未有久處人臣之執者也。今明公恥有慙德。樂保名節。然處大臣之執。使人以大事疑己。誠不可不重慮也。乃與列侯諸將議。以丞相宜進爵國公。九錫備物。以彰殊勳。苟或以爲曹公本興義兵。以匡朝寧國。秉忠貞之誠。守退讓之實。君子愛人以德。不宜如此。操由是不悅。及擊孫權。表請或勞軍於譙。因輒留或。以待中光祿大夫持節參丞相軍事。操軍向濡須。或以疾留壽春。飲藥而卒。或行義修整。而有智謀。好推賢進士。故時人皆惜之。

臣光曰。孔子之言仁也重矣。自子路冉求公西赤門人之高第。令尹子文陳文子諸侯之賢大夫。皆不足以當之。而獨稱管仲之仁。豈非以其輔佐齊桓。大濟生民乎。齊桓之行若狗彘。管仲不羞而相之。其志蓋以非桓公則生民不可得而濟也。漢末大亂。羣生塗炭。自非高世之才。不能濟也。然則苟或捨魏武將誰事哉。齊桓之時。周室雖衰。未若建安之初也。建安之初。四海蕩覆。尺土一民。皆非漢有。苟或佐魏武而興之。舉賢用能。訓卒厲兵。決機發策。征伐四克。遂能以弱爲彊。化亂爲治。十分天下而有其八。其功豈在管仲之後乎。管仲不死。子糾而苟或死。漢室其仁復居管仲之先矣。而杜牧乃以爲或之勸魏武取兗州。則比之高光。官渡不令還許。則比之楚漢。及事就功畢。乃欲邀名於漢代。譬之教盜穴墻發匱。而不與同挈。得不爲盜乎。臣以爲孔子稱文勝質則史。凡爲史者。記人之言。必有以文之。然則比魏武於高光。楚漢者。史氏之文也。豈皆或口所言邪。用是貶或。非其罪矣。

且使魏武爲帝。則或爲佐命元功。與蕭何同賞矣。或不利此。而利於殺身。以邀名。豈人情乎。

十二月有星孛於五諸侯。○劉備在葭萌。龐統言于備曰。今陰選精兵。晝夜兼道。徑襲成都。劉璋既不武。又素無豫備。大軍卒至。一舉便定。此上計也。楊懷高沛璋之名將。各仗彊兵。據守關頭。聞數有譏諫。璋使發遣將軍。還荆州將軍遣與相聞。說荆州有急。欲還救之。竝使裝束。外作歸形。此二子既服將軍英名。又喜將軍之去。計必乘輕騎來見將軍。因此執之。進取其兵。乃向成都。此中計也。退還白帝。連引荆州徐還圖之。此下計也。若沈吟不去。將致大困。不可久矣。備然其中計。及曹操攻孫權。權呼備自救。備貽璋書曰。孫氏與孤本爲唇齒。而關羽兵弱。今不往救。則曹操必取荆州。轉侵州界。其憂甚於張魯。魯自守之賊。不足慮也。因求益萬兵。及資糧。璋但許兵四千。其餘皆給半。備因激怒其衆曰。吾爲益州征彊敵。師徒勤瘁。而積財吝賞。何以使士大夫死戰乎。張松書與備及法正曰。今大事垂立。如何釋此去乎。松兄廣漢太守。肅恐禍及己。因發其謀。於是璋收斬松。敕關成諸將。文書皆勿復得與備關通。備大怒。召璋白水軍督楊懷高沛。責以無禮。斬之。勒兵徑至關頭。并其兵。進據涪城。十八年春正月。曹操進軍濡須口。號步騎四十萬。攻破孫權江西營。獲其都督公孫權。權率衆七萬禦之。相守月餘。操見其舟船器仗。軍伍整肅。歎曰。生子當如孫仲謀。如劉景升兒子。豚犬耳。權爲賤。與操說春水方生。公宜速去。別紙言。足下不死。孤不得安。操語諸將曰。孫權不欺孤。乃微軍還。○庚寅。詔并十四州。復爲九州。○夏四月。曹操至鄴。○初。曹操在譙。恐濱江郡縣爲孫權所略。欲徙令近內。以問揚州別駕蔣濟曰。昔孤與袁本初對軍官渡。徙燕白馬民。民不得走。賊亦不敢鈔。今欲徙淮南民。何如。對曰。是時兵弱賊彊。不徙必失之。自破袁紹以來。明公威震天下。民無他志。人情懷土。實不樂徙。懼必不安。操不從。既而民轉相驚。自廬

江九江。蕪春、廣陵戶十餘萬，皆東渡江。江西遂虛，合淝以南，惟有皖城。濟後奉使詣鄴，操迎見大笑曰：「本但欲使避賊，乃更驅盡之。」拜濟丹陽太守。○五月丙申，以冀州十郡封曹操爲魏公，以丞相領冀州牧。如故。又加九錫，大輅戎輅各一，玄牡二駟，袞冕之服，卞烏副焉。軒縣之樂，六佾之舞。朱戶以居，納陛以登。虎賁之士三百人，鈇鉞各一，彤弓一，彤矢百，茲弓十，茲矢千，秬鬯一卣，珪瓚副焉。○大雨水。○益州從事廣漢鄭度聞劉備舉兵，謂劉璋曰：「左將軍懸軍襲我，兵不滿萬，士衆未附，軍無輜重，野穀是資，其計莫若盡驅巴西梓潼民入涪水以西，其倉廩野穀，一皆燒除，高壘深溝，靜以待之，彼至請戰，勿許，久無所資，不過百日，必將自走，走而擊之，此必禽耳。」劉備聞而惡之，以問法正。正曰：「璋終不能用，無憂也。」璋果謂其羣下曰：「吾聞拒敵以安民，未聞動民以避敵也，不用度計。」璋遣其將劉瑣、冷苞、張任、鄧賢、吳懿等拒備，皆敗。退保縣竹。懿詣軍降，璋復遣護軍南陽李嚴、江夏費觀督縣竹諸軍，嚴觀亦率其衆降於備。備軍益彊，分遣諸將平下屬縣。劉瑣、張任與璋子循退守雒城，備進軍圍之。任勒兵出戰於鴈橋，軍敗。任死。○秋七月，魏始建社稷宗廟。○魏公操納三女爲貴人。○初，魏公操追馬超至安定，聞田銀、蘇伯反，引軍還。參涼州軍事楊阜言於操曰：「超有信布之勇，甚得羌胡心，若大軍還，不設備，隴上諸郡非國家之有也。操還，超果率羌胡擊隴上諸郡，縣郡縣皆應之。惟冀城奉州郡以固守，超盡兼隴右之衆，張魯復遣大將楊昂助之，凡萬餘人，攻冀城。自正月，至八月，救兵不至，刺史韋康遣別駕閻溫出告急於夏侯淵，外圍數重，溫夜從水中潛出。明日，超兵見其迹，遣追獲之。超載溫詣城下，使告城中云：「東方無救，溫向城大呼曰：『大軍不過三日，勉之。』」城中皆泣，稱萬歲。超雖怒，猶以攻城久不下，徐徐更誘溫，冀其改意。溫曰：「事君有死無二，而卿乃欲令長者出不義之言乎？」超遂殺之。已而外救不至，韋康及太守欲降，楊阜號哭諫曰：「阜等率父兄弟，以義相勵，有死無二，以爲使君守此城，今奈何棄

垂成之功，陷不義之名乎？」刺史太守不聽，開城門迎超入，遂殺刺史太守。自稱征西將軍，領并州牧督涼州軍事。魏公操使夏侯淵救冀，未到，而冀敗，淵去冀二百餘里。超來逆戰，淵軍不利。氏王千萬反，應超屯興國。淵引軍還，會楊阜喪妻，就超求假，以葬之。阜外兄天水姜敘爲撫夷將軍，擁兵屯歷城。阜見敘及其母，歔歔悲甚，敘曰：「何爲乃爾？」阜曰：「守城不能完，君亡不能死，亦何面目以視息於天下？」馬超背父叛君，虐殺州將，豈獨阜之憂責，一州士大夫皆蒙其恥。君擁兵專制，而無討賊心，此趙盾所以書弑君也。超彊而無義，多釁，易圖耳。敘母慨然曰：「咄！伯奕，韋使君遇難，亦汝之負。豈獨義山哉？人誰不死，死於忠義，得其所也。但當速發，勿復顧我。我自爲汝當之，不以餘年累汝也。」敘乃與同郡趙昂、尹奉、武都李俊等合謀討超。又使人至冀，結安定梁寬、南安趙衢，使爲內應。超取趙昂子月爲昂，昂謂妻異曰：「吾謀如是，事必萬全，當奈月何？」異厲聲應曰：「雪君父之大恥，喪元不足爲重，況一子哉？」九月，阜與敘進兵入鹵城，昂奉據祁山，以討超。超聞之，大怒。趙衢因譎說超，使自出擊之。超出，衢與梁寬閉冀城門，盡殺超妻子。超進退失據，乃襲歷城，得敘母。敘母罵之曰：「汝背父之逆子，殺君之桀賊，天地豈久容汝，而不早死，敢以面目視人乎？」超殺之。又殺趙昂之子月。楊阜與超戰，身被五創，超兵敗，遂南奔張魯。魯以超爲都講祭酒，欲妻之以女，或謂魯曰：「有人若此，不愛其親焉，能愛人？」魯乃止。操封討超之功侯者十一人，賜楊阜爵關內侯。○冬十一月，魏初置尙書侍中六卿，以荀攸爲尙書令，涼茂爲僕射，毛玠、崔琰、常林、徐奕、何夔爲尙書，王粲、杜襲、衛覬、和洽爲侍中，鍾繇爲大理，王修爲大司農，袁渙爲郎中令。行御史大夫事，陳羣爲御史中丞，袁渙得賞賜，皆散之，家無所儲，乏則取之於人，不爲瞰察之行。然時人皆服其清，時有傳劉備死者，羣臣皆賀，惟渙獨否。魏公操欲復肉刑，令曰：「昔陳鴻臚以爲死刑有可加於仁恩者，御史中丞能申其父之論乎？」陳羣對曰：「臣父紀以爲漢除肉刑，而增加於笞，本與仁惻而

死者更衆。所謂名輕而實重者也。名輕則易犯。實重則傷民。且殺人償死。合於古制。至於傷人。或殘毀其體。而裁剪毛髮。非其理也。若用古刑。使淫者下蠶室。盜者刑其足。則永無淫放穿踰之姦矣。夫三千之屬。雖未可悉復。若斯數者。時之所患。宜先施用。漢律所殺。殊死之罪。仁所不及也。其餘。速死者。可易以肉刑。如此。則所刑之與所生。足以相質矣。今以笞死之法。易不殺之刑。是重人支體。而輕人軀命也。當時議者。唯鍾繇與羣議同。餘皆以爲未可行。操以軍事未罷。顧衆議而止。

資治通鑑卷第六十六

資治通鑑卷第六十七

漢紀五十九

孝獻皇帝壬

建安十九年春。馬超從張魯求兵。北取涼州。魯遣超還圍祁山。姜敘告急於夏侯淵。諸將議欲須魏公操節度。淵曰。公在鄴。反覆四千里。比報敘等必敗。非救急也。遂行。使張郃督步騎五千爲前軍。超敗走。韓遂在顯親。淵欲襲取之。遂走。淵追至略陽城。去遂三十餘里。諸將欲攻之。或言當攻國氏。淵以爲遂兵精。國城固。攻不可卒拔。不如擊長離。諸羌長離。諸羌多在遂軍。必歸救其家。若捨羌獨守。則孤救長離。則官兵得與野戰。必可虜也。淵乃留督將守輜重。自將輕兵。到長離。攻燒羌屯。遂果救長離。諸將見遂兵衆。欲結營作塹。乃與戰。淵曰。我轉鬪千里。今復作營塹。則士衆罷敝。不可復用。賊雖衆。易與耳。乃鼓之。大破遂軍。進圍國氏。王千萬。馬超餘衆悉降。轉擊高平。屠各皆破之。○三月。詔魏公操位在諸侯王上。改授金璽。赤紱。遠遊冠。○夏。四月。旱。五月。雨水。○初。魏公操遣廬江太守朱光屯皖。大開稻田。呂蒙言於孫權曰。皖田肥美。若一收。孰彼衆必增。宜早除之。閏月。權親攻皖城。諸將欲作土山。添攻具。呂蒙曰。治攻具及土山。必歷日乃成。城備既修。外救必至。不可圖也。且吾乘雨水以入。若留經日。水必向盡。還道艱難。蒙竊危之。今觀此城。不能甚固。以三軍銳氣。四面竝攻。不移時可拔。及水以歸。全勝之道也。權從之。蒙薦甘寧爲升城督。寧手持練。身緣城。爲士卒先。蒙以精銳繼之。手執枹鼓。士卒皆騰踊。侵晨進攻。食時破之。獲朱光。及男女數萬口。旣而

張遼至夾石。聞城已拔，乃退。權拜呂蒙爲廬江太守，還屯尋陽。○諸葛亮留關羽守荊州，與張飛、趙雲將兵沂流，克巴東。至江州，破巴郡太守嚴顏，生獲之。飛呵顏曰：「大軍既至，何以不降？而敢拒戰？」顏曰：「卿等無狀，侵奪我州。我州但有斷頭將軍，無降將軍也。」飛怒，令左右牽去斫頭。顏容止不變，曰：「斫頭便斫頭，何爲怒邪？」飛壯而釋之，引爲賓客。分遣趙雲從外水，定江陽。韃爲飛定巴西、德陽，劉備圍雒城。且一年，龐統爲流矢所中，卒。法正賤與劉璋，爲陳形勢，疆弱。且曰：「左將軍從舉兵以來，舊心依依，實無薄意。愚以爲可圖變化，以保尊門。璋不答，雒城潰，備進圍成都。諸葛亮張飛趙雲引兵來會，馬超知張魯不足與計事，又魯將楊昂等，數害其能，超內懷於邑。備使建寧督郵李恢往說之，超遂從。武都逃入氏中，密書請降於備。使人止超，而潛以兵資之。超到，令引軍屯城北。城中震怖，備圍城數十日，使從事中郎涿郡簡雍入說劉璋。時城中尚有精兵三萬人，穀帛支一年。吏民咸欲死戰。璋言：「父子在州二十餘年，無恩德以加百姓，百姓攻戰三年，肥膏草野者，以璋故也。何心能安？遂開城，與簡雍同與出降。羣下莫不流涕。」備遷璋於公安，盡歸其財物，佩振威將軍印綬，備入成都，置酒大饗士卒。取蜀城中金銀，分賜將士，還其穀帛。備領益州牧，以軍師中郎將諸葛亮爲軍師將軍，益州太守南郡董和爲掌軍中郎將，並署左將軍府事。偏將軍馬超爲平西將軍，軍議校尉法正爲蜀郡太守，揚武將軍裨將軍南陽黃忠爲討虜將軍，從事中郎糜竺爲安漢將軍，簡雍爲昭德將軍，北海孫乾爲秉忠將軍，廣漢長黃權爲偏將軍，汝南許靖爲左將軍，長史龐羲爲司馬，李嚴爲韃爲太守，費觀爲巴郡太守，山陽伊籍爲從事中郎，零陵劉巴爲西曹掾，廣漢彭義爲益州治中從事，初董和在郡清儉，公直爲民夷所愛信。蜀中推爲循吏，故備舉而用之。備之自新野，犇江南也，荆楚羣士從之如雲，而劉巴獨北詣魏公操，操辟爲掾，遣招納長沙零陵桂陽會備，略有三郡。巴事不成，欲由交州道還京師。時諸葛亮在臨蒸，以書招

之。巴不從，備深以爲恨。巴遂自交阯入蜀，依劉璋。及璋迎備，巴諫曰：「備，雄人也，入必爲害，既入，巴復諫曰：『若使備討張魯，是放虎於山林也。璋不聽。』巴閉門稱疾，備攻成都，令軍中曰：『有害巴者，誅及三族。』及得巴，甚喜。是時益州郡縣皆望風景附，獨黃權閉城堅守，須璋稽服乃降。於是董和黃權李嚴等，本璋之所授用也，吳懿費觀等，璋之婚親也，彭義、璋之所擯棄也。劉巴，宿昔之所忌恨也，備皆處之顯任，盡其器能，有志之士無不競勸。益州之民是以大和。初劉璋以許靖爲蜀郡太守，成都將潰，靖謀踰城降備，備以此薄靖，不用也。法正曰：『天下有獲虛譽而無其實者，許靖是也。然今主公始創大業，天下之人不可戶說，宜加敬重，以慰遠近之望。備乃禮而用之，成都之圍也，備與士衆約，若事定，府庫百物，孤無預焉。及拔成都，士衆皆捨干戈，赴諸藏，競取寶物，軍用不足，備甚憂之。』劉巴曰：『此易耳，但當鑄直百錢，平諸物價，令吏爲官市，備從之。數月之間，府庫充實。』時議者欲以成都名田宅分賜諸將，趙雲曰：『霍去病以匈奴未滅，無用家爲。今國賊非但匈奴，未可求安也。須天下都定，各反桑梓，歸耕本土，乃其宜耳。益州人民，初罹兵革，田宅皆可歸還，令安居復業，然後可役調，得其歡心，不宜奪之，以私所愛也。』備從之。備之襲劉璋也，留中郎將南郡霍峻守葭萌城，張魯遣楊昂誘峻，求共守城。峻曰：『小人頭可得，城不可得。』昂乃退。後璋將扶禁向存等，帥萬餘人由閬水上攻圍峻。且一年，峻城中兵纔數百人，伺其怠隙，選精銳出擊，大破之，斬存。備既定蜀，乃分廣漢爲梓潼郡，以峻爲梓潼太守。法正外統都畿，內爲謀主，一殮之德，睚眦之怨，無不報復。擅殺毀傷已者數人，或謂諸葛亮曰：『法正太縱橫，將軍宜啓主公，抑其威福。』亮曰：『主公之在公安也，北畏曹操之疆，東憚孫權之逼，近則懼孫夫人生變於肘腋，法孝直爲之輔翼，令翻然翱翔，不可復制。如何禁止孝直，使不得少行其意邪？』諸葛亮佐備治蜀，頗尙嚴峻，人多怨歎者。法正謂亮曰：『昔高祖入關，約法三章，秦民知德，今君假借威力，跨據一州，初有其國，未垂惠

撫且客主之義宜相降下願緩刑弛禁以慰其望亮曰君知其一未知其二秦以無道政苛民怨匹夫大呼天下土崩高祖因之可以弘濟劉璋暗弱自焉以來有累世之恩文法羈縻互相承奉德政不舉威刑不肅蜀土人士專權自恣君臣之道漸以陵替寵之以位位極則賤順之以恩恩極則慢所以致敵實由於此吾今威之以法法行則知恩限之以爵爵加則知榮榮恩竝濟上下有節爲治之要於斯而著矣劉備以零陵蔣琬爲廣都長備嘗因游觀奄至廣都見琬衆事不治時又沈醉備大怒將加罪戮諸葛亮請曰蔣琬社稷之器非百里之才也其爲政以安民爲本不以脩飾爲先願主公重加察之備雅敬亮乃不加罪倉卒但免官而已○秋七月魏公操擊孫權留少子臨菑侯植守鄴操爲諸子高選官屬以刑顯爲植家丞顯防閑以禮無所屈撓由是不合庶子劉楨美文辭植親愛之楨以書諫植曰君侯採庶子之春華忘家丞之秋實爲上招謗其罪不小愚實懼焉○魏尚書令荀攸卒攸深密有智防自從魏公操攻討常謀謨帷幄時人及子弟莫知其所言操嘗稱荀文若之進善不進不休荀公達之去惡不去不止又稱二荀令之論人久而益信吾沒世不忘初枹罕宋建因涼州亂自號河首平漢王改元置百官三十餘年冬十月魏公操使夏侯淵自興國討建圍枹罕拔之斬建淵別遣張郃等渡河入小湟中河西諸羌皆降隴右平○帝自都許以來守位而已左右侍衛莫非曹氏之人者議郎趙彥常爲帝陳言時策魏公操惡而殺之操後以事入見殿中帝不任其懼因曰君若能相輔則厚不爾幸垂恩相捨操失色俛仰求出舊儀三公領兵朝見令虎賁執刃挾之操出顧左右汗流浹背自後不復朝請董承女爲貴人操誅承求貴人殺之帝以貴人有佞累爲請不能得伏皇后由是懷懼乃與父完書言曹操殘逼之狀令密圖之完不敢發至是事乃泄操大怒十一月使御史大夫郗慮持節策收皇后璽綬以尚書令華歆爲副勒兵入宮收后后閉戶藏壁中歆壞戶發壁就牽后出時帝在外

殿引慮於坐后被髮徒跣行泣過訣曰不能復相活邪帝曰我亦不知命在何時顧謂慮曰郗公天下寧有是邪遂將后下暴室以幽死所生二皇子皆醜殺之兄弟及宗族死者百餘人○十二月魏公操至孟津○操以尚書郎高柔爲理曹掾舊法軍征士亡者竟其妻子而亡者猶不息操欲更重其刑并及父母兄弟柔啓曰士卒亡軍誠在可疾然竊聞其中時有悔者愚謂乃宜貸其妻子一可使誘其還心正如前科固已絕其意望而復重之柔恐自今在軍之士見一人亡逃誅將及己亦且相隨而走不可復得殺也此重刑非所以止亡乃所以益走耳操曰善即止不殺

二十年春正月甲子立貴人曹氏爲皇后魏公操之女也○三月魏公操自將擊張魯將自武都入氏氏人塞道遣張郃朱靈等攻破之夏四月操自陳倉出散關至河池氏王寶茂衆萬餘人恃險不服五月攻屠之西平金城諸將麴演蔣石等共斬送韓遂首初劉備在荊州危周瑜甘寧等數勸孫權取蜀權遣使謂備曰劉璋不武不能自守若使曹操得蜀則荊州危矣今欲先攻取璋次取張魯一統南方雖有十操無所憂也備報曰益州民富地險劉璋雖弱足以自守今暴師於蜀漢轉運於萬里欲使戰克攻取舉不失利此孫吳所難也議者見曹操失利於赤壁謂其力屈無復遠念今操三分天下已有其二將欲飲馬於滄海觀兵於吳會何肯守此坐須老乎而同盟無故自相攻伐借樞於操使敵乘其隙非長計也且備與璋託爲宗室冀憑威靈以匡漢朝今璋得罪於左右備獨悚懼非所敢聞願加寬貸權不聽遣孫瑜率水軍住夏口備不聽軍過謂瑜曰汝欲取蜀吾當被髮入山不失信於天下也使關羽屯江陵張飛屯秭歸諸葛亮據南郡備自住孱陵權不得已召瑜還及備西攻劉璋權曰猾虜乃敢挾詐如此備留關羽守江陵魯肅與羽鄰界羽數生疑貳肅常以歡好撫之及備已得益州權令中司馬諸葛瑾從備求荊州諸郡備不許曰吾方圖涼州涼州定乃盡以荆

漢紀 孝獻皇帝壬建安二十年

州相與耳。權曰：此假而不反，乃欲以虛辭引歲也。遂置長沙、零陵、桂陽三郡長吏，關羽盡逐之。權大怒，遣呂蒙督兵二萬，以取三郡。蒙移書長沙、桂陽，皆望風歸服。惟零陵太守郝普、城守不降。劉備聞之，自蜀親至公安，遣關羽爭三郡。孫權進住陸口，為諸軍節度，使魯肅將萬人屯益陽，以拒羽。飛書召呂蒙，使捨零陵，急還助肅。蒙得書，祕之夜召諸將，授以方略。晨當攻零陵，顧謂郝普故人南陽鄧玄之曰：郝子太，聞世間有忠義事，亦欲為之，而不知時也。今左將軍在漢中，為夏侯淵所圍，關羽在南郡，至尊身自臨之，彼方首尾倒懸，救死不給，豈有餘力復營此哉？今吾計力度慮，而以攻此，曾不移日，而城必破。城破之後，身死何益於事？而令百歲老母戴白受誅，豈不痛哉？度此家不得外問，謂援可恃，故至於此耳。君可見之。為陳禰福、玄之見普，具宣蒙意。普懼而出降。蒙執其手，與俱下船，語畢，出書示之。因拊手大笑。普見書，知備在公安，而羽在益陽，慙恨入地。蒙留孫河，委以後事。即日引軍赴益陽。魯肅欲與關羽會語，諸將疑恐有變，議不可往。肅曰：今日之事，宜相開譬。劉備負國，是非未決，羽亦何敢重欲于命？乃邀羽相見，各駐兵馬百步上。但諸將軍單刀俱會，肅因責數羽，以不返三郡。羽曰：烏林之役，左將軍身行行間，戮力破敵，豈得徒勞無一塊土而足下來欲收地邪？肅曰：不然。始與豫州觀於長阪，豫州之眾不當一校，計窮慮極，志執摧弱，圖欲遠竄，望不及此。主上矜愍豫州之身，無有處所，不愛土地，士民之力，使有所庇蔭，以濟其患，而豫州私獨飾情，愆德墮好，今已藉手於西州矣。又欲翦并荆州之士，斯蓋凡夫所不忍行，而況整領人物之主乎？羽無以答。會聞魏公操將攻漢中，劉備懼失益州，使使求和於權。權令諸葛瑾報命，更尋盟好。遂分荆州以湘水為界，長沙、江夏、桂陽以東屬權，南郡、零陵、武陵以西屬備。諸葛瑾每奉使至蜀，與其弟亮，但公會相見，退無私面。○秋七月，魏公操至陽平，張魯欲舉漢中降，其弟衛不肯，率眾數萬人，拒關堅守。橫山築城十餘里，初操承涼州從事，及武都降人之辭。

說張魯易攻，陽平城下，南北山相遠，不可守也。信以為然，及往臨履，不如所聞，乃歎曰：他人商度，少如人意。攻陽平山上諸屯，山峻難登，既不時拔，士卒傷夷者多。軍食且盡，操意沮，便欲拔軍截山而還。遣大將軍夏侯惇、將軍許褚呼山上兵還，會前軍夜迷惑，誤入張衛別營，營中大驚，退散。侍中辛毗主簿劉曄等在兵後，語惇、褚言：官兵已據得賊要屯，賊已散走，猶不信之。惇前自見，乃還白操。進兵攻衛，衛等夜遁。張魯聞陽平已陷，欲降，閻圃曰：今以迫往，功必輕，不如依杜濩、赴朴胡，與相拒。然後委質，功必多。乃犇南山，入巴中。左右欲悉燒寶貨倉庫，魯曰：本欲歸命國家，而意未得達，今之走，避銳鋒，非有惡意，寶貨倉庫，國家之有，遂封藏而去。操入南鄭，甚嘉之。又以魯本有善意，遣人慰喻之。丞相主簿司馬懿言於操曰：劉備以詐力虜劉璋，蜀人未附，而遠爭江陵，此機不可失也。今克漢中，益州震動，進兵臨之，勢必瓦解，聖人不能違時，亦不可失時也。操曰：人苦無足，既得隴，復望蜀邪？劉曄曰：劉備人傑也，有度而遲，得蜀日淺，蜀人未恃也。今破漢中，蜀人震恐，其勢自傾，以公之神明，因其傾而壓之，無不克也。若少緩之，諸葛亮明於治國，而為相，關羽張飛勇冠三軍，而為將，蜀民既定，據險守要，則不可犯矣。今不取，必為後憂。操不從。居七日，蜀降者說蜀中一日數十驚，守將雖斬之而不能安也。操問曄曰：今尚可擊不？曄曰：今已小定，未可擊也。乃還。以夏侯淵為都護，將軍督張郃、徐晃等守漢中。以丞相長史杜襲為駙馬都尉，留督漢中事。襲綏懷開導百姓，自樂出徙洛鄴者八萬餘口。○八月，孫權率眾十萬圍合肥。時張遼、李典、樂進將七千餘人屯合肥。魏公操之征張魯也，為教與合肥護軍薛悌署函邊曰：賊至乃發，及權至，發教，教曰：若孫權至者，張李將軍出戰，樂將軍守，護軍勿得與戰。諸將以眾寡不敵，疑之。張遼曰：公遠征在外，比救至，彼破我必矣。是以教指及其未合，逆擊之，折其盛勢，以安眾心。然後可守也。進等莫對。遼怒曰：成敗之機在此一戰，諸君若疑，遼將獨決之。李典素與遼不睦，慨然曰：此

國家大事。顧君計何如耳。吾可以私憾而忘公義乎。請從君而出。於是遼夜募敢從之士。得八百人。椎牛犒饗。明日。遼被甲持戟。先登陷陳。殺數十人。斬二大將。大呼自名。衝壘入。至權麾下。權大驚。不知所爲。走登高冢。以長戟自守。遼叱權下戰。權不敢動。望見遼所將衆少。衆圍遼數重。遼急擊圍。將麾下數十人。得出。餘衆號呼曰。將軍棄我乎。遼復前突圍。拔出餘衆。權人馬皆披靡。無敢當者。自旦戰至日中。吳人奪氣。乃還脩守備。衆心遂安。權守合肥。十餘日。城不可拔。徵軍還。兵皆就路。權與諸將。在逍遙津北。張遼覘望知之。即將步騎奄至。甘寧與呂蒙等。力戰扞敵。凌統率親近扶權出圍。復還與遼戰。左右盡死。身亦被創。度權已免。乃還。權乘駿馬。上津橋。橋南已徹。丈餘無版。親近監谷利。在馬後。使權持鞍緩控。利於後著鞭。以助馬勢。遂得超度。賀齊率三千人。在津南迎權。權由是得免。權入大船。宴飲。賀齊下席。涕泣曰。至尊人主。常當持重。今日之事。幾致禍敗。羣下震怖。若無天地。願以此爲終身之誠。權自前收其淚曰。大慙。謹已刻心。非但書紳也。○九月。巴賈夷帥朴胡杜濩。任約各舉其衆來附。於是分巴郡以胡爲巴東太守。濩爲巴西太守。約爲巴郡太守。皆封列侯。○冬十月。始置名號侯。以賞軍功。○十一月。張魯將家屬出降。魏公操逆拜魯鎮南將軍。待以客禮。封閬中侯。邑萬戶。封魯五子及閭圃等皆爲列侯。

習鑿齒論曰。閭圃諫魯勿王。而曹公追封之。將來之人。孰不思順。塞其本源。而未流自止。其此之謂歟。若乃不明於此。而重焦爛之功。豐爵厚賞。止於死戰之士。則民利於有亂。俗競於殺伐。阻兵杖力。干戈不戢矣。曹公之此封。可謂知賞罰之本矣。

程銀侯選龐惠皆隨魯降。魏公操復銀選官爵。拜惠立義將軍。○張魯之走巴中也。黃權言於劉備曰。若失漢中。則三巴不振。此爲割蜀之股臂也。備乃以權爲護軍。率諸將迎魯。魯已降。權遂擊朴胡杜濩。任約破之。魏公操使張郃督諸軍。狗三巴。欲徙其民於漢中。進軍宕渠。

劉備使巴西太守張飛與郃相拒。五十餘日。飛襲擊郃。大破之。郃走還南鄭。備亦還成都。操徙出故韓遂馬超等兵五千餘人。使平難將軍殷署等督領。以扶風太守趙儼爲關中護軍。操使儼發千二百兵助漢中守禦。殷署督送之。行者不樂。儼護送至斜谷口。還未至營。署軍叛亂。儼自隨步騎百五十人。皆叛者親黨也。聞之各驚。被甲持兵。不復自安。儼徐喻以成敗。慰勵懇切。皆慷慨曰。死生當隨護軍。不敢有二。前到諸營。各召料簡諸姦結叛者。八百餘人。散在原野。儼下令。惟取其造謀魁率。治之餘。一不問。郡縣所收送皆放遣。乃即相率還降。儼密白。宜遣將詣大營。請舊兵。鎮守關中。魏公操遣將軍劉柱。將二千人往。當須到乃發遣。俄而事露。諸營大駭。不可安諭。儼遂宣言。當差留新兵之溫厚者千人。鎮守關中。其餘悉遣東。便見主者。內諸營兵名籍。立差別之。留者意定。與儼同心。其當去者。亦不敢動。儼一日盡遣上道。因使所留千人。分布羅落之。東兵尋至。乃復脅諭。并徙千人。令相及共東。凡所全致二萬餘口。

二十一年春二月。魏公操還鄴。○夏五月。進魏公操爵爲王。初中尉崔琰薦鉅鹿楊訓於操。操禮辟之。及操進爵。訓發表稱頌功德。或笑訓希世浮僞。謂琰爲失所舉。琰從訓。取表草視之。與訓書曰。省表。事佳耳。時乎時乎。會當有變。時琰本意。譏論者好譏呵。而不尋情理也。時有與琰宿不平者。白琰傲世怨謗。意旨不遜。操怒。收琰付獄。髡爲徒隸。前白琰者復白之云。琰爲徒。對賓客。虬須直視。若有所瞋。遂賜琰死。尙書僕射毛玠傷琰無辜。心不悅。人復白玠怨謗。操收玠付獄。侍中桓階和洽皆爲之陳理。操不聽。階求案實其事。王曰。言事者白玠。不玠罪過深重。非天地所覆載。臣非敢曲理玠。以枉大倫也。以玠歷年荷寵。剛直忠公。爲衆所憚。不宜有死。然人情難保。要宜考覈兩驗其實。今聖恩不忍致之于理。更使曲直之分不明。

操曰。所以不考。欲兩全玠及言事者耳。洽對曰。玠信有謗主之言。當肆之市朝。若玠無此言。言事者。加誣大臣。以誤主聽。不加檢覈。臣竊不安。操卒不窮治。玠遂免黜。終於家。是時。西曹掾沛國丁儀。用事。玠之獲罪。儀有力焉。羣下畏之。側目。尚書僕射何夔。及東曹屬東莞徐奕。獨不事。儀。儀譖奕。出為魏郡太守。賴桓階左右之得免。尚書傳選。謂何夔曰。儀已害毛玠。子宜少下之。夔曰。為不義。適足害其身。焉能害人。且懷姦佞之心。立於明朝。其得久乎。崔琰從弟林。嘗與陳羣共論冀州人士。稱琰為首。羣以智不存身。貶之。林曰。大丈夫為有邂逅耳。即如卿諸人。良足貴乎。○五月。己亥朔。日有食之。○代郡烏桓三大人。皆稱單于。恃力驕恣。太守不能治。魏王操以丞相倉曹屬裴潛為太守。欲授以精兵。潛曰。單于自知放橫日久。今多將兵往。必懼而拒境。少將則不見憚。宜以計謀圖之。遂單車之郡。單于驚喜。潛撫以恩威。單于警服。○初。南匈奴久居塞內。與編戶大同。而不輸貢賦。議者恐其戶口滋蔓。浸難禁制。宜豫為之防。秋。七月。南單于呼廚泉入朝于魏。魏王操因留之於鄴。使右賢王去卑監其國。單于歲給綿絹錢穀如列侯。子孫傳襲其號。分其衆為五部。各立其貴人為帥。選漢人為司馬。以監督之。○八月。魏以大理鍾繇為相國。○冬。十月。魏王操治兵。擊孫權。十一月。至譙。

資治通鑑卷第六十七

資治通鑑卷第六十八

漢紀六十

孝獻皇帝癸

建安二十二年春正月。魏王操軍居巢。孫權保濡須。二月。操進攻之。初。右護軍蔣欽屯宣城。蕪湖。令徐盛收欽屯吏。表斬之。及權在濡須。欽與呂蒙持諸軍節度。欽每稱徐盛之善。權問之。欽曰。盛忠而勤。彊有膽略。器用。好萬人督也。今大事未定。臣當助國求才。豈敢挾私。恨以蔽賢乎。權善之。三月。操引軍還。留伏波將軍夏侯惇都督曹仁。張遼等。二十六軍屯居巢。權令都尉徐詳詣操請降。操報使修好。誓重結婚。權留平虜將軍周泰。督濡須。朱然。徐盛等。皆在所部。以泰寒門。不服。權會諸將。大為酣樂。命泰解衣。權手自指其創痕。問以所起。泰輒記昔戰鬪處。以對。畢。使復服。權把其臂。流涕曰。幼平。卿為孤兄弟。戰如熊虎。不惜軀命。被創數十。膚如刻畫。孤亦何心。不待卿以骨肉之恩。委卿以兵馬之重乎。坐罷。住。駕。使泰以兵馬道從。鳴鼓角。作鼓吹而出。於是盛等乃服。○夏。四月。詔魏王操。冕十有二旒。乘金根車。駕六馬。設五時。月。魏以軍師華歆為御史大夫。○冬。十月。命魏王操。娶丁夫人。無子。妾劉氏。生子昂。下氏。生四子。副車。○魏以五官中郎將丕為太子。初。魏王操。娶丁夫人。無子。妾劉氏。生子昂。下氏。生四子。丕。彰。植。熊。王使丁夫人母養昂。昂死於穰。丁夫人哭泣無節。操怒而出之。以下氏為繼室。植性機警。多藝能。才藻敏贍。操愛之。操欲以女妻丁儀。丕以儀目眇。諫止之。儀由是怨丕。與弟黃門侍郎廙。及丞相主簿楊修。數稱臨菑侯植之才。勸操立以為嗣。修。彪之子也。操以函密

訪於外尚書崔琰露板答曰春秋之義立子以長加五官將仁孝聰明宜承正統琰以死守之植琰之兄女婿也尚書僕射毛玠曰近者袁紹以嫡庶不分覆宗滅國廢立大事非所宜聞東曹掾邢顛曰以庶代宗先世之戒也願殿下深察之丕使人問太中大夫賈詡以自固之術詡曰願將軍恢崇德度躬素士之業朝夕孜孜不違子道如此而已丕從之深自砥礪它日操屏人問詡詡嘿然不對操曰與卿言而不答何也詡曰屬有所思故不即對耳操曰何思詡曰思袁本初劉景升父子也操大笑操嘗出征丕植竝送路側植稱述功德發言有章左右屬目操亦悅焉丕恨然自失濟陰吳質耳語曰王當行流涕可也及辭丕涕泣而拜操及左右咸歎歎於是皆以植多華辭而誠心不及也植既任性而行不自雕飾五官將御之以術矯情自飾宮人左右竝為之稱說故遂定為太子左右長御賀下夫人曰將軍拜太子天下莫不喜夫人當傾府藏以賞賜夫人曰王自以丕年大故用為嗣我但當以免無教導之過為幸耳亦何為當重賜遺乎長御還具以語操操悅曰怒不變容喜不失節故最為難太子抱議郎辛毗頸而言曰辛君知我喜不毗以告其女憲英憲英歎曰太子代君主宗廟社稷者也代君不可以不戚主國不可以不懼宜戚而懼而反以為喜何以能久魏其不昌乎久之臨菑侯植乘車行馳道中開司馬門出操大怒公車令坐死由是重諸侯科禁而植寵日衰植妻衣繡操登臺見之以違制命還家賜死○法正說劉備曰曹操一舉而降張魯定漢中不因此勢以圖巴蜀而留夏侯淵張郃屯守身遽北還此非其智不逮而力不足也必將內有憂懼故耳今策淵郃才略不勝國之將帥舉衆往討必可克之克之日廣農積穀觀釁伺隙上可以傾覆寇敵尊獎王室中可以蠶食雍涼廣拓境土下可以固守要害為持久之計此蓋天以與我時不可失也備善其策乃率諸將進兵漢中遣張飛馬超吳蘭等屯下辨魏王操遣都護將軍曹洪拒之○魯肅卒孫權以從事中郎彭城嚴畯代肅督兵

萬人鎮陸口衆人皆為峻喜峻固辭以樸素書生不閑軍事發言懇惻至於流涕權乃以左護軍虎威將軍呂蒙兼漢昌太守以代之衆嘉嚴峻能以實讓○定威校尉吳郡陸遜言於孫權曰方今克敵寧亂非衆不濟而山寇舊惡依阻深地夫腹心未平難以圖遠可大部伍取其精銳權從之以為帳下右部督會丹陽賊帥費棧作亂扇動山越權命遜討棧破之遂部伍東三郡疆者為兵羸者補戶得精卒數萬人宿惡盡除所過肅清還屯蕪湖會稽太守淳于式表遜枉取民人愁擾所在遜後詣都言次稱式佳吏權曰式白君而君薦之何也遜對曰式意欲養民是以白遜若遜復毀式以亂聖德不可長也權曰此誠長者之事願人不_能為耳○魏王操使丞相長史王必典兵督許中事時關羽疆盛京兆金縷觀漢祚將移乃與少府耿紀司直韋晃太醫令吉本本子邈邈弟穆等謀殺必挾天子以攻魏南引關羽為_援

二十三年春正月吉邈等率其黨千餘人夜攻王必燒其門射必中肩帳下督扶必犇南城會天明邈等衆潰必與潁川典農中郎將嚴匡共討斬之○三月有星孛於東方○曹洪將擊吳蘭張飛屯固山聲言欲斷軍後衆議狐疑騎都尉曹休曰賊實斷道者當伏兵潛行今乃先張聲勢此其不能明矣宜及其未集促擊蘭蘭破飛自走矣洪從之進擊破蘭斬之三月張飛馬超走休魏王族子也○夏四月代郡上谷烏桓無臣氏等反先是魏王操召代郡太守裴潛為丞相理曹掾操美潛治代之功潛曰潛於百姓雖寬於諸胡為峻今繼者必以潛為治過嚴而事加寬惠彼素驕恣過寬必弛既弛將攝之以法此怨叛所由生也以執料之代必復叛於是操深悔還潛之速後數日三單于反問果至操以其子鄴陵侯彰行驍騎將軍使討之彰少善射御膂力過人操戒彰曰居家為父子受事為君臣動以王法從事爾其戒之○劉備屯陽平關夏侯淵張郃徐晃等與之相拒備遣其將陳式等絕馬鳴閣道

徐晃擊破之。張郃屯廣石，備攻之，不能克，急書發益州兵。諸葛亮以問從事，健為楊洪。洪曰：漢中益州咽喉，存亡之機會。若無漢中，則無蜀矣。此家門之禍也。發兵何疑？時法正從，備北行。亮於是表洪，領蜀郡太守。衆事皆辦，遂使即真。初，健為太守，李嚴辟洪為功曹。嚴未去，健為而洪已為蜀郡。洪舉門下書佐何祗，有才策。洪尚在蜀郡，而祗已為廣漢太守。是以西土咸服。諸葛亮能盡時人之器用也。○秋七月，魏王操自將擊劉備。九月，至長安。○曹彰擊代郡烏桓，身自搏戰，鎧中數箭，意氣益厲，乘勝逐北，至桑乾之北，大破之，斬首獲生以千數。時鮮卑大人軻比能將數萬騎，觀望疆弱，見彰力戰所向皆破，乃請服。北方悉平。○南陽吏民苦繇役，冬十月，宛守將侯音反。南陽太守東里袞與功曹應余，逆竄得出。音遣騎追之，飛矢交流，余以身蔽袞，被七創而死。音騎執袞以歸。時征南將軍曹仁屯樊，以鎮荊州。魏王操命仁還討音。功曹宗子卿說音曰：足下順民心，舉大事，遠近莫不望風。然執郡將，逆而無益，何不遣之？音從之。子卿因夜踰城，從太守收餘民，圍音。會曹仁軍至，共攻之。

二十四年春正月，曹仁屠宛，斬侯音，復屯樊。○初夏，侯淵戰雖數勝，魏王操常戒之曰：為將當有怯弱時，不可但恃勇也。將當以勇為本，行之以智計，但知任勇，一匹夫敵耳。及淵與劉備相拒，踰年，備自陽平南渡沔水，緣山稍前，營於定軍山。淵引兵爭之，法正曰：可擊矣。備使討虜將軍黃忠乘高鼓譟攻之，淵軍大敗，斬淵及益州刺史趙顛。張郃引兵還陽平。是時新失元帥，軍中擾擾，不知所為。督軍杜襲與淵司馬太原郭淮收斂散卒，號令諸軍曰：張將軍，國家名將，劉備所憚。今日事急，非張將軍不能安也。遂權宜推郃為軍主。郃出勒兵，按陳，諸將皆受郃節度。衆心乃定。明日，備欲渡漢水來攻，諸將以衆寡不敵，欲依水為陳，以拒之。郭淮曰：此示弱，而不足挫敵，非算也。不如遠水為陳，引而致之。半濟而後擊之，備可破也。既陳，備疑不渡，淮遂堅守，示無還心。以狀聞於魏王。操操善之，遣使假郃節，復以淮為司馬。○二

月壬子晦，日有食之。○三月，魏王操自長安出斜谷，軍遮要，以臨漢中。劉備曰：曹公雖來，無能為也。我必有漢川矣。乃斂衆拒險，終不交鋒。操運米北山下，黃忠引兵欲取之，過期不還。翊軍將軍趙雲將數十騎出營視之，值操揚兵大出，雲猝與相遇，遂前突其陳，且鬪且却。魏兵散而復合，追至營下，雲入營，更大開門，偃旗息鼓。魏兵疑雲有伏，引去。雲雷鼓震天，惟以勁弩於後射魏兵，魏兵驚駭，自相蹂踐，墮漢水中，死者甚多。備明且自來，至雲營視，昨戰處曰：子龍一身都是膽也。操與備相守積月，魏軍士多亡。夏五月，操悉引出漢中諸軍，還長安。劉備遂有漢中，操恐劉備北取武都，氏以逼關中，問雍州刺史張既。既曰：可勸使北出就穀，以避賊。前至者，厚其寵賞，則先者知利，後必慕之。操從之。使既之武都，徙氏五萬餘落，出居扶風天水界。○武威顏俊、張掖和鸞、酒泉黃華、西平麴演等，各據其郡，自號將軍，更相攻擊。俊遣使送母及子詣魏王。操為質，以求助。操問張既，既曰：俊等外假國威，內生傲悖，計定勢足，後即反耳。今方事定蜀，且宜兩存而圖之。猶下莊子之刺虎，坐收其敝也。王曰：善。歲餘，鸞遂殺俊。武威王祕又殺鸞。○劉備遣宜都太守扶風孟達從秭歸，北攻房陵，殺房陵太守申耽。舉祺。又遣養子副軍中郎將劉封、自漢中乘沔水下，統達軍與達會攻上庸。上庸太守申耽、舉郡降。備加耽征北將軍，領上庸太守。以耽弟儀為建信將軍，西城太守。○秋七月，劉備自稱漢中王，設壇場於沔陽，陳兵列衆，羣臣陪位，讀奏訖，乃拜受璽綬。御王冠，因驛拜章。上還所，假左將軍宜城亭侯印綬。立子禪為太子，拔牙門將軍義陽魏延為鎮遠將軍，領漢中太守。以鎮漢川，備還治成都。以許靖為太傅，法正為尚書令，關羽為前將軍，張飛為右將軍，馬超為左將軍，黃忠為後將軍。餘皆進位有差。遣益州前部司馬韃為費詩，即授關羽印綬。羽聞黃忠位與己竝，怒曰：大丈夫終不與老兵同列，不肯受拜。詩謂羽曰：夫立王業者，所用非一。昔蕭曹與高祖，少小親舊，而陳韓亡命後至，論其班列，韓最居上，未聞蕭曹以此為怨。今